

S-HTP法による 幼児・児童の描画活動に関する実証的研究

～カンボジア・日本両国国際シンポジウム報告～

聖隷クリストファー大学社会福祉学部
こども教育福祉学科

鈴木光男



国際シンポジウム 「両国児童の S-HTP 描画調査比較」

開催時期：2021年9月18日(土)10:00~13:00(日本時間)

開催方法：Zoom

概要・スケジュール

1 カンボジア初等教育状況の説明 40分

①カンボジア教育課程改訂概要 20分(通訳あり)

カンボジア教育省カリキュラム開発課 ミア・チュティマ氏

②学校をつくる会 JHP の美術教育支援概要 10分(通訳なし)

JHP プノンベン事務所 矢加部咲氏

③スモールアートスクール SAS の活動概要 10分(通訳なし)

SAS アートコーディネーター 坂田優子氏 チウ・ヒーア氏

2 S-HTP 描画調査結果報告 30分

鈴木光男 30分(通訳あり)

—休憩 10分—

3 国際シンポジウム 100分

コーディネーター：鈴木光男

シンポジスト：カンボジア教育省 ナイ・サッチャー氏 15分(通訳あり)

SAS 笠原知子氏 15分(通訳あり)

日本美術教育学会静岡支部長 鈴木英司氏 15分(通訳あり)

通訳他協力：オン・リナ氏(CJAI Travel)

スン・ヨーコ氏(カンボジア人支援協会)

平林智咲氏 カイン・フオット氏

はじめ

みなさん、こんにちは。時間になりましたので始めさせていただきます。今日は日本に台風 14 号が近づいてきていて、非常に悪い天気になってしまいました。この台風 14 号、国際的にはチャンスーという名前だそうです。この名前はカンボジアがつけた名前だそうです。そのようなこともあって、天気は悪いですが、今日はカンボジアから応援してもらっているような気持ちでこの日を迎えました。

今日はだいたい 110 名ぐらいのみなさんをご参加いただける予定でいます。台湾のみなさんも参加してください。

それでは今日のスケジュールになります。まず、カンボジア初等教育状況の説明があります。続いて私から SHTP 描画調査結果報告をさせていただきます。休憩の後、国際シンポジウムとして 100 分間の時間となっております。およそ 3 時間の長いシンポジウムですが、お茶など飲みながら楽しんでいただけたら幸いです。このように通訳を挟みながらになります。早速始めさせていただきます。

まず最初にミア・チュティマさんから、カンボジア教育課程改訂の概要について、通訳を含めて 20 分ほどでお話しいただきます。チュティマさんをお願いします。

1 カンボジア初等教育状況の説明 40 分

(1) カンボジア教育課程改訂概要

カンボジア教育省カリキュラム開発課 ミア・チュティマ氏

みなさま、こんにちは。特に鈴木先生、カンボジアの教育を取り上げシンポジウムをやっていただいて本当に感謝しております。時間があまりありませんので、これから早速やっていきたいと思えます。

私の発表は、スライドのように 1 から 7 まで発表していきたいと思えます。カンボジアのカリキュラムポリシーについて話していき、小学校 1 年から 3 年までのシラバスの話をしていきたいと思えます。

カリキュラムを開発するのに、まずは教科書を作るのですけれども、2005 年から 2009 年までも教科書を作ってカリキュラム開発の政策を進めてきてきています。その当時は、小学校 1 年から 3 年までは理科と社会科の中に ART を含めた科目として勉強するということがありました。小学校 4 年生から 6 年生までは、社会科の中に ART を含めて勉強するということもありました。スライドの表の黄色のところですが、7~9 年生(中学校 1 年生から 3 年生)まではローカルライフスキルズプログラム(LLSP)の中に ART の内容が入っていました。つまり ART の教育というのはだいたい社会科の学習の中に入ってる一つの領域・内容として授業がされていました。このように ART の内容もあるんですけれども、ただ美術教育というのがなかなか活躍できてない、進められてきていないという部分もありました。

このスライドは JICA と JHP などとカンボジア教育省とで美術教育のプロジェクトを推進していこうと締結したときの書類です。このような締結をし 2016 年に JICA と JHP、それから日本の専門家の先生方とで新しい教育課程の改訂に取り組みはじめ、こういう新教育課程のフレームワークを作りました。

古い教育課程と今の教育課程はちょっと異なる部分があります。今までは美術教育は別の科目と一緒にあってるんですけれども、2016 年に芸術の教育が離れて独立した科目になっております。この芸術科目は、歌・ダンス・楽器の演奏・描画・工作などに関する科目となっています。このようにして、新しいカリキュラムでは

小学校 1 年生から 6 年生まで週に 1 時間の授業をするということになりました。美術教育が位置づけられたことはいいのですが、音楽やダンスなどと合わせて週に 1 時間しか授業はありません。中学校 1 年生から 3 年生までも、週に 1 時間しか芸術科目の授業はないというふうになっています。

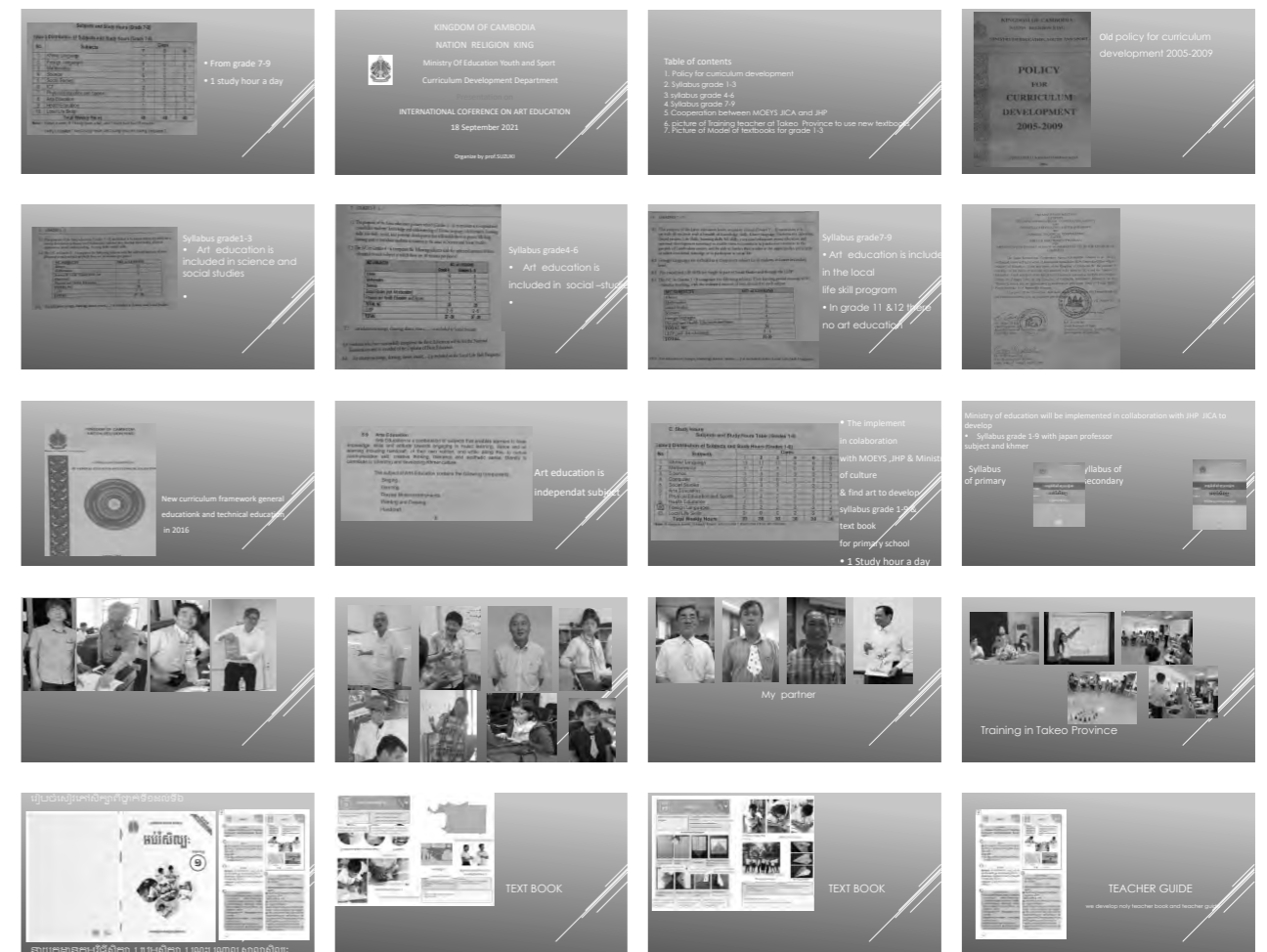
教科書も新しく作られるようになっていて、小学校と中学校を対象にした教科書づくりが進められています。日本の大学の先生にも応援していただいて、こういう教科書を作っていただいて本当に感謝しています。この科目は独立した科目なので日本からの支援がなければこういう教科書はできなかったと思えます。この方々は大学の先生とかこの事業にいろいろと応援していただいた先生方です。上の方は日本人の中の先生です。6 名の大学の先生が、教授が協力してくれました。指導案を作っていたり指導方法を指導してくれたり、また子供たちの教科書もどういふふうにするかなどいろいろ意見を出してくれた先生の方々です。

この右の下 2 名の方は JHP の方々です。立派な先生方々と協力したときの写真ですけれども、新しい教科書ができて、そのときに養成校の先生方々を呼んで、試しの授業をしてみるということになっていました。タカオ州で新しい教科書を使って先生方に教えるときの様子ですけれども、まずは試しということをやっていました。

これは小学校 1 年から 3 年までの教科書です。新しい美術の教科書、これは完全に完成しました。小学校 4 年生から 6 年生までは 60% 教科書を完成しています。

ありがとうございました。

① ミア・チュティマ氏のスライド資料挿入



では、続きまして JHP 学校をつくる会の取り組みについて、今回は通訳なしで 10 分間矢ヶ部さんからお話いただきます。

よろしくお願いいたします。

(2) 学校をつくる会 JHP の美術教育支援概要 10 分 (通訳なし)

JHP プノンベン事務所 矢加部咲氏

それでは始めさせていただきます。

今、ご紹介に預かりました HP 学校をつくる会の矢ヶ部と申します。プノンベン事務所でプロジェクトマネージャーをやっております。芸術教育支援事業の概要ということで始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まずですね、団体の方の紹介の方を少しだけさせていただきます。JHP 学校をつくる会は、1993 年に設立されました。金八先生の脚本家として知っていただいている方が多いんじゃないかと思いますが、代表の小山内美恵子らにより設立され、カンボジアで学校建設や教育支援などを行っております。プノンベン事務所と東京事務所があるんですけども、プノンベン事務所のスタッフは写真のように 3 人の日本人駐在員、6 人のナショナルスタッフが勤務しております。そして、特に初等教育の環境の改善をサポートするために、日々奮闘しています。

それではここから芸術教育支援事業の話に移っていききたいと思います。

先ほどチュティマさんからお話があったように、現行事業に至るまでにどのような形で当会が芸術教育支援事業を行ってきたのかということから始めさせていただきます。

まずは何を目標として事業を始めているのかということなんですけれども、カンボジアの全ての子供たちが学校で芸術を学び、豊かな情操を育むということを最終的なゴールとしまして、1995 年から事業を始めております。子供たち一生懸命作ってる表情ですが、日本もカンボジアも活動をしているときの子供たちの表情というのはすごくいいなあと思っています。

1995 年に設立されまして、芸術教育支援事業が始まり、ここまで草の根に重きを置いた活動に重きを置いています。最初は日本人の専門家やカンボジア人の専門家の方たちが直接現地に入って、児童であったり教員養成校の先生、学校の先生だったりという方々に直接的な支援をしていくという形で事業を進めておりました。だいたい 15、6 年の間、こういう形で続けておりました。そうやってですね実際に現地に入って草の根でアプローチをしていく中で、いろいろな課題であったり、メリットだったりというものが見えてきました。

メリット・課題両方、こちらに書いてあるような形なんですけれども、メリットはやはりちょっとずつ支援していくと直接繋がっていくという形ですので、やはりモチベーションが高まりやすかったり、個々に合わせてサポートしたり、活動の継続であったりとか、対象者のコミュニティでの普及活動の効果っていうのは非常に高かったと考えております。一方、こういった課題、ここにある三つの具体的な課題を挙げてるんですけども、こういった課題も見えておりました。

この課題、一つ一つ見ていくとまた違うんですが、こういったものが最終的に問題が帰結していくところというのが、カンボジアのその前提条件として教育システムの中で芸術教育の重要性があまり認識されてい

ないというところ。そこに問題が帰結するのではないかというのが見えてきました。カンボジアはどちらかと言うとトップダウンの文化がちょっと強いこともあり、やはり個人個人が現場で頑張っているもなかなかそれを外に広げていくようになったときにやはりシステムに入っていないとか、教科として、科目としての優先順位があまり高くないという状況だと、なかなか広げていくのが難しかったということがありました。そうやってきますと、やはり目に見える成果をという形になって今度は逆にコンテストで優勝を目指しますみたいな形で、目に見える形での成果というものが現場の先生たちの求めになってしまっていて、そうなるとうりそもそも美術教育、芸術教育の中で子供たちが楽しみながら学習をして、感性や創造性、想像力っていうものを育成して欲しいという当初の目標、目的がちょっと見えづらい状況になっておりました。そういった先ほどお話をさせていただいたようなシステムの壁というようなもので、それはやはり現場の先生だけでは越えることが難しい壁ということもあまして、そういう中でしたら NGO として逆に芸術教育の重要性を中央の中で教育省で高めることによってより学校現場の先生たちが活動をしやすい、動きやすい環境を作っていく。そういったことに対しての働きかけをしていった方がいいんじゃないかという考えが生まれて、そういった方向に事業の方が変わっていきます。

その次、2012 年から 16 年に、まず何をしようかということで、それまで全国に自分自ら行って展開していた事業を、一度 1 回絞らしよう。そこで時間をかけて、きちんと美術教育というものもう一度しっかりやってみて、そこでどういった変化が起こったのかを調査して、その結果をもって芸術教育の重要性を教育省の中央にアプローチしていこうというような流れが生まれました。

でもその中でですね、先ほどお話いただいた教育省カリキュラム開発局のチュティマさんとの出会いがあったり、そこで協力関係が築かれていったりという形でした。

そして、2016 年に先行事業が終わった後に、先ほど言ったカリキュラムの改訂、芸術教科が独立することが決まりました。このニュース、芸術界隈の人間は非常に喜んだニュースだったんですけども、一方で独立しようといったときに、やはり教材だったり人材だったりっていうものが不足しているということで、先ほどあったあの締結を結びましょうという形で、教育省から依頼をいただいて、協力して事業を開始いたしました。

それが今の現行事業で、先ほど見ていた教科書の作成だったり、日本人の専門家の方たちが関わったりしているものになります。現行の事業の方で、カリキュラムの内容については先ほどチュティマさんから説明いただいたので、現行事業がどのようなプロセスを経て何を目的として行われているのかということの説明させていただきます。

現行事業は主に 3 つの成果を目指しております。

ワーキンググループを作って担当行政官を育成する。それは先ほどのあのメンバーで、協力している仲間ですというふうに書いてあったところなんですけど、彼らとともにワーキンググループを作って、現地で美術教育を普及できる人材を教育省内に育てていこうという形になります。彼らと一緒にこんな教材を開発して、さらにその教材を使って指導ができるトレーナーを育てていくというところまでを、現行の事業の内容としております。

プロセスはこんな感じですが、ここは飛ばさせていただきます。

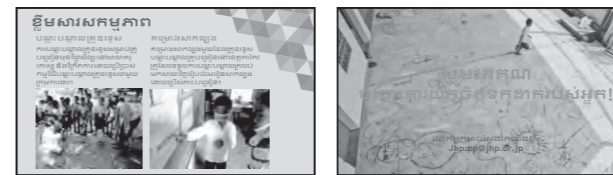
活動内容なんですけれども、ワーキンググループへのインプットということで、具体的に写真等を見ていただけるといいなと思うんですが、先ほど写真に出てきた先生などもいるんですが、ワーキンググループメンバーに対してのインプット活動として、知識や知見を深めることを目的として、様々なワークショップを行ってまいりました。

こういった形で実際に自分たちでつくってみるワークショップを試みたり、日本の授業を実際に日本の小学校で行われている授業を観察したりですね、あとはどういった美術教育を、どういった芸術教育をカンボジアの子供たちにとって必要かっていうことを話し合ったりそういったことをしながら教材を作っていくための基礎的な部分の話し合いを進めていきました。その後、教材開発ということで指導案をベースにして実際に授業を実践してみて、子供たちがつくった作品等を集めまして、教科書を作るという作業を行っております。これは、実際に授業した後に、子供たちの作品を選んでも様子なんですけれども、カンボジアの教科書にはカンボジアの子供たちがつくった作品が掲載されていくというような形になります。これは、今日来てのサッチャーさんとチュティマさんも写ってますけれども、彼らは教科書の内容を推敲しているところですね。日本人の専門家の方々にも校正をお願いするなどして協力いただいております。

こちら辺はちょっと見ていただく形で、トレーナーを育成するというので、先ほど出てきた教員養成校の先生にトレーニングを行って、現場経験のない先生も多いので、実際に自分たちで児童への指導の経験を持ってもらうということも研修の中に入れております。

その後ですね、今やってることとしては教員研修も行っています。教員研修後には、こうやって初めて美術の授業を受ける方も多いと思うんですが、実際に体験した後に、学校に戻って自分の児童・生徒に教えるという活動をしています。子供たちも頑張ってます。今はいろいろコロナの影響もありまして、活動が止まったり、学校が閉校をしたりして、こういったパイロット事業も停止されてる部分もあるんですけれどもオンラインに切り替えるなどして、今、最後のラストスパートということで進めております。ちょっと駆け足になってしまったんですが、以上で終わらせていただきます。ありがとうございました。

② JHP プノンペン事務所 矢加部咲氏のスライド資料挿入



流れがとてよくわかって、ワクワクしてきました。ありがとうございました。それでは続きまして、スモールアート・スクールの坂田さん・ヒーアさんにお話しいただきます。よろしくお願いいたします。

(3) スモールアートスクール SAS の活動概要 10 分 (通訳なし)

SAS アートコーディネーター 坂田優子氏 チウ・ヒーア氏

みなさま、はじめまして。シェムリアップの小さな美術スクールの坂田と申します。私とヒーアの方から、小さな美術スクールのことをご存知ない方もいらっしゃると思いますので、簡単に学校の概要を説明させていただきます。

まずは私のプロフィールからお話しいたします。私はアメリカの大学を出てから、同じ町のフィラデルフィアの NPO で難民支援をするソーシャルワーカーとして働いておりました。その仕事を通じて、カンボジア・ベトナム・ラオスの方々と会う機会があって、東南アジアの方々の文化や歴史に興味を持って、その仕事を終えてからカンボジアに行くこと決めました。2009 年に来たときは、NPO の同僚の甥にあたるカンボジア人しか知り合いがいなかったのですが、あるレストランの日本人オーナーを通じて笠原知子を紹介いただき、それから一緒に活動しております。

こちらの学校では広報とか出版のお手伝いをしております。

次は、ヒーアから日本語とカンボジア語でお話しします。

みなさんおはようございます。チウ・ヒーアと申します。高校卒業後、このスモールアートスクールで働いています。この学校で 6 年ほど働きながら、笠原先生のご支援で大学(夜間大学なんですけど)、やっと卒業できまして、6 年ほど通訳しながら絵を描き、絵に興味を持って絵を描き出しました。現在は通訳とアーティストとして、この学校の後継者として見習い中です。これからもここで永遠に楽しい授業をやりたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

はい、ではスクールの概略・概要を進めさせていただきます。小さな美術スクールは、カンボジアの子供たちへ「一度きりの子供時代を心豊かに過ごして欲しい」という元都立高校美術教師の笠原が抱いた願いからスタートしました。彼女は 20 年以上かけて資金準備をし、全額自己資金による完全無料の美術スクールを 2008 年に開校し、活動を始めました。

活動の目的は、条件が悪く生きる子供たちに学ぶ機会と場所を提供し、食べて生きていける能力を育むことを目的としています。

スクールの設立は 2005 年に笠原がネパールやインドを回って、最終的にシェムリアップに学校建築の場所を決め、笠原自身が作成した設計図をもとに、2007 年に建築を開始しました。2008 年の 12 月に完成し、事業を開始しました。

活動の歩みに移らさせていただきます。

2007年の9月に笠原がカンボジアに渡りました。学校建築完成前に既にシェムリアップの擁護施設に教えに行きましたが、2008年に高校卒業したばかりの通訳のヒアが活動に参加しました。そして、2009年に私が参加してから、チームが拡大しました。それからNGO等との提携を開始し、ギャラリーを開設したり、絵画展を日本やカンボジア、シェムリアップやプノンペンで開催する機会を得ました。2017年、活動10年目を迎え、生徒数も年間400人以上となりました。オーナーメンバーの私たち3人とスクールで育った美術講師5人を採用して活動しています。教育活動の支援先は現在、3歳から30歳まで約350人の生徒たちを、小さな美術スクール内と小学校、公立幼稚園、他に二つの児童養護施設とも提携をして、授業をしています。NGO組織との提携もあり出張授業を行ってまいりました。美術・日本語の授業以外にも、生活支援や大学支援などの支援活動も行っております。

カンボジアの子供たちが描いた絵を多くの人に見ていただくために、今まで出版物等を3冊ほど出しております。また、活動に賛同して下さっている日本の方に、毎年カレンダーを提供しております。

今年3月、NHK Side by Side という番組でスクール活動が取り上げられ、全国放送でご覧いただきました。また、ご関心ございましたら、オンデマンドでご覧いただけますので、ぜひご覧ください。

こちらで以上になります。ありがとうございました。

③ SAS アートコーディネーター 坂田優子氏・ヒア氏のスライド資料挿入



ここまでカンボジアの様々な教育状況をお話いただきました。チュティマさん、矢加部さん、坂田さん、ヒアさん、ありがとうございました。

2 S-HTP 描画調査結果報告 30分

聖隷クリストファー大学社会福祉学部 鈴木光男

ここから30分ほどの時間で、私のS-HTP法による描画調査結果報告をさせていただきます。

本発表は科学研究費18K02554による描画調査の内容です。S-HTP法とは、家と木と人を入れて1枚の絵を描くという描画調査です。

それでは、初めに私とカンボジアとの繋がりをお話させていただきます。私は2009年に大学の先生になりました。2010年にJHP代表の小山内美恵子さんから、カンボジアボランティアプログラムを始めたかどうかと声をかけていただきました。それが私のカンボジアとの繋がりのはじめでした。学生をカンボジアに連れて行って、小学校で図工の授業を様々に繰り返しました。この中で私はカンボジアのことが大好きになって、カンボジアの人たちを愛するようになりました。そして2012年から2013年にかけて、JHPの美術教員養成トレーニングに私も関わらせていただきました。その中で美術教育に関する講義をしたり、私の授業を先生方に見ていただいたり、先生方に様々な研修を体験していただきました。今日はカンボット・スヴァイリエン州のたくさんの先生方が参加してくださっています。この写真の中にいらっしゃるかもしれません。このトレーニングでは様々なことを行いました。今、画面に出ているのは、カンボジアの先生方がその中で制作した作品です。クレヨンや絵の具に触れたことのない先生たちが、このような素晴らしい作品をつくり上げ、私は本当に驚くばかりでした。カンボジアの先生たちの造形表現経験は乏しいけども、心の豊かさとか表現世界の豊かさに触れて感激しました。この美術教員養成トレーニングは、写真のメンバーで取り組みました。今日のこのシンポジウムにも平林智咲さんやアンタラーさん、リナさんが参加してくれています。サラデイも含めてこのメンバーが非常によいスタッフとして、よい仕事を進められたと思っています。その成果を踏まえて2014年6月30日にカンボジア教育大臣に、美術教育の価値や意義といったものを報告・提言する機会に恵まれました。そして、この場で教育大臣から芸術教育・美術教育をカリキュラムの中に入れようと言ってもらいました。

このような中で、スモール・アート・スクールのみなさんとの出会いもありました。

先ほどご紹介があったように、笠原先生をはじめとしたみなさんにより、スモール・アート・スクール内だけではなく、近くの小学校にモバイルの図工の授業が展開されています。シェムリアップに行くたびに寄らせていただいておりますが、本当に素晴らしいみなさんです。

このようにJHPやスモール・アート・スクールが支援をしていますけれども、小学校で絵画の学習を受講し経験している児童というのは本当に少ない状況にあります。

そこで、JHPが美術教育支援を継続している支援校と、支援がない非支援校を対象に、絵画の学習経験の有無により児童の描画にどのような違いが見られるかを、S-HTPにより調査することとしました。合わせて、スモール・アート・スクールの支援校や日本の小学校の児童の描画とも比較し、絵画の学習によりどのような力が具体的に育まれているのかを実証的に明らかにしようと考えました。

カンボジア国内の調査対象とした地域です。スヴァイリエン州とカンボット州、それぞれのJHPの支援校と非支援校、それからプノンペンの非支援校。それからスモール・アート・スクールが支援されているシェムリアップの小学校。

続きまして S-HTP 法による描画調査概要を報告します。

1 回目は 2019 年の 2 月から 3 月、そして 2 回目は 2019 年の 12 月から 2020 年の 2 月。その後、3 回目も計画していましたが、パンデミックにより実施できませんでした。しかし、2 回の調査で非常に有益な成果を上げることができました。そこで今回のシンポジウムを開催し、みなさんと話し合うことといたしました。

S-HTP 法とは、30 分間で A4 用紙に家と木と人、その他思いついたものを自由に描いてもらうものです。今回は、全部で 8 校の小学校の絵の比較をすることにいたしました。

S-HTP の分析視点です。まずは統合性、描画サイズ、課題以外の付加物、そして遠近感、現実的・非現実的描写というものになります。それから、家などの立体表現や人物の表現についても、この発達段階に即して 5 段階で分析をしました。

それでは 1 回目の描画調査について紹介をします。

これはスヴァイリエン州の非支援校の子供たちの絵です。

続いて、カンボット州の非支援校です。

ブノンベンの非支援校です。

JHP が支援しているスヴァイリエン州の小学校です。

同じくカンボット州の支援校です。

スモール・アート・スクールが支援している小学校です。こちらの小学校では、3 年生以上になっています。別のスモール・アート・スクールの支援校です。

続いて日本の小学校です。

今までの 1 回目の調査で描かれた絵です。

続いて、2 回目に描かれた絵を紹介します。

スヴァイリエン州の非支援校です。

カンボット州の非支援校です。

スヴァイリエン州の支援校です。

カンボット州の支援校です。

スモール・アート・スクールのサポート校です。

そして、日本の子供たちの絵です。今のこの絵は、自分の子供部屋から見た風景を描いています。机があったり、本棚があったり、窓の外の風景が見えたりしています。

では、このような描画調査で得られた絵をもとに分析した結果を報告します。

校種ごとの 1 回目・2 回目のデータをもとに比較し、 χ^2 検定により有意差を求めました。JHP の支援校では、8 つの項目で有意な差がありました。非支援校では、非常に多くの項目、12 の項目で違いが見られました。スモール・アート・スクール、そして日本の公立校では、1 回目と 2 回目を比較してもそれほど多くの有意な違いは見られませんでした。1 回目から 2 回目に至るわずか 10 か月の間で、特に非支援校の子供たちの表現が最も変わったということがわかりました。

有意に変化・変容した点を見ると、支援校では遠近感、現実的・非現実的描写、人の表現に関して変容が見られました。非支援校では描画サイズ、遠近感、現実的・非現実的描写、それから家などの立体表現

に関して変容が見られました。スモール・アート・スクールのサポート校はサイズ、遠近感、人の前写実的表現に関して変容が見られました。日本の学校では、統合性、家と人の描写に関して変容が見られました。

クメール語の表になっていますけれども、1 回目はクメール語の表記、2 回目は日本語の表記で紹介していきます。

1 回目、支援高は統合的で非支援校は羅列的でした。JHP 支援校は絵が大きく“勇敢”に描かれていました。JHP 支援校はやや遠近感が見られ、非支援校はバラバラな表現になっていました。非支援校は支援校より立体表現、家の表現がやや稚拙でした。非支援校は人を描かない子供が多く見られました。

続いて 2 回目です。支援校と非支援校を比べてみると、支援校は統合的で非支援校は羅列的でした。支援校はやや遠近感が見られ、非支援校は直線上に物が描かれていました。支援校は人の表現において図式的な表現が半数以上見られました。

続いて、日本の児童と支援校の 1 回目を比較します。日本の児童は想像力があり積極的に描写をしていました。日本の児童の絵は、カンボジアの子供の絵に比べるとやや遠近感に乏しいものでした。日本の児童の絵は空想に富んでいて、支援校の絵はリアルな生活体験に基づくものでした。支援校は家の表現がやや立体的に表現されていました。支援校は人体の表現に不慣れで、消極的といった面が見られました。

続いて 2 回目の調査です。支援校は描かれる絵が日本の子供よりやや小さい。日本の児童の絵は支援校よりやや遠近感に乏しい。1 回目と同様に日本の児童は空想に富んでいて、支援校はリアルな生活体験にもとづく絵でした。支援校は棒人間が多くて、人体表現がやや稚拙でした。

続いて SAS との比較です。SAS は非常に統合的でまとまりまって、非支援校は羅列的な表現でした。SAS は絵が大きく想像力もあり積極的に描かれていました。SAS はやや遠近感が見られ、非支援校はバラバラとしていました。家の表面では非支援校はやや立体的に表現できていました。人の表現は非支援校が不慣れで消極的でした。

2 回目、SAS と非支援校を比較すると、非支援校はやや羅列的でした。SAS は絵が大きくて想像力があり積極的に描かれていました。SAS は遠近感がやや見られ、非支援校はバラバラとしていました。SAS より非支援校はやや立体的に表現されていました。非支援校は人体の表現に不慣れで消極的な面が見られました。

1 回目の SAS と日本の児童の絵を比較すると、日本の児童の絵は直線上に並列的に並んでいました。日本の児童は空想に富んでいて、SAS はリアルな生活再建にもとづく絵でした。日本の中・高学年児童は立体的な表現を習得しているようでした。人体表現においても日本の中・高学年児童は発達・向上が見られました。

2 回目です。SAS と日本を比べると、媒介による統合以外の統合性の差は小さいものでした。SAS は日本の子供より絵が大きくやや積極的に描画がされていました。SAS は遠近感が見られ、日本は遠近感が乏しかったです。日本の児童は空想に富んでいて、SAS はリアルな生活体験を描いていました。日本はやや前写実的な人体表現が多く見られました。

続いて、質的評価比較について報告します。JHP 支援校が薄い青、非支援校が灰色、そして日本の公立校が濃い青です。スライドのように日本の公立校は全てにおいてプラスとなっています。非支援校は全て

3 国際シンポジウム100分

(1) カンボジア教育省小学校教育課 ナイ・サッチャー氏

国際シンポジウムに参加されているみなさま、こんにちは。カンボジアの美術教育カリキュラムを改訂するあたり、いろいろと応援していただいているみなさま、特に鈴木先生、それからJHP学校をつくる会、他の参加してくれているみなさまに感謝します。

それでは、私の発表をしていきたいと思います。

私は教育省の代表として、初等スポーツ局の代表として、教える方法とか学習する方法について指導する部署になります。

続きまして調査訪問について話していきたいと思います。

私たちは3つの調査地域を決定しました。カンボット州とスヴァイリエン州、プノンペンと3つの地域を対象として調査を実施しました。児童の絵を比較するために、一つの州で美術教育を支援している学校と支援していない学校、比較するために2つの学校を選択しました。調査訪問の結果は先の報告の通りになります。

支援校は美術教育を多く学習でき、決まったカリキュラムをちゃんと実施しています。非支援校の方は美術教育をあまり学習できていません。しかし、授業中に支援校も非支援校も子供たちはみんなとても元気に絵に興味を持って絵を描きました。みんな楽しく学習しているように見えました。先生に出された課題を一生懸命考えて、自分の心の奥から絵にして、児童はそれを誇りに思って、楽しく興奮しているように見えてきました。興味深く思っていて、自分の力で描いた絵をととても喜んでいました。この点において、支援校と非支援校は同様でした。支援校の絵は想像力があって、またはレイアウトについてもちゃんと考えたり、絵の関係性などがあつたりしました。遠近感や大小などがあつたり、また絵には想像したりしたものが入っています。例えば人、動物、木や田んぼ、道、家などがあります。また、それに加えて塗るなどしてとてもきれいです。それから、非支援校の児童が描いた絵は絵が少なく、想像力もあまりない。そして、絵は羅列的で、描いた絵が1か所に集中している。遠近感もあまりなしで、そういう状況があつて、絵の関係性もあまりない状況でした。塗ることについてもあまりうまくありませんでした。

これに従って、カンボジアの初等レベルの美術教育、カリキュラムは新しい教科書が登場します。初等教育の子供のための美術教育が間もなく始まります。これからも子供がカリキュラムに基づいて学習できるチャンスが多くなると思います。その中で題材が身体的・精神的など含めて知識を変えるための基本です。想像力もより高いレベルになると思います。子供たちの将来は創造的になると期待しています。

次に、美術教育のメリットですね。

人が生まれて、人種を問わず、自分でもともとできるのではなく、教育を通してより古い世代から訓練などをする必要があります。例えば、今日は生徒・先生、明日になったら国のリーダーになっているかも知れません。つまり、美術教育は社会革命に参加するという方々の夢を現実にして、国の繁栄と持続可能な開発に変える方法になると思います。美術教育は現実の知識を強化するための教育の重要な要素であることだけでなく、全ての科目に影響を与える分野であります。仕事や他の分野も深くすることはできません。美術教育とは、美学と創造性、つまり子供たちに知恵・視覚・思考・推定など日常生活への対処の要素を与えることになり

ます。

このように美術教育は基幹系のように知的教育、特に児童の精神的能力の発達、そして定期的に人々に奉仕するために重要であり、抽象的かつ創造的に考える能力の強化と密接に連携しています。美術は医学であり、生まれてから死ぬまで人々に奉仕するようになるというふうに言えます。先史時代を見ると、文字ではなく、コミュニケーションをとる手段として絵などが使われてきました。科学が進んだとしても、文字を書く代わりに描画がまだまだ必要になっています。欠かせないものとなっています。要するに、文化がいくらまで発展されたとしても、絵はまだ必要ということになるでしょう。要するに、絵や文字と両方とも私たちの世界の人間にとってあらゆる時代において切り離せないものだと言えます。

以上となります。ありがとうございました。

ナイ・サッチャーさん、ありがとうございました。

では、続きましてスモール・アート・スクールの笠原先生、お願いいたします。

(2) スモール・アート・スクール代表 笠原知子氏

スモールアートスクールの笠原です。よろしくお願ひいたします。

私は東京都立高等学校の美術教師として31年間教壇に立っております。59歳の時にカンボジアに来て、今年で15年目になります。多くの方から、「なぜ無料で美術教室を始めたのか」とよく質問されます。その経緯を少しお話しさせていただきます。

私は高校生時代にポール・ゴーギャンの作品、題名がとても哲学的なのですが、「我々はどこから来たのか、我々は何であるか、我々はどこへ行くのか」という作品に大きく影響を受けました。人間の人生の全てがここに入っているといった哲学的に難しい内容でしたが、とても影響を受けて美術の教師になりました。そのとき同時に、漠然とですけれども、人生の終わりに何をしようかを考え、私なりにある程度自分の人生を生きたら、どこかアジアの国の条件悪く生まれた子供たちの応援をしようと考えました。

40歳になった時、自分の中に眠っていた思いを1人で実現しようと決め、20年間準備をしました。

20年間の間にスクールを作る国の情報を集め、最終的にカンボジアに決めました。カンボジアに来るときに決めたことがあります。

一つ目は、文化や歴史背景が違う異国の子供たちに自国の文化を押しつけない。

二つ目は、子供の成長に合わせ、性急な結果を求めず、美術表現することが楽しいと感じられる授業をする、と決めました。

カンボジアでの美術教育の指導方法についてですが、私は日本で長いこと高校の美術教師でしたので、小さい子供たちと接した経験がありませんでした。最初の頃はひよこのようにピヨピヨとざわめいている子供たちに頭がクラクラしましたが、今は慣れまして、そのざわめきが人間の好奇心の表れだと思っております。

まだ手探り、試行錯誤を繰り返しながらの授業ですが、教えてもらってその通りにやれば答えが見つかる教科ではありませんので、授業を進める上での基本的な考え・方法としているものがあります。

1番目が、「子供が自分の目で見、感じ、考えた世界を尊重する」です。

2番目が「教え込む授業ではなく、子供の成長に合わせて、自己を育む、自己解決できる力の育成を心

がける」です。

3 番目、「子供たちが面白い、楽しい、嬉しい、喜びなどの感性的世界。つまり、子供一人一人の心が感じる感触を大切に授業を心掛ける」。

4 番目は、「表現方法は一つではなく、また表現される世界も多様であることを伝える」。

5 番目は、「いろいろ試し、いろいろな経験する。その経験が表現世界を広げること伝える」。

このような考え方で実施している活動の場所や子供たちの作品を次にご覧ください。

これはタットムとトロク、2つの小学校です。シェムリアップ市内から車で約40分ほどの農村部の中に位置する学校です。これらの学校には月に一回美術の授業をしに行っています。両校とも雰囲気は温かくて、小さな学校ですから家庭的な感じがあります。写真をご覧になっておわかりになりますように、村の子供たちですから、美術の授業があるということで喜びを持って待っています。

授業の最後にみんなの作品を鑑賞するのですが、うまくいかなかった子でも笑いがあり、満足した表情の子供たちが多いです。

では次に、オー村小学校幼稚部の子供たちです。ここもシェムリアップ市内から車で25分ぐらいの農村部にある学校です。幼稚部ですので、4、5歳児60名を2クラスに分けて実施しております。この幼稚部の子供たちの面白さは、好奇心がたくさんありまして、いろんな課題をやるのですけれども、とにかく躊躇せず取り組む子供たちです。

次にオー村小学校6年生のクラスの子供たちです。ここは私が指導するのではなく、美術スクールで育ったスタッフたち、3名の教師たちが指導しております。90分授業をしておりますが、子供たちは表現能力がとても高く、発想が面白く、美術をすることをとても楽しんでます。毎週1回実施しておりますので、子供たちがめきめきと表現力を高めています。

次のこのアンコールクラウ村が一番古いのですが、今年で約12年目になります。ここも車で30分ぐらいの、名前からおわかりになりますように、アンコールワットの近くにある学校です。12年経ち、子供たちも3代入れ替わりしましたが、どの代も子供たちの作品は力強く、力を込めて、大胆に描く子供たちが多いです。

次が、うちの学校なのですが、このスクールでは、週4回。火曜日の午前、木曜日の午後、土曜日の午後、日曜日の午後と4回授業を行っています。年齢は3歳から30歳までとたくさんの生徒が来てくれていますので、同時展開で2クラスとか3クラスとか分けて同時展開で行っています。市内の中心部にありますので、農村部の子供たちと比較しますと、全般的におとなしいです。これが活動場所全般なのですが、その他にこの活動を通して、先ほど坂田も話しましたけれども、やはり生活困窮家庭がたくさんありますので、生活学業支援等も併せて行っております。

以上がスクールの活動全般になるのですが、私がカンボジアに来まして、カンボジアの多くの子供たちと接してきて、人間はどんなに幼くても文化的活動、文化的環境を欲する文化的存在だという思いを強くしました。

また、14年目となる活動を通して、カンボジアの子供たちの無垢なる魂の表現、これは私の感じる考えなのですが、子供は大人にできないことができるということを気づきました。こうした表現経験を通して、子供たちが成長し大人になっても絵を描く喜びなど、生涯自分自身を楽しませられるような文化的活動を続

けていきたいと思っております。

以上です。ありがとうございました。

⑤スモール・アート・スクール代表 笠原知子氏のスライド資料挿入 12枚



笠原先生、ありがとうございました。子供たちの笑顔輝く瞳、そこから生み出される作品、見ていてワクワクしました。

それでは続きまして、鈴木英司先生、お願いいたします。

(3) 日本美術教育学会静岡支部長 鈴木英司氏

みなさん、こんにちは。

日本美術教育学会静岡支部長の鈴木英司と申します。よろしく申し上げます。私からは、カンボジアの各地域の子供たちの作品や、日本の子供たちの作品を見せていただいたときに感じたこと・考えたことを述べさせていただきます。

まず、カンボジアの子供たちの作品を見て共通して感じたのは、伝統的な表現様式の線や形がどの子供たちにも多く見られたということです。また、子供たちが手伝いをしている場面や働いている場面の表現を見ることが多かったので、子供たちと働く(手伝う)ことと日々の生活が離れていないこと。つまり、子供たち自身の直接体験が絵によく表れていると感じました。

SASの子供たちの作品は、線の力強さ、表現することの楽しさ、そして子供たちの明るさが感じられます。特に、2回目の調査では描かれているものの動植物の数や、表現が非常に多様になっていることで子供たちへの支援や子供の充実や自身が楽しく取り組んでいることがわかりました。

続いてJHPのスヴァイリエン州とカンポット州の子供たちの作品です。この2つの州に共通するのは、丁寧な線、そして細かな描き込みがどの子に見られたことが特徴的でした。また、1回目より2回目の方が一

つ一つの表現が大きくなり、緻密で色彩感覚も豊かになっています。髪の色や家屋の細かな表現、家の装飾等がより強調されて描かれ、生活の様子や空間意識がより多様に変化していたことが分かります。

次は非支援校の子供たちの作品です。カンボット州の子供の1回目の作品を見てみると、非常に羅列的に見られますが、2回目のときには赤い枠で囲って示した部分では消しゴムで消した跡が多数あり、人を多く描こうとしていたり何度も描いたり消したりして、人物表現において試行錯誤している過程がよく表出されており、この子らの活動の中に創造への粘り強さが生じていることで作品に価値が生じていると思います。一方、プノンベンの子供たちの作品から感じたことは、視覚情報が豊かな中で生活をしていることがうかがわれます。また、生活の様子や日々の姿の表現については、カンボット州の子供の作品とプノンベンの子供の作品では生活環境の違いや直接体験の差が絵に表れていると感じました。

最後はスヴァイリエン州の非支援校の子供の作品と日本の子供の作品です。スヴァイリエン州の子供の1回目と2回目の作品を比較すると、2回目の作品中の人物の衣服の肩紐の表現で黒く塗られていたり、草の色を濃く描いたり、木の色を塗ったりして色彩感覚の高まりが見られたことが前回との大きな違いで、表現することへの興味・関心が高まっていると感じました。

右側の作品は日本の子供の作品です。1回目の調査のときに描いたのは、友達と自宅近くで遊ぶ子供の姿ですが、そこには道がクランクしている状況から奥行き感を出したり、屋根の明暗や木の配置で遠近感を出したりして空間認識と発想・構想の豊かさが見受けられます。2回目の調査では、1回目の調査と違って雪国での生活様式を想像して作品を描いています。この地域に住む子供たちは、冬でも雪が降らない所に住んでいます。しかし、こういった表現に至るには、国内の多様な生活を目にする情報化社会の中で生きているということ、住んでみたいという思いが背景になっていると考えられます。

今回の両国描画調査に見る経年比較から考察されることを一覧表にまとめたものをスライドに示しました。ここでは調査校別に細かくたくさん書いているので、要約したものを紹介します。

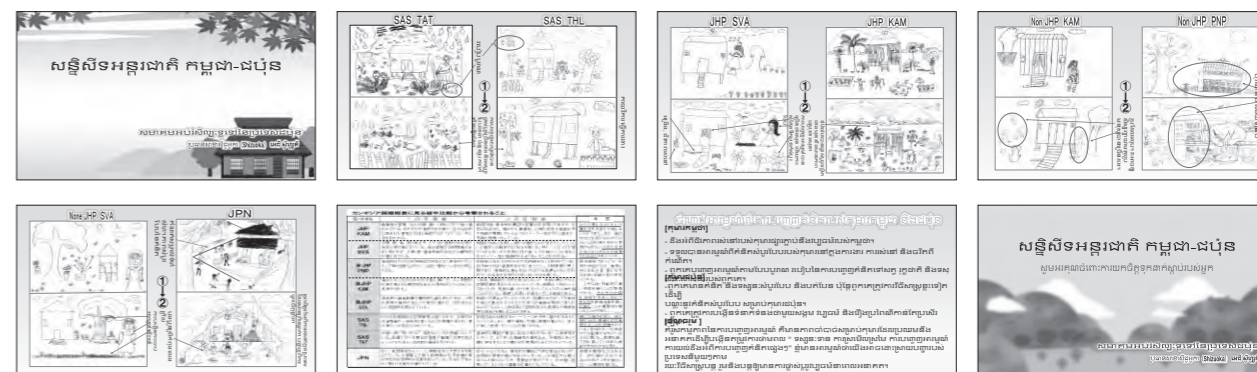
カンボジアの子供たちの作品からは、伝統様式の線、動植物の表現様式、宗教観が表出していること。日々の生活とカンボジアの文化が離れていないことがわかること。働くこと(手伝うこと)、生きること、自然と共にある心の豊かさなどを感じることが出来ます。

日本の子供たちの作品からは、発想や構想到多様性や柔軟性があるものの、心の豊かさを育むアプローチが必要ではないかとカンボジアの子供たちの作品を見て感じました。また、子供を取り巻く社会との関わり方や生活の中での文化的なもの・伝統的なものとの関わりとの関係性を高めたいと感じました。

美術教育は、新たな価値を創造したり、様々な課題を自分や他者と共に解決したりすることに繋がる力を育てるものとしてとても大切です。多くのみなさんの実践や発表・発言を聞いて、豊かな情操を育成するためにも美術教育は大変重要なものになっているということを再確認できました。未来を担う子供たちに必要な力として、豊かな情操、発想力・構想力・表現力、他者の表現を理解する力などを伸ばしていくことが肝要です。そのためには、造形的な表現活動及び美術教育の充実が豊かな人間性の育成に必要な不可欠なものであると言えます。今後も両国間で継続的なアプローチや、文化的な交流を続けて刺激し合うことで、お互いの国のよさの伸長や課題を克服できるきっかけになるのではないかと感じました。

ありがとうございました。

⑥ 日本美術教育学会静岡支部長 鈴木英司氏のスライド資料挿入 8枚



4 協議

(鈴木光男) 先生ありがとうございました。

改めて、3人のみなさんからの話を聞きながら、美術教育の大切さや価値をみんなで共有できたかなと思います。JHPやSASの支援によりカンボジアの子供たちの表現は間違いなく充実してきています。支援を受けていない学校も、新しい教育課程で美術教育が進められ着実に表現力が伸びてきています。貧しくても素朴な生活の中で生まれた表現には価値があると実感させられました。どの子の表現も健康的で、今後のカンボジアの未来を感じさせるものでした。

残りが20分ほどですけれども、みなさんの方からご質問とかご意見ございますか。

もしなければ私から一つ、まず笠原先生にお聞きたいことがあります。

これまでの活動で子供は文化的な存在であるという思いを強くしたというふうに言われたんですが、どういったことなんでしょうか。

(笠原知子) カンボジアでは美術教育が殆どありませんので、私たちが行ったところは11州になりますが、行った場所の中にはかなり僻地もありました。僻地に行きますと、見るもの全てが新しいんですね。私たちが持っていくもの全てが新しい。その新しいものを経験して楽しい新たな喜びが子供たちの中に根付きました。子供たちは、また同じ経験、表現することを経験したいと願ったようです。私が今まで展覧会をやったときの本なんですけども、このように書いたことがあります。「これまで一度も絵筆を握ったことのないカンボジアの子供たちが、初めて絵を描いたときの喜びに満ちた顔を忘れられません。見るもの・触るもの全てが新しい経験に心躍らせ、輝く瞳と弾む心で夢中で絵の具を置いていきます。」で、こんなことがありました。車で9時間かかるある村に行って、授業を終えて、スクールに戻った数日後、その村の先生から電話がありました。とても楽しく、いい経験をしたから、先生から感謝の電話があったのだと思います。以上です。子供たちは文化を欲しています。

(鈴木光男) ありがとうございます。なるほど。こういった子供たちの捉えというのが、教育者、美術教育に限らない全ての教育者としてはすごく大事なものなんだろうなということ笠原先生から教えられた気がします。

で先日、プノンペンで活動されている山田スクールオブアートの山田さんから、こうした資料をいただきました。山田さんとは直接カンボジアでもお話をさせていただくことがあったんですが、この報告書を見て、改めて笠原先生が大切にされていることと、山田さんがカンボジアで進められている美術教育が、実はものすごく似ているんだということを実感しました。山田メソッドのことなど、ちょっとご紹介いただけますか。

(山田隆量) はい。ただ今、ご紹介にあずかりました山田と言います。まずは素晴らしいシンポジウムを開催することに感激をいたしております。時間がありませんので、端的に山田メソッド、このタイトルは仰々しくて自分にとっては恐縮してるんですけどもー。今回、国際交流基金によるこのコロナ禍における美術教育、もともと美術教育がカンボジアにはないものですから、オンラインで美術を何とか教育することができないかということから始まりまして、私が長年子供たちの教育に関わってきて約30年。高校、中学、小学生と関わってきたこの経験から山田メソッドという一つの形を生み出しました。私は日本の美術教育の中にも多少疑問を感じる場所もありますので、しかし、日本で行われているその美術教育というものを基本にして、自分なりに改良して自分なりのスタイルをとりましたので、これは日本の美術教育とは少しアレンジした形になるのではということから山田メソッドという名前をつけさせていただきました。基本は、まず子供たちに固定観念を植え付けさせなくて、いかに自由に子供たちの感性を引き出すかという形・環境を作ること、整えることができるかっていうことが当面の目標です。まず、よく子供に教えるって言葉を使ったりもしますが、実は教えるのではなくて、子供に自由に発揮する場を整える。それによって子供がいかに自分たちの豊かな想像力や感性を発揮させる。発揮してくれることができるかっていうことですね。大人がこういうふうに向かっていると、子供はそれに合わせようとする。それによって子供の本来の持っている自由なものが出にくくなるのではないかと。そういうことを危惧しまして、上手いとか下手とか、そういうことを関係者、毎回子供たちが楽しければ、また次も描きたくなる。そういう気持ちを一番大事にしております。

(鈴木光男) ありがとうございます。ナイ・サッチャーさんが手を挙げられたんですけど、発言ありますか。

(ナイ・サッチャー) SASの笠原さんに質問があります。今、美術教育を実施していると思うんですけども、例えば面倒くさいという児童がいたら、絵にも興味がないという児童がいたら、先生はどういうふうに向かっているのでしょうか。

(笠原知子) 基本的に強制的なクラスではありませんので、まず強制的にやっていると小学校の授業なんですね。基本的には自分から参加しているんです。私も日本の教壇に立っていましたが、そういう子は必ず居るんです。美術なんか何の役に立つんだと言って、いろいろ文句を言う子供とかよく居ますけれども、君が知らない世界を違う目で見られる世界だということを経験している子供がいます。自分自身の好き・嫌いじゃなくて、自分ももう少し幅広い見方に立つのもいい経験になるんじゃないのってように高校生に話しました。ここでは、小学校でもやっぱり嫌だから来たくない子とかいます。でも、私単独のチームではなくて3人ぐらいで行くんですね。そうしますと、その子に適切なアドバイスをする。ここにいるヒーアとか、も

う一人居るスタッフの先生とかが、うまく引き出してるんですね。私はカンボジア語はできないので、なかなか難しいんですが、手を動かし始めます。

(鈴木光男) はい、ありがとうございます。すごい議論が交わされたような気がしますが、笠原先生、そして山田先生からも、日本の美術教育についても少し言及がありました。それらは、鈴木英司先生が語られたことと同じことでした。日本の子供たちの絵には少し心配な面が見られました。実は、その懸念はこの本『S-HTPに表れた発達停滞』の中でも書かれています。その子供たちのゲームだとか、アニメだとかに影響を受けた表現を前にして、私は二つのことを考えました。ネガティブな考えとしては、結果を重視する教育の中で、子供たちが自分の素直な表現ではなくて、アニメだとかゲームだとか、そういった借り物の表現で済ませているのかなという考えです。ポジティブな考えとしては、あの子供たちの、日本の子供たちの描く絵は本当にバーチャルなアニメだとかゲームだとかに影響を受けていたんですが、それを積極的な意味で捉えることもできるのではないかと考えました。プノンペンの子供たちの絵にも少し現れていましたが、アニメだとかゲームだとかっていうバーチャルな表現、それは今の彼らの現実的なリアルな世界なんだろうなということです。そういった新たに見られてきている子供たちの表現を積極的な意味で捉えて、現実世界の課題や社会の問題、例えばSDGsだとか、そういったことと絡ませて探究的に学びを深めるというのは、これはポジティブな意味で大事なことなんじゃないかと考えました。そういった意味で、カンボジアで活動をされているソーシャルコンパスさん、中村さんたちの取り組みも非常に注目されるんじゃないかと思っています。ソーシャルコンパスのみなさんは、アニメだとかそういったものを通して、デザインやアートの力で社会を豊かにしていこうって活動を進められています。

(台湾から) 一言よろしいですか。

(鈴木光男) もちろんです。

(台湾から) はい。よろしくお願ひします。鈴木先生、こんにちは。台湾の美術の先生20名ぐらいが集まって、参加しています。質問です。今まで見てきた絵は色彩がついてないみたいですけど、色彩は子供に対してはすごい重要な表現の一つですけど、原因は何ですか。

(鈴木光男) はい。このS-HTPという描画調査の方法は、鉛筆1本で描くというもので、色は塗らないんですね。

(台湾から) はい。色を塗る調査は増えていますか。

(鈴木光男) この描画調査については色を塗るということはありません。そろそろまとめに入ろうと思います。なぜ、私がソーシャルコンパスさんに注目したかと言うと、カンボジアに

おいてデザインとアートの方で社会変革、それを本当に実現されてるんですね。そのことについては、先ほどナイ・サッチャーさんも言われていましたが…。今回の調査を通して、子供たちの生活や表現を現実的な社会問題に結びつけていくような学習、結果ではなくて過程を重視する学習というのが一層求められるんじゃないかと考えるようになりました。ナイ・サッチャーさんは、美術教育は全ての科目に影響を与えるものだとおっしゃっていただきました。ソーシャルコンパスさんたちがやっっているように、また笠原先生・山田先生はじめ多くのみなさんがやっっているように、デザインやアートの力で、美術教育の力で未来に開かれた教育というのを築き上げていきたいなと思います。今日のシンポジウムで、何人かが語られた美術教育の本質的なところ、これを大切にしながら、カンボジアはもちろんですが、日本にも今一度広めていかなければならないなという思いを強くしました。

これで終わりたいと思いますが、今回このシンポジウムに関わってくださったチュティマさん、矢加部さん、坂田さん、ヒーアさん、ナイ・サッチャーさん、笠原先生、鈴木英司先生、それからカンボジア人支援協会のスン・ヨーコさん、平林智咲さん、フォットさん、そして通訳をしてくれたリナさんに心から感謝申し上げます。スヴァイリエン州やカンボット州からもたくさんの先生たちが参加してくれたことを感謝します。台湾の先生方もありがとうございました。

それではみなさん、長時間にわたって本当にありがとうございました。

សន្និសីទអន្តរជាតិកម្ពុជា-ជប៉ុន

ការប្រៀបធៀបការធ្វើអង្កេតលើគំនូរ S-HTP លើកុមារនៃប្រទេសទាំង២

កាលបរិច្ឆេទ ថ្ងៃសៅរ៍ ទី០៨ ខែកញ្ញា ឆ្នាំ២០២១ ម៉ោង១០:០០ ដល់ម៉ោង១:០០ (ម៉ោងប្រទេសជប៉ុន)

ទីតាំង ZOOM

អ្នកសម្របសម្រួល Suzuki Mitsuo (Seirei Christopher University)

អ្នកធ្វើសន្និសីទ លោក ណៃ សច្ចា (ក្រសួង អប់រំ កម្ពុជា)

Kasahara Tomoko (សាលាសិល្បៈតូច)

Suzuki Eiji (ប្រធាន សាខា Shizuoka, សមាគមអប់រំសិល្បៈជប៉ុន)

អ្នករាយការណ៍សកម្មភាព លោក មាស ជុតិមា (ក្រសួងអប់រំកម្ពុជា)

Yakabe Saki (JHP School Making Association)

Sakata Yuko, Chheav Hea (សាលាសិល្បៈតូច)

អ្នកសហការបកប្រែផ្សេងទៀត អន វណា CIAI Travel

លោកស្រី Soeung Yoko (សមាគមគាំទ្រកម្ពុជា)

Hirabayashi Chisaki, កាំង ហ្វុត

១) ការពន្យល់អំពីស្ថានភាពអប់រំកម្រិតបឋមសិក្សានៅកម្ពុជា

ការសង្ខេបការកែសម្រួលនៃដំណាក់កាលការអប់រំកម្ពុជា

ផ្នែកអភិវឌ្ឍន៍កម្មវិធីសិក្សាក្រសួងអប់រំកម្ពុជា

មាស ជុតិមា

ការធ្វើបទបង្ហាញពីស្ថាយទី១ ដល់ ទី៧។ ការពន្យល់ពីគោលនយោបាយនៃកម្មវិធីសិក្សានៅកម្ពុជា និងកម្មវិធីសិក្សា ពី ថ្នាក់ទី ១ ដល់ថ្នាក់ទី ៣ នៃ សាលាបឋមសិក្សា ។

ចាប់ពីឆ្នាំ ២០០៥ ដល់ឆ្នាំ ២០០៩ លោកបានបង្កើតសៀវភៅសិក្សា

និងបន្តគោលនយោបាយអភិវឌ្ឍន៍កម្មវិធីសិក្សា។ពេល នោះនៅបឋមសិក្សាពីថ្នាក់ទី១ ដល់ថ្នាក់ទី៣

មានការសិក្សាពីARTនៅក្នុងមុខវិជ្ជាវិទ្យាសាស្ត្រ និង មុខវិជ្ជាសង្គម ។ នៅបឋមសិក្សាថ្នាក់ទី៤ ដល់ថ្នាក់ទី៦ ក៏មានការសិក្សាពីARTនៅក្នុងមុខវិជ្ជាសង្គមផងដែរ។

ផ្នែកពណ៌លឿងនៃតារាងនៅក្នុងស្ថាយបង្ហាញពីខ្លឹមសារសិល្បៈដែលមានបញ្ចូលនៅក្នុងកម្មវិធីជំនាញជីវិតក្នុងស្រុក (LLSP)របស់សិស្សថ្នាក់ទី ៧ ដល់ ទី៩ (មធ្យមសិក្សាទី១ ដល់ ទី៣)។ និយាយរួម

ការអប់រំសិល្បៈភាគច្រើនត្រូវបាន បង្រៀនជាខ្លឹមសារ និងជាផ្នែកមួយដែលមាននៅក្នុងការសិក្សានៃមុខវិជ្ជាសង្គម ។ ហេតុនេះហើយខ្លឹមសារនៃ ART មានវត្តមានដែរ ប៉ុន្តែការអប់រំសិល្បៈមិនសូវសកម្ម ហើយវាក៏មិនរីកចម្រើនទៀត។

ស្ថាយនេះជាឯកសារនៅពេលដែល JICA, JHP និង

ក្រសួងអប់រំកម្ពុជាបានធ្វើការព្រមព្រៀងគ្នាក្នុងការលើកកម្ពស់ គម្រោងអប់រំសិល្បៈ។ នៅឆ្នាំ២០១៦ JICA, JHP និង គ្រូបង្រៀនជំនាញនៃប្រទេសជប៉ុន បានចាប់ផ្តើមធ្វើការកែសម្រួលឡើងវិញ នូវកម្មវិធីសិក្សាថ្មី និងបានបង្កើតក្របខណ្ឌសម្រាប់កម្មវិធីសិក្សាថ្មី។

កម្មវិធីសិក្សាចាស់ និង កម្មវិធីសិក្សា បច្ចុប្បន្នមានភាពខុសគ្នាបន្តិច ។ ពេលមុនរហូតមកដល់ពេលនេះ ការអប់រំសិល្បៈ ស្ថិតនៅជាមួយនឹងមុខវិជ្ជាដទៃ ប៉ុន្តែនៅឆ្នាំ ២០១៦

ការអប់រំសិល្បៈបានក្លាយជាមុខវិជ្ជាឯករាជ្យ។ មុខវិជ្ជាសិល្បៈជាមុខវិជ្ជាទាក់ទងនឹងការសម្តែង ការគូរ ការសាងសង់បង្កើតឡើងនូវចម្រៀង របាំ និងឧបករណ៍តន្ត្រី។ តាមវិធីនេះ កម្មវិធីសិក្សាថ្មីនេះ បានក្លាយជាថ្នាក់រៀនដែលមាន ១ ម៉ោងក្នុងមួយសប្តាហ៍នៃបឋមសិក្សាថ្នាក់ទី ១ ដល់ថ្នាក់ទី ៦។ វាជារឿងល្អណាស់ ដែលការអប់រំសិល្បៈត្រូវបានដាក់តាំងឡើង ប៉ុន្តែថ្នាក់រៀននេះដែលរួមទាំងតន្ត្រី និងការរាំផងនោះ មានតែ ១ម៉ោងក្នុងមួយសប្តាហ៍ប៉ុណ្ណោះ។ សម្រាប់ថ្នាក់ទី ១ដល់ ថ្នាក់ទី ៣ ក៏ដូចគ្នាគឺថ្នាក់រៀននៃមុខវិជ្ជាសិល្បៈនេះ នៅតែមានត្រឹមតែ ១ម៉ោងក្នុងមួយសប្តាហ៍ ។

សៀវភៅសិក្សាកំពុងត្រូវបានធ្វើឡើងសម្រាប់ថ្នាក់បឋមសិក្សា និង ថ្នាក់មធ្យមសិក្សា ។ ខ្ញុំពិតជាមានសេចក្តីថ្លែងអំណរគុណ យ៉ាងជ្រាលជ្រៅ ដែលអាចបង្កើតសៀវភៅសិក្សានេះឡើងដោយមានការសហការពីសាស្ត្រាចារ្យនៃសាកលវិទ្យាល័យជប៉ុន ។ ដោយសារមុខវិជ្ជានេះជាមុខវិជ្ជាឯករាជ្យ ខ្ញុំគិតថាសៀវភៅសិក្សាបែបនេះ នឹងមិនអាចធ្វើទៅបានទេ បើគ្មានការគាំទ្រពីប្រទេសជប៉ុន។ (សូមមើលស្នាមខាងក្រោម)

នេះគឺជាសាស្ត្រាចារ្យនៃសាកលវិទ្យាល័យជាសាស្ត្រាចារ្យ ដែលបានគាំទ្រគម្រោងនេះ ។ អ្នកដែលនៅខាងលើនេះ គឺជាគ្រូបង្រៀនជនជាតិជប៉ុន។ សាស្ត្រាចារ្យសាកលវិទ្យាល័យ ចំនួនប្រាំមួយរូប បានចូលរួមធ្វើការសហការ ។ ពួកគាត់ គឺជាគ្រូបង្រៀនដែលបានផ្តល់នូវគំនិតផ្សេងៗ ដូចជាថាតើត្រូវធ្វើសៀវភៅសិក្សារបស់កុមារបែបណា ព្រមទាំងបានណែនាំពីសេចក្តីព្រាងនៃការបង្រៀន និង វិធីសាស្ត្របង្រៀនទៀតផង។ ។

អ្នកទាំងពីរ ដែលស្ថិតនៅផ្នែកខាងក្រោមនៅខាងស្តាំគឺជាអ្នកមកពី JHP ។ នេះជារូបថត នៅពេលសហការ ជាមួយនឹងក្រុមគ្រូបង្រៀនឆ្នើម ដែលថតឡើងនៅពេលសាកល្បងថ្នាក់បង្រៀន ដោយអញ្ជើញគ្រូបណ្តុះបណ្តាល នៅពេលសៀវភៅថ្មីត្រូវបានបង្កើតឡើង។

នេះជាស្ថានភាពនៅពេលបង្រៀនទៅគ្រូៗដោយប្រើប្រាស់សៀវភៅសិក្សាថ្មីនៅខេត្ត ដោយជាដំបូងខ្ញុំបានធ្វើជាការសាកល្បងសិន ។

នេះជាសៀវភៅសិក្សានៃបឋមសិក្សាថ្នាក់ទី ១ ដល់ ថ្នាក់ទី ៣។ សៀវភៅសិក្សាសិល្បៈថ្មីនេះត្រូវ បានធ្វើឡើងចប់សព្វគ្រប់ហើយ។ ។ ចំណែកឯសៀវភៅសិក្សានៃបឋមសិក្សាថ្នាក់ទី ៤ ដល់ថ្នាក់ទី៦ បានសម្រេច៦០% ហើយ។

២) របាយការណ៍លទ្ធផលការស្ទង់មតិ S-HTP Mitsuo Suzuki

បទបង្ហាញនេះ គឺជាខ្លឹមសារនៃការធ្វើអង្កេតលើគំនូរយោងតាមថវិកាស្រាវជ្រាវវិទ្យាសាស្ត្រ 18K02554 ។ វិធីសាស្ត្រ S-HTP គឺជាការស្ទង់មតិគំនូរដែលជាការគូរគំនូរដោយបញ្ចូលផ្ទះ និងដើមឈើ និងមនុស្សទៅក្នុងរូបមួយសន្លឹក ។

ខ្ញុំបានក្លាយជាសាស្ត្រាចារ្យសាកលវិទ្យាល័យ នៅក្នុងឆ្នាំ ២០០៩ ។ នៅឆ្នាំ ២០១០ លោក Mieko Koyamauchi ប្រធាន JHP បានសួរខ្ញុំថា តើខ្ញុំចង់ចាប់ផ្តើមកម្មវិធីស្ម័គ្រចិត្តនៅកម្ពុជាដែរឬទេ។

ពេលនោះហើយដែលទំនាក់ទំនងរបស់ខ្ញុំ និង ប្រទេសកម្ពុជា បានចាប់ផ្តើមឡើង ។ ខ្ញុំបាននាំសិស្សរបស់ខ្ញុំទៅប្រទេសកម្ពុជា ហើយបានផ្សព្វផ្សាយនូវថ្នាក់គំនូរនៅបឋមសិក្សាជាច្រើន។

ក្នុងបរិបទនេះ ខ្ញុំក៏ចាប់ផ្តើមចូលចិត្តប្រទេសកម្ពុជា ព្រមទាំងស្រឡាញ់ជនជាតិខ្មែរ។ ហើយចាប់ពីឆ្នាំ ២០១២ ដល់ឆ្នាំ ២០១៣ ខ្ញុំបានចូលរួមក្នុងការបណ្តុះបណ្តាលគ្រូបង្រៀនផ្នែកសិល្បៈរបស់ JHP។ ក្នុងនោះដែរ ខ្ញុំបានបង្រៀនទាក់ទងនឹងការអប់រំសិល្បៈ ព្រមទាំងឱ្យគ្រូៗ មើលពីថ្នាក់រៀនរបស់ខ្ញុំ និង

ឲ្យពួកគាត់ចូលរួមការស្រាវជ្រាវផ្សេងៗផងដែរ។ ថ្ងៃនេះគ្រូបង្រៀនជាច្រើននាក់នៃខេត្តកំពត ខេត្តស្ទឹងត្រែងបានចូលរួម។ យើងបានធ្វើកិច្ចការជាច្រើននៅក្នុងការហ្វឹកហ្វឺននេះ។ អ្វីដែលមាននៅលើអក្រុងពេលនេះ ជាស្នាដៃដែលបង្កើតឡើងដោយ លោកគ្រូ អ្នកគ្រូខ្មែរ។ ខ្ញុំពិតជាភ្ញាក់ផ្អើលណាស់ នៅពេលដែលឃើញលោកគ្រូអ្នកគ្រូដែលមិនដែលប៉ះពាល់ខ្មៅដៃពណ៌ និងឧបករណ៍គំនូរសោះ តែបែបជាបង្កើតបានស្នាដៃដ៏អស្ចារ្យបែបនេះ ។

ទោះបីជាលោកគ្រូអ្នកគ្រូខ្មែរមិនសូវមានបទពិសោធន៍ ក្នុងការបង្ហាញការចនាគំនិតដោយ តែខ្ញុំពិតជាមានអារម្មណ៍រំភើបណាស់នៅពេលបានស្គាល់ពីភាពសម្បូរបែប នៃការសម្តែងចេញ និង ភាពសម្បូរបែបនៃផ្លូវចិត្តអារម្មណ៍។ ការបណ្តុះបណ្តាលគ្រូបង្រៀនផ្នែកសិល្បៈនេះត្រូវបានបង្កើតឡើង ដោយសមាជិកនៅក្នុងរូបថតនេះ ។ ថ្ងៃនេះលោក Hirabayashi Chisaki, លោកស្រី យេន អន្តរៈ និង វណ្ណ ក៏បានចូលរួមក្នុងកម្មវិធីសន្និសីទនេះដែរ។ ខ្ញុំគិតថាសមាជិកក្រុមរួមទាំង សារ៉ាឌី ជាបុគ្គលិកដ៏ល្អ ដែលបានធ្វើកិច្ចការងារនេះបានយ៉ាងល្អ ។ ផ្អែកតាមលទ្ធផលនេះ នៅថ្ងៃទី ៣០ ខែ មិថុនា ឆ្នាំ ២០១៤ ខ្ញុំមានឱកាស រាយការណ៍ និងស្នើតម្លៃ និង សារៈសំខាន់នៃការអប់រំសិល្បៈដល់រដ្ឋមន្ត្រីក្រសួងអប់រំកម្ពុជា។ បូករួមនូវលទ្ធផលទាំងនេះ នៅថ្ងៃទី៣០ ខែ៦ ឆ្នាំ ២០១៤ ខ្ញុំក៏មានឱកាសបានសម្តែងមតិ និងរាយការណ៍ពីតម្លៃ និងអត្ថន័យនៃការអប់រំផ្នែកសិល្បៈ ទៅកាន់រដ្ឋមន្ត្រីក្រសួងអប់រំកម្ពុជា។ នៅពេលនោះ រដ្ឋមន្ត្រីក៏បាននិយាយថា នឹងដាក់បញ្ចូលការអប់រំសិល្បៈ ចូលទៅក្នុងកម្មវិធីសិក្សា។

នៅក្នុងនោះដែរខ្ញុំក៏បានជួបនឹងអ្នកទាំងអស់គ្នាដែលមានវត្តមានមកពីសាលាសិល្បៈតូចផងដែរ ។

ដូចដែលខ្ញុំបានលើកឡើងអំបាញ់មិញដូច្នោះដែរ តាមរយៈការចាប់ផ្តើមពីអ្នកទាំងអស់គ្នា មិនត្រឹមតែសាលាសិល្បៈតូចប៉ុណ្ណោះទេ ថ្នាក់រៀនគួរឬរង់ដោយទូរស័ព្ទនៅក្នុងសាលាបឋមសិក្សាជិតនោះ ក៏ត្រូវបានរីកចម្រើនផងដែរ។ ពេលដែលខ្ញុំទៅសៀមរាប ខ្ញុំបានឈាងចូលកន្លែងនោះដែរ អ្នកទាំងអស់នៅទីនោះពិតជាអស្ចារ្យ ណាស់។

បែបនេះហើយ, សាលាសិល្បៈតូច និង JHPបានធ្វើការគាំទ្រយើងដែរ ប៉ុន្តែមានកុមារតិចតួចណាស់ដែលបាន មកទទួលការសិក្សា និង បទពិសោធន៍នៃការគូរគំនូរនៅបឋមសិក្សា ។

ដូច្នោះ JHP ក៏បានសម្រេចធ្វើអង្កេតដោយS-HTPពីភាពខុសគ្នានៃគំនូររបស់កុមារដោយផ្អែកលើ ការមាន ឬគ្មានបទពិសោធន៍សិក្សាគំនូរ ចំពោះសាលាដែលទទួលការគាំទ្រការអប់រំផ្នែកសិល្បៈ និងសាលាដែលមិនទទួលការគាំទ្រ ។ រួមជាមួយគ្នានេះដែរ យើងកំពុងគិតថានឹងធ្វើការបញ្ជាក់ ឱ្យច្បាស់ថាតើតាមរយៈការសិក្សាផ្នែកគំនូរនេះ សិស្សនឹងទទួលបានសមត្ថភាពបែបណាខ្លះ បើប្រៀបធៀបនឹងសាលាសិល្បៈតូចជាមួយនឹងគំនូររបស់កុមារនៅសាលាជប៉ុន។ ។

នេះជាតំបន់ដែលបានធ្វើការស្ទង់មតិនៅក្នុងប្រទេសកម្ពុជា។ មានដូចជាសាលាដែលទទួលការគាំទ្រ

និងសាលាដែលមិនទទួលបានការគាំទ្រពី JHPនីមួយៗនៅខេត្តស្វាយរៀង និង ខេត្តកំពត ព្រមទាំងសាលាមិនទទួលបានការគាំទ្រ នៅរាជធានីភ្នំពេញ។ បន្ទាប់មកមានសាលាបឋមសិក្សាមួយនៅសៀមរាប ដែលទទួលបានការគាំទ្រដោយសាលាសិល្បៈតូច។

បន្តទៅនេះខ្ញុំនឹងធ្វើការវាយការណ៍ពីការសង្ខេបគំរោងនៃការគូរការស៊ើបអង្កេតដោយវិធីសាស្ត្រ S-HTP ។

លើកទី ១ គឺពីខែ កុម្ភៈ ដល់ ខែមីនា ឆ្នាំ ២០១៩, ហើយលើកទី ២ គឺចាប់ពីខែ ធ្នូ ឆ្នាំ ២០១៩ ដល់ ខែ កុម្ភៈ ឆ្នាំ ២០២០។ បន្ទាប់ពីនោះយើងបានរៀបគម្រោងជាលើកទីបីដែរ

ប៉ុន្តែវាមិនអាចអនុវត្តបានដោយសារតែជំងឺរាតត្បាត។ ទោះជាយ៉ាងណាក៏ដោយ

យើងអាចសម្រេចបាននូវលទ្ធផលដ៏មានប្រយោជន៍បំផុតនៅក្នុងការស្ទង់មតិទាំង២លើកនេះ ។ ដូច្នេះ

យើងបានសម្រេចចិត្តរៀបចំសន្និសីទនេះ ដើម្បីធ្វើការពិភាក្សាជាមួយអ្នកទាំងអស់គ្នា ។

វិធីសាស្ត្រ S-HTP គឺជាវិធីសាស្ត្រក្នុងការអនុញ្ញាតឲ្យអ្នកគូរផ្ទះឈើដើមឈើមនុស្ស និង

វត្ថុផ្សេងៗទៀតដែលអ្នក គិតដល់ដោយសេរីនៅក្នុងក្រដាសA4 រយៈពេល៣០នាទី ។

លើកនេះខ្ញុំបានសម្រេចចិត្តធ្វើការប្រៀបធៀបរូបភាពនៃសាលា បឋមសិក្សាសរុបទាំងអស់៨សន្លឹក។

នេះជាចំណុចចក្ខុវិស័យក្នុងការវិភាគរបស់ S-HTP ។ ជាដំបូងមានដូចជា. ការរួមបញ្ចូលគ្នា, ទំហំគំនូរ,

វត្ថុបន្ថែមក្រៅពីរូបតាមសំណួរ, បន្ទាប់មក គឺទស្សនវិស័យ, ភាពជាក់ស្តែង និងភាពមិនជាក់ស្តែងនៃគំនូរ។

លើសពីនេះ ទៀតយើងបានវិភាគអំពីការបង្ហាញចេញនូវរូបរាងនៃផ្ទះជាដើម និង

ការបង្ហាញនៃមនុស្សក្នុងប្រាំដំណាក់កាលស្របតាម ដំណាក់កាលនៃការអភិវឌ្ឍន៍នេះ។

ដូច្នេះសូមធ្វើការណែនាំអំពីការស្ទង់មតិនៃគំនូរលើកទី១ ។

នេះគឺជារូបភាពកុមារមកពីសាលារៀនដែលមិនទទួលបានការគាំទ្រនៃខេត្តស្វាយរៀង ។

បន្ទាប់មកជាសាលាមិនទទួលបានការគាំទ្រមួយនៃខេត្តកំពត។

សាលាមិនទទួលបានការគាំទ្រនៅភ្នំពេញ។

សាលាបឋមសិក្សាខេត្តស្វាយរៀងដែលទទួលបានការគាំទ្រដោយ JHP ។

សាលាដែលទទួលបានការគាំទ្រនៅខេត្តកំពតដូចគ្នា។

សាលាបឋមសិក្សាដែលទទួលបានការគាំទ្រដោយសាលាសិល្បៈតូច ។

សាលាបឋមសិក្សានេះមានចាប់ពីថ្នាក់ទី ៣ ឡើងទៅ។ សាលាទទួលបានការគាំទ្រពីសាលាសិល្បៈតូចផ្សេងទៀត ។

បន្ទាប់មកគឺជាសាលាបឋមសិក្សានៃប្រទេសជប៉ុន ។

នេះគឺជារូបភាពដែលបានគូរនៅក្នុងការស្ទង់មតិលើកទី១ រហូតមកដល់បច្ចុប្បន្ននេះ ។

បន្ទាប់មកសូមណែនាំរូបភាពដែលត្រូវបានគូរនៅលើក ទី ២ ។

ជាសាលាដែលមិនទទួលបានការគាំទ្រនៃខេត្តស្វាយរៀង។

សាលាដែលមិនទទួលបានការគាំទ្រនៃខេត្តកំពត។

សាលាទទួលបានការគាំទ្រនៃខេត្តស្វាយរៀង។

សាលាទទួលបានការគាំទ្រនៃខេត្តកំពត។

សាលាទទួលបានការគាំទ្រពីសាលាសិល្បៈតូច ។

ហើយបន្ទាប់មក, គឺជារូបភាពរបស់កុមារជប៉ុន ។

រូបភាពនេះឥឡូវនេះបង្ហាញជាការគូសពីទិដ្ឋភាពដែលបានមើលឃើញពី បន្ទប់កូនរបស់ខ្ញុំ ។ មានគូ មានធ្មេរសៀវភៅ និងមើលឃើញពីទិដ្ឋភាពក្រៅបង្អួចជាដើម ។

ដូចនេះ

សូមវាយការណ៍ពីលទ្ធផលនៃការវិភាគដោយផ្អែកលើរូបភាពដែលទទួលបាននៅក្នុងការធ្វើអង្កេតលើគំនូរនេះ ។

យើងបានប្រៀបធៀបទិន្នន័យលើកទី ១ និងលើកទី ២សម្រាប់ប្រភេទសាលានីមួយៗហើយទទួលបាន

គម្លាតគួរឲ្យកត់សម្គាល់ តាមរយៈការអង្កេតx2 ។ នៅសាលាទទួលបានការគាំទ្ររបស់ JHP

មានគម្លាតគួរឲ្យកត់សម្គាល់នៅ៨ចំណុច ។ នៅក្នុងសាលារៀនដែលមិនមានការគាំទ្រ

មានចំណុចជាច្រើនដែលចំណុច 12ធ្វើឲ្យមានភាពខុសគ្នា ។ នៅក្នុងសាលា សិល្បៈតូច និង

សាលារដ្ឋជប៉ុនទោះបីជាធ្វើការប្រៀបធៀបលើកទីមួយ និង លើកទីពីរ ក៏នៅតែមិនទាន់មើលឃើញ

ពីភាពខុសគ្នាគួរឲ្យកត់សម្គាល់ច្រើនប៉ុន្មានដែរ។ ក្នុងរយៈពេលតែ១០ ខែដែលឆ្លងកាត់លើកលើកទី១ ទៅលើកទីពីរ

យើងបានមើលឃើញថាការបង្ហាញចេញរបស់កុមារ ជាពិសេសនៅក្នុងសាលា ដែលមិនទទួលបានការគាំទ្រ

មានការផ្លាស់ប្តូរយ៉ាងច្រើនបំផុត ។

ពេលមើលឃើញពីចំណុចប្រែប្រួល និង ចំណុចផ្លាស់ប្តូរគួរឲ្យកត់សម្គាល់,

យើងបានមើលឃើញពីភាពផ្លាស់ប្តូរទាក់ទងនឹង ទស្សនវិស័យ , ភាពជាក់ស្តែង និង ភាពមិនជាក់ស្តែងនៃគំនូរ

និង ការសម្តែងចេញរបស់មនុស្ស នៅក្នុងសាលាដែលទទួលបានការគាំទ្រ ។

ឯនៅក្នុងសាលាដែលមិនមានការគាំទ្រក៏មានការផ្លាស់ប្តូរទាក់ទងនឹងទំហំគំនូរ, ទស្សនវិស័យ, ភាពជាក់ស្តែង

និង ភាពមិនជាក់ស្តែងនៃគំនូរ និង ការបង្ហាញរូបរាងលេចនៃផ្ទះជាដើម ។

នៅសាលារៀនដែលទទួលបានការគាំទ្រពីសាលាសិល្បៈតូច មានការមើលឃើញពីភាពផ្លាស់ប្តូរទាក់ទងនឹងទំហំ,

ទស្សនវិស័យ និង ការបង្ហាញចេញជារូបភាពនៅមុខមនុស្ស។

នៅសាលារៀនជប៉ុនមានការមើលឃើញពីភាពផ្លាស់ប្តូរទាក់ទងនឹង ភាពរួមបញ្ចូលគ្នានិង រូបភាពនៃផ្ទះ និង

មនុស្ស ។

តារាងនេះបង្ហាញជាភាសាខ្មែរ ប៉ុន្តែលើកទី ១ មានបង្ហាញជាអក្សរភាសាខ្មែរ

និងលើកទី២ជាអក្សរភាសាជប៉ុន។

លើកទី១ សាលាវិទ្យាល័យដែលមានការគាំទ្រមានភាពរួមបញ្ចូលគ្នា ឯសាលាដែលមិនមានការគាំទ្រ

មានលក្ខណៈជាការរៀបរាប់។ នៅសាលាគាំទ្រJHP, គំនូរត្រូវបានគូរជា "ភាពក្លាហាន"។ សាលាគាំទ្រ JHP

ត្រូវបានមើលឃើញពីទស្សនវិស័យ ឯសាលាមិនទទួលបានការគាំទ្រ,

ការបង្ហាញចេញរាងមានភាពគ្មានសណ្តាប់ធ្នាប់បន្តិច។

សាលាគ្មានការគាំទ្រមានភាពក្មេងវ័យខាងការបង្ហាញចេញនូវរូបរាងលេខចេញ

និងការបង្ហាញពីផ្ទះជាងសាលាមានការគាំទ្រ។

សាលាគ្មានការគាំទ្រត្រូវបានមើលឃើញថាមានកុមារជាច្រើនដែលមិនគួររូបមនុស្ស។

ជាបន្តគឺលើកទី២។ ពេលធ្វើការប្រៀបធៀបរវាងសាលាមានការគាំទ្រ និងសាលាគ្មានការគាំទ្រ

ឃើញថាសាលាមានការគាំទ្រមានភាពរួមបញ្ចូលគ្នា ឯសាលាគ្មានការគាំទ្រមានលក្ខណៈជាការរៀបរាប់។

សាលាមានការគាំទ្រ ត្រូវបានមើលឃើញពីទស្សនវិស័យភាព ឯសាលាគ្មានការគាំទ្រ

គឺធ្វើការគូររូបនៅលើបន្ទាត់ត្រង់។

សាលាមានការគាំទ្រត្រូវបានមើលឃើញពីការបង្ហាញចេញនូវលក្ខណៈជាប្លង់នៅក្នុងការបង្ហាញពីមនុស្ស។

បន្ទាប់មក យើងធ្វើការប្រៀបធៀបពីកុមារជប៉ុន ជាមួយនឹងលើកទី១នៃសាលាមានការគាំទ្រ។ កុមារជប៉ុនមានសមត្ថភាពស្រមៃស្រមៃ រួមគ្នាជារូបភាពចេញមក។ រូបគំនូរនៃកុមារជប៉ុន បើប្រៀបធៀបជាមួយគំនូររបស់កុមារកម្ពុជាគឺមិនសូវមានទស្សនវិស័យទេ។ រូបគំនូររបស់កុមារជប៉ុន លេចឡើងនៅក្នុងប្រអប់ទទេ

ឯរូបរបស់សាលាមានការគាំទ្រគឺជារូបភាពបង្ហាញពីបទពិសោធន៍នៃជីវភាពជាក់ស្តែង។ សាលាមានការគាំទ្រ ត្រូវបានបង្ហាញជាលក្ខណៈរូបលេចចេញមកចំពោះការបង្ហាញពីផ្ទះ។ សាលាមានការគាំទ្រ មិនមានភាពសុំនឹងការបង្ហាញពីខ្លួនប្រាណមនុស្សទេ ដូចនេះយើងអាចមើលឃើញពីចំណុចខ្លះខាត។

ជាបន្ត ជាការអង្កេតលើកទី២។ សាលាមានការគាំទ្រ រូបដែលត្រូវបានគូរ មានសភាពតូចជាកុមារជប៉ុន។ រូបគំនូររបស់កុមារជប៉ុន មិនសូវមានទស្សនវិស័យដូចសាលាមានការគាំទ្រទេ។ ស្របពេលជាមួយនឹងលើកទី១ ដែលកុមារជប៉ុនគូររូបប្រអប់ទទេ

សាលាមានការគាំទ្របានគូរជាគំនូរយោងតាមបទពិសោធន៍នៃជីវភាពជាក់ស្តែង។ សាលាមានការគាំទ្រ មានគូររូបមនុស្សជាច្រើន ហើយការបង្ហាញពីមនុស្សមានលក្ខណៈក្មេងខ្ចីនៅឡើយ។

ជាបន្តជាការប្រៀបធៀបរវាងSAS។ SASមានលក្ខណៈរួមបញ្ចូលគ្នាខ្លាំង ឯសាលាគ្មានការគាំទ្រមានលក្ខណៈរៀបរាប់។ គំនូររបស់SASមានភាពស្រមៃស្រមៃធំ និងត្រូវបានគូរឡើងយ៉ាងសកម្ម។ SASត្រូវបានមើលឃើញពីទស្សនវិស័យ ឯសាលាគ្មានការគាំទ្រមានលក្ខណៈគ្មានសណ្តាប់ធ្នាប់។ ផ្ទៃនៃផ្ទះរបស់សាលាគ្មានការគាំទ្រ មានការបង្ហាញជាលក្ខណៈលេចចេញ។ ការបង្ហាញពីមនុស្សរបស់សាលាគ្មានការគាំទ្រ ដោយសារមិនមានភាពសុំ ទើបមានលក្ខណៈអសកម្ម។

លើកទី២, បើធ្វើការប្រៀបធៀបSAS ជាមួយនឹងសាលាគ្មានការគាំទ្រ, សាលាគ្មានការគាំទ្រមានលក្ខណៈជាការរៀបរាប់។ គំនូររបស់SAS មានភាពស្រមៃស្រមៃខ្ពស់ ត្រូវបានគូរចេញមកយ៉ាងសកម្ម។ SASត្រូវបានមើលឃើញពីទស្សនវិស័យ ឯសាលាគ្មានការគាំទ្រមានលក្ខណៈគ្មានសណ្តាប់ធ្នាប់។ សាលាគ្មានការគាំទ្រមានការបង្ហាញចេញជារូបលេចចេញជាងSAS។ សាលាគ្មានការគាំទ្រ ដោយគ្មានភាពសុំនឹងការបង្ហាញចេញពីរូបមនុស្ស ទើបមានការមើលឃើញពីផ្នែកអសកម្មផងដែរ។

បើប្រៀបធៀបលើកទី១នៃSAS ជាមួយរូបគំនូរកុមារជប៉ុន, រូបគំនូរកុមារជប៉ុនមានលក្ខណៈតម្រៀបជាជួរនៅលើបន្ទាត់ត្រង់។ កុមារជប៉ុនគូរនៅក្នុងប្រអប់ទទេ, SASជាគំនូរមានលក្ខណៈបង្កើតឡើងវិញនូវជីវភាពជាក់ស្តែង។ កុមារថ្នាក់មធ្យមសិក្សា និងវិទ្យាល័យជប៉ុន ត្រូវបានមើលឃើញពីការរីកចម្រើន លូតលាស់។

នេះជាលើកទី២។ បើប្រៀបធៀបSASជាមួយជប៉ុន, គម្លាតនៃលក្ខណៈរួមបញ្ចូលក្រៅពីការរួមបញ្ចូលយោងតាមការសម្របសម្រួលនៅមានលក្ខណៈតិចតួចនៅឡើយ ។ គំនូររបស់SAS ត្រូវបានគូរយ៉ាងសកម្មជាងកុមារជប៉ុន។ SASត្រូវបានមើលឃើញពីទស្សនវិស័យ, ជប៉ុនមិនសូវមានទស្សនវិស័យ។ កុមារជប៉ុនគូរនៅក្នុងប្រអប់ទទេ, SASបានគូរពីបទពិសោធន៍ជីវភាពជាក់ស្តែង។ ជប៉ុនត្រូវបានមើលឃើញពីការបង្ហាញពីមនុស្សមានលក្ខណៈប្រាកដនិយម។

ជាបន្តសូមរាយការណ៍ពីការប្រៀបធៀបការវាយតម្លៃលើគុណភាព។ សាលាមានការគាំទ្រJHPមានពណ៌ខៀវស្តើង, សាលាគ្មានការគាំទ្រមានពណ៌ប្រផេះ,

សាលារដ្ឋជប៉ុនមានពណ៌ខៀវក្រាស់។ ដូចនៅក្នុងស្នាមនេះដែរ សាលារដ្ឋជប៉ុន មានចំណុចវិជ្ជមានទាំងអស់។ សាលាគ្មានការគាំទ្រមានចំណុចអវិជ្ជមានទាំងអស់។ សាលាគាំទ្រមានកម្រិតវិវឌ្ឍន៍អវិជ្ជមាន ប៉ុន្តែក្រៅពីនេះគឺវិជ្ជមាន។

ជាមួយគ្នានេះដែរ សូមធ្វើការប្រៀបធៀប SAS និងសាលាមានការគាំទ្រ, ជាមួយសាលារដ្ឋជប៉ុន។ SAS និងសាលារដ្ឋជប៉ុន មានចំណុចវិជ្ជមានទាំងអស់។ កម្រិតរីកចម្រើនផ្នែកការសម្តែងចេញ SASទទួលបានរងាយតម្លៃទាបជាងជប៉ុន។ ប៉ុន្តែ, មូលដ្ឋានថាមពលដែលត្រូវបានបញ្ចូលទៅក្នុងរូបគំនូរ, SASទទួលបានលទ្ធផលវាយតម្លៃខ្ពស់ជាងកុមារជប៉ុន។

ឆ្លងកាត់ការធ្វើអង្កេតនេះ បានបង្ហាញថាកុមារសាលាមានការគាំទ្រJHP មានការរីកចម្រើននូវសមត្ថភាពបង្ហាញជាក់ស្តែងពីការសន្សំបទពិសោធន៍នៃការសិក្សាគំនូរ។ អត្តន័យដែលត្រូវបានគូរជាគំនូរ ជារបស់ជាក់ស្តែងរួមជាមួយទម្លាប់នៃជីវភាព និងបរិស្ថានជីវភាពរស់នៅ, ដោយគូររូបបណ្តើរ ពង្រីកការស្រមៃបណ្តើរ ដែលធ្វើឲ្យវាក្លាយជាគំនូរដ៏មានអត្តន័យសម្បូរបែប។ យើងត្រូវមើលពីភាពរីកចម្រើននៃរបៀបគូររូប ប៉ុន្តែជាងនេះទៅទៀតគឺត្រូវមើលពីការរីកចម្រើនខាងសមត្ថភាពស្រមៃស្រមៃ។ ភាពមានឬគ្មានបទពិសោធន៍សិក្សាគំនូរមានឥទ្ធិពលខ្លះទៅលើសមត្ថភាពស្រមៃស្រមៃ។ ដើម្បីគូរឲ្យបានសកម្ម វាទាមទារឲ្យមានការស្រឡាញ់ និងភាពសម្របតាម ព្រមទាំងភាពសកម្មផងដែរ។ ចំណុចទាំងនេះ អាចលើកឡើងក្នុងនាមជាលទ្ធផលនៃការសិក្សាគំនូរ។

កុមារនៃសាលាគ្មានការគាំទ្រ មានភាពរីកចម្រើនផ្នែកសមត្ថភាពបង្ហាញលើសពីការរំពឹងទុកលើកដំបូង ដោយសារ ឱកាសនៃការសិក្សាគំនូរត្រូវបានបង្កើតឡើងនៅក្នុងការធ្វើអង្កេតលើកទី១ដល់លើកទី២ ដោយការនាំចូលបន្តិចម្តងៗនូវការសិក្សាគំនូរតាមការអប់រំថ្មី។ ជាថ្មីម្តងទៀត យើងអាចដឹងពីសមត្ថភាពសិក្សារបស់កុមារ, ភាពច្បាស់លាស់នៃសមត្ថភាពលូតលាស់ផងដែរ។

យោងតាមSASបានឲ្យដឹងថាកុមារដែលទទួលបានការសិក្សាគំនូរពីក្រុមគ្រូ Kasahara បានគូរនូវគំនូរដែលអាចធ្វើឲ្យយើងមានអារម្មណ៍ដឹងពីជីវភាពប្រចាំថ្ងៃ និងទស្សនវិស័យរួមបញ្ចូលបាន។ គ្រូ Kasahara មានប្រសាសន៍ថា (គាត់មិនបានបង្រៀនពីរបៀបគូរទេ គឺឲ្យគូរដោយសេរី) ប៉ុន្តែយើងខ្ញុំគិតថាវាជាការដឹកនាំដ៏សម្បូរបែបដែលមានការបង្ហាញចេញនូវការគិត គំនិត និងអារម្មណ៍ទុកចិត្តទៅលើការបង្ហាញរបស់កុមារនៅត្រង់ចំណុចនោះ។ យើងខ្ញុំគិតថាវាមានភាពចាំបាច់ក្នុងការសាយភាយទៅក្នុងប្រទេសកម្ពុជានូវរបៀបដឹកនាំឲ្យបញ្ចេញការបង្ហាញ ដោយមិនបង្រៀនពីលំដាប់លំដោយ និងរៀបគូរដែលបង្ហាញដូចទៅនឹងការថតចម្លងដែលថតចម្លងពីគំរូដែលដូចបេះបិទនោះទេ។ ស្របពេលជាមួយគ្នានេះដែរ យើងខ្ញុំគិតថា ប្រទេសជប៉ុនក៏ត្រូវតែធ្វើការបញ្ជាក់ម្តងទៀតផងដែរ។

យើងខ្ញុំគិតថាកុមារជប៉ុន មានបរិយាកាសសិក្សា ជីវភាពដ៏អំណោយផល ហើយបទពិសោធន៍នៃមូលធនវប្បធម៌ដែលបានវិវត្តន៍ជារូបរាងក៏មានលក្ខណៈធំដែរ។ នៅក្នុងនោះផងដែរ យើងខ្ញុំគិតថាវាជាលទ្ធផលនៃការសិក្សាគូររូបនៃចរិត អាកប្បករិយាដែលមានការរីកចម្រើននូវផ្នែកការបង្ហាញចេញ ការពង្រីកការប៉ាន់ស្មានរហូតទៅដល់ក្នុងពិភពនៃការស្រមៃស្រមៃដែលឃ្លាតឆ្ងាយពីជីវភាពប្រចាំថ្ងៃ។ ប៉ុន្តែដោយភាពកម្រនៃបទពិសោធន៍និម្មិតរូបក្នុងលំហ និងបទពិសោធន៍នៃជីវភាពរស់នៅជាក់ស្តែង

ខ្ញុំបារម្ភថាវានឹងធ្វើឲ្យមានភាពចុះខ្សោយនូវការសម្គាល់ទៅលើទស្សនវិស័យ និងជីវភាពរស់នៅ។
ខ្ញុំគិតថាការបង្ហាញរបស់ពួកគេ នឹងធ្វើឲ្យបទពិសោធន៍មុនក្រោយ និងបរិយាកាសមានភាពសម្បូរបែប
ហើយការដែលធ្វើឲ្យបទពិសោធន៍រួមជាមួយអារម្មណ៍ដឹងនៃស្ថានភាពពិតជាក់ស្តែងកាន់តែពេញលេញនោះជាប្រ
ការសំខាន់។

អត្ថបទសម្រាប់ជាការយោងមានត្រឹមតែប៉ុណ្ណោះ។

៣. សន្និសីទអន្តរជាតិ

ណែនាំ សប្តា

ក្នុងនាមខ្ញុំជាតំណាងក្រសួងអប់រំ, ក្នុងនាមជាតំណាងនាយកដ្ឋានកីឡាថ្នាក់បឋម,
និងក្លាយជាផ្នែកដឹកនាំអំពីរបៀបបង្រៀន និងរបៀបរៀន។

ជាបន្តសូមអនុញ្ញាតនិយាយអំពីការចុះមកធ្វើអង្កេត។

ពួកយើងបានសម្រេចពីតំបន់ធ្វើអង្កេតចំនួន៣។ យើងខ្ញុំបានធ្វើការអង្កេតនូវតំបន់ចំនួន៣ ដូចជា ខេត្តកំពត,
ខេត្តស្វាយរៀង, រាជធានីភ្នំពេញ។ យើងខ្ញុំបានធ្វើការជ្រើសរើសសាលាចំនួន២ ដើម្បីធ្វើការប្រៀបធៀបនូវ
សាលាមានការគាំទ្រ និងសាលាគ្មានការគាំទ្រការអប់រំសិល្បៈនៅខេត្ត១។
លទ្ធផលនៃការចុះទៅអង្កេតដូចទៅនឹងរបាយការណ៍នេះ។

សាលាមានការគាំទ្រ បានធ្វើការបង្រៀននូវកម្មវិធីដែលបានកំណត់

ដោយអាចរៀននូវការអប់រំសិល្បៈជាច្រើន។ ឯសាលាគ្មានការគាំទ្រ មិនសូវអាចទទួលបានការអប់រំសិល្បៈទេ។
ប៉ុន្តែនៅក្នុងម៉ោងសិក្សា កុមារទាំងសាលាមានការគាំទ្រ និងសាលាគ្មានការគាំទ្រ បាននាំគ្នាគូររូបយ៉ាងរីករាយ
និងគូរឲ្យចាប់អារម្មណ៍។ មើលទៅពួកគេពិតជាធ្វើការសិក្សាយ៉ាងសប្បាយរីករាយ។
ហើយមើលទៅកុមារបានគិតយ៉ាងម៉ត់ចត់ពីលំហាត់ដែលគ្រូដាក់ឲ្យ ហើយគូរជាគំនូរចេញពីចិត្តរបស់ខ្លួន
យ៉ាងមានមោទនភាព និងសប្បាយរីករាយបំផុត។ ពួកគេមានចំណាប់អារម្មណ៍យ៉ាងជ្រាលជ្រៅ
ហើយរីករាយនឹងគំនូរដែលពួកគេបានគូរដោយខ្លួនឯង។ នៅចំណុចនេះ សាលាមានការគាំទ្រ
និងសាលាគ្មានការគាំទ្រគឺមានលក្ខណៈដូចគ្នា។ រូបគំនូរនៃសាលាមានការគាំទ្រ, គឺមានភាពស្រមើស្រមៃ
ហើយបើគិតពីទម្រង់ គឺមានភាពទាក់ទងគ្នា។ ព្រមទាំងមានទស្សនវិស័យ តូចធំ
និងការស្រមើស្រមៃរួមបញ្ចូលផងដែរ។ ឧទាហរណ៍, មានមនុស្ស សត្វ ដើមឈើ និងវាលស្រែ ផ្លូវ ផ្ទះជាដើម។
លើសពីនេះការបន្ថែមពណ៌ក៏មានភាពស្រស់ស្អាតផងដែរ។ ក្រៅពីនេះ

គំនូរដែលបានគូរដោយកុមារនៃសាលាគ្មានការគាំទ្រ មិនសូវមានការស្រមើស្រមៃទេ។ ហើយ
គំនូរមានលក្ខណៈរៀបរាប់ ហើយផ្ដោតទៅលើតែចំណុច១នៅក្នុងគំនូរ។ វាជាស្ថានភាពដែលគ្មានទស្សនវិស័យ
ហើយគ្មានទំនាក់ទំនងរូបភាព។ ការលាបពណ៌ក៏មិនសូវបានល្អ។

បែបនេះហើយទើបសៀវភៅពុម្ពផ្សាយមានរូបរាងឡើងនៅក្នុងកម្មវិធីសិក្សា

ការអប់រំសិល្បៈក្នុងកម្រិតបឋមនៅកម្ពុជា។

ការអប់រំសិល្បៈសម្រាប់កុមារនៅក្នុងការអប់រំថ្នាក់បឋមនឹងចាប់ផ្ដើមនៅពេលបន្តិចទៀតនេះ។

យើងខ្ញុំគិតថាវាអាចធ្វើឲ្យកុមារមានឱកាសជាច្រើនក្នុងការសិក្សាតាមកម្មវិធីសិក្សា។ ចំណោទនៅក្នុងនោះ
ជាមូលដ្ឋានក្នុងការផ្លាស់ប្តូរចំណេះដឹងរួមបញ្ចូលជាមួយរូបកាយ និងស្មារតីជាដើម។
សមត្ថភាពស្រមើស្រមៃនឹងកាន់តែរីកខ្ពស់ឡើង។ អនាគតរបស់កុមារ អាចរំពឹងថានឹងសាងសង់បាន។

ជាបន្ត សូមអនុញ្ញាតនិយាយពីផលប្រយោជន៍នៃការអប់រំសិល្បៈ។

មនុស្សកើតមក មិនថាជាពូជសាសន៍អ្វី មិនមែនចេះមកដោយខ្លួនឯងទេ

គឺត្រូវឆ្លងកាត់ការអប់រំពីសម័យបុរាណ ហើយចាំបាច់ត្រូវហ្វឹកហាត់ជាដើម។ ឧទាហរណ៍ ថ្ងៃនេះជា សិស្ស គ្រូ
តែថ្ងៃស្អែកអាចនឹងក្លាយជាអ្នកដឹកនាំប្រទេសក៏ថាមិនបាន។ និយាយរួម ការអប់រំសិល្បៈ

ជាការធ្វើឲ្យពិតនូវក្តីសុបិនរបស់អ្នកដែលចូលរួមក្នុងចលនាសង្គម

ហើយវាអាចនឹងក្លាយជារបៀបផ្លាស់ប្តូរទៅជាការរីកចម្រើនជានិរន្តន៍នៃប្រទេស។ ការអប់រំសិល្បៈ

មិនមែនជាធាតុសំខាន់នៃការអប់រំសម្រាប់ពង្រឹងចំណេះដឹងជាក់ស្តែងទេ

តែវាជាមុខវិជ្ជាផ្តល់ឥទ្ធិពលទៅមុខវិជ្ជាទាំងអស់។ ហើយក៏មិនអាចធ្វើឲ្យជ្រាលជ្រៅនូវមុខវិជ្ជាផ្សេងទៀត

និងការងារផងដែរ។ ការអប់រំសិល្បៈ នឹងក្លាយជាការផ្តល់ឲ្យនូវសោភ័ណភាព ភាពច្នៃប្រឌិត និង

ធាតុជំនួញស្រាយ, ទៅក្នុងជីវភាពប្រចាំថ្ងៃដូចជាការគិត ការប៉ាន់ស្មាន ចក្ខុវិស័យ ចំណេះដឹងទៅឲ្យកុមារ។

ការអប់រំសិល្បៈបែបនេះ មានទំនាក់ទំនងយ៉ាងជិតស្និទ្ធ និងការពង្រឹងសមត្ថភាពគិតជាលក្ខណៈច្នៃប្រឌិត
និងអរូបី ដែលសំខាន់សម្រាប់បម្រើមនុស្សជាប្រចាំ

ដោយការរីកចម្រើនផ្នែកសមត្ថភាពស្មារតីរបស់កុមារជាពិសេស។ សិល្បៈជាវេជ្ជសាស្ត្រ

ដែលអាចនិយាយបានថាជាការបម្រើដល់មនុស្សតាំងពីកើតដល់ស្លាប់។ បើមើលពីសម័យមុន មិនមែនអក្សរទេ

តែជារូបគំនូរដែលត្រូវបានប្រើប្រាស់សម្រាប់ការប្រាស្រ័យទាក់ទងគ្នា។ ជំនួសឲ្យការសរសេរអក្សរ

រូបភាពនៅតែចាំបាច់។ វាជារត្តិដែលមិនអាចខ្វះបាន។ ជារួម ទោះបីជារប្បធម៌រីកចម្រើនកម្រិតណាក៏ដោយ

រូបគំនូរនៅតែចាំបាច់។ សរុបមក រូបគំនូរ

និងអក្សរជារត្តិដែលមិនអាចកាត់ផ្តាច់បាននៅរាល់សម័យកាលចំពោះមនុស្សក្នុងពិភពលោករបស់យើង។

គ្រូ KASAHARA TOMOKO នៃសាលាសិល្បៈតូច

ខ្ញុំបានឈរនៅក្នុងវេទិកាបង្រៀនរយៈពេល៣១ឆ្នាំក្នុងនាមជាគ្រូសិល្បៈនៃសាលាវិទ្យាល័យវីត្រីនៅតូក្យូ។
ពេលអាយុ៥៩ឆ្នាំ ខ្ញុំបានមកប្រទេសកម្ពុជា ហើយឆ្នាំនេះជាឆ្នាំទី១៥។ ខ្ញុំត្រូវបានមនុស្សជាច្រើនសួរថា
(ហេតុអ្វីបានជាខ្ញុំចាប់ផ្តើមថ្នាក់រៀនសិល្បៈមិនគិតថ្លៃនេះ)។ សូមអនុញ្ញាតឲ្យខ្ញុំនិយាយពីការឆ្លងកាត់នោះបន្តិច។

នៅសម័យវិទ្យាល័យ, ស្នាដៃ របស់ Paul Gauguin ពិតជាមានលក្ខណៈទស្សនវិទូ

តែខ្ញុំក៏បានទទួលឥទ្ធិពលយ៉ាងខ្លាំងចំពោះស្នាដៃ (តើយើងមកពីណា, តើយើងជាអ្វី, តើយើងទៅណា)។

ទស្សនវិទូដែលមាននៅទីនេះ ទាំងអស់នៃជីវិតមនុស្ស មានអត្ថន័យពិបាកណាស់ តែខ្ញុំបានទទួលឥទ្ធិពលដ៏ធំធេង

ហើយក៏បានក្លាយជាគ្រូសិល្បៈ។ ស្របពេលនោះ ខ្ញុំបានគិតថាគួរធ្វើអ្វីនៅចុងបញ្ចប់នៃជីវិតនេះ,

ខ្ញុំក៏សម្រេចធ្វើការគាំទ្រកុមារដែលបានកើតក្នុងលក្ខខណ្ឌមិនល្អនៅក្នុងបណ្តាប្រទេសអាស៊ី

បើសិនជាខ្ញុំអាចរស់នូវជីវិតតាមរបៀបរបស់ខ្ញុំ។

អំឡុងពេលខ្ញុំមានអាយុ៤០ឆ្នាំ

ខ្ញុំបានសម្រេចធ្វើឲ្យកើតឡើងនូវគំនិតដែលបានលង់លក់នៅក្នុងខ្លួនរបស់ខ្ញុំតែម្នាក់ឯង

ហើយក៏បានធ្វើការត្រៀមរៀបចំអស់រយៈពេល២០ឆ្នាំមកហើយ។

ខ្ញុំបានប្រមូលព័ត៌មាននៃប្រទេសបង្កើតសាលានៅក្នុងរយៈពេល២០ឆ្នាំមកនេះ

រួចក៏សម្រេចចិត្តជាចុងក្រោយគឺប្រទេសកម្ពុជា។ នៅពេលមកប្រទេសកម្ពុជាខ្ញុំបានកំណត់រៀងខ្លះ។

ទី១ មិនជំរុញវប្បធម៌នៃប្រទេសរបស់ខ្លួនទៅកុមារនៃប្រទេសដែលមានវប្បធម៌ និងប្រវត្តិសាស្ត្រខុសគ្នាទេ។

ទី២ បើកបង្រៀននូវថ្នាក់រៀនសម្របតាមការលូតលាស់របស់កុមារ ដោយមិនទាមទារលទ្ធផលភ្លាមៗ

ធ្វើយ៉ាងណាឲ្យកុមារអាចទទួលបានភាពសប្បាយរីករាយក្នុងការសម្តែងចេញនូវសិល្បៈបាន។

ចំពោះរបៀបដឹកនាំការអប់រំនៅប្រទេសកម្ពុជា,

ខ្ញុំមិនសូវជាមានបទពិសោធន៍ប៉ះពាល់ផ្ទាល់ជាមួយកុមារតូចៗទេ

ព្រោះខ្ញុំជាគ្រូសិល្បៈជាច្រើនឆ្នាំនៅប្រទេសជប៉ុន។ ពេលដំបូង

ខ្ញុំមានអារម្មណ៍ថាវិលមុខនឹងសម្លេងខ្លាវខ្លាវរបស់កុមារៗណាស់។ តែពេលនេះខ្ញុំបានសុំនឹងវា

ទើបខ្ញុំគិតថាវាបង្ហាញពីការចង់ដឹងរបស់មនុស្សទៅវិញ។

វាជាថ្នាក់រៀនដែលធ្វើការសាកល្បងបណ្តើរ មានកំហុសបណ្តើរ

ប៉ុន្តែវាមិនមែនជាមុខវិជ្ជាដែលយើងអាចរកបានចម្លើយបានយ៉ាងស្រួលបើធ្វើតាមតែការបង្រៀននោះទេ,

អាចនិយាយបានថាវាជាការគិត របៀបមូលដ្ឋាននៃការបន្តថ្នាក់រៀននេះ។

ទី១ គឺ (គោរពនូវពិភពដែលកូនក្មេងមានការគិត មានអារម្មណ៍ បានមើលដោយភ្នែកខ្លួនផ្ទាល់)។

ទី២ គឺ (ចាំទុកក្នុងចិត្តនូវការអប់រំនៃកម្លាំងដែលអាចដោះស្រាយខ្លួនឯង អប់រំខ្លួនឯង

ស្របតាមការលូតលាស់របស់កុមារ ដែលមិនមែនជាថ្នាក់ដែលគិតតែពីបង្រៀនទេ)។

ទី៣ គឺ (ពិភពនៃអារម្មណ៍សប្បាយ រីករាយ គួរឲ្យចាប់អារម្មណ៍របស់កុមារ។

ជាថ្នាក់រៀនដែលទុកអារម្មណ៍នៃចិត្តបេះដូងរបស់កុមារម្នាក់ៗជាការសំខាន់)។

ទី៤ គឺ (របៀបបង្ហាញចេញ មិនមែនមានតែ១ទេ តែយើងប្រាប់ថាវាមានច្រើនចំពោះពិភពនៃការបង្ហាញចេញ)។

ទី៥ គឺ (ខ្ញុំបានធ្វើការសាកល្បង និងពិសោធន៍ជាច្រើន។

ខ្ញុំបានប្រាប់គេថាខ្ញុំនឹងពង្រីកនូវពិភពបង្ហាញចេញនូវបទពិសោធន៍នោះ)។

សូមទស្សនានូវស្នាដៃរបស់កុមារ និងកន្លែងនៃសកម្មភាពអនុវត្តន៍គំនិតបែបនេះដូចខាងក្រោម។

នេះជាសាលាបឋមសិក្សាតាមុំ និង សាលាបឋមសិក្សាឆ្នកទាំង២។

ជាសាលាដែលមានទីតាំងនៅចំកណ្តាលនៃភូមិសិកម្មដែលជិះឡានពីក្រុងសៀមរាបមកប្រហែលចំណាយ

៤០នាទី។ នៅក្នុងសាលាទាំងនេះ មានថ្នាក់បង្រៀនសិល្បៈម្តងក្នុង១ខែ។

សាលាទាំងពីរនេះមានបរិយាកាសកក់ក្តៅ ហើយដោយសារវាជាសាលាតូច

ទើបមានអារម្មណ៍ថាជាលក្ខណៈគ្រួសារ។ ដូចដែលលោកអ្នកបានដឹងតាមការមើលពីរូបភាពនេះដូច្នោះដែរ

ដោយសារវាជាកុមារនៃភូមិស្រុក ដូច្នោះពួកគេរីករាយណាស់ចំពោះថ្នាក់រៀនសិល្បៈនេះ។

នៅចុងបញ្ចប់នៃថ្នាក់រៀន យើងធ្វើការជ្រើសរើសស្នាដៃរបស់ពួកគេ

ប៉ុន្តែទោះបីកុមារដែលគួរមិនសូវបានល្អក៏សើចសប្បាយដែរ

ហើយកុមារភាគច្រើនបានបង្ហាញភាពពេញចិត្តយ៉ាងខ្លាំង។

ជាបន្ទាប់នេះ ជាកុមារៗនៃមត្តេយ្យសិក្សាសាលាភូមិអូ។

ទីនេះក៏ជាសាលាដែលមាននៅភូមិសិកម្មជិះឡានពីសៀមរាបចំណាយប្រហែល២០នាទី។

ដោយសារជាមត្តេយ្យ ខ្ញុំបានអនុវត្តដោយបែងចែកជា២ថ្នាក់សម្រាប់កុមារអាយុ ៤ឆ្នាំ ៥ឆ្នាំ ចំនួន៤០នាក់។

ភាពគួរឲ្យចាប់អារម្មណ៍របស់កុមារមត្តេយ្យ គឺមានភាពចង់ចេះចង់ដឹង ចង់ធ្វើរឿងជាច្រើន

ហើយជាកុមារៗដែលមិនស្នាក់ស្ទើរក្នុងការធ្វើអ្វីមួយ។

បន្តមក គឺជាកុមារៗនៃមត្តេយ្យសិក្សាសាលាអូ។ ទីនេះ មិនមែនខ្ញុំជាអ្នកបង្រៀនទេ តែបុគ្គលិក និងគ្រូ

ពរូបដែលទទួលបានការអប់រំនៅទីនេះ គឺជាអ្នកបង្រៀន។ វាជាថ្នាក់រៀន៩០នាទី

ប៉ុន្តែកុមារៗពិតជាមានសមត្ថភាពបង្ហាញខ្ពស់ ការស្រមៃស្រមៃគួរឲ្យចាប់អារម្មណ៍

និងសប្បាយរីករាយនឹងសិល្បៈ។ ដោយសារយើងធ្វើការអនុវត្តន៍ម្តងជារៀងរាល់សប្តាហ៍

សមត្ថភាពបង្ហាញរបស់កុមារៗក៏កាន់តែខ្ពស់។

ជាបន្តគឺជាសាលាអង្គររដ្ឋដែលមានភាពចំណាស់ជាងគេ ពេលឆ្នាំនេះជាឆ្នាំទី១២។ ទីនេះ

ចំណាយពេលជិះឡានប្រហែល៣០នាទីដែរ ដូចដែលបានដឹងពីឈ្មោះសាលាស្រាប់ហើយ

គឺសាលានេះស្ថិតនៅជិតអង្គរវត្ត។ ឆ្លងកាត់១២ឆ្នាំមកនេះ បានផ្លាស់ប្តូរកុមារអស់ ៣ជំនាន់មកហើយ

ហើយស្នាដៃរបស់កុមារជំនាន់ណាក៏មានកម្លាំងខ្លាំង ហើយភាគច្រើនជាកុមារដែលគួររូបមហិមា

រូបបញ្ចូលដោយកម្លាំងពិតៗ។

ប្រធានសាខាស៊ីហ្ស៊ីអូកានៃសាលាសិល្បៈជប៉ុន លោកគ្រូ Suzuki eiji

ខ្ញុំសូមអនុញ្ញាតរៀបរាប់ពីការគិត

អារម្មណ៍នៅពេលបានមើលពីស្នាដៃរបស់កុមារៗនៅតំបន់នីមួយៗនៅប្រទេសកម្ពុជា

និងស្នាដៃរបស់កុមារៗរបស់ជប៉ុន។

ជាដំបូង អ្វីដែលខ្ញុំចាប់អារម្មណ៍នៅពេលមើលពីស្នាដៃរបស់កុមារៗកម្ពុជា

គឺការដែលយើងបានមើលឃើញពីកុមារទាំងអស់នូវ រូបរាង និងបន្ទាត់នៃទម្រង់បង្ហាញបែបបុរាណ។ ម្យ៉ាងទៀត

ដោយសារបានមើលឃើញពីការបង្ហាញនូវការធ្វើការ និងការជួយគ្នារបស់កុមារៗ

ទើបខ្ញុំមិនអាចឃ្លាតចេញពីជីវភាពធ្វើការជាមួយកុមារជារៀងរាល់ថ្ងៃ។ ជារួម, ខ្ញុំមានអារម្មណ៍ថា

បទពិសោធន៍ផ្ទាល់របស់កុមារៗបានបង្ហាញចេញយ៉ាងច្បាស់នៅក្នុងគំនូរ។

ស្នាដៃរបស់កុមារSAS ធ្វើឲ្យខ្ញុំមានអារម្មណ៍ដឹងពីភាពខ្លាំងនៃកម្លាំងបន្ទាត់ ភាពសប្បាយរីករាយនៃការបង្ហាញ

និងភាពស្រស់ស្រាយនៃកុមារៗ។ ជាពិសេស នៅក្នុងការអង្កេតលើកទី២ យើងបានឃើញពីចំនួននៃសត្វ

ដើមឈើនៃរូបដែលបានគូរ ហើយការបង្ហាញក៏កាន់តែច្រើនឡើងៗ។

ជាបន្ត ជាស្នាដៃរបស់កុមារៗនៃខេត្តកំពត និងខេត្តស្វាយរៀងនៃ JHP។

បើយើងមើលពីស្នាដៃលើកទី១របស់កុមារនៃខេត្តកំពត យើងឃើញថាវាមានលក្ខណៈសម្រាយខ្លាំង

ហើយនៅលើកទី២ នៅកន្លែងហ៊ុំព័ទ្ធដោយរង្វង់ពណ៌ក្រហម, ដាក់ស្តែង ក្រោយពីត្រូវបានលុបដោយដំរលុប

វាពិតជាពិបាកនឹងដឹងណាស់, តែដោយសារមានការគូរមនុស្សជាច្រើន ហើយលុបចោលវិញ

ពេលដោយឆ្លងកាត់កំហុសសាកល្បងនៃការបង្ហាញពីមនុស្សបែបនេះហើយ

ទើបខ្ញុំគិតថាតម្លៃនៅក្នុងសកម្មភាពរបស់កុមារនេះកំពុងនឹងកើតមានឡើង។

ផ្ទុយទៅវិញ អ្វីដែលខ្ញុំយល់ឃើញពីស្នាដៃរបស់កុមារៗនៅរាជធានីភ្នំពេញ

គឺបានបង្ហាញឲ្យឃើញនៅក្នុងរូបគំនូរនូវគម្លាតនៃបទពិសោធន៍ផ្ទាល់ និងភាពខុសគ្នានៃបរិយាកាសជីវភាពរស់នៅ

នៅក្នុងស្នាដៃខាងស្តាំ និងខាងឆ្វេង ចំពោះការបង្ហាញរូបរាងរាល់ថ្ងៃ និងស្ថានភាពនៃជីវភាព

និងការរស់នៅក្នុងភាពសម្បូរបែបនៃព័ត៌មានចក្ខុវិស័យ។

ជាបន្តទៅនេះ គឺជាស្នាដៃរបស់កុមារនៃសាលាគ្មានការគាំទ្រនៃខេត្តស្វាយរៀង និងស្នាដៃរបស់កុមារជប៉ុន។

បើមើលពីស្នាដៃលើកទី១ នៃកុមារខេត្តស្វាយរៀងរហូតដល់លើកទី២,

យើងបានមើលឃើញពីភាពខុសគ្នាយ៉ាងច្រើនរវាងលើកទី១ និងលើកទី២ ដោយនៅលើកទី២

មានដាត់ពណ៌នៅខ្សែស្មៅ, ដាត់ពណ៌ខ្មៅ, គួរពណ៌ស្មៅឲ្យកាន់តែក្រាស់, ដាត់ពណ៌ដើមឈើជាដើម

ពេលគឺអារម្មណ៍នៃការដាត់ពណ៌មានការកើនឡើង។

ស្នាដៃនៅខាងស្តាំនេះ ជាស្នាដៃរបស់កុមារជប៉ុន, អ្វីដែលពួកគេបានគូរនៅពេលធ្វើអង្កេតលើកទី១

គឺជារូបរាងរបស់កុមារដែលកំពុងលេងនៅជិតផ្ទះ ជាមួយមិត្តភក្តិ,

នៅទីនោះយើងបានមើលឃើញពីភាពសម្បូរបែបនៃគំនិត,
ការស្វែងយល់លំហែងដែលរួមបញ្ចូលដោយទស្សនវិស័យនៅទីតាំងដើមឈើ និងពណ៌នៃដំបូលផ្ទះ,
ដោយមានបង្ហាញចេញនូវភាពផ្ទៀងទៅខាងក្នុង នៅក្នុងស្ថានភាពទ្រុឌទ្រោមនៃផ្លូវ។ នៅការអង្កេតលើកទី២
ស្នាដៃនិមិត្តនៃទម្រង់ជីវភាពប្រទេសព្រិលត្រូវបានគូរឡើង ដែលខុសពីអង្កេតលើកទី១។ កុមារដែលរស់នៅទីនេះ,
ពួកគេរស់នៅក្នុងតំបន់ដែលព្រិលមិនធ្លាក់នៅក្នុងខែរងារ
ប៉ុន្តែប្រហែលមកពីពួកគេរស់នៅក្នុងសង្គមព័ត៌មានដែលពួកគេបានមើលឃើញនៅក្នុងជីវភាពរស់នៅនូវការបង្ហាញ
ជាច្រើន ទើបធ្វើឲ្យពួកគេអាចបង្ហាញចេញបានបែបនេះ។

ជាបន្ត,
តារាងដែលបានសរុបនូវការវិភាគពីការប្រៀបធៀបទៅលើការអង្កេតលើរូបគំនូររវាងប្រទេសទាំងពីរលើកនេះ។
ដោយសារនៅទីនេះមានសរសេរយ៉ាងលម្អិតជាច្រើន
ដូច្នេះខ្ញុំសូមបង្ហាញពីឯកសារដែលបានធ្វើការសង្ខេបរួចនៅស្វាយបន្ទាប់នេះ។ ផ្នែកនេះ ជាកុមារកម្ពុជា,
អក្សរពណ៌ខៀវជាកុមារជប៉ុន, ហើយអក្សរពណ៌ក្រហមជាកម្ពុជាដែលមានភាពដូចគ្នា។
ពីស្នាដៃរបស់កុមារកម្ពុជា អាចឲ្យយើងបានដឹងពីការដែលមិនឃ្លាតចេញឆ្ងាយពីជីវភាពរស់នៅប្រចាំថ្ងៃ
និងវប្បធម៌របស់កម្ពុជា។ ហើយ យើងអាចដឹងពីការធ្វើការ, ការរស់នៅ,
ភាពសម្បូរបែបនៃផ្លូវចិត្តជាមួយនឹងធម្មជាតិជាដើម។ ម្យ៉ាងទៀត វាក៏បានបង្ហាញចេញមកនូវទស្សនៈសាសនា,
សត្វ ដើមឈើ, ទម្រង់ទំនៀមទំលាប់ជាដើមផងដែរ។

ផ្ទុយទៅវិញ កុមារជប៉ុនមានភាពសម្រប និងភាពសម្បូរបែបនៅក្នុងគំនិត និងការបង្កើតគំនិតដែរ
តែបើមើលពីស្នាដៃរបស់កុមារកម្ពុជាទើបខ្ញុំយល់ថា
ការបណ្តុះបណ្តាលភាពសម្បូរបែបខាងផ្លូវចិត្តក៏មានសារៈសំខាន់ដែរ។
ហើយការបង្កើនទំនាក់ទំនងជាមួយទំនៀមទំលាប់, វប្បធម៌, របៀបទាក់ទងនឹងសង្គមក៏មានភាពចាំបាច់ដែរ។

ការអប់រំសិល្បៈ
ជារឿងដ៏សំខាន់ក្នុងការបណ្តុះបណ្តាលកម្លាំងទៅនឹងការដោះស្រាយបញ្ហាជាច្រើនដោយខ្លួនឯង
និងជាមួយអ្នកដទៃ ព្រមទាំងអាចបង្កើតចេញនូវតម្លៃថ្មីទៀតផង។
បន្ទាប់ពីបានស្តាប់យោបល់ជាច្រើនរបស់អ្នកទាំងអស់គ្នារួចមក
ខ្ញុំមានអារម្មណ៍ថាការអប់រំសិល្បៈជារបស់ដ៏សំខាន់ក្នុងការបណ្តុះបណ្តាលព័ត៌មានសម្បូរបែប។
សកម្មភាពបង្ហាញដែលមានលក្ខណៈបង្កើតជារូបរាងគឺមានភាពចាំបាច់មិនអាចខ្វះបានទេ
ក្នុងការបង្កើនសមត្ថភាពស្វែងយល់ពីការបង្ហាញរបស់អ្នកដទៃ, សមត្ថភាពបង្ហាញ, សមត្ថភាពបង្កើតគំនិត,
សមត្ថភាពបង្ហាញគំនិត, និងសមត្ថភាពចាំបាច់សម្រាប់កុមារដែលប៉ងទៅថ្ងៃអនាគត។ ថ្ងៃមុខ
ការតាមដានជាបន្តបន្ទាប់ និងការជំរុញបន្តនូវការផ្លាស់ប្តូរវប្បធម៌
អាចធ្វើឲ្យយើងអាចឆ្លងផុតបញ្ហារបស់ប្រទេសរៀងខ្លួនបាន។

ការពិភាក្សា

ការបង្ហាញរបស់កុមារកម្ពុជាតាមការគាំទ្ររបស់ JHP និង SAS
មានលក្ខណៈពេញលេញដោយគ្មានការភ័ន្តច្រឡំឡើយ។ នៅសាលាដែលមិនទទួលបានការគាំទ្រ
ក៏មានការកើតឡើងនូវសមត្ថភាពបង្ហាញ
ហើយការអប់រំសិល្បៈនៅដំណាក់កាលការអប់រំថ្មីនេះកំពុងត្រូវបានបន្តទៅមុខ។ ទោះបីជាក្រីក្រក៏ពិតមែន
ប៉ុន្តែនៅក្នុងការបង្ហាញចេញដែលកើតឡើងពីក្នុងជីវភាពសាមញ្ញ គឺវាពិតជាមានតម្លៃណាស់។

វាជាកម្លាំងដែលបង្ហាញឲ្យឃើញពីអនាគតរបស់កម្ពុជានាពេលខាងមុខ
ព្រោះការបង្ហាញរបស់កុមាររូបណាក៏ដោយក៏ពោរពេញទៅដោយសុខភាព។
សំនួរទៅកាន់លោកគ្រូ KASAHARA។

នៅក្នុងសកម្មភាពមកទល់បច្ចុប្បន្ននេះ
ត្រូវបានគេនិយាយថាជាការធ្វើឲ្យគំនិតដែលមានលក្ខណៈវប្បធម៌ឲ្យកាន់តែខ្លាំងឡើង ប៉ុន្តែតើវាជាអ្វីឲ្យប្រាកដ?
(Kasahara tomoko) នៅកម្ពុជាការអប់រំសិល្បៈស្ទើរតែគ្មានសោះ, កន្លែងដែលខ្ញុំបានទៅចំនួនមានចំនួន១១ខេត្ត
នៅក្នុងនោះក៏មានខេត្តដាច់ស្រយាលខ្លាំងណាស់ដែរ។ ពេលដែលខ្ញុំទៅដល់ខេត្តដាច់ស្រយាលខ្លាំង
អ្វីទាំងអស់ដែលខ្ញុំបានឃើញសុទ្ធតែថ្មីស្រឡាងសម្រាប់ខ្ញុំ។ ហើយអ្វីដែលខ្ញុំពាំនាំទៅទាំងអស់សុទ្ធតែថ្មី។
ភាពសប្បាយរីករាយបែបថ្មីដែលបានមកពីបទពិសោធន៍ពីរបស់ថ្មីនោះ បានចាក់ឫសនៅក្នុងកុមារៗ។
កុមារៗដូចជាមានបំណងក្នុងការសាកល្បងនូវការបង្ហាញ, បទពិសោធន៍ដែលនេះទៀតដែរ។
សៀវភៅដែលខ្ញុំបានដាក់តាំងពិពណ៌ មានសរសេរិបែបនេះ។

ខ្ញុំមិនអាចបំភ្លេចនូវទឹកមុខដែលពោរពេញដោយភាពរីករាយនៅពេលបានគូរគំនូរដំបូងរបស់កុមារកម្ពុជាដែលមិន
ធ្លាប់បានកាន់ឧបករណ៍គូររូបសោះ។ ការមើល ការប៉ះទាំងអស់
សុទ្ធតែជាបទពិសោធន៍ថ្មីដែលបានធ្វើឲ្យមានការរំភើប,
ការផ្តោតខ្លាំងដោយភ្នែកដ៏មានពន្លឺជាមួយនឹងបេះដូងលោត ទើបខ្ញុំត្រូវទុកឧបករណ៍នៃគំនូរនៅទីនោះ។
ហើយក៏មានរឿងបែបនេះផងដែរ។ គឺខ្ញុំបានទៅភូមិមួយដែលបានចំណាយពេលជិះឡាន៩ម៉ោង,
ហើយបន្ទាប់ពីបង្រៀនចប់ ខ្ញុំបានត្រឡប់មកសាលាវិញ,
ប៉ុន្តែថ្ងៃក្រោយមកខ្ញុំក៏បានទទួលទូរស័ព្ទពីគ្រូបង្រៀននៃភូមិនោះ។
ខ្ញុំគិតថាវាជាទូរស័ព្ទនៃការថ្លែងអំណរគុណពីគ្រូបង្រៀន ដោយសារកូនសិស្សមានភាពសប្បាយរីករាយ
និងបានទទួលបទពិសោធន៍ដ៏ល្អនេះ។ កុមារៗ ត្រូវការវប្បធម៌។

(Suzuki Mistuo) សូមអរគុណ។ មែនហើយ។ ខ្ញុំមានអារម្មណ៍ថាដូចជាធ្លាប់បានលឺពីលោកគ្រូKASAHARA
ថាវាជារឿងសំខាន់ណាស់ក្នុងនាមជាអ្នកអប់រំទាំងអស់ មិនកំណត់តែការអប់រំសិល្បៈ,
អ្នកអប់រំទេដែលអាចធ្វើឲ្យកុមារទៅជាបែបនេះបាន។

ថ្ងៃមុនខ្ញុំបានទទួលឯកសារនេះពីលោក Yamada
នៃសាលាសិល្បៈYamadaដែលកំពុងធ្វើការនៅរាជធានីភ្នំពេញ។ ខ្ញុំបានជួបនិយាយដោយផ្ទាល់ជាមួយលោក
Yamada ដោយផ្ទាល់នៅប្រទេសកម្ពុជា ប៉ុន្តែពេលដែលខ្ញុំបានមើលពីរបាយការណ៍នេះ
ខ្ញុំក៏បានដឹងថាអ្វីដែលលោកគ្រូKASAHARAទុកជារបស់សំខាន់
និងការអប់រំសិល្បៈដែលបានបន្តនៅប្រទេសកម្ពុជារបស់លោក Yamada ពិតជាមានសភាពស្រដៀងគ្នាណាស់។
តើអាចបង្ហាញពីវិធីសាស្ត្ររបស់លោក Yamada បានទេ?

(Yamada Takaryo) បាទ។ ខ្ញុំ Yamada ខ្ញុំអនុញ្ញាតធ្វើការណែនាំ។
ជាដំបូងសូមថ្លែងអំណរគុណចំពោះសន្តិសិទ្ធដ៏អស្ចារ្យនេះ។ ដោយសារមិនសូវមានពេលវេលាគ្រប់គ្រាន់,
វិធីសាស្ត្រ Yamada, ចំណងជើងនេះពិតជាធ្វើឲ្យខ្ញុំមានភាពភ័យខ្លាចបន្តិចហើយ។ លើកនេះ
ជាការអប់រំសិល្បៈស្របពេលមានវិស្វកម្មវិស្វករណ៍នេះដោយផ្អែកលើមូលនិធិអន្តរជាតិ,
ដោយនៅប្រទេសកម្ពុជាតាំងពីដើមមកមិនមានការអប់រំសិល្បៈទេ
ដូច្នេះខ្ញុំក៏ចាប់ផ្តើមបង្រៀនសិល្បៈតាមអនឡាញ ហើយខ្ញុំបានធ្វើការបង្រៀនទៅកុមារៗជាច្រើនឆ្នាំ
ប្រហែល៣០ឆ្នាំ។ វិធីសាស្ត្រ Yamada

ក៏លេចចេញពីរូបរាងមួយឡើងពីបទពិសោធន៍ដែលខ្ញុំមានជាមួយសិស្សវិទ្យាល័យ, អនុវិទ្យាល័យ,
និងសិស្សបឋម។ ខ្ញុំក៏មានចម្ងល់ខ្លះដែរនៅក្នុងការអប់រំសិស្សនៅជប៉ុន, ប៉ុន្តែ
ខ្ញុំក៏បានយកការអប់រំសិស្សដែលបានធ្វើឡើងនៅជប៉ុនជាមូលដ្ឋាន ហើយធ្វើការកែប្រែជាស្វ័យប្រវត្តិរបស់ខ្លួន
ទើបការបន្លែងជារូបរាងដែលបានរៀបចំរួចនូវការអប់រំសិស្សជប៉ុននេះត្រូវបានដាក់ឈ្មោះថាជាវិធីសាស្ត្រ
Yamada។ ជាគោលការណ៍ ជាដំបូងគឺយើងមិនត្រូវបណ្តុះនូវគំនិតនឹងផ្តល់ទៅកុមារទេ
គឺគោលបំណងរបស់យើងជាការទាញចេញនូវអារម្មណ៍របស់កុមារ ការបង្កើតបរិយាកាស ការរៀបចំដោយសេរី។
ជាដំបូង ខ្ញុំបានប្រើប្រាស់ពាក្យថា បង្រៀនទៅកូនសិស្ស ជាញឹកញាប់ដែរ ប៉ុន្តែការពិតមិនមែនបង្រៀនទេ
គឺជាការរៀបចំកន្លែងឲ្យសិស្សអាចបញ្ចេញស្នាដៃដោយសេរី។ ពោលគឺអាចឲ្យគាត់បញ្ចេញស្នាដៃបាន។
បើមនុស្សធំធ្វើបែបនេះ កុមារក៏ធ្វើតាមបែបនោះដែរ។ បើបែបនេះសេរីភាពដែលកុមារមាននឹងអាចបាត់បង់ទៅ។
ទោះជាពួកគេ ឬមិនពួកគេក៏ដោយ បើអ្នកពាក់ព័ន្ធ និងកុមារមានភាពរីករាយរាល់ដង
នោះពួកគេនឹងចង់គូរនៅលើក្រោយទៀត។ ខ្ញុំទុកអារម្មណ៍បែបនេះសំខាន់បំផុត។
(Suzuki Mistuo) សូមអរគុណ។ លោកណែ សត្យាឃើញលើកដៃ, តើលោកមានអ្វីចង់មានប្រសាសន៍ទេ?
(ណែ សត្យា) ខ្ញុំមានសំណួរសួរទៅកាន់ លោក Kasahara នៃ SAS។ ខ្ញុំដឹងថាលោកត្រូវកំពុងបង្រៀនសិស្ស,
ឧទាហរណ៍បើមានកុមារដែលផ្តាច់ទ្រង់ ឬកុមារដែលមិនមានចំណាប់អារម្មណ៍លើគំនូរ,
តើលោកត្រូវនឹងធ្វើបែបណា?
(Kasahara Tomoko) ជាគោលការណ៍មិនមែនជាថ្នាក់រៀនដែលបង្ខំសិស្សទេ,
បើយើងបង្ខំសិស្សនឹងដូចជាថ្នាក់រៀននៅបឋមដែរ
ដូច្នេះជាគោលការណ៍គឺយើងឲ្យពួកគាត់ចូលរួមដោយខ្លួនឯង។ ខ្ញុំក៏បង្រៀននៅជប៉ុនដែរ,
កុមារបែបនេះគឺពិតជាមាន។ កុមារមួយចំនួនបាននិយាយថាសិស្សតើមានប្រយោជន៍អ្វី,
ហើយពួកគេតែងរអ៊ូជាច្រើន
តែខ្ញុំបានប្រាប់ទៅសិស្សវិទ្យាល័យថាវាជាពិភពដែលអាចមើលដោយចក្ខុផ្សេងនូវពិភពដែលអ្នកមិនស្គាល់។
ខ្ញុំបានប្រាប់ទៅសិស្សវិទ្យាល័យថា មិនមែនការស្រឡាញ់ ការស្អប់ចំពោះខ្លួនឯងទេ,
គឺបើយើងឈរនៅលើជំហានលំដាប់ទូលាយវានឹងក្លាយជាបទពិសោធន៍ដ៏ល្អ។ នៅបឋមសិក្សា ក៏មានសិស្សដែលស្អប់
មិនចូលចិត្តរៀន ហើយក៏មិនចង់មកសាលាដែរ។ ប៉ុន្តែខ្ញុំមិនមែនទៅជាក្រុមធម្មតាទេ គឺខ្ញុំទៅគ្នាប្រហែល៣នាក់។
ដូច្នេះ យើងអាចឲ្យដំបូន្មានទៅសិស្សនេះយ៉ាងសមស្របបាន។ លោក Hea
និងគ្រូម្នាក់ទៀតដែលនៅទីនេះដែរនោះ នឹងអាចទាញកូនសិស្សបានយ៉ាងល្អ។ ខ្ញុំមិនចេះភាសាខ្មែរទេ,
វារៀងពិបាកបន្តិចមែន បន្តិចខ្ញុំក៏ចាប់ផ្តើមប្រតិបត្តិការ។
(Suzuki Mistuo) បាទ, សូមអរគុណ។ ពិតជាការចម្រើនពិភាក្សាដ៏ល្អមែន, ជាបន្តលោកគ្រូHasahara
និងលោកគ្រូ Yamada ក៏មានប្រសាសន៍បន្តិចពីការអប់រំសិស្សនៅជប៉ុនដែរ។
ហើយអ្វីទាំងនេះគឺដូចគ្នាទៅនឹងពាក្យសំដីរបស់លោកគ្រូ Suzuki Eiji ដែរ។ នៅក្នុងគំនូររបស់កុមារជប៉ុន
យើងបានមើលឃើញថានៅមានលក្ខណៈគួរឲ្យព្រួយបារម្ភ។ ការពិត កង្វល់នេះក៏មានសរសេរនៅក្នុងសៀវភៅ
[ការជាប់គាំងនៃការរីកចម្រើនដែលបានបង្ហាញនៅ S-HTP] ដែរ។
ការបង្ហាញដែលទទួលបានឥទ្ធិពលពីគំនូរដ៏រចនា ឬហ្គេមរបស់កុមារយើងទុកមួយលែកសិន,
ខ្ញុំបានគិតឃើញនូវចំណុចយ៉ាង។ គំនិតអវិជ្ជមានគឺ
ជាគំនិតដែលខ្ញុំគិតឃើញថាកុមារមិនបានសម្តែងចេញនូវអារម្មណ៍ពិតរបស់ខ្លួននៅក្នុងការអប់រំដែលផ្តោតសំខាន់
លើលទ្ធផលទេ ពោលគឺពួកគេបានខ្ចីអារម្មណ៍ពីហ្គេម ឬគំនូរដ៏រចនាដើម។ ឯគំនិតវិជ្ជមានគឺ

គំនូររបស់កុមារជប៉ុនទទួលឥទ្ធិពលនិម្មិតពីហ្គេម ពីគំនូរដ៏រចនាមែន
តែពួកគេអាចយកវាមកគូរប្រកបដោយអត្ថន័យខ្លីមសារយ៉ាងសកម្ម។
នៅក្នុងរូបគំនូររបស់កុមារនៅរាជធានីភ្នំពេញក៏ឃើញមានបន្តិចបន្តួចដែរ, ការបង្ហាញនិម្មិតដែលជាហ្គេម
ឬគំនូរដ៏រចនា ទាំងនេះគឺដូចជាពិភពពិតប្រាកដជាក់ស្តែងរបស់ពួកគេនាពេលបច្ចុប្បន្ននេះដូច្នោះដែរ។
ខ្ញុំគិតថាបើយើងអាចគិតវាក្នុងន័យសកម្មនូវការបង្ហាញថ្មីរបស់កុមារនេះ
នឹងធ្វើឲ្យយើងអាចសិក្សាយ៉ាងស៊ីជម្រៅទៅលើបញ្ហានៃពិភពជាក់ស្តែង, បញ្ហាសង្គម, ឧទាហរណ៍ដូចជា
SDGsជាដើម ដូច្នេះវានឹងក្លាយជារឿងសំខាន់ក្នុងន័យវិជ្ជមាន។ ក្នុងន័យនេះ ការខិតខំប្រឹងប្រែងរបស់លោកគ្រូ
Nakamura, Social Compass
ដែលកំពុងធ្វើសកម្មភាពនៅប្រទេសកម្ពុជានឹងត្រូវបានគេផ្តោតចំណាប់អារម្មណ៍មកជាខ្លាំងមិនខាន។ Social
Compass បានបន្តសកម្មភាពធ្វើឲ្យសង្គមមានភាពសម្បូរបែបដោយសមត្ថភាពនៃសិស្ស:
និងការចនាឆ្លងកាត់តាមគំនូរដ៏រចនាដើមនេះ។
(Taiwan) សូមជួយណែនាំផង។ សូស្តីលោកគ្រូ Suzuki។
យើងខ្ញុំបានប្រមូលផ្តុំលោកគ្រូអ្នកគ្រូសិស្សចំនួន២០រូបមកចូលរួមកម្មវិធីនេះ។ នេះជាសំណួរ។
រូបដែលខ្ញុំបានមើលកន្លងមក ដូចជាមិនសូវឃើញមានពណ៌សោះ,
ខ្ញុំគិតថាពណ៌ជាចំណុច១១ដ៏សំខាន់ណាស់ក្នុងការបង្ហាញចេញចំពោះកុមារ, តើមូលហេតុអ្វីដែរ?
(Suzuki Mistuo) របៀបធ្វើអង្កេតរូបភាពតាមវិធី S-HTPនេះ គឺជាការគូររូបដោយខ្មៅដៃដើម
ដោយមិនមានការដាត់ពណ៌ទេ។
(Taiwan) បាទ។ តើការធ្វើអង្កេតចំពោះការដាត់ពណ៌នឹងកើនឡើងឬទេ?
(Suzuki Mistuo) ចំពោះការអង្កេតលើគំនូរនេះ មិនរាប់បញ្ចូលការដាត់ពណ៌ទេ។
ហេតុអ្វីបានជាខ្ញុំផ្តោតអារម្មណ៍ទៅលើ Social Compass , ពីព្រោះកម្លាំងនៃសិស្ស:
និងការចនាទៅកម្ពុជាបានធ្វើឲ្យមានការកែប្រែសង្គម ហើយក្លាយជាការពិតពិតមែន។ រឿងនេះ លោក ណែ
សត្យា ក៏បានមានប្រសាសន៍អំបាញ់មិញដែរ.....។ ខ្ញុំគិតថាឆ្លងកាត់ការធ្វើអង្កេតលើកនេះ
វាជាការសិក្សាដែលផ្តោតសំខាន់លើដំណាក់កាលមិនមែនលទ្ធផលទេ ពោលគឺការសិក្សាដែលការបង្ហាញ
និងដីភាពរបស់កុមារមានការចងក្លាប់ទៅនឹងបញ្ហាសង្គមជាក់ស្តែង។ លោកណែ សត្យា
បានមានប្រសាសន៍ថាការអប់រំសិស្សនេះមានឥទ្ធិទៅលើគ្រប់មុខវិជ្ជា។ ដូចដែល Social Compass
កំពុងធ្វើដូច្នោះដែរ លោកគ្រូ Kasahara លោកគ្រូ Yamada កំពុងខំប្រឹងបង្កើតការអប់រំដោយប្រើកម្លាំងសិស្ស:
និងការចនា ព្រមទាំងកម្លាំងនៃការអប់រំសិស្សដែលអាចបើកផ្លូវទៅថ្ងៃអនាគតបាន។ នៅក្នុងសន្និសីទថ្ងៃនេះ
បន្ទាប់ពីលើមនុស្សប៉ុន្មាននាក់និយាយអំពីធាតុពិតនៃការអប់រំសិស្ស:
ខ្ញុំគិតថាមិនត្រឹមតែកម្ពុជាទេដែលត្រូវទុកសិស្សជារឿងសំខាន់ ជប៉ុនក៏ត្រូវតែពង្រីកការគិតនេះផងដែរ។
ដូច្នេះខ្ញុំចង់បញ្ចប់នៅត្រឹមនេះ,
ខ្ញុំសូមសម្តែងនូវសេចក្តីថ្លែងអំណរគុណយ៉ាងជ្រាលជ្រៅចំពោះអ្នកដែលបានចូលរួមនៅក្នុងសន្និសីទលើកនេះដូច
ជាលោក ជុតិមា, លោក Yakabe, លោក Sakata, លោក Hea, លោក Nai Sattia, លោកគ្រូ Kasahihara,
លោកគ្រូ Suzuki Eiji, លោកស្រី Soeung Yoko នៃសមាគមគាំទ្រកម្ពុជា, លោកស្រី Hirabayashi Chisaki, លោក
ហ្វុត និង វីណាដែលបានធ្វើការបកប្រែឲ្យខ្ញុំ។
ហើយក៏សូមធ្វើការថ្លែងអំណរគុណចំពោះលោកគ្រូ អ្នកគ្រូជាច្រើនមកពីខេត្តស្វាយរៀង
និងខេត្តកំពតដែលបានចូលរួម។ ព្រមទាំងសូមថ្លែងអំណរគុណចំពោះលោកគ្រូអ្នកគ្រូមកពីតៃវ៉ាន់ផងដែរ។
ដូច្នេះសូមអរគុណណាស់ចំពោះការចំណាយពេលវេលាដ៏ច្រើននេះ។

資料

調査校ごとの描画例 41

S-HTP 法によるカンボジアの幼児・児童の
描画活動に関する実証的研究 (I) 49
日本比較文化学会「比較文化」No.139, 2020

S-HTP 法によるカンボジアの幼児・児童の
描画活動に関する実証的研究 (II) 80
日本美術教育学会「美術教育」No.305, 2021

1 Svay Rieng PS : S (Without Sponsor by JHP) 非支援校

1回目の描画調査 (2019年2月28日~3月2日)

Drawing of the 1st Survey



7歳



8歳



9歳



10歳



11歳



12歳

2回目の描画調査 (2019年12月~2020年2月)

Drawing of the 2nd Survey



7歳



8歳



9歳



10歳



11歳

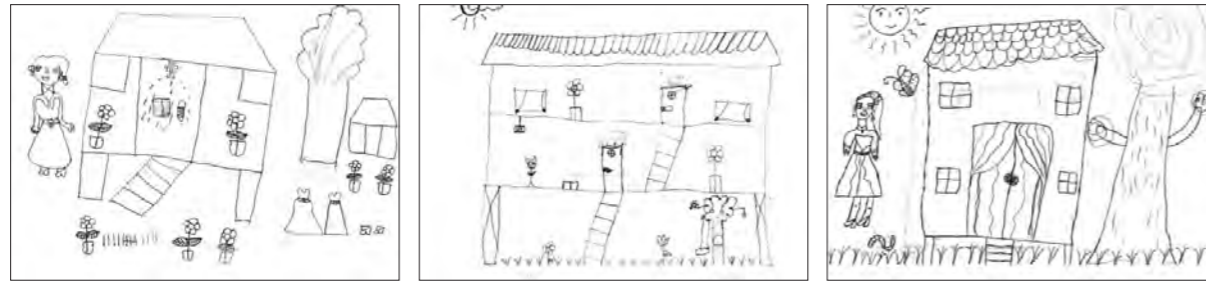


12歳

2 Kampot PS : K (Without Sponsor by JHP) 非支援校

1回目の描画調査 (2019年2月28日~3月2日)

Drawing of the 1st Survey



7歳

8歳

9歳



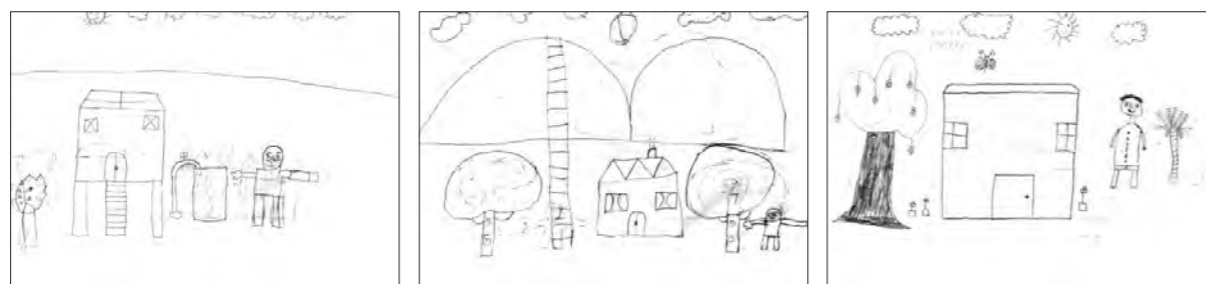
10歳

11歳

12歳

2回目の描画調査 (2019年12月~2020年2月)

Drawing of the 2nd Survey



7歳

8歳

9歳



10歳

11歳

12歳

3 Phnom Penh PS : P (Without Sponsor by JHP) 非支援校

1回目の描画調査 (2019年2月28日~3月2日)

Drawing of the 1st Survey



7歳

8歳

9歳



10歳

11歳

12歳

2回目の描画調査 (2019年12月~2020年2月)

Drawing of the 2nd Survey



7歳

8歳

9歳



10歳

11歳

12歳

4 Svay Rieng PS : SJ (Sponsor by JHP) 支援校

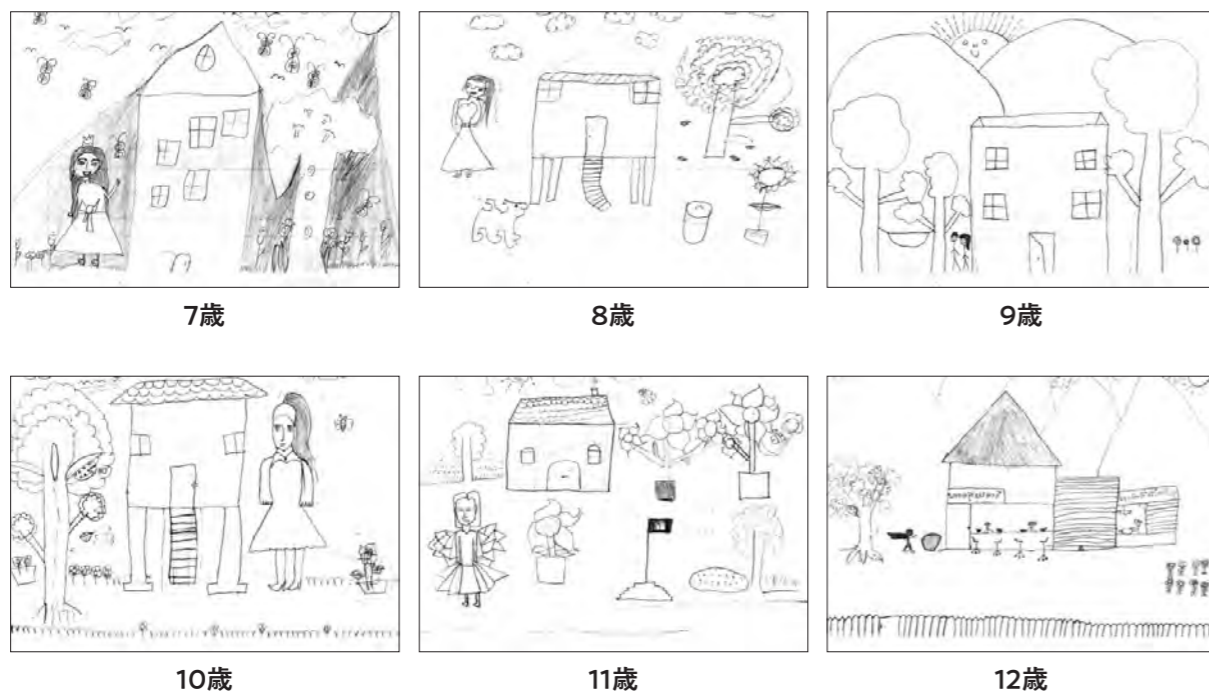
1回目の描画調査 (2019年2月28日~3月2日)

Drawing of the 1st Survey



2回目の描画調査 (2019年12月~2020年2月)

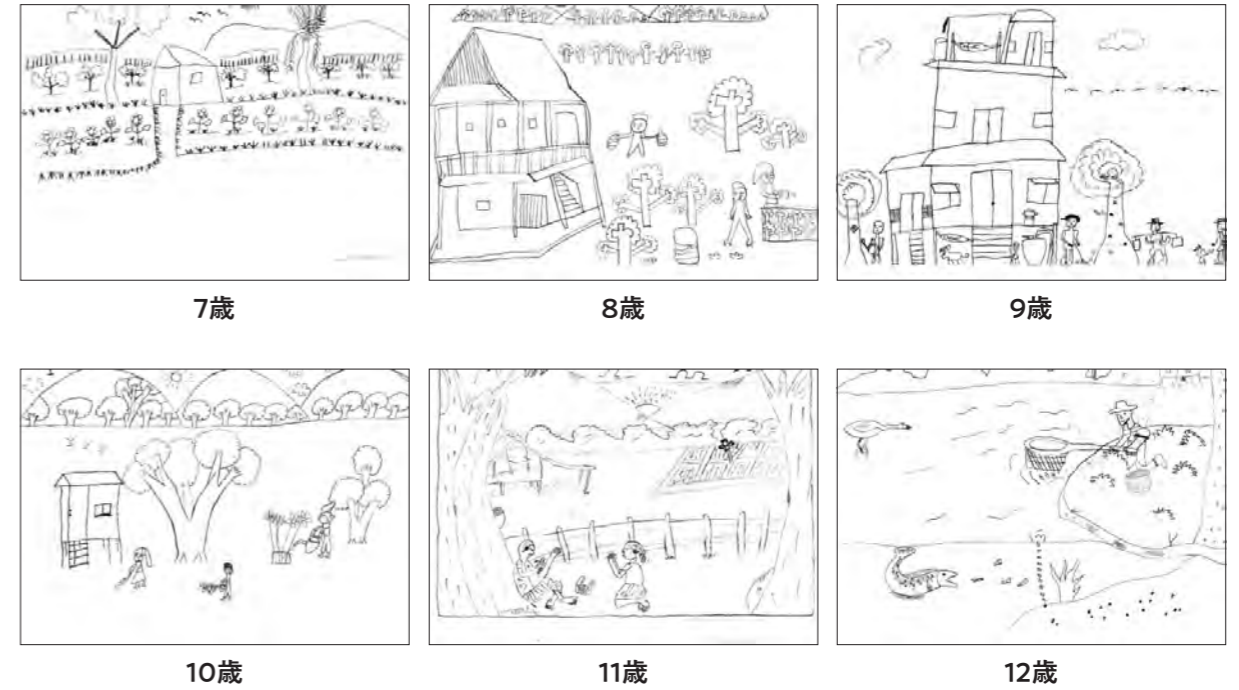
Drawing of the 2nd Survey



5 Kampot PS : KJ (Sponsor by JHP) 支援校

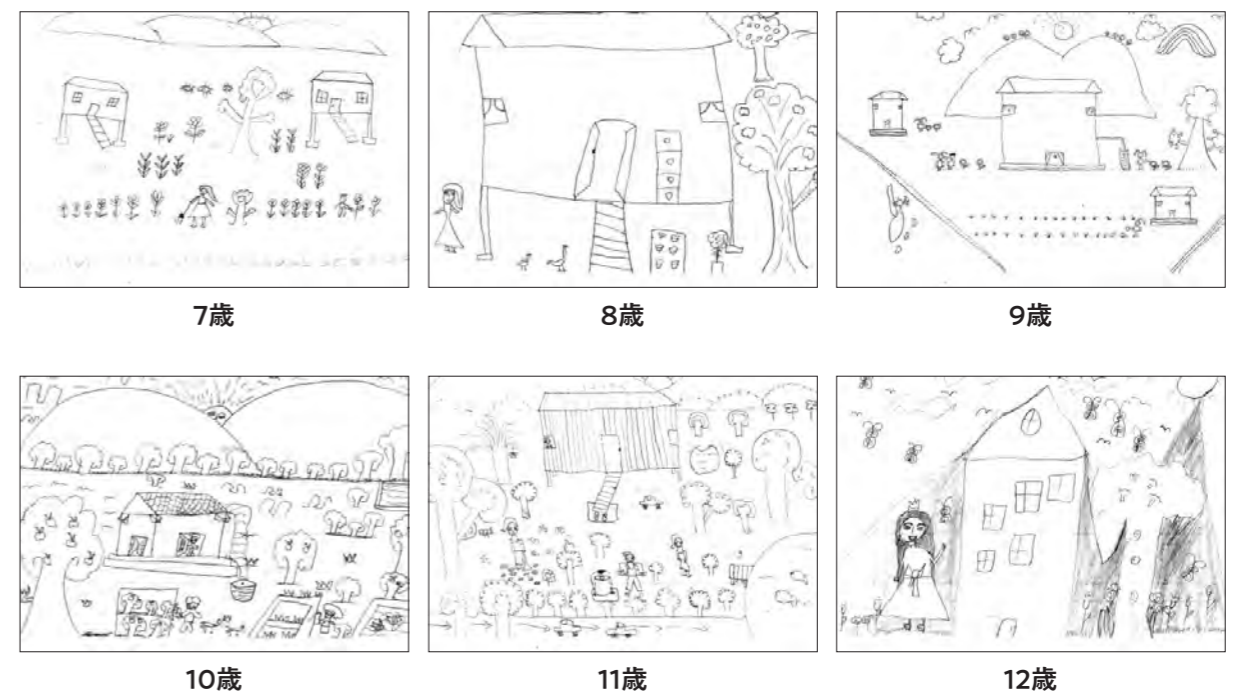
1回目の描画調査 (2019年2月28日~3月2日)

Drawing of the 1st Survey



2回目の描画調査 (2019年12月~2020年2月)

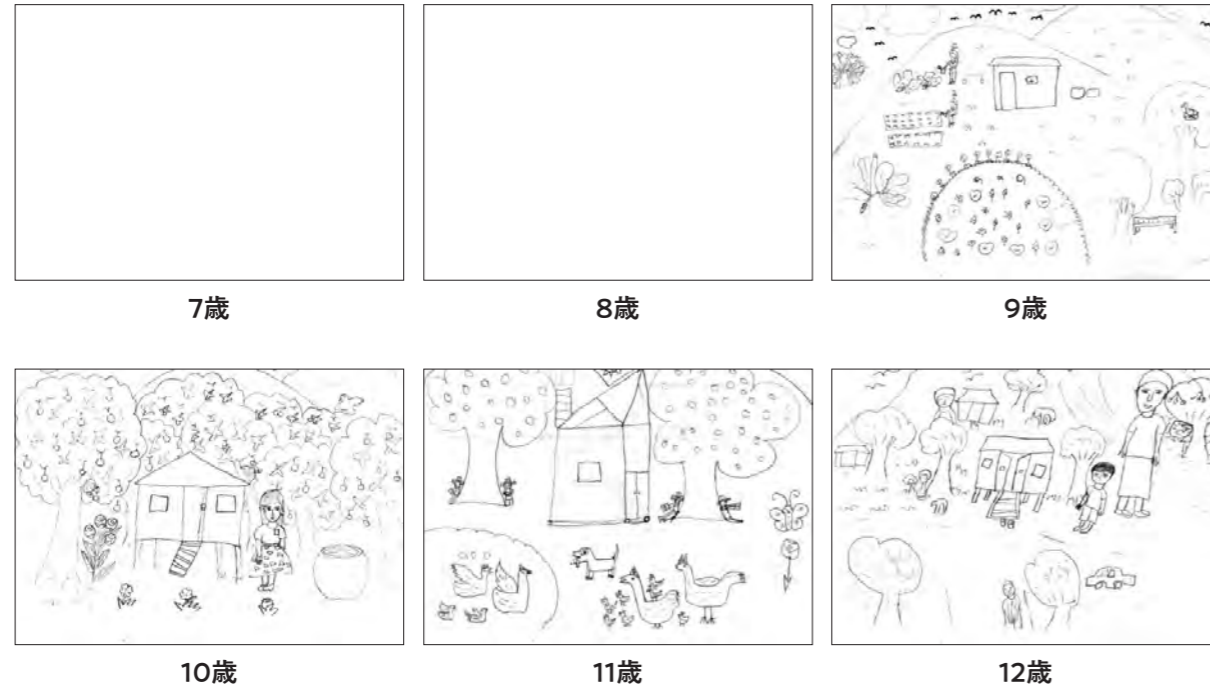
Drawing of the 2nd Survey



6 Siem Reap PS:SR-1 (Support by SAS) スモールアートスクール

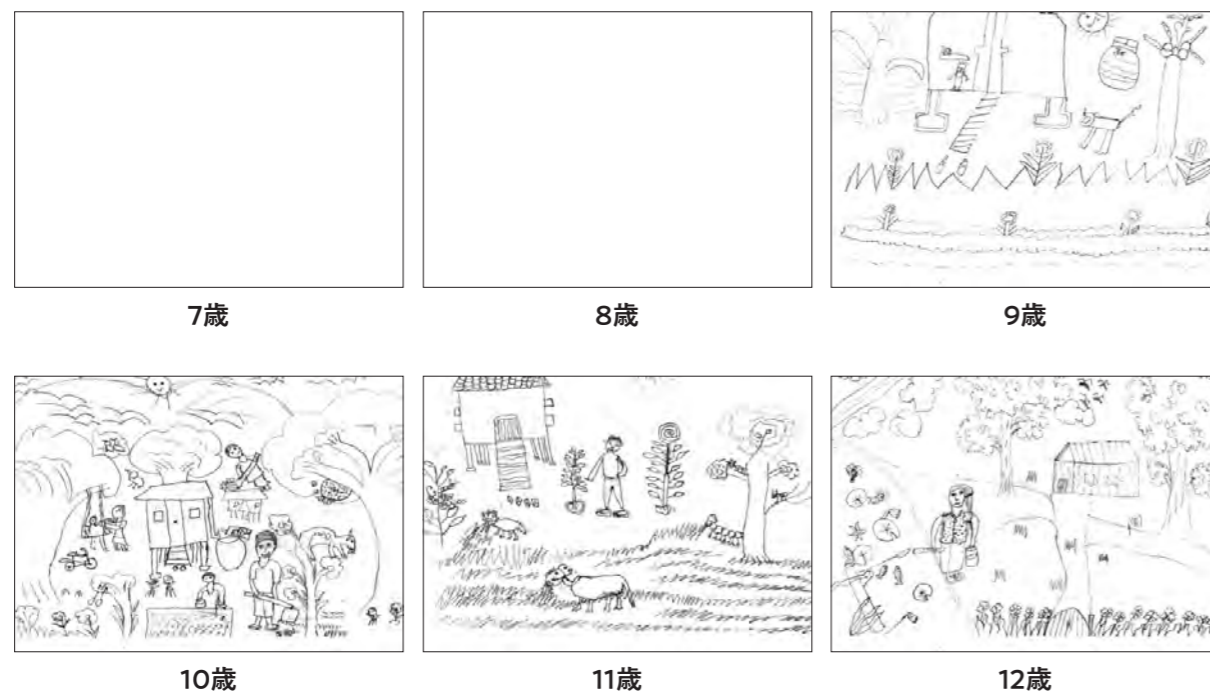
1回目の描画調査 (2019年2月28日~3月2日)

Drawing of the 1st Survey



2回目の描画調査 (2019年12月~2020年2月)

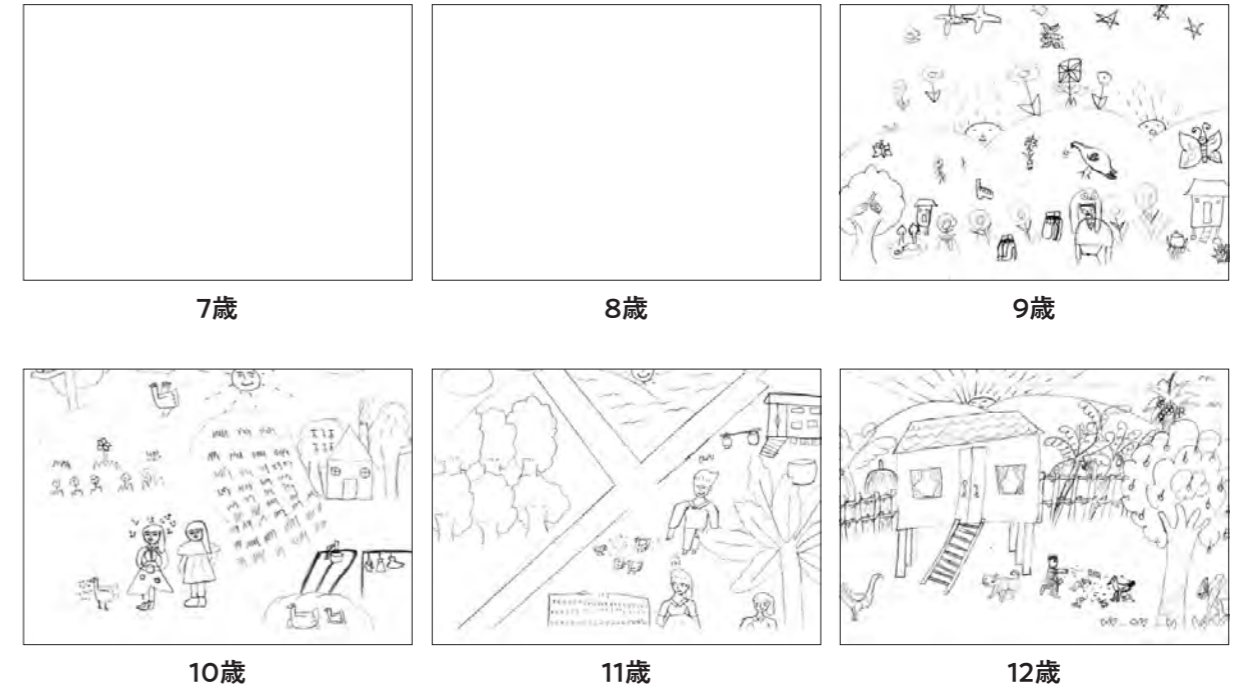
Drawing of the 2nd Survey



7 Siem Reap PS:SR-2 (Support by SAS) スモールアートスクール

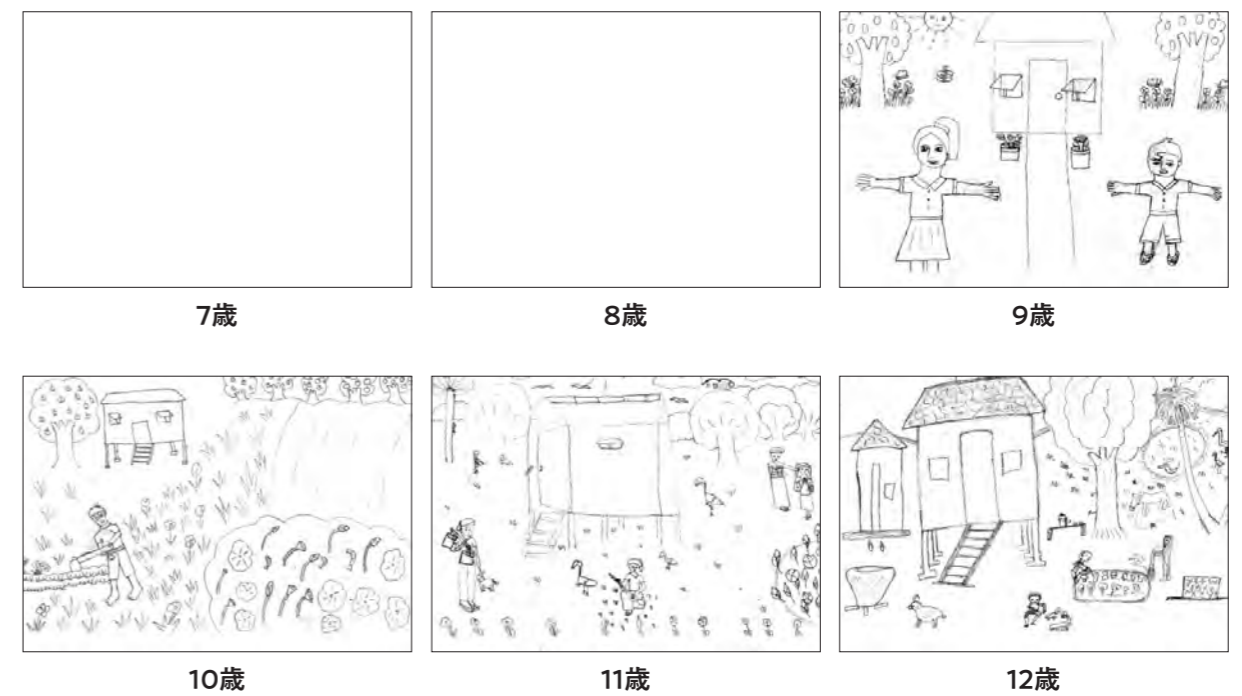
1回目の描画調査 (2019年2月28日~3月2日)

Drawing of the 1st Survey



2回目の描画調査 (2019年12月~2020年2月)

Drawing of the 2nd Survey



8 Japan PS:J (日本)

1回目の描画調査 (2019年2月28日~3月2日)

Drawing of the 1st Survey



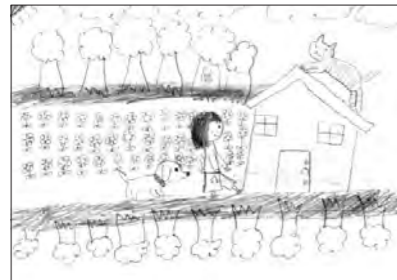
7歳



8歳



9歳



10歳



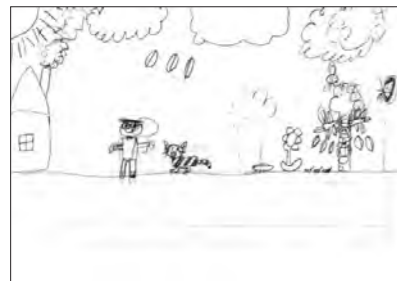
11歳



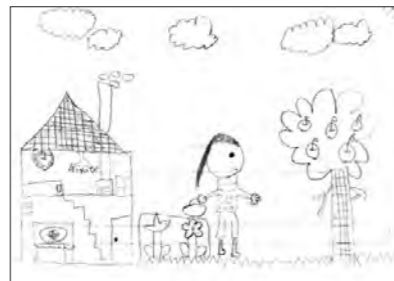
12歳

2回目の描画調査 (2019年12月~2020年2月)

Drawing of the 2nd Survey



7歳



8歳



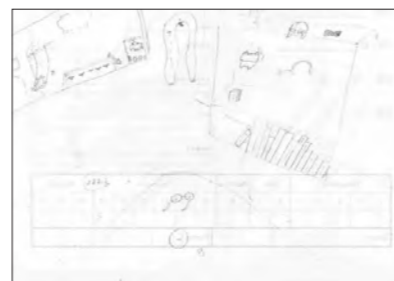
9歳



10歳



11歳



12歳

S-HTP 法によるカンボジアの幼児・児童の 描画活動に関する実証的研究 (I)

鈴木光男
(聖隷クリストファー大学)

「比較文化研究」 No.139 抜刷
2020年4月30日発行

S-HTP 法によるカンボジアの幼児・児童の 描画活動に関する実証的研究 (I)

鈴木 光 男
(聖隷クリストファー大学)

Empirical Study on Cambodian Children's Drawing by the S-HTP Method (Year 1)

Mitsuo SUZUKI
Seirei Christopher University

Abstract

The Japan Team of Young Human Power (JHP), a nonprofit corporation, and Small Art School have been actively supporting Cambodia. They have been facilitating teacher training and curriculum development in art education. As a result, an art subject will be newly introduced in the new Cambodian education curriculum. The new Cambodian curriculum will include one hour of art class per week and will be implemented in elementary schools. Prior to art education beginning in Cambodia, we investigated if there was a difference in the students' development of creative expression in drawing depending on whether the students had experience with the picture development method called the S-HTP (Synthetic House-Tree-Person technique). We found that children with learning experiences had more expressive power. They used their imagination based on their real life experiences while expressing their creativity through drawing.

はじめに

筆者は拙論「カンボジア王国の美術教育の現状——学校をつくる会 JHP の取り組みから——」(「比較文化研究」No. 131、日本比較文化学会)で次期教育課程改訂に伴う初等美術教育の動向と、それを支えてきた特定非営利活動法人「学校をつくる会 Japan Team of Young Human Power (以下、JHP)」の活動について報告した。ここでは2012年と2013年にカンボット・スヴァイリエン両州で実施された美術教員養成トレーニングを受講した教員(受講教員)と、受講していない教員(非受講教員)を対象にした面接調査をもとに教育観の変遷・変化や実際の授業に向かう姿勢などを分析・整理した。結果として、筆者が当初予想していた以上に、受講教員の初等美術教育観のみならず教育全般に関わる教育観・子供観・指導観が変容し、子供主体の進歩主義的なものとなって

いた。ただし、それにより実際の授業が変容しているかまでは明らかにはできていない。

そこで今回は、上記拙論を踏まえて、教員の比較ではなく子供たちの描画活動の差異に注目して調査することにした。現在のカンボジア教育課程では、絵を描くことを学習する日本の図画工作科に当たる科目はない。筆者が実践報告した「カンボジア王国における美術教育構築を目指した国際支援」(「美術教育」No. 291、日本美術教育学会)でも具体的に紹介しているが、社会科の中でお手本通りに、手順通りに絵を描く活動が少し採り入れられているのみである。次期教育課程で芸術科(音楽・美術)として週に1時間開設されることになったが、現在のところ自らのイメージを思いのまま自由に絵に表す学習を経験した児童は非常に少ない。

そこで、JHPが美術教育支援を継続している支援校と非支援校を対象にS-HTP法を用いて調査することにした。S-HTP法(Synthetic-HTP:統合型HTP)は、1枚の用紙に家、木、人の3つ全てを描いてもらう心理査定・検査の一つである。磯部美良・刀坂純子・井ノ上のぞみ(2012)は幼児期の子供の発達を探る手法の一つとしてS-HTP法を用いており、その有効性を報告している。また、筆者自身もこれまでにネパールの小学校とカンボジアにおいて同様にS-HTP法を用いて調査しており、子供の自然への感受性の違いや描画発達について論じている。

ここではJHP支援校・非支援校だけでなく、日本の元高校美術教師である笠原知子がアンコールワット近くのシェムリアップに開校した「小さな美術スクール Small Art School (以下、SAS)」と、日本の公立校でも同様に調査し、それぞれ比較することにした。この対比によって、思いのままに描く学習を経験していない児童と、ある程度は意図的に指導を受けた児童、それぞれの描画活動の違いを探るものである。

なお、本研究は平成30年度科学研究費助成事業基盤研究(C)(一般)課題番号18K02554による1年次のものであり、今後2年次・3年次と継続していく。また、拙論「カンボジア初等教育段階での日本の美術教育支援の実績と成果に関する調査——S-HTP法による児童の描画活動の差異に着目して——」(「比較文化研究」No. 135、日本比較文化学会)をさらに拡充・発展させる。

1. 調査概要

1-1 期間

2019年2月～3月

1-2 対象校(計8校)

- ・JHP支援校(カンボット州・スヴァイリエン州各1校、計2校)
- ・JHP非支援校(カンボット州・スヴァイリエン州・プノンペン市各1校、計3校)
- ・美術教育実践校(SAS関係校2校・日本公立校1校、計3校)

1-3 調査目的

カンボジア次期教育課程で、芸術科(音楽・美術)が週に1時間新設されることになった。しか

し現在は、描画の学習を経験している児童は非常に少ない。画材の不足も影響している。そこで、JHP がクレヨンや絵の具の提供など美術教育支援を継続している支援校と非支援校を対象に、描画の学習経験の有無から児童の描画にどのような違いが見られるかを S-HTP 法により調査する。合わせて、SAS 関係校や日本の公立校の児童の描画とも比較し、描画の学習経験の有無によりどのような違いが見られるかを実証的に明らかにするものである。

1-4 調査方法

S-HTP 法による描画調査。1~6 年生各学年 10 人の児童に、30 分間で横向き A4 用紙に家と木と人、その他思いついたものを自由に描いてもらい結果を分析・整理する。先述の通り、本調査では心理面の分析はせずに S-HTP 分析項目・観点（表 1）に従ってどのような表現がなされているかを整理し分析する。加えて、家や人については一般的な描画の発達段階に照らして分析し、付加物については描かれた具体物や種類に注目し整理する。以下、具体的な調査マニュアルである。これをもとに、どの学校においても同様の流れで進むようにした。実際の調査場面では、カンボット・スヴァイリエン両州の低学年児童は名前や年齢を書けない子が多く、現地アテンドスタッフが一人一人聞き取りながら書いていったため、調査に入るまでにかなりの時間を要した。

S-HTP 法 調査実施マニュアル

【検査のための説明】

1. 名前などの自己紹介。
2. 今日は皆さんに絵を描いてもらうために来ました。
3. でも、それは絵のうまい下手を見るためのものではありません。
4. 皆さんがどんな生活を送り、どんなことを考え、どんな絵を描くのかを見させてもらうためのものです。
5. それによって、よりよいカンボジアの学校や絵の学習を考えるための参考にします。
6. ですから、「うまく描かなくて」「ちゃんとした絵にしないで」などと考えずに、思いのままに好きなように描いてください。

【実施時の指示】

1. 紙（A4 コピー用紙）は横に使ってください。
2. 忘れないうちに裏に名前と、学年と、女の子か男の子かを書いてください。
3. （表に戻して）家と人と木を入れて、あとは何でも好きな絵を描いてください。
4. 家と木と人が入っていれば、どんな絵を描いてくれてもいいです。
5. 先ほど言ったように、絵のうまい下手を見るものではありませんが、いい加減でなく、できるだけ思いを込めて楽しんで描いてください。
6. 時間は 30 分間です。他の人のことは気にせずゆっくり描いてくださいね。30 分経たなくても提出したい人は提出してください。

表 1 S-HTP 分析項目と観点

分析項目	下位項目	分析の観点
統合性	1 明らかに統合的	全体的に一つのまとまった場面構成がなされ、不調和な部分がない。
	2 やや統合的	全体的に一つのまとまった場面構成がなされているが、一部に不調和な描写が残る。
	3 媒介による統合	家と木と人自体は羅列的だが、地面・山・草などの媒介によって一応の統合は図られている。
	4 やや羅列的	一部にやや関連づけは見られるが、全体的には羅列的に描かれている。
	5 羅列的	家と木と人が無関係に羅列されている。
描画サイズ	6 全体で4分の1以下	描かれた絵全体が、画用紙の4分の1以下の小さな絵（ただし、この物が離れて描かれている場合は、一箇所に集めた大きさを判断する）。
	7 HTPで4分の1以下	付加物は別にして、家と木と人の総和が4分の1以下の絵。
課題以外の付加物	8 付加物あり	家・木・人以外の付加物を書いている（地面は除く）。
遠近感	9 大	遠くまで細かく描き、遠近感が大きな絵。
	10 中	家木人の付近にのみ遠近感がある。
	11 ややあり	明確な遠近の示唆はないが、家木人が上下に描かれ、やや遠近感がある。
	12 直線（重なりあり）	家と木と人が直線上に並んでいて遠近感はないが、家と木、家と人など、いずれかが重なっている。
	13 直線（重なりなし）	家と木と人が直線上に並び、前後の重なりもない。
	14 ばらばら	家と木と人がばらばらに描かれ、遠近感がない。
現実的・非現実的描写	15 現実的	全体的に描写内容が身近で現実的な物。
	16 混合	現実的な内容と非現実的な内容が混在している物。
	17 非現実的	全体的に描写内容が非現実的な世界を描いている物。

2. 調査結果

聖隷クリストファー大学倫理委員会にて倫理審査の認証を受けた上で、調査の3か月前（2018年9月）までに JHP（東京事務所・ブノンペン事務所）・カンボジア教育省・SAS に出向き、調査目的や内容・方法などを口頭で説明した。その後、SAS 以外の JHP とカンボジア教育省の推薦により決定された調査対象校に關係文書を送付し、それぞれに必要な許諾を得てから各校ごと児童の調査協力依頼を行った。カンボット・スヴァイリエン両州の支援校・非支援校は近接した学校で生活環境に違いはないが、支援校には十分とは言えないまでも JHP による絵の具・クレヨン、画用紙などの提供が続けられ、JHP 主催の絵画コンクールなどへの参加も継続している。また、SAS の關係 2 校も貧しい農村地帯にあり先の学校とそれほどの生活環境の違いはないが、SAS による画材の提供よりも月 3 回（1 年で 20 回程度）の移動授業が提供されている点に違いがある。ブノンペンの学校は都会のしかも市街地に位置し、これまでの学校とは生活環境に大きな違いがある。日本の公立校も、地方都市とは言え市街地にある学校である。

実際には依頼したとおりの各学年 10 人ではなく、多少のばらつきがあった中での調査となった。また、日本とは違い同学年の中に大きな年齢の幅があるため、実際の分析では所属学年ではなく日本の学齢に合わせて整理した。加えて SAS では調査協力を得られた学年が 3 年生以上であった

め、SASに関連する分析については、その他の対象校なども3年生以上のデータのみで分析・比較することとした。以下、それぞれの調査結果について詳述する。

2-1 S-HTP 分析項目と観点をもとにした比較 (表2)

2-1-1 JHP 支援校と非支援校の比較 (表2左)

描画全体の「統合性」を見ると、JHP 支援校（以下、支援校）は統合的であり、JHP 非支援校（以下、非支援校）は羅列的であると言える。また、「描画サイズ」に関しては、支援校は絵が大きく「勇敢」に描画されている。「勇敢」とはカンボジアの小学校教員がよく口にする言葉で、大胆に進んで表現する児童を評した言葉である。そして、「遠近感」に関しては支援校の方が遠近が表現されており、非支援校はばらばらとしていて遠近が表現されていないものも多く見られた。家や人の表現にも違いが見られ、支援校の方が立体表現に優れ、非支援校では人を描かない児童が多く見られた。人体を表現することに自信が無く抵抗があるものと推測された。

2-1-2 支援校と日本公立校の比較 (表2右)

「課題以外の付加物」に関して、日本の児童は100%の児童が付加物を描いている。この項目は、

表2 S-HTP による児童の絵の比較 (JHP 支援校と非支援校・日本の小学校)

分析項目		出現率 (%)		χ ² 値	出現率 (%)		χ ² 値
		支援校 102人	非支援校 163人		支援校 102人	日本 53人	
(全体) 統合性	明らかに統合的	23.5	16.0	.125	23.5	35.8	.104
	やや統合的	22.5	12.9	.040*	22.5	13.2	.163
	媒介による統合	27.5	17.8	.063	27.5	18.9	.239
	やや羅列的	17.6	30.7	.018*	17.6	24.5	.310
	羅列的	7.8	22.7	.002**	7.8	5.7	.616
描画 サイズ	全体で4分の1以下	3.9	16.0	.003**	3.9	5.7	.621
	HTPで4分の1以下	9.8	21.5	.014*	9.8	11.3	.768
付加物	あり	91.2	88.3	.465	91.2	100.0	.026*
遠近感	大	9.8	6.1	.271	9.8	9.4	.941
	中	23.5	14.1	.050*	23.5	22.6	.901
	ややあり	26.5	9.8	.001***	26.5	9.4	.013*
	直線 (重なりあり)	13.7	16.6	.534	13.7	17.0	.589
	直線 (重なりなし)	20.6	33.7	.021*	20.6	32.1	.115
	ばらばら	4.9	19.6	.001***	4.9	9.4	.276
現実的非 現実的描 写	現実的	87.3	85.3	.651	87.3	60.4	.001***
	混合	11.8	12.9	.788	11.8	30.2	.005**
	非現実的	0.0	1.8	.168	0.0	9.4	.002**
家	正面・枠のみ	0.0	2.5	.111	0.0	1.9	.164
	正面・曖昧な表現	5.9	15.3	.020*	5.9	15.1	.058
	正面・平面的	53.9	44.8	.148	53.9	56.6	.750
	やや立体的	30.4	22.1	.130	30.4	15.1	.037*
	立体的	8.8	15.3	.123	8.8	11.3	.618
人	頭足人	0.0	1.8	.168	0.0	0.0	—
	前図式的	16.7	19.0	.629	16.7	20.8	.530
	図式的	46.1	46.0	.992	46.1	66.0	.018*
	前写実的	13.7	8.0	.132	13.7	13.2	.929
	写実的	4.9	2.5	.284	4.9	0.0	.101
	棒人間	16.7	16.0	.878	16.7	0.0	.002**
	なし	1.0	6.7	.028*	1.0	0.0	.470

(*:p<.05, **:p<.01, ***:p<.001)

積極性やパーソナリティの豊かさに関するものであり、日本の児童は想像力があり積極的に描画活動に取り組んでいることが分かる。この違いは、「現実的・非現実的描写」の項目においてもその関連が顕著に見られ、日本の児童は空想に富み、支援校はリアルな生活描写がなされていた。しかし、「遠近感」や家の立体表現については支援校の方が日本の児童よりやや上回った結果となった。田畑や森林などに囲まれたカンボジアの子供たちの生活環境、またそこで日々労働すること・家事を手伝うことを当たり前としている生活実態の違いが遠近感や家の立体表現に影響していることが想定される。これはあくまで推測であり、今回に限った傾向なのか、今後も調査を継続する中で明らかにしていきたい。ただし、人物の表現については日本の児童は積極的で戸惑いは見られず、支援校の児童は不慣れで消極的であることを確認した。

2-1-3 SAS と非支援校・日本の比較 (表3)

SASの描画調査は3年生以上の児童のみであったため、非支援校、日本公立校共に3年生以上のデータで比較・整理した。

表3 S-HTP による3年生以上の児童の絵の比較 (SAS と JHP 非支援校・日本の小学校)

分析項目		出現率 (%)		χ ² 値	出現率 (%)		χ ² 値
		SAS	非支援校		SAS	日本	
		72人	117人		72人	32人	
(全体) 統合性	明らかに統合的	41.7	22.2	.004**	41.7	56.3	.169
	やや統合的	37.5	16.2	.001***	37.5	21.9	.117
	媒介による統合	11.1	23.1	.040*	11.1	3.1	.181
	やや羅列的	8.3	24.8	.005**	8.3	15.6	.264
	羅列的	1.4	13.7	.004**	1.4	3.1	.552
描画 サイズ	全体で4分の1以下	0.0	11.1	.003**	0.0	3.1	.132
	HTPで4分の1以下	8.3	15.4	.157	8.3	9.4	.862
付加物	あり	100.0	92.3	.016*	100.0	100.0	—
遠近感	大	11.1	8.5	.560	11.1	15.6	.521
	中	45.8	19.7	.001***	45.8	37.5	.429
	ややあり	20.8	12.0	.100	20.8	15.6	.534
	直線 (重なりあり)	18.1	20.5	.679	18.1	12.5	.479
	直線 (重なりなし)	1.4	27.4	.001***	1.4	15.6	.004**
	ばらばら	2.8	12.0	.028*	2.8	3.1	.922
現実的非 現実的描 写	現実的	93.1	86.3	.153	93.1	59.4	.001***
	混合	5.6	12.8	.107	5.6	28.1	.001***
	非現実的	1.4	0.9	.727	1.4	12.5	.015*
家	正面・枠のみ	0.0	0.9	.432	0.0	0.0	—
	正面・曖昧な表現	13.9	9.4	.340	13.9	0.0	.027*
	正面・平面的	68.1	44.4	.002**	68.1	59.4	.390
	やや立体的	18.1	24.8	.280	18.1	21.9	.648
	立体的	0.0	20.5	.001***	0.0	18.8	.001***
人	頭足人	0.0	0.9	.432	0.0	0.0	—
	前図式的	26.4	17.1	.125	26.4	3.1	.005**
	図式的	52.8	48.7	.588	52.8	75.0	.033*
	前写実的	9.7	11.1	.763	9.7	21.9	.094
	写実的	2.8	3.4	.807	2.8	0.0	.341
	棒人間	1.4	13.7	.004**	1.4	0.0	.503
	なし	6.9	5.1	.605	6.9	0.0	.127

(*:p<.05, **:p<.01, ***:p<.001)

SASと非支援校を比較すると、「統合性」「描画サイズ」「付加物」「遠近感」において違いが見られた。SASは絵が統合的で絵が大きく、想像力があり積極的に描画に取り組み、家・木・人の周辺には遠近感があり、人体の表現に優れていた。非支援校は、それに反して描かれたものが羅列的であり、楽しみながら描いているという印象や表現のエネルギーに関して乏しいと思われる絵が多く見られた。また、SASと日本の児童を比較すると、非支援校ほどの差異は認められなかった。SASは家・木・人の付近に遠近感が認められ、日本は直線上に重なりなく描かれていて発想に富んだ空想的で非現実的なものが見られた。

2-2 付加物の比較をもとにした比較 (表4・表5)

家・木・人以外に描かれた付加物について、支援校と非支援校・日本公立校、並びにSASと非支援校・日本公立校を比較した。以下、具体的に比較結果を検討する。

2-2-1 支援校と非支援校・日本公立校の比較 (表4)

表4は、付加物について支援校との差が認められた付加物を具体的に列記したものである。表4の左が支援校と非支援校の比較であり、中央の直線より上は支援校の方に多く見られた付加物、直線より下は非支援校に多く見られた付加物である。そして、右は支援校と日本公立校を比較したもので、同様に直線より上は支援校に多く見られた付加物であり、下は日本公立校に多く見られたものである。

表4 支援校との差が認められた付加物の比較 (左:非支援校/右:日本公立校)

付加物	出現率		χ ² 値	付加物	出現率		χ ² 値
	支援校	非支援校			支援校	日本	
	102人	163人			102人	53人	
草花	75.5	62.0	.023*	草花	75.5	37.7	.001***
山	51.0	13.5	.001***	太陽	72.5	45.3	.001***
田畑	34.3	6.1	.001***	山	51.0	1.9	.003**
かめ・バケツ・籠	12.7	1.2	.001***	鳥	40.2	17.0	.001***
虫	6.9	23.9	.001***	田畑	34.3	0.0	.018*
道	7.8	22.1	.002**	かめ・バケツ・籠	12.7	1.9	.025*
乗物	5.9	16.6	.010*	池	9.8	0.0	.001***
遊具	1.0	6.1	.041*	動物	3.9	49.1	.001***
				乗物	5.9	26.4	.001***
				お化け等	0.0	15.1	.001***
				虹	0.0	9.4	.002**
				遊具	0.0	9.4	.010*
				本	0.0	9.4	.002**
				信号	0.0	7.5	.005**
				キャラクター	1.0	5.7	.015*
				月	0.0	5.7	.015*
				屋外時計	0.0	5.7	.015*
				花壇	0.0	5.7	.015*
				ポスト	0.0	3.8	.048*
				イーゼル	0.0	3.8	.048*

支援校では生活に密着した山や草花・田畑・かめなどが多く描かれており、非支援校では道や虫・乗物・遊具が多く描かれていた。非支援校の中にプノンペンの小学校が含まれており、都会と地方の生活環境の違いからこのような差異が出てきていると思われる。また、日本公立校では動物や乗物・お化け、その他本やイーゼル、花壇など日常・非日常を交えてカンボジアでは馴染みのないものが描かれていた。この表には出ていないが、火の玉や妖怪・お化けなどオカルティックなものが見られたのが日本の児童の絵の特徴と言える。このような日本の児童の絵の特徴は、三沢(2014)もタイの児童の絵と比較して「非現実的描写」の多さを指摘している。日本の児童は非常にバラエティに富んだ付加物を想像し積極的に描き加え、自身の絵の中に自らつくり上げたストーリーを展開している点も、カンボジアの児童とは大きく違う点である。

2-2-2 SASと非支援校・日本公立校の比較 (表5)

表5は、付加物についてSASとの差が認められた付加物を列記したものである。表5の左がSASと非支援校、右はSASと日本公立校を比較したものである。非支援校とSASは似たような生活環境下でありながらSASの方が「かめ・バケツ・籠」など生活に直結したものを積極的に描いていることが分かる。また、日本公立校の児童との比較においては、表4の支援校ほどの差異はないが、明らかに生活環境や習慣の違いが表れた結果となっている。付加物の比較と合わせて、各校6年生の描画例1~6に描かれた絵の内容なども参照いただきたい。

調査に協力した日本公立校の校長は、絵を全て見終えた後、「カンボジアの子供の絵は、健康的で素直に自分や生活を描いている。日本の子供たちの絵は、空想に富んでいるが、どこか心配な印象も受ける。」と語った。同様に三沢(2014)は、S-HTP調査の結果を踏まえて「子どもの前頭前野が育つためには、多様な人間関係の中で育つことが必要である。日本におけるさまざまな問題は、これまで一般的にいわれてきたように家庭の崩壊よりも、実はそれを支える地域の崩壊の方が大きい¹⁾と指摘している。昨今の日本の子供が置かれた現状が、「発達停滞」(三沢, 2014)に

表5 SASとの差が認められた3年生以上の付加物の比較 (左:非支援校/右:日本公立校)

付加物	出現率		χ ² 値	付加物	出現率		χ ² 値
	SAS	非支援校			SAS	日本	
	72人	117人			72人	32人	
山	47.2	13.5	.001***	太陽	77.8	18.9	.001***
虫	44.4	19.0	.011*	草花	77.8	22.6	.001***
動物	27.8	8.0	.003**	雲	59.7	20.8	.001***
田畑	23.6	5.5	.002**	鳥	56.9	9.4	.050*
魚	18.1	5.5	.031*	山	47.2	1.9	.001***
かめ・バケツ・籠	12.5	1.2	.002**	虫	44.4	1.9	.003**
井戸	6.9	0.0	.004**	田畑	23.6	0.0	.017*
				川	11.1	0.0	.010**
				魚	18.1	0.0	.001***
				乗物	8.3	17.0	.008**
				お化け等	0.0	9.4	.001***
				月・星	0.0	3.8	.032*
				屋外時計	0.0	3.8	.032*

支援校では生活に密着した山や草花・田畑・かめなどが多く描かれており、非支援校では道や虫・乗物・遊具が多く描かれていた。非支援校の中にブノンペンの小学校が含まれており、都会と地方の生活環境の違いからこのような差異が出てきていると思われる。また、日本公立校では動物や乗物・お化け、その他本やイーゼル、花壇など日常・非日常を交えてカンボジアでは馴染みのないものが描かれていた。この表には出ていないが、火の玉や妖怪・お化けなどオカルティックなものが見られたのが日本の児童の絵の特徴と言える。このような日本の児童の絵の特徴は、三沢(2014)もタイの児童の絵と比較して「非現実的描写」の多さを指摘している。日本の児童は非常にバラエティに富んだ付加物を想像し積極的に描き加え、自身の絵の中に自らつくり上げたストーリーを展開している点も、カンボジアの児童とは大きく違う点である。

2-2-2 SAS と非支援校・日本公立校の比較 (表5)

表5は、付加物についてSASとの差が認められた付加物を列記したものである。表5の左がSASと非支援校、右はSASと日本公立校を比較したものである。非支援校とSASは似たような生活環境下にありながらSASの方が「かめ・バケツ・籠」など生活に直結したものを積極的に描いていることが分かる。また、日本公立校の児童との比較においては、表4の支援校ほどの差異はないが、明らかに生活環境や習慣の違いが表れた結果となっている。付加物の比較と合わせて、各校6年生の描画例1~6に描かれた絵の内容なども参照いただきたい。

調査に協力した日本公立校の校長は、絵を全て見終えた後、「カンボジアの子供の絵は、健康的で素直に自分や生活を描いている。日本の子供たちの絵は、空想に富んでいるが、どこか心配な印象も受ける。」と語った。同様に三沢(2014)は、S-HTP調査の結果を踏まえて「子どもの前頭前野が育つためには、多様な人間関係の中で育つことが必要である。日本におけるさまざまな問題は、これまで一般的にいわれてきたように家庭の崩壊よりも、実はそれを支える地域の崩壊の方が大きい¹⁾」と指摘している。昨今の日本の子供が置かれた現状が、「発達の停滞」(三沢, 2014)に

表5 SAS との差が認められた3年生以上の付加物の比較 (左:非支援校 / 右:日本公立校)

付加物	出現率		χ ² 値	付加物	出現率		χ ² 値
	SAS	非支援校			SAS	日本	
	72人	117人			72人	32人	
山	47.2	13.5	.001***	太陽	77.8	18.9	.001***
虫	44.4	19.0	.011*	草花	77.8	22.6	.001***
動物	27.8	8.0	.003**	雲	59.7	20.8	.001***
田畑	23.6	5.5	.002**	鳥	56.9	9.4	.050*
魚	18.1	5.5	.031*	山	47.2	1.9	.001***
かめ・バケツ・籠	12.5	1.2	.002**	虫	44.4	1.9	.003**
井戸	6.9	0.0	.004**	田畑	23.6	0.0	.017*
				川	11.1	0.0	.010**
				魚	18.1	0.0	.001***
				乗物	8.3	17.0	.008**
				お化け等	0.0	9.4	.001***
				月・星	0.0	3.8	.032*
				屋外時計	0.0	3.8	.032*

結び付いているとしたら、絵画の学習にとどまらず学校教育とその周辺を今一度見つめ直さなければならぬだろう。本調査の主たる目的や内容とはいささかずれることではあるが、指摘しておきたいことのひとつである。

3. 調査結果を受けての考察

支援校の児童は「統合性」「描画サイズ」「遠近感」、また立体表現・人物表現において非支援校児童よりも発達が促進された面が認められ、絵画学習の経験の蓄積が描画活動に影響していることが推察された。また、そこに描かれる内容も生活環境や生活習慣をもとに地に足のついた現実的なものであって、絵を描きながら次々に想を広げ内容を豊かなものに行っていることが分かった。絵の描き方の発達ももちろんではあるが、この想像力の発達に着目すべき点があると言えよう。絵画の学習経験の有無が、想像力に影響を及ぼしていると判断できる。また、付加物を積極的に描くには、絵に対する愛好度や柔軟性、また積極性が求められる。こうした点も絵画学習の成果として挙げることができよう。

また、SAS代表の笠原和子の絵画指導を受けている児童は、支援校より「統合性」や「遠近感」において発達している面が見られた。また、日常生活の実感ある絵が描かれていて、一人一人のパーソナルな側面が垣間見えるものが多かった。つまり、1枚の絵として「こんな絵にしたい」というある程度まとまったその子なりのイメージや主題が明確化されているのである。ここには笠原、そして協力するSASのスタッフの児童への関わり方など支援・指導の方法や内容・頻度の違いなどがありそうであるが、それは今後の課題として次回以降の調査で明らかにしていく。

日本の児童は、恵まれた学習環境にあり、文化的な情報や体験の蓄積が甚だ大きい。その中で、特に日常を離れ容易に空想の世界にまで想像を広げ、表現を主体的に展開する姿勢・態度はこれまでの図画工作科学習の成果と言える。しかし、ともすると二次元空間でのバーチャルな経験が多くなり、リアルな生活体験が乏しくなりがち傾向が、遠近感や日常生活を対象化し認識することを弱体化させているのかも知れない。この点は、三沢(2014)の指摘とも重ねて、日本の児童の絵の表現力に見られる停滞を危惧するところである。彼らの表現が立ち現れる前後の経験や環境を豊かにし、身体的なリアルな実感を伴う活動・経験をより一層充実させていくことが重要なのだろう。

おわりに

本調査は2018~20年度の期間に3回繰り返し行う計画であり、本論文はその初年次1回目に当たるものである。今後は2回目・3回目と同様の調査・分析を繰り返すと共に、個々の児童の描画がどう変化するのかについても可能な範囲で追跡して調査・分析していく予定である。

今回の調査では、絵に表す学習経験の有無により、描画活動に対する積極性や想像力に顕著な違いが見られた。ケン・ロビンソン(2019)らが指摘するように「想像力は、感覚では察知できないものを心に思い描く能力であり、創造性の源である。創造性は想像力を働かせること。想像の応用

なの¹⁾である。非支援校へも描画活動の機会が少しでも保障され、画材が支援されれば、支援校やSASと同様の学習成果が期待される場所である。現在、JICAによる初等美術教育に関するカリキュラム開発と教科書作成がJHPの協力のもとで進められており、今後も継続した支援が望まれる。

また、今回の調査結果には描画学習経験の有無だけではなく、地域によっても大きな違いが見られた。文化的な情報や体験の蓄積や、絵に傾けるエネルギーの違いと思われる点である。この点についても、今後の調査でさらに明らかにしていく。

本研究はJSPS科研費JP18K02554の助成を受けたものです。

引用文献

- 1) 三沢直子 (2014) 『S-HTP に表れた発達の停滞』, 誠信書房
- 2) ケン・ロビンソン, ルー・アロニカ, 岩木貴子訳 (2019) 『創造性が育つ世界最先端の教育』, 東洋館出版社

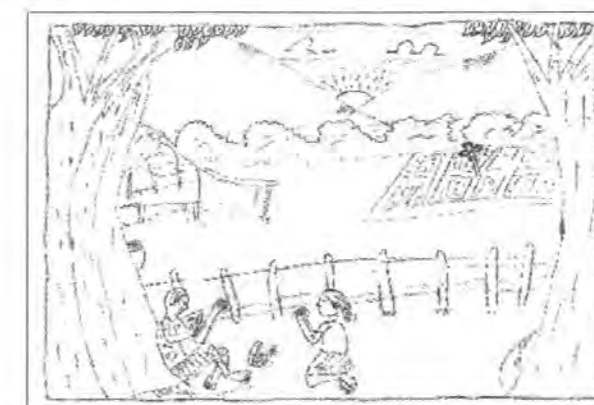
参考文献

- 鈴木光男 (2018) 「カンボジア王国の美術教育の現状——学校をつくる会JHPの取り組みから——」, 『比較文化研究』No.131, 日本比較文化学会
- 高橋雅春 (1974) 『描画テスト入門——HTPテスト』, 文教書院
- 磯部美良・刀坂純子・井ノ上のぞみ (2012) 「S-HTP法を用いた幼児の描画発達に関する短期縦断的研究-環境教育の効果測定法として」, 『人間発達研究』vol.2, 南九州大学
- 東山明 (2016) 『子どもの絵の発達と道筋——子どもの絵の作品と説明』, 日本文教出版
- 藤後悦子・坪井寿子・田中真奈美・鈴木光男・磯友輝子 (2013) 「子どもの自然への感受性・ネパール子どもたちの描画を通して——」, 『東京未来大学研究紀要』vol.6, 東京未来大学
- 三沢直子 (2002) 『描画テストに表れた子どもの心の危機—S-HTPにおける1981年と1997年~99年の比較』, 誠信書房
- 鈴木光男 (2019) 「カンボジア初等教育段階での日本の美術教育支援の実績と成果に関する調査——S-HTP法による児童の描画活動の差異に着目して」, 『比較文化研究』No.135, 日本比較文化学会

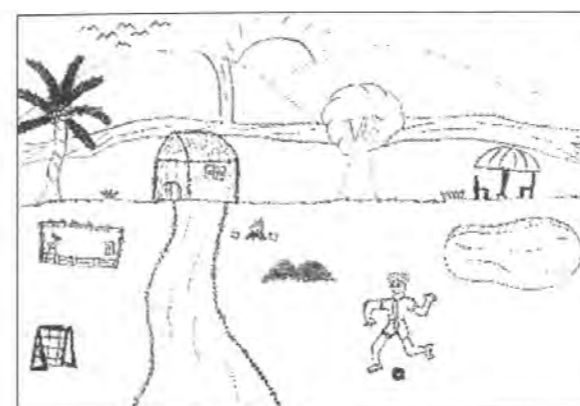
(聖隷クリストファー大学教授)

資料

調査対象校の典型的な描画例



描画例1 カンボット支援校



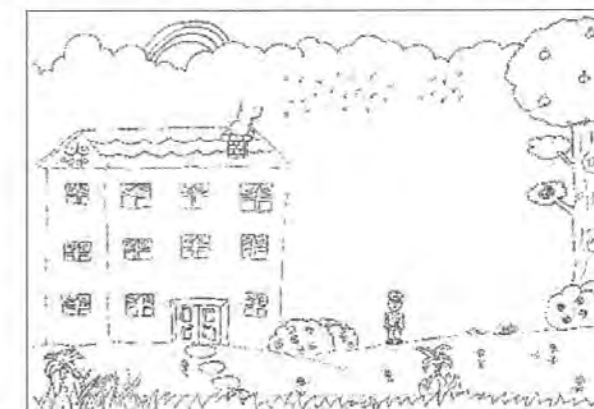
描画例2 カンボット非支援校



描画例3 スヴァイリエン支援校



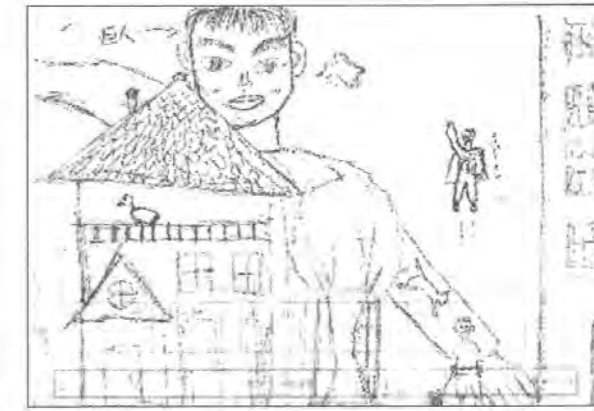
描画例4 スヴァイリエン支援校



描画例5 プノンベン非支援校



描画例6 SAS



描画例7 日本公立校

ការសិក្សាស្រាវជ្រាវអំពីសកម្មភាពគំនូរបស់កុមារកម្ពុជាដោយប្រើវិធីសាស្ត្រ S-HTP (I)

ស្រាវជ្រាវដោយសាស្ត្រាចារ្យមីស៊ីអូ ស៊ីស៊ី ណៃសាកលវិទ្យាល័យស៊ីរីគ្រីស្ទហ្វឺ

Empirical study on Cambodian children's drawing by the S-HTP method (Year 1)

Mitsuo Suzuki

Seirei Christopher University

Abstract

The Japan Team of Young Human Power (JHP), a nonprofit corporation, and Small Art School have been actively supporting Cambodia. They have been facilitating teacher training and curriculum development in art education. As a result, an art subject will be newly introduced in the new Cambodian education curriculum. The new Cambodian curriculum will include one hour of art class per week and will be implemented in elementary schools. Prior to art education beginning in Cambodia, we investigated if there was a difference in the students' development of creative expression in drawing depending on whether the students had experience with the picture development method called the S-HTP (Synthetic House-Tree-Person technique). We found that children with learning experiences had more expressive power. They used their imagination based on their real life experiences while expressing their creativity through drawing.

សេចក្តីផ្តើម

អ្នកចងក្រងបានរៀបរាប់ថា "ស្ថានភាពការអប់រំសិល្បៈបច្ចុប្បន្ននៅព្រះរាជាណាចក្រកម្ពុជា ការខិតខំប្រឹងរបស់អង្គការសាងសង់សាលារៀនអោយកុមារ JHP- ("ការសិក្សាសាវជ្រាវវប្បធម៌ប្រៀបធៀប" លេខ១៣១ និងសន្និសីទសិក្សាវប្បធម៌ប្រៀបធៀបជប៉ុន") ដែលវាជានិទ្ទាការអប់រំសិល្បៈបឋមដែលអមជាមួយនឹងការកែប្រែកម្មវិធីសិក្សាវគ្គបន្ទាប់ ។ យើងបានរាយការណ៍អំពីសកម្មភាពរបស់អង្គការមិនរកប្រាក់ចំណេញ Japan Team of Young Human Power ហៅកាត់ថា JHP ផងដែរនៅអង្គប្រជុំ ដែលអង្គការមួយនេះធ្លាប់បានជួយគាំទ្រកន្លងមក ។ ដោយផ្អែកលើការស្រាវជ្រាវសំខាន់ៗដែលបានចូលរួមវគ្គបណ្តុះបណ្តាលគ្រូមុខវិជ្ជាសិល្បៈនៅខេត្តកំពត និងស្វាយរៀងក្នុងឆ្នាំ២០១២ និង២០១៣ និងបទសម្ភាសន៍ជាមួយគ្រូដែលមិនបានចូលរួម ខ្ញុំក៏បានធ្វើការរៀបចំ និងវិភាគទំរង់បែបបទដើម្បីអោយស្របទៅនឹងមេរៀនជាក់ស្តែងដែលមានការផ្លាស់ប្តូរទស្សនៈចំពោះនៃការអប់រំ ។ ជាលទ្ធផលគឺមិនមែនត្រឹមតែទស្សនៈនៃការអប់រំសិល្បៈបឋមនៃគ្រូដែលបានទទួលការបណ្តុះបណ្តាលតែប៉ុណ្ណោះទេ វាក៏បានបង្ហាញអំពីទស្សនៈដឹងនាំអប់រំកុមារ ទស្សនៈការបង្រៀនទាក់ទងនឹងការអប់រំទូទៅ ដែលមានការផ្លាស់ប្តូរច្រើនជាងអ្វីដែលខ្ញុំបានរំពឹងទុក ហើយវាក៏បានក្លាយជាវឌ្ឍនភាពមួយដែលផ្តោតទៅលើកុមារ។ ទោះយ៉ាងណាក៏ដោយ

យើងមិនទាន់អាចបញ្ជាក់ច្បាស់ថា តើមេរៀនជាក់ស្តែងបានផ្លាស់ប្តូរយ៉ាងដូចម្តេចនោះទេ ។

ដូច្នេះលើកនេះផ្អែកលើគំនិតខាងលើ ខ្ញុំមិនបានធ្វើការប្រៀបធៀបលោកគ្រូអ្នកគ្រូទេ តែខ្ញុំបានធ្វើការ ស្រាវជ្រាវដោយផ្តោតលើគំនិតខុសគ្នានៃសកម្មភាពគំនូរបស់កុមារនីមួយៗ ។ នៅក្នុងកម្មវិធីសិក្សានៅកម្ពុជាបច្ចុប្បន្នការសិក្សាគំនូរមិនមានមុខវិជ្ជាណាមួយដែលត្រូវនឹងមុខវិជ្ជាគំនូរ និងសិប្បកម្មរបស់ប្រទេស ជប៉ុននោះទេ។ ហើយខ្ញុំបានណែនាំយ៉ាងជាក់លាក់ដែរ "អំពីការគាំទ្រអន្តរជាតិសំដៅដល់កសាងសង់ការអប់រំសិល្បៈនៅក្នុងព្រះរាជាណាចក្រកម្ពុជា" "ការអប់រំសិល្បៈ" លេខ២៩១, នៅក្នុងរបាយការណ៍អនុវត្តកន្លងមក ប៉ុន្តែនៅក្នុងការសិក្សាសង្គមមានតែសកម្មភាពតិចតួចប៉ុណ្ណោះក្នុងការគូរគំនូរតាមនីតិវិធីត្រឹមត្រូវ និងទៅតាមគំរូ។ នៅក្នុងកម្មវិធីសិក្សាវគ្គបន្ទាប់ មុខវិជ្ជាសិល្បៈ (ជូរតន្ត្រី / សិល្បៈ) នឹងត្រូវបង្រៀនរយៈពេល១ម៉ោងក្នុងមួយសប្តាហ៍ ប៉ុន្តែនៅពេលបច្ចុប្បន្ននេះមានកុមារតិចតួចណាស់ដែលមានបទពិសោធន៍ធ្លាប់រៀនសូត្រដើម្បីបង្ហាញគំនូរផ្ទាល់ ខ្លួនរបស់ពួកគេដោយសេរីនោះ ។

ហេតុដូច្នេះហើយ បានជាខ្ញុំសម្រេចធ្វើការស្រាវជ្រាវដោយប្រើវិធីសាស្ត្រ S-HTP សម្រាប់សាលាដែលមិនមានការគាំទ្រ និងសាលាដែលកំពុងបន្តការគាំទ្រពីអង្គការ JHP ដល់ការអប់រំសិល្បៈ ។ វិធីសាស្ត្រ S-HTP (Synthetic-HTP: រូបបញ្ចូល HTP) គឺជាផ្នែកមួយនៃការពិនិត្យ ឬវាយតម្លៃចិត្តសាស្ត្រដែលអោយកុមារគូរគំនូរចំនួន៣មានដូចជា រូបមនុស្ស ដើមឈើ និងផ្ទះនៅលើក្រដាសមួយសន្លឹក ។ Isobe Miyoshi, Katanasaka Junko, Inoue Nozomi (ឆ្នាំ២០១២) បានប្រើវិធីសាស្ត្រ S-HTP ដែលជាវិធីសាស្ត្រមួយដើម្បីធ្វើការអង្កេតពីការអភិវឌ្ឍរបស់កុមារក្នុងវ័យកុមារភាព ហើយក៏បានធ្វើសេចក្តីវាយការណ៍ពីប្រសិទ្ធភាពរបស់វាផងដែរ ។ ក្រៅពីនេះអ្នកចងក្រងខ្លួនឯងផ្ទាល់ក៏បានធ្វើការអង្កេតដោយប្រើវិធីសាស្ត្រ S-HTP នៅតាមសាលាបឋមសិក្សាក្នុងប្រទេសកម្ពុជា និងប្រទេសនេប៉ាល់ផងដែរ ហើយបានពិភាក្សាអំពីភាពខុសគ្នានៃការមានចំណាប់អារម្មណ៍របស់កុមារចំពោះធម្មជាតិ និងការអភិវឌ្ឍការគូរគំនូរ។

មិនត្រឹមតែសាលាដែលគាំទ្រ និងមិនគាំទ្រដោយអង្គការ JHP តែប៉ុណ្ណោះទេ ក៏ប៉ុន្តែអតីតគ្រូបង្រៀនសិល្បៈនៅវិទ្យាល័យជប៉ុនម្នាក់អ្នកគ្រូ Tomoko Kasahara ក៏បានបើក "សាលាសិល្បៈខ្នាតតូចមួយឈ្មោះ Small Art School (SAS)" នៅខេត្តសៀមរាបក្បែរប្រាសាទអង្គរវត្ត រួមទាំងសាលារដ្ឋនៅជប៉ុនក៏បានធ្វើការស្រាវជ្រាវ ហើយបានសម្រេចធ្វើការប្រៀបធៀបគ្នាទៅវិញទៅមកផងដែរ ។ តាមរយៈការប្រៀបធៀបនេះគឺមានគោលបំណងដើម្បីសិក្សាស្វែងយល់ពីកុមារដែលមិនមានបទពិសោធន៍ក្នុង

ការគូរដូចដែលពួកគេចង់បាន
និងដើម្បីចង់ដឹងពីភាពខុសគ្នានៃសកម្មភាពគូរក្នុងចំណោមកុមារដែលត្រូវបានបណ្តុះបណ្តាលដោយមានការ
គ្រោងទុក។

ការស្រាវជ្រាវនេះគឺសម្រាប់ឆ្នាំ២០១៨ដោយផ្អែកលើមូលដ្ឋានជំនួយហិរញ្ញប្បទានឥតសំណងសម្រាប់ការស្រាវ
ជ្រាវវិទ្យាសាស្ត្រ (C) (ទូទៅ) ប្រធានបទលេខ ១៨K0២៥៥៤ ហើយនឹងបន្តទៅឆ្នាំទី២ និងឆ្នាំទី៣បន្តទៀត ។
លើសពីនេះទៀត "ការស្ទង់មតិលើលទ្ធផល
និងសមិទ្ធផលនៃការអប់រំសិល្បៈជប៉ុននៅដំណាក់កាលនៃការអប់រំបឋមនៅកម្ពុជាផ្តោតលើគំនិតខុសគ្នានៃ
សកម្មភាពគំនូររបស់កុមារតាមវិធីសាស្ត្រS-HTP" ("ការស្រាវជ្រាវវប្បធម៌ប្រៀបធៀប" លេខ៣៥,
សន្និសីទសិក្សាប្រៀបធៀបវប្បធម៌ជប៉ុន) នឹងត្រូវបានពង្រីក និងអភិវឌ្ឍបន្ថែមទៀត ។

១) សេចក្តីសង្ខេបការស្ទង់មតិ

១-១ រយៈពេល: ពីខែកុម្ភៈដល់មីនា ២០១៩

១-២ សាលាគោលដៅ (សរុប ៨សាលា)

- សាលាដែលគាំទ្រដោយHP(នៅខេត្តកំពត១សាលា និងនៅស្វាយរៀង១សាលា សរុបចំនួន២សាលា)
- សាលាដែលមិនបានគាំទ្រដោយHP(នៅខេត្តកំពត១សាលា នៅស្វាយរៀង១សាលា និងនៅភ្នំពេញ១សាលា សរុបចំនួន៣សាលា)
- សាលាអនុវត្តការអប់រំសិល្បៈ(សាលាដែលទាក់ទងនឹងសាលាអង្គការSAS២សាលា សាលារដ្ឋជប៉ុន១សាលា សរុបចំនួន៣សាលា)

១-៣ គោលបំណងការស្ទង់មតិ

នៅក្នុងកម្មវិធីសិក្សាវគ្គបន្ទាប់របស់ប្រទេសកម្ពុជាផ្នែកមុខវិជ្ជាសិល្បៈ (ដូតត្រី / សិល្បៈ) ត្រូវបានបង្កើតឡើងដោយបង្រៀន១ម៉ោងក្នុង១សប្តាហ៍ ។ ប៉ុន្តែ នាពេលបច្ចុប្បន្ននេះមានកុមារតិចតួចណាស់ដែលកំពុងបានរៀនថ្នាក់សិល្បៈគូរគំនូរនេះ ។ ការខ្វះខាតសម្ភារៈគំនូរក៏ជាមូលហេតុម្យ៉ាងផងដែរ។ ដូច្នេះហើយបានយើងស្រាវជ្រាវដោយផ្អែកលើវិធីសាស្ត្រS-HTPដើម្បីកំណត់ថា តើគំនូររបស់កុមារប្រភេទណាដែលអាចមើលឃើញថា កុមារមានបទពិសោធន៍ធ្លាប់រៀនសូត្រគំនូរ ឬអត់ដោយយកសាលាដែលគាំទ្រការអប់រំសិល្បៈដោយអង្គការHPមានដូចជាការផ្តល់ជាគូលីរ និងសម្ភារៈសម្រាប់គូរផ្សេងៗ ព្រមទាំងសាលាដែលមិនមានការគាំទ្រផងដែរ។ ក្នុងពេលជាមួយគ្នានេះ វានឹងត្រូវបានបញ្ជាក់យ៉ាងច្បាស់ តាមរយៈការប្រៀបធៀបជាមួយគំនូររបស់កុមារនៃសាលាដែលទាក់ទងនឹងសាលាអង្គការSAS

និងសាលារដ្ឋនៅប្រទេសជប៉ុនដើម្បីដឹងថា តើភាពខុសគ្នាបែបណាដែលអាចមើលឃើញបន្ទាប់ពីមានការផ្ទៀងផ្ទាត់គំនូរនោះ។

១-៤ វិធីសាស្ត្រស្ទង់មតិ

ការស្ទង់មតិគំនូរតាមរបៀបវិធីសាស្ត្រS-HTP។ យើងអោយកុមារពីថ្នាក់ទី១ដល់ទី៦ដែលក្នុង១ថ្នាក់មានគ្នា១០នាក់ គូរគំនូររូបផ្ទះ ដើមឈើ និងមនុស្ស និងគំនិតផ្សេងទៀតដោយសេរីលើទំហំក្រដាសA4ក្នុងរយៈពេល៣០នាទី ហើយយើងធ្វើការវិភាគ និងរៀបចំសរុបលទ្ធផល។ ដូចដែលបានរៀបរាប់ខាងលើរួច ការស្ទង់មតិនេះមិនវិភាគលើផ្នែកចិត្តសាស្ត្រនោះទេ ប៉ុន្តែជាការរៀបចំ និងវិភាគនូវអ្វីដែលជាការសម្តែងបញ្ចេញនាសញ្ញាតនាមោឃតាមទស្សនៈ និងធាតុវិភាគS-HTP (តារាងទី១)។ លើសពីនេះទៀត យើងនឹងវិភាគរូបផ្ទះ និងមនុស្សដែលឆ្លុះបញ្ចាំងដំណាក់កាលអភិវឌ្ឍទូទៅនៃការគូរ ហើយអំពីវត្ថុបន្ថែម យើងនឹងធ្វើការរៀបចំ និងយកចិត្តទុកដាក់លើប្រភេទ និងភាពច្បាស់លាស់(concrete)នៃគំនូរគូររូប។ ខាងក្រោមនេះជាសៀវភៅណែនាំសម្រាប់ស្ទង់មតិជាក់លាក់មួយ។ ផ្អែកលើមូលដ្ឋាននេះយើងបានធ្វើអោយសាលារៀនមួយណាក៏អាចអនុវត្តតាមនីតិវិធីដូចគ្នាបាន។ នៅក្នុងកន្លែងស្ទង់មតិជាក់ស្តែង យើងឃើញថាកុមារថ្នាក់ទាប(ក្រោមថ្នាក់ ទី៣)ជាច្រើននៅខេត្តកំពត និងស្វាយរៀងមិនអាចសរសេរឈ្មោះ ឬអាយុដោយខ្លួនគេបានទេ ដូច្នេះហើយបុគ្គលិកដែលបានចូលរួមនៅពេលនោះបានសរសេរប្រាប់ម្នាក់ម្តងៗដែលវាធ្វើអោយត្រូវការពេលវេលាច្រើនក្នុងការស្ទង់មតិនេះ។

វិធីសាស្ត្រ S-HTP សៀវភៅណែនាំការអនុវត្តការស្ទង់មតិ

[ការពន្យល់ស្តីអំពីត្រួតពិនិត្យ]

១. ការណែនាំខ្លួនឯងដូចជាការប្រាប់ឈ្មោះ
២. ខ្ញុំមកថ្ងៃនេះដើម្បីស្នើសុំអោយអ្នកទាំងអស់គ្នាគូរគំនូរអោយ ។
៣. ប៉ុន្តែវាមិនមានន័យថាមកមើលរូបគំនូរពូកែ ឬមិនមែនពូកែនោះទេ
៤. ខ្ញុំមកនេះគឺដើម្បីចង់ឃើញថាតើការរស់នៅរបស់អ្នកដូចម្តេច ចង់ដឹងពីការចិត្តគំនិត ហើយក៏ចង់ដឹងពី ប្រភេទគំនូររបស់អ្នកផងដែរ ។
៥. ធ្វើបែបនេះវានឹងជួយពួកយើងឱ្យគិតអំពីសាលារៀន និងការសិក្សាគំនូរនៅកម្ពុជាឱ្យកាន់តែប្រសើរ ។
៦. ហេតុដូច្នេះ មិនកុំគិតថា "អ្នកត្រូវគូរឱ្យបានល្អ" ឬ "អ្នកត្រូវតែបង្កើតរូបគំនូរឱ្យបានត្រឹមត្រូវ" នោះទេ សំខាន់គឺអ្នកគូរទៅតាមអ្វីដែលអ្នកចង់គូរ ។

[ការណែនាំសម្រាប់ពេលវេលាអនុវត្ត]

១. ប្រើក្រដាស (ក្រដាសថតចម្លង A4) ផ្តុក ។
២. ដើម្បីកុំឱ្យភ្លេចសូមសរសេរឈ្មោះ ថ្នាក់ និងភេទរបស់នៅខាងក្រោយក្រដាស ។
៣. (ត្រឡប់មកតារាងវិញ) ដាក់រូបផ្ទះ មនុស្ស និងដើមឈើ ហើយក្រៅពីនោះគូរអ្វីក៏បានទៅតាមចិត្តចង់។

- ៤. បើសិនជាការបង្កើន ដើមឈើ និងមនុស្សហើយ ផ្សេងទៀតគួររូបបែបណាក៏បានដែរ ។
- ៥. ដូចដែលបានបញ្ជាក់ខាងលើ គឺវាមិនអាស្រ័យលើរូបល្អ ឬអាក្រក់នោះទេ ប៉ុន្តែសូមរីករាយក្នុងការគូរ តាមដែលអាចធ្វើទៅបាន ។
- ៦. ពេលវេលាគឺ៣០នាទី ។ សូមគូរឃើញតាមសម្រួលដោយមិនចាំបាច់ប្រើអ្នកដទៃទេ ។ ហើយប្រសិនបើអ្នកមិនចង់រង់ចាំដល់៣០នាទីទេ អ្នកអាចយកដាក់មុនក៏បាន ។

(ប្រហែល២០ដងក្នុង១ឆ្នាំ) តាមរយៈថ្នាក់រៀនចល័ត ។ រីឯសាលានៅភ្នំពេញមានទីតាំងនៅទីក្រុង និងនៅទីប្រជុំជន ដូច្នេះវាមានភាពខុសប្លែកគ្នាយ៉ាងខ្លាំងក្នុងបរិយាកាសរស់នៅ បើប្រៀបធៀបនឹងសាលាដែលបានរៀបរាប់រួច ។ សាលារដ្ឋនៅជប៉ុនវិញក៏ជាសាលាដែលមាននៅតាមតំបន់ជនបទ និងទីក្រុងដែរ ប៉ុន្តែសាលាទាំងនោះស្ថិតក្នុងតំបន់ទីប្រជុំជន។

តាមពិតការស្ទង់មតិនេះមិនបានសិស្ស១០នាក់ក្នុង១ថ្នាក់នីមួយៗតាមការស្នើសុំនោះទេ ប៉ុន្តែមានការប្រែប្រួលខ្លះៗទៅតាមស្ថានភាពជាក់ស្តែង។ លើសពីនេះទៀត សិស្សកម្ពុជាមិនដូចប្រទេសជប៉ុនត្រង់ថា មានសិស្សអាយុច្រើនរៀនក្នុងថ្នាក់តែមួយជាមួយគ្នា ដូច្នេះតាមការវិភាគជាក់ស្តែងយើងបានរៀបចំទៅតាមអាយុសិស្សនៅប្រទេសជប៉ុន។ ម្យ៉ាងទៀត ដោយសារសិស្សដែលបានកិច្ចសហការស្រាវជ្រាវពីអង្គការSASនោះគឺមានតែថ្នាក់ទី៣ឡើងទៅ ដូច្នេះហើយសម្រាប់ការវិភាគទាក់ទងនឹងសាលាអង្គការSAS យើងក៏បានសម្រេចថាវិភាគ និងប្រៀបធៀបតែទិន្នន័យសិស្សថ្នាក់ទី៣ឡើងទៅនៃសាលាគោលដៅផ្សេងៗទៀតដែរ។ ខាងក្រោមនេះគឺជាការពិពណ៌នាលំអិតនៃលទ្ធផលស្ទង់មតិនីមួយៗ។

២) លទ្ធផលនៃការស្ទង់មតិ

បន្ទាប់ពីបានទទួលស្គាល់ និងត្រួតពិនិត្យក្រុមសីលធម៌ពីគណៈកម្មាធិការត្រួតពិនិត្យក្រុមសីលធម៌សាកលវិទ្យាល័យសិរីគ្រីស្ទប៊ឺ (Seirei Christopher) រួចរាល់ យើងបានពន្យល់ដោយផ្ទាល់មាត់នូវគោលបំណង និងអត្ថន័យនៃការស្ទង់មតិ និងវិធីសាស្ត្រផ្សេងៗទៅអង្គការHP (ការិយាល័យតូក្យូ និងភ្នំពេញ) ក្រសួងអប់រំយុវជន និងកីឡាកម្ពុជា និងអង្គការSASមុន៣ខែ មុនពេលដែលការស្ទង់មតិចាប់ផ្តើម (ខែកញ្ញាឆ្នាំ ២០១៨) ។ បន្ទាប់ពីនោះ ក្រៅពីអង្គការSAS ដោយបានទទួលអនុសាសន៍ពីអង្គការHP និងក្រសួងអប់រំកម្ពុជា យើងបានបញ្ជូនឯកសារពាក់ព័ន្ធនៅសាលាគោលដៅដែលបានកំណត់រួចថានឹងត្រូវស្ទង់មតិ ហើយយើងក៏បានទទួលការអនុញ្ញាតចាំបាច់ផ្សេងៗពីសាលានីមួយៗ សម្រាប់ការស្នើសុំឱ្យកុមារសហការជាមួយដំណើរការស្ទង់មតិនេះ។ សាលារៀនដែលមានការគាំទ្រ និងសាលាដែលមិនមានការគាំទ្រនៅខេត្តកំពត និងស្វាយរៀង គឺជាស្ថិតនៅជិតគ្នា ហើយបរិស្ថានរស់នៅគឺមិនមានភាពខុសគ្នានោះទេ ប៉ុន្តែទោះបីសម្ភារៈមិនគ្រប់គ្រាន់យ៉ាងណាក្តីសាលាដែលអង្គការHPបន្តជួយគាំទ្រមានដូចជាគូល័រ និងក្រដាសគំនូរជាដើម អាចមានលទ្ធភាពចូលរួមប្រកួតប្រជែងគំនូរដែលចាត់ចែងដោយអង្គការHPបាន ។ ដូចគ្នានេះផងដែរ សាលាដែលជួយគាំទ្រដោយអង្គការSASចំនួន២ដែលស្ថិតនៅតំបន់ជនបទក្រីក្រ បរិស្ថានរស់នៅមិនខុសគ្នាប៉ុន្មានទៅនឹងសាលាដែលបានរៀបរាប់ខាងលើទេ។ ប៉ុន្តែអ្វីដែលមានភាពខុសគ្នានោះគឺថាសាលាទាំងនោះមានចែកសម្ភារៈសិល្បៈ៣ដងក្នុង១ខែ

២-១ ការប្រៀបធៀបដោយផ្អែកលើធាតុនៃការវិភាគនិងទស្សនៈ S-HTP (តារាងទី២)

តារាងទី១ ធាតុវិភាគ និងទស្សនៈ S-HTP

ធាតុវិភាគ	ធាតុបន្ទាប់បន្សំ	ទស្សនៈនៃការវិភាគ
ភាពរួមបញ្ចូល	1 រួមបញ្ចូលយ៉ាងច្បាស់	សមាសភាពរួមបញ្ចូលគ្នាតែមួយ ហើយពុំមានផ្នែកណាមួយមិនស៊ីគ្នានោះទេ។
	2 រួមបញ្ចូលខ្លះៗ	សមាសភាពរួមបញ្ចូលគ្នាតែមួយ តែការពិពណ៌នានៅមានមួយចំនួន។
	3 បញ្ចូលគ្នាដោយអន្តរកិច្ច(intermediary)	ផ្ទះ ដើមឈើ និងមនុស្សខ្លួនឯងផ្ទាល់តំរៀបជាជួរ ប៉ុន្តែការបញ្ចូលគ្នាត្រូវបានកំណត់ជាបណ្តោះអាសន្នតាមរយៈអន្តរកិច្ច ផ្ទៃផែនដី ភ្នំ និងស្មៅជាដើម។
	4 ការតំរៀបជាជួរមានខ្លះៗ	មើលឃើញផ្នែកខ្លះវាប្រទាក់គ្នាបន្តិច ប៉ុន្តែផ្ទៃរួមទាំងមូលត្រូវបានគូរជាជួរ
	5 តំរៀបជាជួរ	ផ្ទះ ដើមឈើ និងមនុស្សត្រូវបានតំរៀបជាជួរដោយគ្មានទំនាក់ទំនងគ្នា។
ទំហំគំនូរ	6 ផ្ទៃទាំងមូលតិចជាង ១/៤	ផ្ទៃទាំងមូលដែលត្រូវបានគូរគឺជាគំនូរតូចដែលតិចជាង១/៤នៃក្រដាសគំនូរ (ប៉ុន្តែប្រសិនបើវាត្រូវបានគូរដាច់ពីគ្នា យើងនឹងធ្វើការវិនិច្ឆ័យតាមទំហំដែលប្រមូលបាននៅកន្លែងតែមួយ)។

	7	តិចជាង១/៤ HTP	គំនូរដែលលូកសរុបទាំងអស់ផ្ទះ ដើមឈើ និងមនុស្សមានតិចជាងមួយភាគបួនដោយមិនគិត វត្ថុបន្ថែមបញ្ចូល(adjunct)។
វត្ថុបន្ថែមក្រៅ ពីប្រធានបទ	8	មានវត្ថុបន្ថែម	គួរវត្ថុបន្ថែមក្រៅពីផ្ទះ ដើម ឈើ និងមនុស្ស (មិនរាប់បញ្ចូលផ្ទះផ្ទៃផងដែរ) ។
នេត្រា ទស្សន៍	9	ធំ	នៅឆ្ងាយគួរតូចៗ នេត្រាទស្សន៍គួរតូចៗ
	10	មធ្យម	ផ្ទះ ដើមឈើ និងមនុស្សតែប៉ុណ្ណោះដែលមាននេត្រាទស្សន៍(ជិត ឬ ឆ្ងាយ)។
	11	មានខ្លះៗ	ពុំមានសេចក្តីណែនាំជិត ឬ ឆ្ងាយច្បាស់លាស់ទេ ប៉ុន្តែផ្ទះ ដើមឈើ និងមនុស្សត្រូវបានគូរឡើងលើចុះក្រោមមើលទៅអាចដឹងថាជិត ឆ្ងាយបានខ្លះៗ។
	12	បន្ទាត់ត្រង់ (ត្រួតលើគ្នា)	ផ្ទះ ដើមឈើ និងមនុស្សត្រូវបានគូរតម្រង់ជួរគ្នាលើបន្ទាត់ត្រង់ ហើយមិនមាននេត្រាទស្សន៍ទេ ប៉ុន្តែទាំងផ្ទះ និងដើមឈើ ឬផ្ទះ និងមនុស្សត្រួតគ្នា។
	13	បន្ទាត់ត្រង់ (មិនត្រួតគ្នា)	ផ្ទះ ដើមឈើ និងមនុស្សតម្រង់ជួរគ្នាលើបន្ទាត់ត្រង់ ហើយមិនមានត្រួតលើគ្នារវាងផ្នែកខាងមុខ និងខាងក្រោយឡើយ។
	14	ដាច់ផ្សេងពីគ្នា	ផ្ទះ ដើមឈើ និងមនុស្សត្រូវបានគូរដាច់ដោយឡែកពីគ្នា ពុំមាននេត្រាទស្សន៍ទេ។
ពិពណ៌នាប្រាកដនិយម និងមិនប្រាកដនិយម	15	ប្រាកដនិយម	ការពិពណ៌នាផ្ទះទាំងមូលគឺស្គាល់ច្បាស់និងប្រាកដនិយម
	16	លាយឡំ	លាយបញ្ចូលគ្នារវាងខ្លឹមសារប្រាកដនិយម និងខ្លឹមសារមិនប្រាកដនិយម។
	17	មិនប្រាកដនិយម	ទាំងមូលជាវត្ថុដែលគួរចេញពីពិភពមួយដែលមិនប្រាកដនិយម។

២-១-១ ការប្រៀបធៀបរវាងសាលាដែលគាំទ្រដោយអង្គការHP និងសាលាដែលមិនមានការគាំទ្រ (តារាងទី២ខាងឆ្វេង)

ក្រឡេកមើល "ភាពរួមបញ្ចូល(Integrity)" នៃគំនូរទាំងមូលអាចនិយាយបានថាសាលាដែលគាំទ្រដោយអង្គការHP (ខាងក្រោមហៅកាត់ថា "សាលាគាំទ្រ") មានលក្ខណៈរួមបញ្ចូលគ្នាហើយសាលាដែលមិនគាំទ្រដោយអង្គការHP (ខាងក្រោមហៅកាត់ថា "សាលាមិនគាំទ្រ") មានលក្ខណៈតំរៀបជាជួរ ។ ម្យ៉ាងទៀត "ទំហំគំនូរ" ដែលបានគូររូបសាលាគាំទ្រមានទំហំធំ និងបង្ហាញពីភាព " ក្លាហាន" ។ ពាក្យ " ក្លាហាន" គឺជាពាក្យមួយដែលជាញឹកញយត្រូវបានប្រើដោយគ្រូនៅសាលាបឋមសិក្សានៅប្រទេសកម្ពុជា និងជាពាក្យដែលពិពណ៌នាអំពីកុមារដែលមានឆន្ទៈក្នុងការបញ្ចេញមតិ។ ហើយបើនិយាយអំពី "នេត្រាទស្សន៍" វិញខាងសាលាគាំទ្របង្ហាញពីចំងាយជិត ឬឆ្ងាយ ហើយសាលាដែលមិនគាំទ្រភាគច្រើនមានភាពដាច់ដោយឡែកពីគ្នា និងត្រូវបានមើលឃើញថាមិនបានបង្ហាញភាពជិត ឬឆ្ងាយទេ។ ភាពខុសគ្នាត្រូវបានគេមើលឃើញនៅក្នុងការបង្ហាញពីរូបផ្ទះ និងមនុស្ស។

សាលាគាំទ្រមានភាពប្រសើរជាងនៅក្នុងការបង្ហាញពីពិរមាត្រ (3D) ហើយកុមារនៅសាលាដែលមិនគាំទ្រភាគច្រើនត្រូវបានមើលឃើញថាមិនបានគូររូបមនុស្សទេ ។ វាត្រូវបានគេសន្និដ្ឋានថាកុមារទាំងនោះមិនមានទំនុកចិត្តក្នុងការបង្ហាញពីគំនូររាងកាយមនុស្ស និងមានអារម្មណ៍ជំទាស់ ។

២-១-២ ប្រៀបធៀបសាលាគាំទ្រ (តារាងទី២ ខាងស្តាំ)

ទាក់ទងនឹងវត្ថុបន្ថែមក្រៅពីប្រធានបទ កុមារជប៉ុន១០០%ត្រូវបានគូរវត្ថុបន្ថែម ។ ធាតុនេះទាក់ទងនឹងភាពសំបូររបស់ភាពវិជ្ជមាន និងបុគ្គលិកលក្ខណៈ ហើយវាអាចត្រូវបានគេមើលឃើញថាកុមារជប៉ុនមានសមត្ថភាពស្រមៃស្រមៃ និងចូលរួមយ៉ាងសកម្មក្នុងសកម្មភាពគូរគំនូរ ។ ភាពខុសគ្នានេះគឺគួរឱ្យកត់សម្គាល់នៅក្នុងធាតុពាក់ព័ន្ធ "ការពិពណ៌នាប្រាកដនិយម និងមិនប្រាកដនិយម" ហើយកុមារជប៉ុនមានភាពស្រមៃស្រមៃសំបូររបស់ ។ រីឯសាលាគាំទ្រវិញគំនូររបស់កុមារបានពណ៌នាបង្ហាញពីជីវិតពិតរបស់ពួកគេ ។ ប៉ុន្តែបើនិយាយអំពី "នេត្រាទស្សន៍" វិញ ការបង្ហាញបង្ហាញពីពិរមាត្រ(3D)លទ្ធផលគឺនៅសាលាគាំទ្រខ្ពស់ជាងកុមារនៅជប៉ុនបន្តិច។ ហើយភាសាជីវភាពរស់នៅរបស់កុមារកម្ពុជាដែលហ៊ុំព័ទ្ធជុំវិញទៅដោយស្រែចំការ និងព្រៃឈើ ដែលវាត្រូវបានគេសន្និដ្ឋានថា វាខុសគ្នាទៅនឹងប្រទេសជប៉ុននូវលក្ខខណ្ឌជាក់ស្តែងនៃជីវភាពដែលជាជឿនធម្មតារបស់ពួកគេ ដូចជាការងារប្រចាំថ្ងៃ ការជួយកិច្ចការផ្ទះជាដើមដែលវាជាឥទ្ធិពលមួយធ្វើឱ្យប៉ះពាល់ដល់ការបង្ហាញពិរមាត្រ(3D)នៃរូបផ្ទះ និងនេត្រាទស្សន៍ ។ ប៉ុន្តែនេះគ្រាន់តែជាការប៉ាន់ស្មានប៉ុណ្ណោះ ហើយខ្ញុំនឹងបញ្ជាក់វាអោយច្បាស់នៅពេលស្តង់មតិលើកក្រោយទៀត ថាគ្រាន់តែជាទំនោរនៅពេលនោះឬយ៉ាងណា ។ ទោះយ៉ាងណា យើងបានបញ្ជាក់ហើយថាកុមារ ជប៉ុនមានភាពវិជ្ជមាន និងច្បាស់លាស់ចំពោះការបង្ហាញពីគូមនុស្ស រីឯកុមារនៅសាលាគាំទ្រវិញគឺមានការស្ទាក់ស្ទើរ និងមានភាពអវិជ្ជមាន។

តារាងទី២ ការប្រៀបធៀបគំនូររបស់កុមារដោយS-HTP (សាលាគាំទ្រដោយHP សាលាមិនគាំទ្រ និងសាលាបឋមសិក្សានៅជប៉ុន)

ធាតុវិភាគ	អត្រាបង្ហាញ (%)		តម្លៃx2	អត្រាបង្ហាញ (%)		តម្លៃx2
	សាលា គាំទ្រ	សាលា មិនគាំទ្រ		សាលា គាំទ្រ	ជប៉ុន	

		១០២	១៦៣		១០២	៥៣	នាក់
		នាក់	នាក់		នាក់		
(ទាំងមូល) ភាពរួមបញ្ចូល	រួមបញ្ចូលច្បាស់លាស់	២៣.៥	១៦.០	.១២៥	២៣.៥	៣៥.៨	.១០៤
	ភាពរួមបញ្ចូលខ្លះៗ	២២.៥	១២.៩	.០៤០*	២២.៥	១៣.២	.១៦៣
	លាយឡំដោយអន្តរការី	២៧.៥	១៧.៨	.០៦៣	២៧.៥	១៨.៩	.២៣៩
	តំរៀបជូរខ្លះៗ	១៧.៦	៣០.៧	.០១៨*	១៧.៦	២៤.៥	.៣១០
	តំរៀបជាជួរ	៧.៨	២២.៧	.០០២**	៧.៨	៥.៧	.៦១៦
ទំហំគំនូរ	ផ្ទៃទាំងមូលតិចជាង១/៤	៣.៩	១៦.០	.០០៣**	៣.៩	៥.៧	.៦២១
	HTP តិចជាង១/៤	៩.៨	២១.៥	.០១៤*	៩.៨	១១.៣	.៧៦៨
វត្ថុបន្ថែម	មាន	៩១.២	៨៨.៣	.៤៦៥	៩១.២	១០០.០	.០២៦*
នេត្រា ទស្សន៍	ធំ	៩.៨	៦.១	.២៧១	៩.៨	៩.៤	.៩៤១
	មធ្យម	២៣.៥	១៤.១	.០៥០*	២៣.៥	២២.៦	.៩០១
	មានខ្លះៗ	២៦.៥	៩.៨	.០០១***	២៦.៥	៩.៤	.០១៣*
	បន្ទាត់ត្រង់ (មានត្រួតគ្នា)	១៣.៧	១៦.៦	.៥៣៤	១៣.៧	១៧.០	.៥៨៩
	បន្ទាត់ត្រង់ (អត់ត្រួតគ្នា)	២០.៦	៣៣.៧	.០២១*	២០.៦	៣២.១	.១១៥
	ដាច់ពីគ្នា	៤.៩	១៩.៦	.០០១***	៤.៩	៩.៤	.២៧៦
ពិពណ៌នាប្រាកដនិយម និងមិនប្រាកដនិយម	ប្រាកដនិយម	៨៧.៣	៨៥.៣១	.៦៥១	៨៧.៣	៦០.៤	.០០១***
	លាយឡំគ្នាមិន	១១.៨	២.៩	.៧៨៨	១១.៨	៣០.២	.០០៥**
	ប្រាកដនិយម	០.០	១.៨	.១៦៨	០.០	៩.៤	.០២០**
ផ្ទះ	ចំពីមុខ / តែស៊ីម	០.០	២.៥	.១១១	០.០	១.៩	.១៦៤
	ចំពីមុខ / បង្ហាញពុំច្បាស់	៥.៩	១៥.៣	.០២០*	៥.៩	១៥.១	.០៥៨
	ចំពីមុខ / រាប	៥៣.៩	៤៤.៨	.១៤៨	៥៣.៩	៥៦.៦	.៧៥០
	3Dខ្លះៗ	៣០.៤	២២.១	.១៣០	៣០.៤	១៥.១	.០៣៧*
	3D	៨.៨	១៥.៣	.១២៣	៨.៨	១១.៣	.៦១៨
មនុស្ស	ក្បាល ដើង	០.០	១.៨	.១៦៨	០.០	០.០	—
	មុនក្រាហ្វិច	១៦.៧	១៩.០	.៦២៩	១៦.៧	២០.៨	.៥៣០
	ក្រាហ្វិច	៤៦.១	៤៦.០	.៩៩២	៤៦.១	៦៦.០	.០១៨*
	pre-realistic	១៣.៧	៨.០	.១៣២	១៣.៧	១៣.២	.៩២៩
	realistic	៤.៩	២.៥	.២៨៤	៤.៩	០.០	.១០១
	គំនូរស្លឹក(stick figure)	១៦.៧	១៦.០	.៨៧៨	១៦.៧	០.០	.០២០**
	អត់មាន	១.០	៦.៧	.០២៨*	១.០	០.០	.៤៧០

(*:p<.05, **:p<.01, ***:p<.001)

២-១-៣ ការប្រៀបធៀបរវាងសាលាអង្គការSAS សាលាមិនគាំទ្រ និងសាលានៅជប៉ុន (តារាងទី៣)

ការស្ទង់មតិគំនូរនៃសាលាអង្គការSASមានតែសម្រាប់កុមារថ្នាក់ទី៣ឡើងទៅ ដូច្នេះយើងក៏បានប្រៀបធៀប និងរៀបចំទិន្នន័យពីថ្នាក់ទី៣ឡើងទៅ សម្រាប់ទាំងសាលាមិនគាំទ្រ និងសាលាអង្គការនៅជប៉ុនដែរ។

បើប្រៀបធៀបសាលាអង្គការSAS និងសាលាមិនគាំទ្រ ភាពខុសគ្នាត្រូវបានគេមើលឃើញនៅក្នុង "ភាពរួមបញ្ចូល ទំហំគំនូរ វត្ថុបន្ថែម និងនេត្រាទស្សន៍" ។ គំនូរបស់សាលាអង្គការSASមានលក្ខណៈរួមបញ្ចូលគ្នាធំៗ មានសម្ពាធស្រមៃស្រមៃ និងមានការចូលរួមយ៉ាងសកម្មក្នុងការគូរគំនូរ។ នៅជុំវិញផ្ទះ ដើមឈើ និងមនុស្សមាននេត្រាទស្សន៍ ហើយកុមារពូកែបង្ហាញពីរាងកាយរបស់មនុស្សផងដែរ។ ផ្ទុយទៅវិញនៅសាលាដែលមិនមានការគាំទ្រ គំនូរដែលបានគូរចេញមកមើលឃើញជាជួរហើយ ការគូររូបគ្រាន់តែជាការកំសាន្តដែលហាក់ដូចជាខ្វះខាតទាក់ទងនឹងចំណាប់អារម្មណ៍ និងថាមពលនៃការបង្ហាញ។ ដូចគ្នានេះផងដែរនៅពេលប្រៀបធៀបគំនូរសាលាអង្គការSAS និងគំនូរកុមារជប៉ុនយើងបានដឹងថាមិនមានអ្វីខុសគ្នារហូតដល់គំនូរសាលាដែលមិនមានការគាំទ្រនោះទេ។ គំនូរសាលាអង្គការSASត្រូវបានទទួលស្គាល់ថាមាននេត្រា ទស្សន៍នៅជិតផ្ទះ ដើមឈើ និងមនុស្ស កុមារត្រូវបានគូរលើបន្ទាត់ត្រង់ដោយគ្មានត្រួតគ្នា ហើយត្រូវបានមើលឃើញទៀតថា ភាគច្រើនមានភាពប្រាកដនិយម និងពោរពេញទៅដោយការស្រមៃស្រមៃ ។

តារាងទី៣ ការប្រៀបធៀបគំនូរបស់កុមារចាប់ពីថ្នាក់ទី៣ឡើងតាមS-HTP (សាលាមិនគាំទ្រដោយJHP សាលាអង្គការSAS និងសាលាបឋមសិក្សាជប៉ុន)

ធាតុវិភាគ	អត្រាបង្ហាញ (%)		តម្លៃx2	អត្រាបង្ហាញ (%)		តម្លៃx2	
	SAS	សាលាមិនគាំទ្រ		SAS	ជប៉ុន		
	៧២ នាក់	១១៧នាក់		៧២នាក់	៣២នាក់		
(ទាំងមូល) ភាពរួមបញ្ចូល	រួមបញ្ចូលច្បាស់លាស់	៤១.៧	២២.២	.០០៤**	៤១.៧	៥៦.៣	.១៦៩
	ភាពរួមបញ្ចូលខ្លះៗ	៣៧.៥	១៦.២	.០០១***	៣៧.៥	២១.៩	.១១៧
	លាយឡំដោយអន្តរ	១១.១	២៣.១	.០៤០*	១១.១	៣.១	.១៨១
	តំរៀបជូរខ្លះៗ	៨.៣	២៤.៨	.០០៥**	៨.៣	១៥.៦	.២៦៤
	តំរៀបជាជួរ	១.៤	១៣.៧	.០០៤**	១.៤	៣.១	.៥៥២
ទំហំគំនូរ	ផ្ទៃទាំងមូលតិចជាង១/៤	០.០	១១.១	.០០៣**	០.០	៣.១	.១៣២
	HTP តិចជាង១/៤	៨.៣	១៥.៤	.១៥៧	៨.៣	៩.៤	.៨៦២
វត្ថុបន្ថែម	មាន	១០០.០	១២.៣	.០១៦*	១០០.០	១០០.០	—
នេត្រា ទស្សន៍	ធំ	១១.១	៨.៥	.៥៦០	១១.១	១៥.៦	.៥២១
	មធ្យម	៤៥.៨	១៩.៧	.០០១***	៤៥.៨	៣៧.៥	.៤២៩
	មានខ្លះៗ	២០.៨	១២.០	.១០០	២០.៨	១៥.៦	.៥៣៤
	បន្ទាត់ត្រង់ (មានត្រួតគ្នា)	១៨.១	២០.៥	.៦៧៩	១៨.១	១២.៥	.៤៧៩
	បន្ទាត់ត្រង់ (អត់ត្រួតគ្នា)	១.៤	២៧.៤	.០០១***	១.៤	១៥.៦	.០០៤**
	ដាច់ពីគ្នា	២.៨	១២.០	.០២៨*	២.៨	៣.១	.៩២២

ពិពណ៌នាប្រាកដ និងពុំប្រាកដ	ប្រាកដនិយម លាយឡំគ្នា មិនប្រាកដនិយម	៩៣.១	៨៦.៣	.១៥៣	៩៣.១	៥៩.៤	.០០១***
		៥.៦	១២.៨	.១០៧	៥.៦	២៨.១	.០០១***
		១.៤	០.៩	.៧២៧	១.៤	១២.៥	.០១៥*
ផ្ទះ	ចំពីមុខ / តែស៊ឹម	០.០	០.៩	.៤៣២	០.០	០.០	—
	ចំពីមុខ/បង្ហាញពុំច្បាស់	១៣.៩	៩.៤	.៣៤០	១៣.៩	០.០	.០២៧*
	ចំពីមុខ / រាប	៦៨.១	៤៤.៤	.០២០**	៦៨.១	៥៩.៤	.៣៩០
	3Dខ្លះៗ	១៨.១	២៤.៨	.២៨០	១៨.១	២១.៩	.៦៤៨
	3D	០.០	២០.៥	.០០១***	០.០	១៨.៨	.០០១***
មនុស្ស	ក្បាល ជើង	០.០	០.៩	.៤៣២	០.០	០.០	—
	មុនក្រាហ្វិច	២៦.៤	១៧.១	.១២៥	២៦.៤	៣.១	.០០៥**
	ក្រាហ្វិច	៥២.៨	៤៨.៧	.៥៨៨	៥២.៨	៧៥.០	.០៣៣*
	pre-realistic	៩.៧	១១.១	.៧៦៣	៩.៧	២១.៩	.០៩៤
	realistic	២.៨	៣.៤	.៨០៧	២.៨	០.០	.៣៤១
	គំនូរស្លឹក(stick figure)	១.៤	១៣.៧	.០០៤**	១.៤	០.០	.៥០៣
អត់មាន	៦.៩	៥.១	.៦០៥	៦.៩	០.០	.១២៧	

(*:p<.05, **:p<.01, ***:p<.001)

២-២ ការប្រៀបធៀបដោយផ្អែកលើការប្រៀបធៀបនៃវត្ថុបន្ថែម (តារាងទី៤ និងទី៥)

យើងបានប្រៀបធៀបសាលាគាំទ្រ និងសាលាមិនគាំទ្រ / សាលារដ្ឋជប៉ុន ក៏ដូចជាសាលាអង្គការSAS ផងដែរទាក់ទងនឹងវត្ថុបន្ថែមដែលត្រូវបានគូរក្រៅពីផ្ទះ ដើមឈើ និងមនុស្ស។ លទ្ធផលប្រៀបធៀបនឹងត្រូវបានពិនិត្យដោយជាក់លាក់ដូចមាននៅខាងក្រោម ៖

២-២-១ ប្រៀបធៀបរវាងសាលាគាំទ្រ និងសាលាដែលមិនគាំទ្រ / សាលារដ្ឋជប៉ុន (តារាងទី៤)

តារាងទី៤
 ទាក់ទងនឹងវត្ថុបន្ថែមការកត់ត្រាឡើងជាក់លាក់ដែលត្រូវបានទទួលស្គាល់ថាវាមានគំលាតជាមួយសាលា គាំទ្រ។ ផ្នែកខាងឆ្វេងនៃតារាងទី៤ គឺជាការប្រៀបធៀបរវាងសាលាគាំទ្រ និងសាលាមិនគាំទ្រ។ នៅខាងលើបន្ទាត់ត្រង់ចំណុចគ្រប់គ្រងត្រូវបានគេមើលឃើញថាមានវត្ថុបន្ថែមជាច្រើននៅសាលាគាំទ្រ ហើយនៅខាងក្រោមបន្ទាត់ត្រង់ មានវត្ថុបន្ថែមជាច្រើនដែលត្រូវបានគេមើលឃើញនៅសាលាមិនគាំទ្រ។ ហើយនៅខាងស្តាំគឺជាការប្រៀបធៀបរវាងសាលាគាំទ្រ និងសាលារដ្ឋជប៉ុន។ ដូចគ្នានេះដែរខាងលើបន្ទាត់ត្រង់គឺជាវត្ថុបន្ថែមដែលត្រូវបានគេមើលឃើញជាញឹកញាប់នៅសាលាគាំទ្រ ហើយខាងក្រោមវិញគឺជាវត្ថុបន្ថែមដែលត្រូវបានគេមើលឃើញនៅសាលារដ្ឋជប៉ុន។

តារាងទី៤ ការប្រៀបធៀបវត្ថុបន្ថែមដែលត្រូវបានទទួលស្គាល់ថាវាខុសគ្នាជាមួយសាលាគាំទ្រ

ធាតុវិភាគ	អត្រាបង្ហាញ (%)		តម្លៃx2	ធាតុវិភាគ	អត្រាបង្ហាញ (%)		តម្លៃx2
	សាលាគាំទ្រ	សាលា			សាលា	ជប៉ុន	

	មិនគាំទ្រ		
	១០២ នាក់	១៦៣ នាក់	
ផ្កា	75.5	62	.23*
ភ្នំ	51.0	13.5	.001***
វាលស្រែ	34.3	6.1	.001***
ពាង, ធុងទឹក, កន្ត្រក	12.7	1.2	.001***
សត្វល្អិត	6.9	23.9	.001***
ផ្លូវ	7.8	22.1	.002**
យានយន្ត	5.9	16.6	.10*
សម្ភារៈស្នូនកុមារ	1.0	6.1	.041*

	គាំទ្រ		
	102នាក់	53នាក់	
ផ្កា	75.5	37.7	.001***
ព្រះអាទិត្យ	72.5	45.3	.001***
ភ្នំ	51.0	1.9	.0003**
បក្សី	40.2	17.0	.001***
វាលស្រែ	34.3	0	.018*
ពាង	12.7	1.9	.025*
ត្រពាំង(ឬស្រះ)	9.8	0	.001***
សត្វ	3.9	49.1	.001***
យានយន្ត	5.9	26.4	.001***
ខ្មោចជាដើម...	0.0	15.1	.001***
មូស	0.0	9.4	.002**
សម្ភារៈស្នូនកុមារ	0.0	9.4	.010*
សៀវភៅ	0.0	9.4	.002**
ភ្លើងស្តុប	0.0	7.5	.005**
តុក្កតា	1.0	5.7	.015*
ព្រះច័ន្ទ	0.0	5.7	.015*
នាឡិកា(នៅក្រៅ)	0.0	5.7	.015*
កន្លែងដាំផ្កា	0.0	5.7	.015*
ប្រអប់សំបុត្រ	0.0	3.8	.048*
ជើងជ្រោង(easel)	0	3.8	.048*

តារាងទី៥

ការប្រៀបធៀបវត្ថុបន្ថែមដែលត្រូវបានទទួលស្គាល់ថាខុសគ្នារវាងសាលាអង្គការSASសម្រាប់កុមារថ្នាក់ទី៣ឡើងទៅ (ឆ្វេង: សាលាមិនគាំទ្រ / ស្តាំ: សាលារដ្ឋជប៉ុន)

ធាតុវិភាគ	អត្រាបង្ហាញ (%)	តម្លៃx2	ធាតុវិភាគ	អត្រាបង្ហាញ (%)	តម្លៃx2

	សាលា	សាលា	
	SAS	មិនគាំទ្រ	
	72នាក់	117នាក់	
ភ្នំ	47.2	13.5	.23*
សត្វល្អិត	44.4	19.0	.001***
សត្វ	27.8	8	.001***
វាលស្រែ	23.6	5.5	.001***
ត្រី	18.1	5.5	.001***
ពាង, ផ្ទះទឹក.	12.5	1.2	.002**
កន្ត្រក	6.9	0.0	.10*

	សាលា	ជប៉ុន	
	SAS	32នាក់	
	72នាក់	32នាក់	
ព្រះអាទិត្យ	77.8	18.9	.001***
ផ្កា	77.8	22.6	.001***
ពពក	59.7	20.8	.001**
បក្សី	56.9	9.4	.050*
ភ្នំ	47.2	1.9	.001***
សត្វល្អិត	44.2	44.4	.003**
វាលស្រែ	23.6	23.6	.017*
ទន្លេ(ស្ទឹង)	11.1	0	.010**
ត្រី	18.1	0	.001***
យានយន្ត	8.1	17.0	.008**
ខ្មោចជាដើម. . .	0	9.4	.001***
ព្រះច័ន្ទ / ផ្កាយ	0	3.8	.032*
នាឡិកា(នៅក្រៅ)	0	3.8	.032*

នៅតាមសាលាគាំទ្រមានគំនូរជាច្រើនដែលត្រូវបានគូរមានដូចជា រូបភ្នំ ផ្កា វាលស្រែ និងពាងទឹកជាដើមដែលវាទាក់ទងយ៉ាងជិតស្និទ្ធនឹងជីវិតរស់នៅប្រចាំថ្ងៃរបស់ពួកគេ ហើយសាលាមិនគាំទ្រគំនូរភាគច្រើនដែលគូរចេញមកមានរូបផ្លូវ សត្វល្អិត យានយន្ត និងសម្ភារៈស្នូរកុមារ។ សាលាមិនគាំទ្ររូបពួលសាលាបឋមសិក្សានៅភ្នំពេញផងដែរនោះ យើងមើលឃើញថាវាមានគំនូរខុសគ្នាទៅលើបរិយាកាសរស់នៅប្រចាំថ្ងៃនៅទីក្រុង និងជនបទ។ ជីវិតសាលាដូចជប៉ុនវិញ គំនូរដែលគូរចេញមកមានដូចជា រូបសត្វ យានយន្ត និងរូបខ្មោច ហើយដទៃទៀតនោះមានដូចជារូបសៀវភៅ ជើងជ្រោង(easel) ស្នូរដាំផ្កា និងសម្ភារៈប្រើប្រាស់ប្រចាំថ្ងៃផ្សេងទៀតដែលរូបគំនូរទាំងអស់នោះមិនមាននៅក្នុងប្រទេសកម្ពុជាទេ។ ទោះជាវាមិនត្រូវបានបង្ហាញនៅក្នុងតារាងនេះក្តី ប៉ុន្តែត្រូវបានគេមើលឃើញ និងអាចនិយាយបានថា រឿងអាចកំបាំងដូចជាអណ្តាតភ្លើង អាបធ្មប់ និងរូបខ្មោចវាជាលក្ខណៈពិសេសនៅក្នុងគំនូររបស់កុមារជប៉ុន ។ លក្ខណៈគំនូររបស់កុមារជប៉ុនគឺបែបនេះឯង ហើយមីសាវ៉ា(Misawa) (ឆ្នាំ២០១៤) ក៏បានចង្អុលបង្ហាញផងដែរថាមាន "ការពិពណ៌នាមិនប្រាកដនិយម" ជាច្រើនបើប្រៀបធៀបទៅនឹងគំនូររបស់កុមារប្រទេសថៃ។ បើប្រៀបធៀបនឹងកុមារកម្ពុជាវិញ កុមារ ជប៉ុនខុសគ្នាឆ្ងាយត្រង់ថាពួកគេពេញទៅដោយការស្រមៃស្រមៃ និងគូររូបនៃយ៉ាងសកម្ម និងបង្កើតរឿងរ៉ាវផ្ទាល់ខ្លួននៅក្នុងផ្ទាំងគំនូរផ្ទាល់ខ្លួនរបស់ពួកគេ។

២-២-២ ការប្រៀបធៀបរវាងសាលាអង្គការSASនិងសាលាមិនគាំទ្រ / សាលាដូចជប៉ុន (តារាងទី៥)

តារាងទី៥ទាក់ទងនឹងវត្ថុបន្ថែមដែលយើងបានកត់ត្រានូវវត្ថុបន្ថែមដែលត្រូវបានទទួលស្គាល់ថាវាមានគំនូរខុសគ្នារវាងសាលាអង្គការSAS។ ផ្នែកខាងឆ្វេងនៃតារាងទី៥ គឺជាអ្វីដែលបានធ្វើការប្រៀបធៀបសាលាអង្គការSASជាមួយនឹងសាលាមិនគាំទ្រ ហើយផ្នែកខាងស្តាំប្រៀបធៀបសាលាអង្គការSASជាមួយសាលាដូចជប៉ុន។ សាលាអង្គការSAS និងសាលាមិនគាំទ្រកុមារទាំងនោះមានបរិយាកាសរស់នៅស្រដៀងគ្នា។ ហើយយើងអាចដឹងបានថាសាលាអង្គការSASគូររូបយ៉ាងសកម្ម ហើយរូបទាំងនោះមានដូចជារូប "ពាងទឹក ផ្ទះទឹក និងកន្ត្រក" ដែលរបស់ទាំងនោះមានទំនាក់ទំនងផ្ទាល់នឹងជីវិតរបស់ពួកគេ។ ដូចគ្នានេះផងដែរ នៅក្នុងការប្រៀបធៀបគំនូរជាមួយកុមារសាលាដូចជប៉ុន ទោះបីជាមិនមានភាពខុសគ្នាច្រើនដូចសាលាជប៉ុនគាំទ្រក្នុងតារាងទី៤ក៏ដោយ លទ្ធផលបង្ហាញយ៉ាងច្បាស់ពីភាពខុសគ្នានៃបរិស្ថានជីវភាព និងទំនៀមទម្លាប់។ ខ្ញុំសូមអនុញ្ញាតសូមយោងទៅលើខ្លឹមសារនៃគំនូរដែលបានគូរក្នុងគំនូរឧទាហរណ៍ទី១ដល់ទី៦របស់សិស្សថ្នាក់ ទី៦នៅតាមសាលាមិនគាំទ្រដូចជាការប្រៀបធៀបគ្នាដោយគូបផ្សំការដាក់វត្ថុបន្ថែមផងដែរ។

បន្ទាប់ពីបានមើលគំនូរទាំងអស់រួច នាយកសាលាដូចជប៉ុនដែលបានសហការក្នុងការការស្ទង់មតិនេះបាននិយាយថា "គំនូររបស់កុមារកម្ពុជាបង្ហាញពីជីវភាពរបស់ពួកគេដែលមើលទៅប្រកបដោយសុខុមាលភាព និងភាពស្មោះត្រង់ រីឯគំនូររបស់កុមារជប៉ុនពោរពេញទៅដោយការស្រមៃស្រមៃ ប៉ុន្តែខ្ញុំក៏មានការព្រួយបារម្ភខ្លះៗនូវចំណុចមិនប្រក្រតីដែរ" ។ ស្រដៀងគ្នានេះដែរ មីសាវ៉ា(Misawa) (ឆ្នាំ២០១៤) បានចង្អុលបង្ហាញថា ដោយផ្អែកលើលទ្ធផលនៃការស្ទង់មតិS-HTP ¹⁾ ដើម្បីឱ្យprefrontal cortexនៃកុមារលូតលាស់ល្អ វាចាំបាច់ត្រូវមានការរីកចម្រើនក្នុងទំនាក់ទំនងជាមួយមនុស្សក្នុងសង្គមជាច្រើន។ វិបត្តិផ្សេងៗនៅក្នុងប្រទេសជប៉ុនដូចដែលត្រូវបានគេនិយាយជាទូទៅ ការពិតគឺបណ្តាលមកពីការរងគ្រោះរងសង្គមដ៏ធំមួយជាជាងការរងគ្រោះរងក្រុមគ្រួសារ" ។ ស្ថានភាពកុមារជប៉ុនបច្ចុប្បន្នបើសិនវាត្រូវបានចងក្លាប់នៃ "ការដាច់គាំងនៃការលូតលាស់" (មីសាវ៉ាឆ្នាំ២០១៤) នោះ វាចាំបាច់ត្រូវពិចារណាឡើងវិញមិនត្រឹមតែការសិក្សាគំនូរតែប៉ុណ្ណោះទេ ប៉ុន្តែថែមទាំងការអប់រំនៅសាលារៀន និងនៅបរិយាកាសជុំវិញខ្លួនផងដែរ ។ នេះគឺជារឿងមួយដែលខ្ញុំចង់ចង្អុលបង្ហាញផងដែរ ទោះបីជាវាខុសគ្នាបន្តិចបន្តួចពីគោលបំណង និងខ្លឹមសារសំខាន់នៃការស្ទង់មតិនេះក្តី។

៣) ការពិចារណាបន្ទាប់ពីបានលទ្ធផលការស្ទង់មតិ
 គំនូររបស់កុមារនៅសាលាគាំទ្រត្រូវបានគេទទួលស្គាល់ថាមាន "ភាពរូបបញ្ចូល" "ទំហំគំនូរ" និង"នេត្រា ទស្សន៍" លើសពីនេះនៅក្នុងការបង្ហាញ៣វិមាត្រ(3D) និងការបង្ហាញរូបមនុស្សមានការលូតលាស់ជាងកុមារនៅសាលាមិនមានការគាំទ្រដែរ

ហើយការសន្សំបទពិសោធន៍នៃការសិក្សាគំនូរត្រូវបានគេសន្និដ្ឋានថាមានឥទ្ធិពលទៅលើសកម្មភាពនៃការគូរ
 គំនូរបស់ពួកគេ។
 ខ្លឹមសារដែលបានគូរនៅលើផ្ទាំងគំនូរនោះគឺមានភាពប្រាកដនិយមជាមួយនឹងការឈរនៅលើដីដោយយកបរិ
 យាកាសរស់នៅ និងទំនៀមទំលាប់ជីវភាពជាគោល
 ហើយយើងក៏អាចយល់បានថាកុមារគូរផងនិងពង្រីកគំនិតរបស់ខ្លួនឯងផងជាបន្តបន្ទាប់ដែលមើលទៅពោរពេ
 ញទៅដោយខ្លឹមសារ ។ របៀបនៃការគូរគំនូរមានការលូតលាស់ក៏ម្យ៉ាងដែរ
 ហើយយើងក៏អាចនិយាយបានថាត្រូវផ្តោតអារម្មណ៍ទៅលើការអភិវឌ្ឍនៃសមត្ថភាពស្រមៃលស្រមៃរបស់ពួកគេ
 ផងដែរ។ យើងអាចវិនិច្ឆ័យបានថាការធ្លាប់សិក្សាគំនូរ ឬក៏អត់នោះ វាជះឥទ្ធិពលដល់សមត្ថភាពស្រមៃលស្រមៃ
 ។ ហើយម្យ៉ាងទៀត ដើម្បីគូរគំនូរដោយដាក់នូវតួបន្ថែមអោយបានសកម្មនោះ ត្រូវទាមទារភាពសកម្ម
 និងកម្រិតនៃការស្រឡាញ់ចូលចិត្ត ក៏ដូចជាភាពបត់បែនទៅលើរូបគំនូរផងដែរ។ ចំណុចទាំងឡាយនេះដែរ
 ក៏ត្រូវបានគេលើកឡើងថាជាលទ្ធផលនៃការសិក្សាអប់រំគំនូរដែរ។

លើសពីនេះទៀត កុមារដែលបានទទួលការដឹកនាំគំនូរពីតំណាងនៃអង្គការSASលោកស្រី Kazuko
 Kasahara ត្រូវបានគេមើលឃើញថាកុមារកំពុងមានការអភិវឌ្ឍន៍នៅក្នុង “ភាពរួមបញ្ចូល” និង “នេត្រាទស្សន៍”
 ជាងកុមារនៅសាលាគាំទ្រ ។ ម្យ៉ាងវិញទៀត
 កុមារបានគូរគំនូរដែលបង្ហាញពីអារម្មណ៍ពិតនៃជីវិតរស់នៅប្រចាំថ្ងៃរបស់ពួកគេ
 ហើយគំនូរភាគច្រើនរបស់ពួកគេបានបង្ហាញឱ្យឃើញពីទិដ្ឋភាពផ្ទាល់ខ្លួនរបស់មនុស្ស ម្នាក់ៗ ។
 និយាយរួមប្រធានបទ និងការស្រមៃលស្រមៃរបស់កុមារដែលមានកម្រិតជាក់លាក់
 ដែលត្រូវបានបញ្ជាក់យ៉ាងច្បាស់នៅលើគំនូរមួយផ្ទាំងថា “ខ្ញុំចង់ធ្វើរូបគំនូរបែបនេះ!” ។
 វាហាក់ដូចជាមានភាពខុសប្លែកគ្នានៅក្នុងវិធីសាស្ត្រដឹកនាំ ខ្លឹមសារ និងការគាំទ្រ
 ក៏ដូចជារបៀបទំនាក់ទំនងជាមួយកុមារពីអ្នកស្រីកាសាហារ៉ា(Kasahara)
 និងបុគ្គលិកអង្គការសាលាSASដែលចូលរួមក្នុងការសហការអប់រំសិល្បៈ។
 ដើម្បីបញ្ជាក់បន្ថែមអោយបានច្បាស់
 យើងនឹងយកប្រធានបទនេះទៅធ្វើការស្រាវជ្រាវនៅក្នុងការស្ទង់មតិលើកក្រោយទៀត។

កុមារជំនួយជីវភាពស្ថិតនៅក្នុងបរិស្ថានសិក្សាល្អបរិបូណ៌ ហើយមានការប្រមូលផ្តុំព័ត៌មាន
 និងបទពិសោធន៍វប្បធម៌ដ៏ច្រើនធំធេង ។ នៅក្នុងនោះដែរ
 ពួកគេអាចការពង្រីកការស្រមៃលស្រមៃអោយធំទូលាយទៅកាន់ពិភពស្រមៃលស្រមៃបានយ៉ាងងាយស្រួល
 ជាពិសេសនៅក្នុងជីវិតប្រចាំថ្ងៃរបស់ពួកគេ ហើយអាកប្បកិរិយា
 ឥរិយាបថវាក៏សំដែងអោយឃើញពីការវិវត្តទៅមុខដោយឯករាជ្យដែលអាចត្រូវបានគេនិយាយថាជាលទ្ធផលនៃ
 ការសិក្សាវៀនសូត្រមុខវិជ្ជាគំនូរ និងសិប្បកម្មរហូតមកដល់បច្ចុប្បន្ន ។ ប៉ុន្តែ
 វាក៏បានក្លាយទៅជាបទពិសោធន៍យ៉ាងជាក់ស្តែងដ៏ច្រើននៅក្នុងចន្លោះ២វិមាត្រ (two dimensions)
 ហើយវាធ្វើឱ្យទន់ខ្សោយនូវកំរិតយល់ដឹងការកំណត់គោលដៅ នេត្រាទស្សន៍ និងជីវិតរស់នៅប្រចាំថ្ងៃ។

ចំណុចនេះវាត្រូវគ្នាជាមួយនឹងការចង្អុលបង្ហាញរបស់មីសាវ៉ា (ឆ្នាំ២០១៤)
 វាក៏ជាការជាប់គាំងយ៉ាងរសាប់រសាយនៃសមត្ថភាពបង្ហាញគំនូរបស់កុមារជំនួយ។ ការបង្កើតបទពិសោធន៍
 និងបរិស្ថានមុខក្រោយដ៏សំបូរបែបដែលវាលេចចេញពីការបង្ហាញមតិ ហើយវាចាំបាច់ក្នុងការពង្រឹងសកម្មភាព
 និងបទពិសោធន៍ច្រើនបន្ថែមទៀតអមទៅដោយអារម្មណ៍រូបវន្តពិតរបស់ពួកគេ។

នៅចុងបញ្ចប់
 ការសិក្សាស្ទង់មតិនេះត្រូវបានគ្រោងធ្វើម្តងទៀតចំនួន៣ដងក្នុងចន្លោះឆ្នាំ២០១៤-២០២០
 ហើយនិក្ខេបបទនេះត្រូវនឹងលើកទី១នៃឆ្នាំដំបូង ។ នៅពេលអនាគត យើងនឹងធ្វើការស្ទង់មតិ
 និងធ្វើការវិភាគដូចគ្នានឹងលើកទី២ និងទី៣ដែរ
 ហើយយើងមានគម្រោងតាមដាននិងវិភាគឱ្យបានច្រើនតាមដែលអាចធ្វើទៅបាន
 ថាតើគំនូរបស់កុមារម្នាក់ៗផ្លាស់ប្តូរយ៉ាងដូចម្តេច។

នៅក្នុងការស្ទង់មតិនេះមានភាពខុសប្លែកគ្នាគួរឱ្យកត់សម្គាល់នៅក្នុងភាពវិជ្ជមាន
 និងសមត្ថភាពស្រមៃលស្រមៃទៅនឹងសកម្មភាពគូរគំនូរអស់រយៈពេល តើកុមារមានបទពិសោធន៍ធ្លាប់រៀនគំនូរ
 ឬអត់ តាមរយៈការមើលឃើញពីគំនូរបស់ពួកគេ។ ដូចដែលខេន រ៉ូប៊ីនសុន(Ken Robinson) (ឆ្នាំ២០១៩)
 បានចង្អុលបង្ហាញថា
 “សមត្ថភាពស្រមៃលស្រមៃគឺជាសមត្ថភាពគួរម្យ៉ាងដែលមានក្នុងដួងចិត្តនូវអ្វីមួយមិនអាចយល់បានដោយវិញ្ញា
 ណ ហើយនិងជាប្រភពនៃការច្នៃប្រឌិត។ ការច្នៃប្រឌិតធ្វើអោយសមត្ថភាពស្រមៃលស្រមៃមានចលនា
 វាក៏ជាការអនុវត្តន៍នៃក្តីស្រមៃលស្រមៃ ” 2) ។ ប្រសិនបើឱកាសសម្រាប់សកម្មភាពគំនូរត្រូវបានធានា
 និងមានការគាំទ្រសម្ភារៈសិល្បៈទៅដល់សាលាមិនគាំទ្រដែរនោះ
 លទ្ធផលការសិក្សាគំនូរយើងអាចរំពឹងទុកបានថា វានឹងលេចចេញស្រដៀងគ្នានឹងសាលាគាំទ្រ
 និងសាលាអង្គការSASដែរ។ បច្ចុប្បន្ននេះ អង្គការJICAកំពុងធ្វើការរៀបចំសៀវភៅសិក្សា
 និងធ្វើការអភិវឌ្ឍកម្មវិធីសិក្សាដែលទាក់ទងនឹងការអប់រំសិល្បៈបឋម ដោយមានកិច្ចសហការពីអង្គការJHP
 ហើយយើងក៏ចង់បានការគាំទ្រជាបន្តនៅពេលអនាគតទៀតដែរ។

លើសពីនេះទៀត នៅក្នុងលទ្ធផលនៃការស្ទង់មតិនេះមិនត្រឹមតែបានដឹងថា
 កុមារមានបទពិសោធន៍ធ្លាប់សិក្សាគំនូរ ឬអត់តែប៉ុណ្ណោះទេ
 ប៉ុន្តែថែមទាំងបានរកឃើញពីភាពខុសគ្នាដ៏ធំនៅតំបន់រស់នៅរបស់ពួកគេផងដែរ។
 នេះគឺជាចំណុចនៃការប្រមូលផ្តុំព័ត៌មានដែលជាវប្បធម៌
 និងបទពិសោធន៍ដូចជាភាពខុសគ្នានៃថាមពលដែលមានទំនោរទៅនឹងរូបគំនូរ។
 ទាក់ទងនឹងចំណុចនេះនឹងត្រូវបញ្ជាក់ឱ្យកាន់តែច្បាស់ថែមទៀតនៅក្នុងការស្រាវជ្រាវនាពេលអនាគត។

ឯកសារយោងដែលបានដកស្រង់

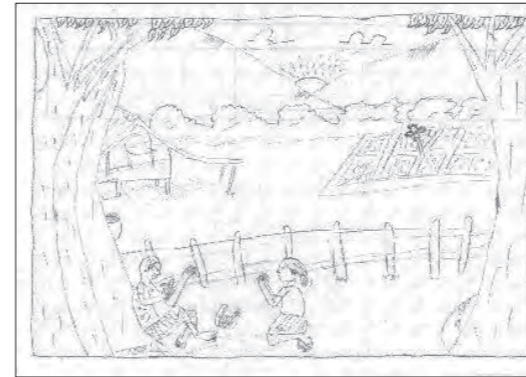
១) ណាកូ មីសាវ៉ា (Naoko Misawa) (ឆ្នាំ២០១៤) "ការជាប់គាំងនៃការលូតលាស់បានបង្ហាញនៅS-HTP" ដោយក្រុមហ៊ុនបោះពុម្ពផ្សាយSeishin Shobo

២) Ken Robinson, Lou Aronica , បកប្រែដោយTakako Iwaki (២០១៩)" ការច្នៃប្រឌិតគឺជាការអប់រំជឿនលឿនបំផុតនៅលើពិភពលោក"

ដោយក្រុមហ៊ុនបោះពុម្ពផ្សាយToyokan

ឯកសារយោង

- សាស្ត្រាចារ្យ Mitsuo Suzuki (2018) "ស្ថានភាពអប់រំសិល្បៈបច្ចុប្បន្ននៅក្នុងព្រះរាជាណាចក្រកម្ពុជា - ការខិតខំប្រឹងប្រែងក្នុងការសាងសង់សាលារៀនអោយកុមារអង្គការJHP " , "ការស្រាវជ្រាវវប្បធម៌ប្រៀបធៀប" លេខ១៣១, សន្និសីទសិក្សាវប្បធម៌ប្រៀបធៀបជប៉ុន
- Masaharu Takahashi (ឆ្នាំ១៩៧៤) "ការចាប់ផ្តើមសាកល្បងគំនូរ - តេស្តHTP", ដោយក្រុមហ៊ុនបោះពុម្ពផ្សាយBunkyo Shoin
- Miyoshi Isobe, Junko Katanasaka, Nozomi Inoue (ឆ្នាំ២០១២) "ការសិក្សាស្រាវជ្រាវយៈវង់ខ្លីស្តីពីការលូតលាស់ការគូរគំនូរបស់កុមារដោយប្រើវិធីសាស្ត្រS-HTP - វិធីសាស្ត្រសម្រាប់វាស្នងប្រសិទ្ធភាពនៃការអប់រំវិស្វកម្ម" , "ការសិក្សាស្រាវជ្រាវអំពីការអភិវឌ្ឍរបស់មនុស្ស" រ៉ូល២, សាកលវិទ្យាល័យ Minamikyushu។
- Akira Higashiyama (ឆ្នាំ២០១៦) "ការលូតលាស់ការគូរគំនូរ និងមាតិកាបស់កុមារ— ស្នាដៃគំនូរនិងការពន្យល់របស់កុមារ" បោះពុម្ពផ្សាយដោយNihon bunsho shuppan
- Etsuko Fujigo, Hisako Tsuboi, Manami Tanaka, Mitsuo Suzuki, Yukiko Iso (ឆ្នាំ២០១៣) " ភាពឆាប់រហ័សរបស់កុមារចំពោះធម្មជាតិ - តាមរយៈគំនូរបស់កុមារនៅនេប៉ាល់" , "កំណត់ប្រតិស្រាវស្រាវសាកលវិទ្យាល័យTokyo Mirai" សាកលវិទ្យាល័យTokyo Mirai, រ៉ូល៦
- Naoko Misawa (ឆ្នាំ២០០២) "វិបត្តិផ្លូវចិត្តរបស់កុមារដែលបង្ហាញលើតេស្តគំនូរ - ប្រៀបធៀបឆ្នាំ១៩៨១ និង១៩៩៧-៩៩ នៅS-HTP" ដោយក្រុមហ៊ុនបោះពុម្ពផ្សាយSeishin Shobo
- Suzuki Mitsuo (ឆ្នាំ២០១៩) "ការស្នងមតិទាក់ទងនឹងលទ្ធផល និងសមិទ្ធផលនៃគំនូរការអប់រំសិល្បៈ ជប៉ុននៅដំណាក់កាលនៃការអប់រំបឋមនៅកម្ពុជា - ផ្តោតលើគំនូរខុសគ្នានៃសកម្មភាពគំនូរបស់កុមារតាមវិធីសាស្ត្រS-HTP " "ការសិក្សាស្រាវជ្រាវវប្បធម៌ប្រៀបធៀប" លេខ៣៥, សន្និសីទសិក្សាវប្បធម៌ប្រៀបធៀបជប៉ុន



ឧទាហរណ៍គំនូរ១. សាលាគំនូរខ្មែរកំពត



ឧទាហរណ៍គំនូរ២. សាលាមិនគំនូរខ្មែរកំពត



ឧទាហរណ៍គំនូរ៣. សាលាគំនូរស្វាយរៀង



ឧទាហរណ៍គំនូរ៤. សាលាគំនូរស្វាយរៀង



ឧទាហរណ៍គំនូរ៥. សាលាមិនគំនូរភ្នំពេញ



ឧទាហរណ៍គំនូរ៦. សាលាអង្គការSAS



ឧទាហរណ៍គំនូរ៧. សាលាជួនដំប៉ុន

Empirical study on Cambodian children's drawing by the S-HTP method (Year 2)

【研究論文】

S-HTP法によるカンボジアの幼児・児童の描画活動に関する実証的研究(Ⅱ)

聖隷クリストファー大学
社会福祉学部 教授
鈴木 光男
SUZUKI, Mitsuo

一般社団法人 日本美術教育学会
日本美術教育学会 学会誌
美術教育 No.305 2021/3/31 発行 より引用

はじめに

カンボジア教育省は2016年1月に「全ての国民が潜在能力を存分に発揮できるようにする」「全てのカンボジア人が、身体と知識、国や人間を愛する心を調和した形で発達させ、国の発展、そしてカンボジアが地域及び世界に結び付けられることに貢献する」とする新教育課程フレームワーク「カリキュラム改革のヴィジョン」を公表した。そして、2018年に新教育課程の基準の開発、2020年からは「完全な市民(Full Citizen)」を基軸とした教育課程普及が目指されることとなった。ここで特筆すべきは、芸術科目(音楽・美術)が小学校で週1時間導入されるようになったことである。

この芸術科目(音楽・美術)のシラバスや教科書などの作成は、JICA草の根技術協力事業「初等科芸術教育支援事業」として特定非営利活動法人「学校をつくる会 Japan Team of Young Human Power(以下、JHP)」が担い、カンボジア教育省と協力して進められている。

JHPは、1993年に設立された当初から校舎建設・寄贈だけでなく芸術教育(音楽・美術)の普及に尽力しており、カンボジア国内でも特に貧しい地域であるカンボット・スヴァイリエン両州を中心に絵画展の開催やクレヨン・パスなどの画材提供を現在も継続している。2012年からは美術教育の普及を一層推し進めるため両州での美術教員養成トレーニングを開催した。筆者は、2012～2013年にかけて、このJHP美術教員養成トレーニングの講師としてトレーニングに参加・協力した。その詳細は、「カンボジア王国における美術教育構築を目指した国際支援」(『美術教育』No.298、日本美術教育学会)で具体的に報告している。これらJHPによる美術教育支援は、児童養護施設でのアートプロジェクトの展開も含め現在も様々な推進されている。

本研究は、こうしたJHPをはじめとした様々な支援によりカンボジアの児童の描画がどのように変容しているか、支援がなされていない地域や日本の児童の絵とはどんな違いがあるかを調査するものである。このような描画学習の経験の有無による児童の絵を比較調査することで、想像力や表現技術など美術教育を通して育まれる資質・能力について検討・考察するだけでなく、カンボジアの美術教育支援や日本の図画工作科、とりわけ描画学習の今後に資することを目的としている。具体的には、カンボット・スヴァイリエン両州のJHP支援校(以下、支援校)とその近隣のJHP非支援校(以下、非支援校)の児童の描画をS-HTP法により比較する。加えて、元東京都立高校美術教師 笠原知子氏がシェムリアップに2008年開校したSmall Art Schoolが提供する出張授業を通して描画学習経験の有る小学校(以下、SAS)と日本の公立小学校(以下、JPN)の児童の描画についても同様に調査する。そして、校種間で、また校種ごとの1回目・2回目の調査結果を比較する。

本研究に関わるプレ調査(2018)の結果は「カンボジア初等教育段階での日本の美術教育支援の実績と成果に関する調査—S-HTP法による児童の描画活動の差異に着目して—」(『比較文化研究』日本比較文化学会、No.135)にて報告し、JSPS科研費JP18K02554による本調査初年次1回目(2019)については「S-HTP法によるカンボジアの幼児・児童の描画活動に関する実証的研究(I)」(同上、No.139)にてその調査結果をまとめ論じた。これらプレ調査と1回目の本調査を通して、支援校は非支援校よりも積極的に描画に取り組んでおり、想像力の点で優れていた。また、家や人の表現においても顕著な違いが見られた。SASと非支援校の比較では、さらにそれらの違いは大きなものであった。また、SASはJPNと比して家や人の表現に稚拙さはあってもその描画内容や絵全体から受ける明るく健康的な印象、遠近感では上回るものであった。日本の児童は家や人の表現に優れた面が見られたが、それ以上に想像力においてカンボジアのどの対象校と比しても著しい違いが認められた。本論は、このような初年次1回目の調査に続く2年次2回目の調査について論ずるものである。(注:本論文は上掲(Ⅰ)の日本比較文化学会誌掲載論文に継続する内容ではあるが、広く美術教育研究者・実践者に広めるため本学会誌にて発表するものである。)

なお、ここで採用したS-HTP法(Synthetic-HTP:統合型HTP)は、1枚の用紙に家、木、人の3つ全てを描いてもらう心理査定・検査の一つとして知られている。磯部美良・刀坂純子・井ノ上のぞみ(2012)は幼児期の子供の発達を探る手法としてS-HTP法を用いており、心理査定・検査ということではない環境教育との関連から発達の様相を探る調査方法としてS-HTP法の有効性について言及している。筆者も、2013年にネパールにおいてS-HTP法を用いて児童の描画について調査し、自然への感受性に注目して報告した。とは言え、S-HTP法による子供の発達や表現そのものを論じた調査は少ない。三沢直子(2014)が長年のS-HTP法による調査結果を踏まえて「日本におけるさまざまな問題は、これまで一般的にいわれてきたように家庭の崩壊よりも、実はそれを支える地域の崩壊の方が大きい」¹⁾と警鐘を鳴らしているが、それは表現に限ったものではなく子供を取り巻く環境や生活など脳の発達に関わる課題を取り上げたものである。また、S-HTP法に限らずカンボジアの子供たちの描画に関する調査は非常に少なく、バウムテストによりカンボジアと日本の中学生の樹木画を比較した木村佐枝子・佐渡忠洋(2019)の報告がある程度である。

1. 調査概要

1-1. 期間

2019年12月～2020年2月

1-2. 対象校(計8校)

- ・支援校(カンボット州・スヴァイリエン州各1校、計2校)
- ・非支援校(カンボット州・スヴァイリエン州・プノンペン市各1校、計3校)
- ・美術教育実践校(SAS関係校2校・日本公立校1校、計3校)

支援校には絵の具・クレヨン・パス、画用紙などの提供が続けられており、JHP主催の絵画コンクールへの参加も継続されている。また、SASの関係2校も貧しい農村地帯にあり先の学校と生活環境の違いはないが、画材の提供だけではなくSASによる月3回の出張授業(1年間で約20回、各学年平均では年3回程度)が提供されている点に違いがある。プノンペンの非支援校は都会の市街地に位置し、カンボジアの他の調査対象校とは生活環境に大きな違いがある。日本の公立校も、地方都市とは言え市街地にある学校である。

1-3. 調査目的

カンボジアでは、描画学習の経験を有する児童は非常に少ない。小学校が午前・午後の2部制で全体的な授業時数が少ないうえに、教える教員もいなければ画材不足も深刻である。そこで、JHPがクレヨンや絵の具の提供など美術教育支援を継続している支援校と非支援校を対象に、描画の学習経験の有無から児童の描画にどのような違いが見られるかをS-HTP法により調査する。合わせて、SASが出張授業を提供している関係校や日本の公立校の児童の描画とも比較し、描画の学習経験の有無によりどのような違いが見られるかを実証的に明らかにするものである。

1-4. 調査方法

S-HTP法による描画調査。1～6年生各学年10人程度の児童に、30分間で横向きA4用紙に家と木と人、その他思いついたものを自由に描いてもらい、結果を分析・整理する。前述の通り、本調査では心理面の分析はせずにS-HTP分析項目・観点(表1)に従ってどのような表現がなされているかを整理し分析する。加えて、家や人については東山明(2016)『子どもの絵の発達と道筋-子どもの絵の作品と説明』(日本文教出版)の描画の発達段階に照らして分析し、1回目調査(2019年2～3月)との差異や校種ごとの特徴を整理する。

以下は、具体的な調査マニュアルである。これをもとに、どの学校においても同様の流れで進むようにした。

S-HTP法 調査実施マニュアル

【検査のための説明】

1. 名前などの自己紹介。
2. 今日は皆さんに絵を描いてもらうために来ました。

- でも、それは絵のうまい下手を見るためのものではありません。
- どんな生活を送り、どんなことを考え、どんな絵を描くのかを見させてもらうものです。
- それによって、よりよいカンボジアの学校や絵の学習を考えるための参考にします。
- ですから、「うまく描かなくては」「ちゃんとした絵にしないで」と考えずに、思いのままに好きなように描いてください。

【実施時の指示】

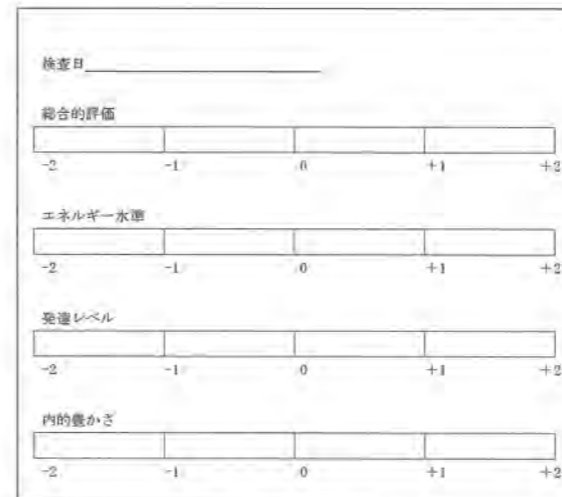
- 紙(A4コピー用紙)は横に使ってください。
- 忘れないうちに裏に名前と、学年と、女の子か男の子かを書いてください。
- (表に戻して) 家と人と木を入れて、あとは何でも好きな絵を描いてください。
- 家と木と人が入っていれば、どんな絵を描いてくれてもいいです。
- 先ほど言ったように、絵のうまい下手を見るものではありませんが、いい加減でなく、できるだけ思いを込めて楽しんで描いてください。
- 時間は30分間です。他の人のことは気にせずじっくり描いてください。30分経たなくても提出したい人は提出してください。

1-5. 分析方法

1枚ずつ図工担当教員2名と統合性、描画サイズ、付加物、遠近感、現実的・非現実的描写といった5つの分析項目・17の分析観点(表1)で分析し、家や人の表現は東山明(2016)の示した発達段階に照らして評価した。分析者3名が異なる評価となった場合は、改めて検討し評価を定めた。そして、支援校・非支援校・SAS・JPNという校種ごとの出現率を求め、カイ二乗検定結果をもとに比較・検討する。さらに、三沢直子(2014)による「S-HTP 評定用紙」から「社会性」を除いた4観点による評定用紙(資料1)を用いて、1枚ずつ描画の質的な側面も評価し、各校種ごとの平均値を求め比較・検討する。なお、ここでの「エネルギー水準」とは、「元気のよさや力強さ、積極的な描画活動の度合い」など描画から印象として受けるものであり、標準的なものを「0」とし、上回るものを「+1・+2」、下回るものを「-1・-2」としたものである。「発達レベル」も描画全体から受ける作者の発達の印象を同様に評価し、「内的豊かさ」は描画全体に込められた「作者自身の思いや絵のイメージ・お話の豊かさ」を評価者が印象として受け止め点数化するものである。なお、本調査においても描かれた絵のみをデータとしている。それは、先のプレ調査(2018)において「描画後質問用紙」を配布し、「絵全体」「人について」「家について」「木について」それぞれの説明や感想を記述してもらおうと準備していたが、カンボジアでは3年生でも文字が十分に書けない児童が多く、十分なデータは得られなかったからである。

表1. S-HTP分析項目と観点

分析項目	下位項目	分析の観点
統合性	1 明らかに統合的	全体的に一つのまとまった場面構成がなされ、不調和な部分がない。
	2 やや統合的	全体的に一つのまとまった場面構成がなされているが、一部に不調和な描写が残る。
	3 媒介による統合	家と木と人自体は羅列的だが、地面・山・草などの媒介によって一応の統合は図られている。
	4 やや羅列的	一部にやや関連づけは見られるが、全体的には羅列的に描かれている。
	5 羅列的	家と木と人が無関係に羅列されている。
描画サイズ	6 全体で4分の1以下	描かれた絵全体が、画用紙の4分の1以下の小さな絵(ただし、この物が離れて描かれている場合は、一箇所に集めた大きさで判断する)。
	7 HTPで4分の1以下	付加物は別にして、家と木と人の総和が4分の1以下の絵。
課題以外の付加物	8 付加物あり	家・木・人以外の付加物を書いている(地面は除く)。
遠近感	9 大	遠くまで細かく描き、遠近感が大きな絵。
	10 中	家木人の付近にのみ遠近感がある。
	11 ややあり	明確な遠近の示唆はないが、家木人が上下に描かれ、やや遠近感がある。
	12 直線(重なりあり)	家と木と人が直線上に並んでいて遠近感はないが、家と木、家と人など、いずれかが重なっている。
	13 直線(重なりなし)	家と木と人が直線上に並び、前後の重なりもない。
	14 ばらばら	家と木と人がばらばらに描かれ、遠近感がない。
現実的・非現実的描写	15 現実的	全体的に描写内容が身近で現実的な物。
	16 混合	現実的な内容と非現実的な内容が混在している物。
	17 非現実的	全体的に描写内容が非現実的な世界を描いている物。



資料1. S-HTP評定用紙

備していたが、カンボジアでは3年生でも文字が十分に書けない児童が多く、十分なデータは得られなかったからである。

2. 調査結果

実際には、調査1回目同様に各校に依頼したとおりの各学年10人ではなくばらつきがあった。これは学年途中での

児童の出入りが多いうえに、日常的に児童が家事や労働に従事することの多いカンボジアでは致し方ないところである。また、1年生のクラスに12歳児童がいるなど同学年であっても大きな年齢の幅があるため、実際の分析では所属学年ではなく日本の学齢に合わせて整理した。加えてSAS関係2校では調査協力を得られた学年が3年生以上であったため、SASと比較する場合にはその他の調査対象校も3年生以上のデータのみで分析・整理することとした。データを精査する上で人数のばらつきや教室環境の違い(机が穴だらけで描画には不向きだとか、机の高さが体格に合っていないなど)は調査する上で一定にしたいところではあったが、カンボジアでは限界があることを申し添えておきたい。各調査対象校の調査人数の違いは、表2~4を確認いただきたい。

以下、それぞれの調査結果について詳述する。なお、家・木・人以外に描かれた「付加物」については前回と変わらず同様の結果であったため、ここでは割愛する。

2-1. S-HTP分析項目と観点をもとにした比較

(表2・3・4)

2-1-1. 支援校と非支援校の比較(表2左)

支援校は非支援校より統合的で遠近感があり、人の表

表2. S-HTPによる児童の絵の比較(支援校と非支援校・日本の公立校)

分析項目		出現率		χ ² 値	出現率		χ ² 値
		支援校	非支援校		支援校	日本	
		82人	135人		82人	56人	
(全体) 統合性	明らかに統合的	19.5	10.4	.058	19.5	23.2	.600
	やや統合的	29.3	12.6	.002**	29.3	28.6	.929
	媒介による統合	24.4	28.1	.544	24.4	30.4	.437
	やや羅列的	15.9	29.6	.022*	15.9	5.4	.059
	羅列的	11.0	19.3	.108	11.0	10.7	.961
描画サイズ	全体で4分の1以下	4.9	5.2	.920	4.9	0.0	.093
	HTPで4分の1以下	19.5	17.0	.645	19.5	7.1	.043*
付加物	あり	87.8	86.7	.808	87.8	89.3	.790
遠近感	大	12.2	7.4	.237	12.2	1.8	.027*
	中	36.6	12.6	.001***	36.6	19.6	.032*
	ややあり	23.2	24.4	.831	23.2	19.6	.622
	直線(重なりあり)	11.0	21.5	.048*	11.0	17.9	.249
	直線(重なりなし)	8.5	25.2	.002**	8.5	32.1	.557
	ばらばら	8.5	8.9	.929	8.5	7.1	.767
現実的非現実的描写	現実的	96.3	96.3	.986	96.3	58.9	.001***
	混合	3.7	3.0	.779	3.7	33.9	.001***
	非現実的	0.0	0.7	.435	0.0	5.4	.034*
家	正面・枠のみ	1.2	0.0	.434	1.2	0.0	.407
	正面・曖昧な表現	11.0	8.9	.360	11.0	3.6	.115
	正面・平面的	62.2	67.4	.542	62.2	62.5	.971
	やや立体的	17.1	12.6	.360	17.1	19.6	.700
	立体的	8.5	11.1	.720	8.5	12.5	.449
人	頭足人	1.2	0.7	.724	1.2	0.0	.407
	前図式的	32.9	28.1	.560	32.9	14.3	.013*
	図式的	51.2	37.0	.040*	51.2	53.6	.786
	前写實的	3.7	8.1	.192	3.7	30.4	.001***
	写實的	0.0	0.7	.435	0.0	0.0	—
	棒人間なし	11.0	20.7	.064	11.0	0.0	.010**
	なし	0.0	3.7	.078	0.0	0.0	—

(*:p<.05, **:p<.01, ***:p<.001)

表3. S-HTPによる3年生以上の児童の絵の比較(SASとJHP非支援校・日本の公立校)

分析項目		出現率		χ ² 値	出現率		χ ² 値
		SAS	非支援校		SAS	日本	
		57人	91人		57人	37人	
〈全体〉統合性	明らかに統合的	24.6	15.4	.165	24.6	35.1	.268
	やや統合的	22.8	16.5	.339	22.8	29.7	.452
	媒介による統合	38.6	29.7	.261	38.6	18.9	.044*
	やや羅列的	7.0	25.3	.005**	7.0	5.4	.755
	羅列的	7.0	13.2	.003**	7.0	10.8	.520
描画サイズ	全体で4分の1以下	0.0	3.3	.166	0.0	0.0	-
	HTPで4分の1以下	0.0	14.3	.003**	0.0	2.7	.011*
付加物	あり	100.0	93.4	.048*	100.0	91.9	.029*
遠近感	大	5.3	11.0	.231	5.3	2.7	.548
	中	38.6	18.7	.007**	38.6	91.9	.247
	ややあり	45.6	28.6	.035*	45.6	2.7	.008**
	直線(重なりあり)	7.0	17.6	.067	7.0	27.0	.079
	直線(重なりなし)	3.5	15.4	.024*	3.5	18.9	.005**
	ばらばら	0.0	8.8	.021*	0.0	18.9	.011**
現実的・非現実的描写	現実的	100.0	95.6	.109	100.0	56.8	.001***
	混合	0.0	3.3	.166	0.0	35.1	.001***
	非現実的	0.0	1.1	.427	0.0	8.1	.001***
家	正面・枠のみ	0.0	0.0	-	0.0	0.0	-
	正面・曖昧な表現	7.0	7.7	.879	7.0	0.0	.100
	正面・平面的	70.2	62.6	.348	70.2	59.5	.284
	やや立体的	19.3	15.4	.536	19.3	21.6	.784
	立体的	3.5	14.3	.035*	3.5	18.9	.784
人	頭足人	0.0	0.0	-	0.0	0.0	-
	前図式的	12.3	19.8	.236	12.3	5.4	.268
	図式的	61.4	48.4	.121	61.4	48.6	.223
	前写実的	21.1	12.1	.143	21.1	45.9	.011*
	写実的	1.8	1.1	.737	1.8	0.0	.418
	棒人間	1.8	15.4	.008**	1.8	0.0	.418
	なし	1.8	3.3	.573	1.8	0.0	.418

(*:p<.05, **:p<.01, ***:p<.001)

現において前図式的な表現上の発達段階にある児童が多いという傾向が見られた。対して、非支援校は羅列的で直線上に家や木・人を配する傾向にあった。

これらは概ね1回目の調査と同じような傾向であったが、全体的にその差は縮まっており、有意差が認められた観点数も1回目の11観点から今回は6観点へと減少した。つまり、1回目から2回目までの10か月ほどの間で、非支援校の描画は積極性や想像力、また家や人の表現力など多くの点で向上・変容したと言える。この点については、各校種ごとの1回目・2回目調査結果の比較により、改めて整理し後述する。

2-1-2. 支援校と日本公立校の比較(表2右)

支援校とJPNについても、概ね前回調査と同じような傾向を示した。特に、「現実的・非現実的描写」については、JPNが空想に富む非現実的な表現が多いのに対し支援校はリアルな生活場面を描写したものが多く、この点については変わりがなかった。三沢(2014)もタイの児童の絵と比較した日本の児童の「非現実的描写」の多さを指摘している。

また、前回「課題以外の付加物」でJPNは100%の出現率

であったのが、今回は支援校とそれほどの差が見られなかった。これは、これまでのカンボジアの調査でも見られたことだが、一部の児童が課題である家・木・人を描き終えたところで描画を終了し退出すると、それに続くようにして終了・提出する児童が見られる。今回、JPNにおいて途中退出する児童が多くなったことが「付加物」を描く児童減少に関係しているかも知れない。しかし、それは推測の域を出ず断定することはできない。

その他、支援校は家や木・人などがいくぶん小さく人の表現が稚拙で棒人間が多いといった点や、遠近感では日本の公立校の方がやや乏しいという点は前回と同様であった。

2-1-3. SASと非支援校の比較(表3左)

前回の調査と同様にSASの描画調査は3年生以上の児童のみであったため、非支援校、JPN共に3年生以上のデータで比較・整理した。

SASと非支援校を比較すると、前回同様に「統合性」「描画サイズ」「付加物」「遠近感」において違いが見られた。SASは家・木・人が大きく、想像力があり積極的に描画に

表4. 校種ごとの1回目・2回目調査の児童の絵の観点別出現率比較

分析項目		JHP支援校			JHP非支援校			SAS			日本公立校		
		1回目%	2回目%	χ ² 値	1回目%	2回目%	χ ² 値	1回目%	2回目%	χ ² 値	1回目%	2回目%	χ ² 値
		83人	82人		130人	135人		69人	57人		48人	56人	
〈全体〉統合性	明らかに統合的	20.5	30.5	.140	8.5	23.0	.001***	42.0	36.8	.554	33.3	57.1	.015*
	やや統合的	22.9	31.7	.204	13.1	7.4	.127	37.7	38.6	.916	14.6	16.1	.834
	媒介による統合	25.3	12.2	.031*	18.5	26.7	.111	10.1	10.5	.944	20.8	12.5	.252
	やや羅列的	20.5	14.6	.324	32.3	25.2	.200	8.7	7.0	.729	22.9	1.8	.001***
	羅列的	9.6	11.0	.778	27.7	17.8	.054	1.4	7.0	.111	6.3	10.7	.420
描画サイズ	全体で4分の1以下	4.8	4.9	.986	20.0	5.2	.001***	0.0	0.0	-	6.3	0.0	.058
	HTPで4分の1以下	10.8	19.5	.120	25.4	17.0	.096	8.7	0.0	.023*	10.4	7.1	.554
付加物	あり	89.2	87.8	.786	85.4	86.7	.763	100.0	100.0	-	100.0	89.3	.019*
遠近感	大	7.2	22.0	.007**	2.3	14.1	.001***	11.6	50.9	.001***	8.3	17.9	.156
	中	21.7	35.4	.052	11.5	9.6	.613	46.4	19.3	.001***	22.9	26.8	.650
	ややあり	25.3	20.7	.486	6.9	28.9	.001***	21.7	17.5	.557	8.3	17.9	.156
	直線(重なりあり)	14.5	6.1	.006**	16.9	17.8	.854	15.9	10.5	.376	18.8	8.9	.143
	直線(重なりなし)	24.1	3.7	.001***	38.5	20.0	.001***	1.4	1.8	.892	31.3	21.4	.255
	ばらばら	6.0	12.2	.168	23.8	9.6	.002**	2.9	0.0	.195	10.4	5.4	.334
現実的・非現実的描写	現実的	85.5	96.3	.016*	86.9	96.3	.006**	92.8	100.0	.038*	62.5	58.9	.710
	混合	13.3	3.7	.027*	10.8	3.0	.012*	5.8	0.0	.065	29.2	33.9	.603
	非現実的	0.0	0.0	-	2.3	0.7	.296	1.4	0.0	.361	8.3	5.4	.546
家	正面・枠のみ	0.0	1.2	.313	3.1	0.0	.040*	0.0	0.0	-	2.1	0.0	.278
	正面・曖昧な表現	7.2	11.0	.403	19.2	8.9	.015*	14.5	7.0	.184	16.7	3.6	.024*
	正面・平面的	56.6	62.2	.466	46.9	67.4	.001***	66.7	70.2	.674	56.3	62.5	.517
	やや立体的	27.7	17.1	.101	20.8	12.6	.074	18.8	19.3	.948	14.6	19.6	.497
	立体的	7.2	8.5	.755	10.0	11.1	.769	0.0	3.5	.117	10.4	12.5	.740
人	頭足人	0.0	0.0	-	2.3	0.7	.296	0.0	0.0	-	0.0	0.0	-
	前図式的	19.3	34.1	.031*	23.1	28.1	.345	26.1	12.3	.053	22.9	14.3	.256
	図式的	44.6	39.0	.470	46.2	37.8	.167	55.1	61.4	.474	64.6	53.6	.256
	前写実的	9.6	7.3	.593	2.3	8.1	.034*	8.7	21.1	.049*	12.5	30.4	.029*
	写実的	3.6	0.0	.082	1.5	0.7	.539	1.4	1.8	.892	0.0	0.0	-
	棒人間	20.5	7.3	.015*	17.7	20.7	.529	1.4	1.8	.892	0.0	0.0	-
	なし	1.2	3.7	.306	6.9	3.7	.242	7.2	1.8	.150	0.0	0.0	-

(*:p<.05, **:p<.01, ***:p<.001)

取り組み、家・木・人の周辺で遠近感ある表現がなされていた。非支援校は、それに反して描かれたものがやや羅列的であり、前回同様に棒人間が多く描かれていた。

2-1-4. SASと日本公立校の比較(表3右)

「統合性」において「媒介による統合」に有意差は見られるが、その他の観点を合わせて総合的に見るとSASとJPNに統合性の差はそれほど認められない。「描画サイズ」や「付加物」を見ると、SASの方が大きく積極的に描いていると言える。「遠近感」ではSASは遠近感がありJPNはやや乏しく、「現実的・非現実的表現」ではJPNが空想に富みSASはリアルという点においては、前回同様の傾向が見られた。また、人の表現では、JPNの前写実的な表現が多くなっていった点が前回とは少し違った傾向であった。前回調査から10か月間で、JPNの3年生以上は図式的な表現から前写実的な表現へと移行する段階にあると推察される。

2-1-5. 校種ごとの1回目・2回目調査の児童の絵の観点別出現率の比較(表4)

表4は、校種ごとの1回目・2回目調査の児童の絵の観点別出現率を比較したものである。1回目の調査で全ての項目において他の調査対象校より下回っていた非支援校が、最も多くの点で変容が見られた。これは、まだ十分とは言えないが、新教育課程において芸術科目(音楽・美術)が週1時間新設されることが発表され、シラバスや教科書は出来上がってはいない中でも非支援校で月に1回程度は描画の学習がなされるようになったことの影響が大きいと思われる。描画の学習経験がこれまで乏しかった分、新たに導入された月1回程度の描画の学習の影響が大きく、積極性や表現力全般で他の調査対象校より向上・変容が見られたのであろう。調査前、非支援校は他の調査校との差を縮めることなく変容もあまり見られないと予想していただけに非常に驚かされた。

校種ごとの1回目と2回目を比較すると、主には次のような変容があった。

【支援校】遠近感や現実的・非現実的描写、人の表現に関して変容が見られた。

【非支援校】描画サイズや遠近感、現実的・非現実的描写、そして家の表現など多くの点で変容していた。
 【S A S】変容した点は少ないが、サイズや遠近感、人の前写実的表現に関して変容が見られた。
 【J P N】SAS同様に変容した点は少ない。統合性や家と人の描写に関してのみ変容が見られた。なお、1回目の調査で100%であった「付加物」が2回目まで89.3%まで減少しているが、先述の通り時間途中で退出する児童が多かったことが原因しているかも知れないが断定はできない。

2-2. S-HTP 評定用紙による質的評価比較

図1・2はS-HTP 評定用紙により1枚ずつ評価し、その質的評価点を校種ごと平均しグラフに表したものである。このような質的評価を1回目の調査では行っていない。1回目の調査後に全ての絵を見た日本の調査対象校校長が「カンボジアの子供の絵は、健康的で素直に自分や生活を描いている。日本の子供たちの絵は、空想に富んでいるが、どこか心配な印象も受ける」と語ったことがきっかけで、5つの分析項目・17の分析観点(表1)による分析だけでは本研究の目的に照らして十分ではないと判断した。そこで、小学校現場教員の直感的な印象を重視し、三沢(2014)の「S-HTP 評定用紙」(資料1)を用いることとしたのである。

なお、調査対象校8校それぞれの6年生の絵を1枚ずつ描画例として右ページで紹介する。合わせて参照いただきたい。

2-2-1. 1~6年生児童の絵の質的評価比較(支援校と非支援校・日本の公立校)(図1)

支援校は「発達レベル」のみマイナスとなっており、非支援校は全てにおいてマイナスとなった。JPNは全てにプラスとなっている。

1回目調査と比較して最も変容が見られた非支援校であったが、質的に評価・比較すると他の対象校に比して描画に対する発達はまだ十分ではないことが明らかとなった。しかし、支援校と非支援校間に絵画表現の「発達レベル」の差は認められず、「エネルギー水準」や「内的な豊かさ」において差が認められた。これらは描画に向かう積極性や想像力に関わるものである。総じて蓄積された描画経験の量的な差に由来するものであろう。支援校にはJHPから画材の提供がなされており、月1回程度の描画学習が非支援校でもなされ始めたとは言え、非支援校よりも支援校の描画学習が充実しているのは明らかである。画用紙やクレヨン・パスなどが全くない非支援校も珍しくない状況なのである。

2-2-2. 3年生以上児童の絵の質的評価比較(支援校とSAS・日本の公立校)(図2)

支援校のみ「発達レベル」でマイナスとなっており、SASとJPNは全てにおいてプラスとなっている。SASの描画指導は各学年それぞれ年3回程度だが効果を挙げている。

SASとJPNは「内的豊かさ」と「総合的な評価」では殆ど差がない。家や人などの表現上の「発達レベル」は日本の児童の方が上回っているが、「エネルギー水準」はSASの方がやや高い。SASは巧みではないが、積極的に楽しんで描いている様子がかがえる。先述した日本の調査対象校校長が抱いた印象・言葉が今回の質的評価により裏付けられた形である。

木村・佐藤(2019)はカンボジアと日本の中学生の樹木画の比較を通して、「CAM(カンボジア)において認められた(略:筆者)表現の豊かさは、彼らの生の躍動性、あるいは子どもの生にとって重要となる学びへの意欲とも関連している」と述べている。このことは、先の校長の言葉のように、稚拙ではあるが「健康的」で「素直」な表現と通ずるものである。本調査の主たる目的と直接関わるものではないが、今一度日本の教育や子供を取り巻く生活・環境について見直したい。前回調査後にも触れた点ではあるが、「三沢(2014)の指摘とも重ねて、日本の児童の絵の表現力に見られる停滞を危惧するところである。彼らの表現が立ち現れる前後の経験や環境を豊かにし、身体的なりアルな実感を伴う活動・経験をより一層充実させていくことが重要」ということを改めてここに記しておきたい。三沢(2014)が「発達

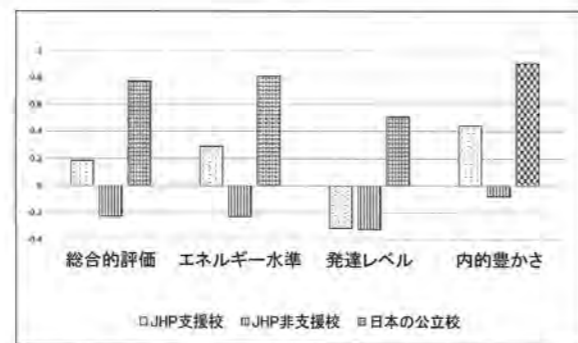


図1. 1~6年生児童の絵の質的評価比較(支援校と非支援校・日本の公立校)

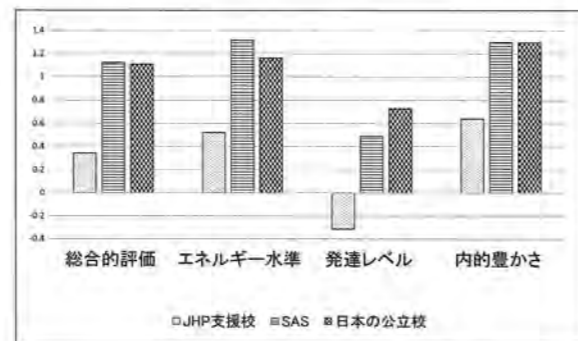


図2. 3年生以上児童の絵の質的評価比較(支援校とSAS・日本の小学校)



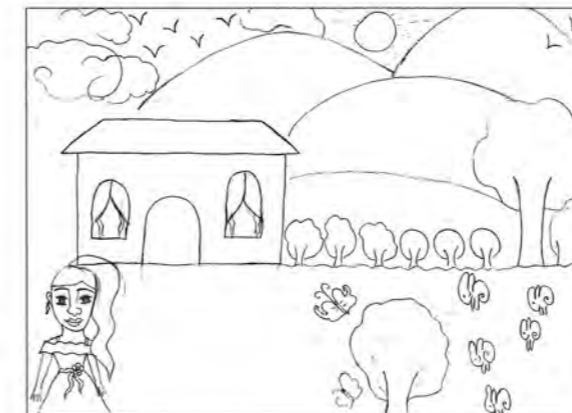
描画例1. カンボット支援校



描画例2. カンボット非支援校



描画例3. スヴァイリエン支援校



描画例4. スヴァイリエン非支援校



描画例5. フノンペン非支援校



描画例6. SAS1



描画例7. SAS2



描画例8. JPN

の停滞」と指摘した中では、特に「しっかりとした現実感が育っていない」⁶⁾、「自分に対する実感や自己肯定感、他者に対する共感性などが育っていない」⁷⁾の2点に注目したい。今後の美術教育の展開を考えたとき重要な点と言えるのではないだろうか。

今後の日本は工業社会から情報社会、そして創造社会へと移行し Society5.0と言われる時代への移行期にある。非現実的な空想を楽しみながら自由に想像を巡らせ、自分ならではのストーリーを展開・創造する日本の子供たちの絵にはこれまでの日本の美術教育による成果が認められる。美術教育が担う身体性と想像性を分け隔てなく重視していく創造的な学習展開が、今後一層求められよう。

3. 調査結果のまとめ

上記「2-1 S-HTP分析項目と観点をもとにした比較(表2・3・4)」と「2-2. S-HTP 評定用紙による質的評価比較」を通して調査対象校種ごとの表れは以下のようにまとめられる。

- ①1回目～2回目の調査を通して、非支援校が多くの点で変容していた。新教育課程に基づく絵画学習が導入され始め、非支援校でも月1時間程度の学習がなされるようになったためと推察される。
- ②支援校には画材の提供がなされており、非支援校よりも描画学習が充実していると思われる。
- ③支援校と非支援校間に、絵画表現の「発達レベル」に差は認められない。しかし、「エネルギー水準」や「内的な豊かさ」において著しい差が認められる。結果、「総合的な評価」においても差がある。
- ④全ての面でSASの方が支援校より質的に上回っている。画材の提供だけでなく、SASがカリキュラムを整え週1回程度の出張授業を提供し、美術教育の専門家や画家志望の若いカンボジア人スタッフが支援・指導していることが影響していると思われる。
- ⑤SASとJPNは「内的豊かさ」と「総合的な評価」では殆ど差がない。表現上の「発達レベル」はJPNの方が上回っているが、「エネルギー水準」はSASの方が高い。SASの児童は巧みではないが、積極的に楽しんで描いている様子がうかがえる。想像力の面でどちらが優位かは断定できないが、日本の子供たちの方が空想・非現実的なストーリーを絵の中に展開している。
- ⑥JPN・SAS-支援校-非支援校の順で、絵の「統合性」(画面全体の構図のまとまり)が認められる。描画学習の経験が豊富になるにつれ、「統合性」は高くなっている。
- ⑦JPNは、現実的な内容ばかりではなく、非現実的・空想的な内容の絵を描いている。また、全ての点において質的に優れている。
- ⑧JPNの絵は統合的ではあるが、「遠近感」に関してはカン

ボジアの子供たちの方が上回っている。

おわりに

本論は、2018～2020年度の3年間に3回繰り返して行う調査計画の中の2年次2回目に当たるものである。当初3回目の調査は2020年6月に実施予定で、同年10月に国際シンポジウムを開催し、カンボジア教育省やJHP・SASの関係者などを交えて調査結果を共有し意見交換する予定であった。COVID-19感染拡大に伴い、全ての予定がずれてしまった。そのようなことから本論は、2020年9月にオンライン上で開催された第59回大学美術教育学会宇都宮大会にて口頭発表したものを改めて論文としてまとめたものである。

今回の調査では、不十分ではあっても月に1回程度の描画学習が新教育課程の準備段階として始まったことで、絵に表す学習経験が乏しかった非支援校が他の調査対象校以上に成長・変容してきていることが分かった。この点は筆者の予想を大きく上回るもので、カンボジアの今後の美術教育の充実を期待を抱かせるに足る結果であった。

3月中旬から休校となって以来、カンボジアでは一度も学校が再開されずに9月現在に至っている。カンボジア教育省は、新年度となる10月を過ぎた11月までの再開を目指すと言っているが、それ以上の具体的な方針は出されていない。この休校期間は、教育省によるテレビやFacebookなどの動画配信で子供たちの学習をできる限り支援しようとする取り組みがなされている。しかし、地方では電気の提供もままならないようなところや、通信環境が整備されていないところも多く、十分な学力保証は望めない。JHP・SASはもちろんAAR Japan(難民を助ける会)など日本のNGOやNPOが現地で支援を継続している。ここまで復興し、教育面も充実してきているカンボジアの歩みを止めることなく、再開後のますますの拡充・発展を祈らずにはいられない。

描画活動に対する積極性や想像力・創造力などは、日本でもカンボジアでも変わらず子供の生を充実させるものであり、これからの社会、ポストコロナの世界で重要なものになる。そのような期待を持って、カンボジアの小学校が再開された際には3回目の調査を実施し、この3年間に及ぶ調査・研究をまとめていく所存である。

最後に、本研究はJSPS科研費JP18K02554の助成を受けたものであることを申し添え、感謝を表したい。

引用文献

- 1)三沢直子,『S-HTPに表れた発達の停滞』,誠信書房,2014,p.67
- 2)同上,p.135
- 3)鈴木光男,『S-HTP法によるカンボジアの幼児・児童の描画活動に関する実証的研究(1)』,『比較文化研究』No.139,日本比較文化学会,2020,p.90

4)木村佐枝子・佐藤忠洋,『バウムテストから見たカンボジアとにほんの中学生のパーソナリティの比較』,『NGO活動研究』第18巻第1号,特定非営利活動法人NGO活動教育研究センター,2019,p.19

5)鈴木,前掲書,p.91

6)三沢,前掲書,p.10

7)三沢,前掲書,p.12

Empirical study on Cambodian children's drawing by the S-HTP method (Year 2)

Seirei Christopher University
SUZUKI, Mitsuo

The Japan Team of Young Human Power (JHP), a nonprofit corporation, and Small Art School have been actively supporting Cambodia. They have been facilitating teacher training and curriculum development in art education. As a result, an art subject will be newly introduced in the new Cambodian education curriculum. The new Cambodian curriculum will include one hour of art class per week and will be implemented in elementary schools. Prior to art education beginning in Cambodia, we investigated if there was a difference in the students' development of creative expression in drawing depending on whether the students had experience with the picture development method called the S-HTP (Synthetic House-Tree-Person technique). We found that children with learning experiences had more expressive power. They used their imagination based on their real life experiences while expressing their creativity through drawing.

**ការសិក្សាស្រាវជ្រាវអំពីសកម្មភាពគំនូរបស់កុមារកម្ពុជាដោយប្រើវិធីសាស្ត្រ S-HTP (II)
ស្រាវជ្រាវដោយសាស្ត្រាចារ្យមីស៊ីអុ ស៊ីស៊ីគី នៃសាកលវិទ្យាល័យសិរីគ្រីស្ទហ្វើ**

Empirical study on Cambodian children's drawing by the S-HTP method
(Year 2)
SUZUKI , Mitsuo
Seirei Christopher University

Abstract

The Japan Team of Young Human Power (JHP), a nonprofit corporation, and Small Art School have been actively supporting Cambodia. They have been facilitating teacher training and curriculum development in art education. As a result, an art subject will be newly introduced in the new Cambodian education curriculum. The new Cambodian curriculum will include one hour of art class per week and will be implemented in elementary schools. Prior to art education beginning in Cambodia, we investigated if there was a difference in the students' development of creative expression in drawing depending on whether the students had experience with the picture development method called the S-HTP (Synthetic House-Tree-Person technique). We found that children with learning experiences had more expressive power. They used their imagination based on their real life experiences while expressing their creativity through drawing.

សេចក្តីផ្តើម

នៅខែមករាឆ្នាំ ២០១៦ ក្រសួងអប់រំ យុវជន និងកីឡានៃព្រះរាជាណាចក្រកម្ពុជាបានប្រកាសជាសាធារណៈថា ក្របខ័ណ្ឌកម្មវិធីសិក្សាអប់រំថ្មី "ចក្ខុវិស័យនៃកំណែទម្រង់កម្មវិធីសិក្សា" អាចធ្វើឱ្យមនុស្សគ្រប់រូបអាចឈានចាប់យកនូវសក្តានុពលដ៏ពេញលេញរបស់ខ្លួន និងធ្វើឱ្យប្រជាជនកម្ពុជាទាំងអស់អភិវឌ្ឍទាំងរាងកាយ ចំណេះដឹង និងការស្រឡាញ់ប្រទេសរបស់ខ្លួន ព្រមទាំងមនុស្សជាតិប្រកបដោយភាពសុខដុមរម្យនា ដើម្បីចូលរួមចំណែកក្នុងការអភិវឌ្ឍប្រទេសជាតិ និងដើម្បីតភ្ជាប់ប្រទេសកម្ពុជាទៅនឹងតំបន់ និងពិភពលោក។ បន្ទាប់មកនៅឆ្នាំ ២០១៨ ការអភិវឌ្ឍស្តង់ដារសម្រាប់វគ្គសិក្សាអប់រំថ្មីត្រូវបានរៀបចំឡើង ហើយចាប់ពីឆ្នាំ ២០២០ វាក៏បានក្លាយទៅជាគោលបំណងនៃការផ្សព្វផ្សាយវគ្គសិក្សាអប់រំដោយផ្អែកលើមូលដ្ឋានពាក្យថា "ពលរដ្ឋពេញលេញ(Full Citizen)" ។ ហើយអ្វីដែលគួរកត់សម្គាល់នៅទីនេះគឺថាមុខវិជ្ជាសិល្បៈ (ដូរតន្ត្រី និងសិល្បៈ) ក៏ត្រូវបានបញ្ចូលទាំងម៉ោងក្នុង១សប្តាហ៍នៅតាមសាលាបឋមសិក្សាផងដែរ។

ការបង្កើតរៀបចំផែនការ និងសៀវភៅសិក្សាសម្រាប់មុខវិជ្ជាសិល្បៈនេះ (ដូរតន្ត្រី និងសិល្បៈ) ត្រូវបានអនុវត្តដោយអង្គការសាងសង់សាលារៀនអោយកុមារJapan Team of Young Human Power (ហៅកាត់ថាJHP)ដែលជាអង្គការមិនរកប្រាក់ចំណេញដែលជាអ្នកកាន់ "គម្រោងគាំទ្រការអប់រំសិល្បៈបឋម" ហើយអង្គការនេះទទួលបានថវិកាពីគម្រោងសហប្រតិបត្តិការបច្ចេកទេសគុសាណូណេរបស់ អង្គការJICA។ ហើយគម្រោងនេះសព្វថ្ងៃកំពុងត្រូវបានអនុវត្តដោយមានការសហការពីក្រសួងអប់រំ យុវជន និងកីឡានៃព្រះរាជាណាចក្រកម្ពុជា។

ចាប់តាំងពីការបង្កើតឡើងក្នុងឆ្នាំ ១៩៩៣ អង្គការជេអេជី (JHP) បានខិតខំប្រឹងប្រែងមិនត្រឹមតែសាងសង់ និងបរិច្ចាគអគារសិក្សាប៉ុណ្ណោះទេ ប៉ុន្តែថែមទាំងធ្វើឱ្យការអប់រំសិល្បៈ (ដូរតន្ត្រី និង សិល្បៈ) កាន់តែមានភាពរីកចំរើន ហើយអង្គការនេះបច្ចុប្បន្ននៅតែរៀបចំពិធីសំនុំ និងផ្តល់នូវសម្ភារៈគំនូរដូចជាគូលី(ក្រេយ៉ុង)ជាដើមទៅដល់សាលានៅខេត្តស្វាយរៀង និងកំពតដែលជាខេត្តក្រីក្របំផុតនៅកម្ពុជា។ ហើយចាប់តាំងពីឆ្នាំ ២០១២ វគ្គបណ្តុះបណ្តាលគុកោសល្យសិល្បៈត្រូវបានបង្កើតឡើងនៅក្នុងខេត្តទាំងពីរដើម្បីលើកកម្ពស់សមត្ថភាពការសិក្សាអប់រំសិល្បៈ ។ ចាប់ពីឆ្នាំ ២០១២ ដល់ឆ្នាំ ២០១៣ ខ្ញុំបានចូលរួម និងសហការជាមួយវគ្គបណ្តុះបណ្តាលនេះក្នុងនាមជាគ្រូ បណ្តុះបណ្តាលគុកោសល្យសិល្បៈរបស់អង្គការJHPមួយនេះ។ ព័ត៌មានលម្អិតត្រូវបានរាយការណ៍នៅក្នុងគម្រោងដែលមានឈ្មោះថា "ការគាំទ្រអន្តរជាតិសម្រាប់ការសាងសង់ការអប់រំសិល្បៈនៅព្រះរាជាណាចក្រកម្ពុជា" (សន្និសីទសិក្សាអប់រំសិល្បៈជប៉ុន ការអប់រំសិល្បៈលេខ ២៩១) ។ ការគាំទ្រការអប់រំសិល្បៈអង្គការJHPទាំងនេះនៅតែត្រូវបានផ្សព្វផ្សាយតាមវិធីសាស្ត្រផ្សេងៗគ្នារាប់ទាំង ការអភិវឌ្ឍគំរោងសិល្បៈនៅមណ្ឌលកុមារកំព្រាផងដែរ ។

វាគឺជាកាស្នងមតិមួយដើម្បីអោយបានដឹងអំពីរបៀបគូរគំនូរបស់កុមារកម្ពុជា ថាតើមានភាពផ្លាស់ប្តូរយ៉ាងណាខ្លះនៅពេលដែលមានការគាំទ្រតាមរូបភាពផ្សេងៗជាពិសេសពីអង្គ ការJHP និងចង់ដឹងពីភាពខុសគ្នាអំពីគំនូរបស់កុមារនៅតំបន់ដែលមិនមានការគាំទ្រការសិក្សាគំនូរ និងគំនូរបស់កុមារប្រទេសជប៉ុន។ តាមរយៈការប្រៀបធៀប និងការស្នងមតិគំនូរបស់កុមារដោយផ្អែកលើ ថាតើកុមារមានបទពិសោធន៍

គួរអង្កេតក្នុងការសិក្សាគំនូរ ហើយយើងមិនត្រឹមតែពិនិត្យមើល និងពិចារណាលើទេពកោសល្យ និងសមត្ថភាពដែលត្រូវបានចិញ្ចឹមបីបាច់តាមរយៈការអប់រំសិល្បៈ ដូចជាភាពជំនាញ ការបញ្ចេញមតិ និងសមត្ថភាពស្រមើលស្រមៃតែប៉ុណ្ណោះទេ

ប៉ុន្តែថែមទាំងក្នុងគោលបំណងដើម្បីចូលរួមចំណែកក្នុងការគាំទ្រដល់ការអប់រំសិល្បៈនៅកម្ពុជា និងជំនួសនាពេលអនាគតផងដែរ ។ ជាក់ស្តែងយើងបានធ្វើការប្រៀបធៀបដោយប្រើវិធីសាស្ត្រ S-HTP របស់គំនូរកុមារនៅសាលាគាំទ្រដោយអង្គការJHP (ខាងក្រោមហៅកាត់ថា"សាលាគាំទ្រ") ទាំងនៅក្នុងសាលាខេត្តកំពត ស្វាយរៀង និងសាលាដែលមិនមានគាំទ្រដោយអង្គការJHPដែលនៅជិតៗនោះ (ខាងក្រោមហៅថា"សាលាមិនគាំទ្រ") ។ បន្ថែមលើនេះទៀត យើងក៏នឹងធ្វើការស្ទង់មតិ និងប្រៀបធៀបនៅសាលា Small Art School ដែលមានទីតាំងនៅខេត្តសៀមរាបដែលសាលាមួយនេះបើកដំណើរក្នុងឆ្នាំ ២០០៨ដោយលោកស្រីTomoko Kasaharaដែលជាអតីតគ្រូបង្រៀនសិល្បៈនៅវិទ្យាល័យនៅទីក្រុងតូក្យូ ហើយដែលកុមារសាលានេះ(ខាងក្រោមហៅកាត់ថា"SAS")ធ្លាប់មានបទពិសោធផ្សំនគំនូរនៅតាមថ្នាក់រៀនគំនូររបស់ពួកគេ។

ហើយយើងនឹងយកគំនូររបស់កុមារនៅសាលាSASទៅប្រៀបធៀបនឹងគំនូររបស់កុមារនៅសាលាបឋមសិក្សារដ្ឋក្នុងប្រទេសជប៉ុន(ខាងក្រោមហៅកាត់ថា"JPN"។ បន្ទាប់មកយើងនឹងធ្វើការប្រៀបធៀបលទ្ធផលនៃការស្ទង់មតិលើកទី១ និងលើកទី២ ទៅតាមប្រភេទសាលានីមួយៗ ។

លទ្ធផលនៃការស្ទង់មតិនេះ (ឆ្នាំ២០១៤)យើងបានរាយការណ៍នៅក្នុងក្នុងគម្រោងដែលហៅថា "ការផ្តោតលើភាពខុសគ្នានៃសកម្មភាពគំនូររបស់កុមារដោយប្រើវិធីសាស្ត្រS-HTP — ការស្រាវជ្រាវទាក់ទងនឹងលទ្ធផល និងសមិទ្ធផលនៃការគាំទ្រការអប់រំសិល្បៈរបស់ជប៉ុននៅដំណាក់កាលបឋមសម្រាប់ការអប់រំនៅកម្ពុជា" — "ការសិក្សាស្រាវជ្រាវវប្បធម៌ប្រៀបធៀប" សន្និសីទសិក្សាវប្បធម៌ប្រៀបធៀបជប៉ុនលេខ១៣៥ ។ ហើយសម្រាប់លើកទី១នៃឆ្នាំដំបូង (ឆ្នាំ២០១៩) នៃការស្ទង់មតិនេះបានបង្កើតឡើងតាមរយៈគម្រោងថវិកា JSPS JP18K02554 ហើយយើងក៏បានបូកសរុប និងពិភាក្សាលទ្ធផលនៃការស្ទង់មតិនេះនៅក្នុងគម្រោង "ការស្រាវជ្រាវផ្ទៀងផ្ទាត់ស្តីអំពីសកម្មភាពគំនូររបស់កុមារនៅប្រទេសកម្ពុជាដោយប្រើវិធីសាស្ត្រS-HTP (I)" ដូចខាងលើលេខ ១៣៩ផងដែរ ។ តាមរយៈការស្ទង់មតិលើកមុន និងការស្ទង់មតិនាពេលនេះឃើញថាសាលាគាំទ្រមានលក្ខណៈប្រសើរជាងសាលាដែលមិនមានការ

គាំទ្រទាក់ទងនឹងភាពវិជ្ជមាន និងសមត្ថភាពស្រមើលស្រមៃសម្រាប់សកម្មភាពគំនូរ ហើយវាក៏មានភាពខុសគ្នាគួរឱ្យកត់សម្គាល់ផងដែរនៅក្នុងការបង្ហាញគំនូររូបផ្ទះ និងរូបមនុស្ស។ ហើយនៅក្នុងការប្រៀបធៀបរវាងសាលាSAS និងសាលាដែលមិនមានការគាំទ្រវាកាន់តែមានភាពខុសគ្នាកាន់តែខ្លាំង។ ម្យ៉ាងទៀតបើប្រៀបធៀបគំនូររបស់សាលាSAS និងសាលាJPNវិញទោះបីការបង្ហាញអំពីគំនូររូបផ្ទះ និងរូបមនុស្សសាលាSASហាក់ដូចជានៅក្មេងខ្លីក៏ដោយ ប៉ុន្តែវាពោរពេញទៅដោយសុខុមាលភាព និងទស្សនៈភ្លឺស្វាងដែលទទួលបានពីរូបគំនូរ ក៏ដូចជាអត្ថន័យនៃផ្ទះគំនូរទាំងមូល ហើយលើសពីនេះទៀតភាពមើលឃើញជិតឆ្ងាយក៏សាលាSASល្អជាងដែរ ។ កុមារជប៉ុនសមត្ថភាពនៃការបង្ហាញពីគំនូររូបផ្ទះ និងរូបមនុស្សវាល្អពិតមែន ប៉ុន្តែបើប្រៀបធៀបនឹងសាលាគោលដៅនៅកម្ពុជាមួយណាក៏ដោយក៏ឃើញថាសមត្ថភាពស្រមើលស្រមៃនៅខាងកុមារកម្ពុជាគឺមានភាពប្រសើរជាងកុមារជប៉ុនគួរឱ្យកត់សម្គាល់ ។ ការស្រាវជ្រាវនេះនឹងយកមកពិភាក្សាដែលទាក់ទងជាមួយការស្ទង់មតិលើកទី ២ ក្នុងឆ្នាំទី ២ ដែលបន្តពីការស្ទង់មតិលើកទី ១ ក្នុងឆ្នាំទី ១ ។

វិធីវិធីសាស្ត្រ S-HTP(Synthetic-HTP: HTPរូបបញ្ចូលគ្នា)ដែលគេបានព្រមព្រៀងគ្នានៅទីនេះ ត្រូវបានគេស្គាល់ថាជាផ្នែកមួយនៃការវាយតម្លៃ និងការធ្វើតេស្តចិត្តសាស្ត្រដែលមានគំនូររូបផ្ទះ រូបដើមឈើ និងរូបមនុស្សសរុបមានចំនួន៣ដែលគួរលើក្រដាសមួយសន្លឹក។ លោកស្រីMiyoshi Isobe លោកស្រីJunko Katanazaka និងលោកស្រីNozomi Inoue (ឆ្នាំ២០១២) បានប្រើវិធីសាស្ត្រS-HTPដែលជាវិធីសាស្ត្រមួយក្នុងការរុករកការអភិវឌ្ឍរបស់កុមារក្នុងវ័យកុមារភាព ។ វាមិនមែនជាការវាយតម្លៃ ការពិនិត្យផ្នែកចិត្តសាស្ត្រទេ ប៉ុន្តែវាបង្ហាញពីប្រសិទ្ធភាពនៃវិធីសាស្ត្រS-HTPដែលជាវិធីសាស្ត្រស្រាវជ្រាវមួយសម្រាប់ស្វែងយល់ពីទិដ្ឋភាពនៃការអភិវឌ្ឍរបស់កុមារដែលវាមានទំនាក់ទំនងជាមួយការអប់រំបរិស្ថាន។ ខ្ញុំដែលជាអ្នកតាក់តែងចងក្រងក៏បានធ្វើការស្ទង់មតិលើការគូរគំនូររបស់កុមារដោយប្រើវិធីសាស្ត្រ S-HTP នៅប្រទេសនេប៉ាល់ក្នុងឆ្នាំ ២០១៣ដែរ និងបានរាយការណ៍អំពីការចាប់អារម្មណ៍ទៅលើធម្មជាតិរបស់កុមារផងដែរ។ ប៉ុន្តែគឺមានការសិក្សាតិចតួចដែលយកមកពិភាក្សាអំពីការអភិវឌ្ឍ និងការបញ្ចេញមតិរបស់កុមារដោយវិធីសាស្ត្រS-HTP ។ ផ្អែកលើលទ្ធផលនៃការស្រាវជ្រាវអស់រយៈពេលជាច្រើនឆ្នាំដោយប្រើវិធីសាស្ត្រS-HTP លោកស្រី Naoko Misawa (ឆ្នាំ២០១៤)បានលើកឡើងថា "វិបត្តិផ្សេងៗនៅក្នុងប្រទេសជប៉ុនដូចដែលត្រូវបានគេនិយាយជាទូទៅគឺវាជាបញ្ហាដែលបណ្តាលមក ពីការរង្គោះរង្គើរសង្គមដ៏ធំមួយ ជាជាងការរង្គោះរង្គើរសង្គមគ្រួសារ" ។

ប៉ុន្តែវាមិនត្រូវបានកំណត់ចំពោះការបញ្ចេញមតិទេ
 គឺវាទាក់ទងនឹងបញ្ហាការអភិវឌ្ឍខួរក្បាលដូចជាទាក់ទងនឹងបរិស្ថាន
 និងជីវភាពរស់នៅជុំវិញរបស់កុមារ ។
 រីឯគំនូររបស់កុមារកម្ពុជាវិញតាមការស្ទង់មតិគឺនៅមានតិចតួចខ្លាំងណាស់
 ចំនុចនេះគឺយើងនិយាយដោយមិនកំណត់ពីការប្រើវិធីសាស្ត្រ S-HTP នោះទេ ។
 ប៉ុន្តែគឺមានការបាយការណ៍ខ្លះៗដោយលោកស្រី Saeko Kimura និងលោកTadahiro Sado
 (ឆ្នាំ២០១៩) ដែលនិយាយអំពីការប្រៀបធៀបគំនូររូបដើមឈើរបស់សិស្សអនុវិទ្យាល័យនៅកម្ពុជា
 និងជប៉ុនតាមរយៈការធ្វើតេស្តចិត្តសាស្ត្រ(Baum Test)។

1. ទិដ្ឋភាពទូទៅការស្ទង់មតិ
 - 1-1. រយៈពេល : ពីខែធ្នូឆ្នាំ ២០១៩ ដល់ខែកុម្ភៈឆ្នាំ ២០២០
 - 1-2. សាលាគោលដៅ (សរុប ៨ សាលា)
 - សាលាគាំទ្រ(កំពត១ ស្វាយរៀង១ សរុប២សាលា)
 - សាលាមិនគាំទ្រ(កំពត១ ស្វាយរៀង១ ភ្នំពេញ១ សរុប៣សាលា)
 - សាលាអនុវត្តការអប់រំសិល្បៈ (សាលាទាក់ទងនឹងសាលាSASចំនួន២ សាលារដ្ឋជប៉ុន១ សរុប៣សាលា)

សាលាគាំទ្រត្រូវបានបន្តផ្តល់នូវសម្ភារៈដូចជាថ្នាំលាបពណ៌ទឹក គូល័រ និងក្រដាសគូរគំនូរ
 ហើយក៏អាចចូលរួមការប្រកួតប្រជែងគំនូរដែលខុសគ្នាដោយអង្គការJHPផងដែរ ។ លើសពីនេះ
 សាលា២ដែលទាក់ទងនឹងSASក៏មានទីតាំងនៅតំបន់ជនបទក្រីក្រផងដែរ
 ហើយមិនមានភាពខុសប្លែកគ្នាពីបរិយាកាសរស់នៅពីសាលាមុនៗនោះទេ
 ប៉ុន្តែភាពខុសគ្នាគឺថាក្រៅពីការផ្គត់ផ្គង់សម្ភារៈសិល្បៈពីសាលាSAS ក៏បានផ្តល់ការបង្រៀនគំនូរចំនួន
 ៣ ដងក្នុងមួយខែ (ប្រហែល២០ដងក្នុង១ឆ្នាំ)
 ហើយជាមធ្យមប្រហែល៣ដងក្នុងមួយឆ្នាំសម្រាប់ថ្នាក់នីមួយៗ) ។
 សាលាដែលមិនមានការគាំទ្រនៅទីក្រុងភ្នំពេញគឺមានទីតាំងនៅតំបន់ប្រជុំជន
 ហើយបរិយាកាសនៃការរស់នៅរបស់ពួកគេគឺខុសគ្នាឆ្ងាយពីសាលាដទៃទៀតដែលយើងបានធ្វើការស្ទង់
 មតិនៅកម្ពុជា ។ សាលារដ្ឋនៅប្រទេស
 ជប៉ុនក៏ជាសាលាដែលមានទីតាំងនៅតំបន់ទីប្រជុំជនដែរទោះបីវាស្ថិតនៅទីជនបទក៏ដោយ។

- 1-3. គោលបំណងនៃការស្រាវជ្រាវ

នៅប្រទេសកម្ពុជាមានកុមារតិចតួចណាស់ដែលធ្លាប់សិក្សាការអប់រំការគូរគំនូរ។
 សាលាបឋមសិក្សាបែងចែកជាពីរពេលគឺនៅពេលព្រឹក និងពេលរសៀល

ហើយចំនួនម៉ោងសិក្សាសរុបមានចំនួនតិចតួចណាស់ ។
 លើសពីនេះទៀតមិនមានគ្រូគ្រប់គ្រាន់ក្នុងការបង្រៀនទេ
 ហើយថែមទាំងខ្វះខាតសម្ភារៈសិក្សាគំនូរទៀតផង ។
 ហេតុដូច្នេះហើយបានជាយើងធ្វើការស្ទង់មតិដោយប្រើវិធីសាស្ត្រS-HTP
 នៅសាលាដែលកំពុងបន្តការគាំទ្រការអប់រំសិល្បៈដោយអង្គការJHPដែលមានដូចជាការផ្តល់ថ្នាំលាប
 ពណ៌ទឹក គូល័រ
 និងធ្វើការស្ទង់មតិនៅសាលាដែលមិនគាំទ្រដើម្បីអោយដឹងពីភាពខុសគ្នាដែលអាចមើលឃើញនៅក្នុង
 គំនូររបស់កុមារដែលធ្លាប់សិក្សា និងកុមារដែលមិនធ្លាប់សិក្សាគំនូរ ។ ទន្ទឹមគ្នានេះដែរ
 យើងក៏បានប្រៀបធៀបជាមួយគំនូររបស់កុមារមកពីសាលាពាក់ព័ន្ធសAS
 និងសាលារដ្ឋជប៉ុនដើម្បីបញ្ជាក់អោយច្បាស់ពីភាពខុសគ្នាបែបណាខ្លះដែលអាចមើលឃើញក្នុងគំនូរ
 របស់កុមារដែលធ្លាប់រៀន និងកុមារដែលមិនធ្លាប់រៀនគំនូរ ។

- 1-4. វិធីសាស្ត្រស្ទង់មតិ

ការស្ទង់មតិការគូរគំនូរដោយវិធីសាស្ត្រS-HTP ។ យើងឱ្យកុមារប្រហែល ១០
 នាក់ក្នុងថ្នាក់នីមួយៗចាប់ពីថ្នាក់ទី ១ ដល់ទី ៦ គូររូបផ្ទះ រូបដើមឈើ និងរូបមនុស្ស
 និងរូបផ្សេងៗដោយសេរីនៅលើសន្លឹកក្រដាស A4 ផ្តេកក្នុងរយៈពេល៣០នាទី
 ហើយយើងនឹងធ្វើវិភាគ ព្រមទាំងរៀបចំលទ្ធផល ។
 ដូចដែលបានរៀបរាប់ខាងលើការស្ទង់មតិនេះគឺមិនវិភាគលើផ្នែកចិត្តសាស្ត្រទេ ប៉ុន្តែគឺយើងរៀបចំ
 និងវិភាគនូវប្រភេទនៃការបញ្ចេញមតិដែលត្រូវបានធ្វើឡើងយោងទៅតាមធាតុវិភាគ និង
 ទស្សនៈS-HTP (តារាងទី១) ។ លើសពីនេះទៀតគំនូររូបផ្ទះ
 និងរូបមនុស្សត្រូវបានវិភាគដោយផ្អែកលើដំណាក់កាលនៃការអភិវឌ្ឍន៍ការគូរគំនូរទូទៅរបស់កុមារ ។
 ម្យ៉ាងទៀតយើងនឹងរៀបចំនូវចំណុចពិសេសពីភាពខុសគ្នាពីការស្ទង់មតិលើកទី១
 (ខែកុម្ភៈ ដល់ខែមីនាឆ្នាំ២០១៩) តាមប្រភេទនៃសាលានីមួយៗ ។

ខាងក្រោមនេះជាការណែនាំអំពីការស្ទង់មតិជាក់លាក់ ។
 ផ្អែកលើការណែនាំនេះយើងបានព្យាយាមធ្វើតាមរបៀបដូចគ្នានៅតាមសាលានីមួយៗ ។

ការណែនាំអនុវត្តការស្ទង់មតិដោយប្រើវិធីសាស្ត្រ S-HTP

[ការពន្យល់សម្រាប់ការត្រួតពិនិត្យ]

1. ការណែនាំខ្លួនដូចជាការប្រាប់ឈ្មោះ ។
2. ខ្ញុំមកថ្ងៃនេះគឺដើម្បីឱ្យអ្នកទាំងអស់គ្នារៀនគំនូរ ។
3. ប៉ុន្តែមិនមែនមានន័យថាចង់មើលគំនូរល្អ ឬគំនូរអាក្រក់របស់អ្នកនោះទេ ។

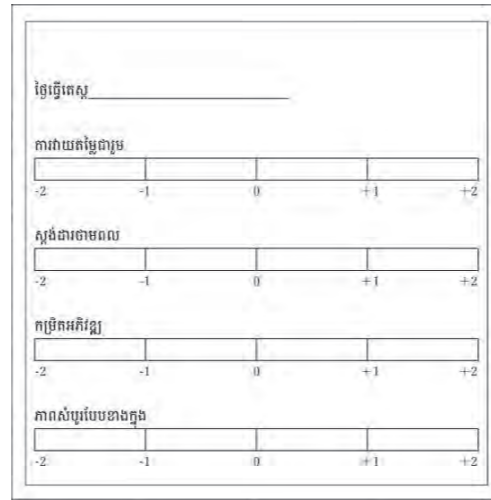
4. ខ្ញុំគ្រាន់តែចង់ដឹងពីជីវភាពរស់នៅ ការគិត និងចង់ឃើញរូបគំនូរពេលដែលអ្នកទាំងគ្នាគួរចេញមកតែប៉ុណ្ណោះ ។
 5. យើងធ្វើដូច្នោះដើម្បីអោយបានជាឯកសារយោងមួយសម្រាប់ការគិតអំពីសាលានៅកម្ពុជា អោយកាន់តែប្រសើរឡើងក្នុងការសិក្សាគួរគំនូរ ។
 6. ហេតុដូច្នោះហើយ សូមកុំគិតថា "ត្រូវគួរឱ្យបានល្អ" ឬ "ត្រូវតែបង្កើតរូបគំនូរឱ្យបានត្រឹមត្រូវ" នោះទេ ប៉ុន្តែសូមគួរតាមដែលខ្លួនចូលចិត្ត ។
- [សេចក្តីណែនាំនៅពេលអនុវត្ត]**
1. ប្រើក្រដាសA4ផ្តេក ។
 2. កុំភ្លេចសរសេរឈ្មោះ ថ្នាក់ និងភេទប្រុស ឬស្រីនៅខាងក្រោយ ។
 3. (ត្រឡប់ក្រដាសមកខាងមុខវិញ) គួររូបផ្ទះ រូបមនុស្ស និងរូបដើមឈើ ហើយគួរអ្វីផ្សេងទៀតតាមតែខ្លួនចូលចិត្ត ។
 4. បើសិនបានគួររូបផ្ទះ និងរូបដើមឈើហើយ បន្ទាប់មកទៀតគួររូបអ្វីក៏បានដែរ ។
 5. ដូចដែលខ្ញុំបាននិយាយមុននេះហើយ ការគូរគឺមិនសំដៅថា ឬអាក្រក់នោះទេ ប៉ុន្តែសូមអោយរីករាយក្នុងការគូរដោយគិតចេញពីដួងចិត្តតាមដែលអាចធ្វើទៅបាន ។
 6. ពេលវេលាគឺ ៣០ នាទី ។ សូមគួរតាមសម្រួលដោយមិនចាំបាច់បារម្ភពីអ្នកដទៃទេ ។ ហើយអ្នកដែលចប់មុន ៣០នាទីអាចយកមកមុនបាន ។

តារាងទី ១. ទស្សនៈ និងធាតុវិភាគS-HTP

ធាតុវិភាគ	ធាតុបន្ទាប់	ទស្សនៈវិភាគ
ភាពរួមបញ្ចូល	1 រួមបញ្ចូលច្បាស់លាស់	ផ្ទៃទាំងមូលត្រូវបានបង្កើតឡើងដោយសភាពរួមបញ្ចូលគ្នាតែមួយ ហើយមិនមានផ្នែកដែលមិនស៊ីគ្នាទេ។
	2 ភាពរួមបញ្ចូលខ្លះៗ	ផ្ទៃទាំងមូលត្រូវបានបង្កើតឡើងដោយសភាពរួមបញ្ចូលគ្នា ប៉ុន្តែនៅមានផ្នែកខ្លះមិនស៊ីគ្នា។
	3 លាយឡំដោយអន្តរ	រូបផ្ទះ ដើមឈើ និងរូបមនុស្សគឺតំរៀបជូរ ប៉ុន្តែផ្ទៃដី ភ្នំ ស្មៅត្រូវបានបង្កើតឡើងដោយលាយឡំជាអន្តរ។
	4 តំរៀបជូរខ្លះៗ	ឃើញថាមានទំនាក់ទំនងខ្លះៗ ប៉ុន្តែផ្ទៃទាំងមូលវិញគឺតំរៀបជូរ។
	5 តំរៀបជាជួរ	រូបផ្ទះ ដើមឈើ និងរូបមនុស្សគឺតំរៀបជាជួរគ្មានទំនាក់ទំនងគ្នា។
ទំហំគំនូរ	6 ផ្ទៃទាំងមូលតិចជាង១/៤	គំនូរទាំងមូលដែលបានគូរគឺជាគំនូរតូចមួយដែលតិចជាង១/៤នៃក្រដាសគំនូរ(តែប្រសិនបើវត្តនៅទីនេះត្រូវបានគូរដាច់ពីគ្នានោះនឹងវិនិច្ឆ័យតាមទំហំដែលប្រមូលនៅកន្លែងតែមួយ)
	7 HTP តិចជាង១/៤	ក្រៅពីការចែករំលែកគំនូរដែលមានចំនួនសរុបតិចជាង១/៤នៃរូបផ្ទះ ដើមឈើ និងរូបមនុស្ស
វត្តបន្ថែមក្រៅពីប្រធានបទ	8 មានវត្តបន្ថែម	មានវត្តបន្ថែមក្រៅពីរូបផ្ទះ ដើមឈើ និងរូបមនុស្ស (មិនរាប់បញ្ចូលផ្ទៃដី) ។
នេត្រាទស្សន៍	9 ធំ	គំនូរដែលគួរបានល្អិតៗរហូតដល់ទីផ្លាយ ហើយចែមទាំងមាននេត្រាទស្សន៍ធំ។
	10 មធ្យម	មាននេត្រាទស្សន៍តែនៅម្តុំរូបផ្ទះ ដើមឈើ និងមនុស្សប៉ុណ្ណោះ។
	11 មានខ្លះៗ	មិនមានការបង្ហាញច្បាស់លាស់ជិតផ្ទៃទេ ប៉ុន្តែមាននេត្រាទស្សន៍ខ្លះៗ ដោយសារបានគូរលើក្រាមនៃរូបផ្ទះ ដើមឈើ និងរូបមនុស្ស។
	12 បន្ទាត់ក្រង់ (មានត្រួតគ្នា)	រូបផ្ទះ ដើមឈើ និងរូបមនុស្សត្រូវបានតំរៀបលើក្រង់ជាជួរហើយមិនមាននេត្រាទស្សន៍ទេ ប៉ុន្តែរូបដូចជាផ្ទះ ដើមឈើ រូបផ្ទះនិងមនុស្សត្រួតស៊ីគ្នា។
	13 បន្ទាត់ក្រង់ (អត់ត្រួតគ្នា)	រូបផ្ទះដើមឈើ និងមនុស្សឈរជាជួរលើបន្ទាត់ក្រង់ និងគ្មានត្រួតស៊ីគ្នារវាងផ្នែកខាងមុខនិងខាងក្រោយឡើយ។
14 ដាច់ពីគ្នា	រូបផ្ទះ ដើមឈើ និងមនុស្សត្រូវបានគូរដាច់ដោយឡែកពីគ្នា និងគ្មាននេត្រាទស្សន៍ទេ។	
ពិពណ៌នាប្រាកដនិយម និងមិនប្រាកដនិយម	15 ប្រាកដនិយម	ខ្លឹមសារនៃការពិពណ៌នាផ្ទៃទាំងមូលគឺនៅជិតខ្លួន និងប្រាកដនិយម។
	16 លាយឡំគ្នា	ខ្លឹមសារពិពណ៌នារវាងភាពប្រាកដនិយម និងភាពមិនប្រាកដនិយមគឺលាយឡំគ្នា។
	17 មិនប្រាកដនិយម	ខ្លឹមសារពិពណ៌នាផ្ទៃទាំងមូលគឺជារឿងរាវមួយគួរចេញពីពិភពមិនប្រាកដនិយម។

1-5. វិធីសាស្ត្រវិភាគ

សន្លឹកនិមួយៗត្រូវបានវិភាគចេញពីធាតុវិភាគចំនួន ៥ ដូចជាភាពរួមបញ្ចូលគ្នា ទំហំគំនូរ វត្ថុបន្ថែម នេត្រា ទស្សន៍ និងការពិពណ៌នាប្រាកដនិយម/មិនប្រាកដនិយម ព្រមទាំងទស្សនៈវិភាគ ១៧ ចំណុច (តារាងទី១) ហើយការបង្ហាញពីរូបមន្តស្នូល



ឯកសារ ១ សន្លឹកវាយតម្លៃ S-HTP

និងរូបផ្ទះនឹងធ្វើការវាយតម្លៃពីទិដ្ឋភាពនៃការអភិវឌ្ឍរបស់កុមារ។ បន្ទាប់មកអត្រាបង្ហាញសម្រាប់ប្រភេទសាលានីមួយៗតាមសាលាគាំទ្រ សាលាមិនគាំទ្រ សាលាSAS សាលាJPN ហើយប្រៀបធៀបនិងពិនិត្យមើលដោយផ្អែកលើលទ្ធផលនៃការធ្វើតេស្ត(chi-square test) ។ លើសពីនេះទៀតលក្ខណៈគុណភាពនៃគំនូរត្រូវបានវាយតម្លៃម្តងមួយៗដោយប្រើសន្លឹកក្រដាសវាយតម្លៃ (ឯកសារទី ១) ពីទស្សនៈចំនួន ៤ ដោយមិនរាប់បញ្ចូល "ការប្រាស្រ័យទាក់ទងសង្គម" ពី "ក្រដាសវាយតម្លៃ S-HTP" ²⁾ ដោយអ្នកស្រីNaoko Misawa (ឆ្នាំ២០១៤)ទេ ហើយត្រូវរកតម្លៃជាមធ្យមសម្រាប់ប្រភេទសាលានីមួយៗនឹងធ្វើការប្រៀបធៀប/ពិចារណា ។

2. លទ្ធផលនៃការស្ទង់មតិ

តាមពិតដូចនៅក្នុងការស្ទង់មតិទី ១ គឺមានបំរែបំរួលចំនួនសិស្សគឺមិនមែនចំនួន ១០ នាក់ទេក្នុងមួយថ្នាក់ គឺប្រែប្រួលតាមការស្នើសុំរបស់សាលានីមួយៗ ។ នេះគឺជាជឿនដែលមិនអាចចៀសផុតបាននៅក្នុងប្រទេសកម្ពុជាដែលមានកុមារជាច្រើនបានមក ហើយចូលរៀននៅពាក់កណ្តាលឆ្នាំសិក្សានិងកុមារតែងតែធ្វើការងារផ្ទះ ហើយធ្វើពលកម្មសម្រាប់ជីវិតជាប្រចាំថ្ងៃ។ លើសពីនេះទៀតដោយសារមានកុមារអាយុ ១២ ឆ្នាំហើយនៅរៀននៅថ្នាក់ទី១ជាមួយតូចៗ ដូច្នេះហើយការវិភាគត្រូវបានរៀបចំឡើងទៅតាមអាយុកាលរបស់ជំនុំនីមួយៗជាជាងថ្នាក់ដែលកុមារកម្ពុជា សិក្សាជាក់ស្តែង ។ ម្យ៉ាងទៀតនៅសាលាដែលទាក់ទងនឹងសាលាSASដែលទទួលបានកិច្ចសហប្រតិបត្តិការស្ទង់មតិគឺ ចាប់ពីថ្នាក់ទី ៣ឡើងទៅ

ដូច្នេះហើយនៅពេលប្រៀបធៀបជាមួយសាលាSASយើងបានសម្រេចវិភាគ/រៀបចំសាលាគោលដៅ ស្ទង់មតិផ្សេងទៀតដោយប្រើតែទិន្នន័យថ្នាក់ទី ៣ ឡើងទៅដូចគ្នា។

លទ្ធផលនៃការស្ទង់មតិនីមួយៗនឹងត្រូវបានពិពណ៌នាលម្អិតដូចខាងក្រោម។ លទ្ធផលនៃ "វត្ថុបន្ថែម" ត្រូវបានគូរក្រៅពីគំនូររូបផ្ទះ ដើមឈើ និងមនុស្សគឺដូចគ្នានឹងការគូរលើកមុន ដូច្នេះយើងត្រូវលុបចោល ។

2-1. ការប្រៀបធៀបផ្អែកលើធាតុវិភាគនិងទស្សនៈ (តារាងទី២ ទី៣ និងទី៤)

2-1-1. ការប្រៀបធៀបសាលាគាំទ្រ និងសាលាមិនគាំទ្រ (តារាងទី២ ខាងឆ្វេង)

តារាងទី២ ការប្រៀបធៀបគំនូររបស់កុមារតាមរយៈវិធីសាស្ត្រS-HTP
(សាលាគាំទ្រ សាលាមិនគាំទ្រ និងសាលារដ្ឋជប៉ុន)

ធាតុវិភាគ	អត្រាបង្ហាញ	សាលាគាំទ្រ		តម្លៃx2	សាលាមិនគាំទ្រ		តម្លៃx2
		82 នាក់	135នាក់		82 នាក់	56 នាក់	
〈ទាំងមូល〉 ភាពរួមបញ្ចូល	រួមបញ្ចូលច្បាស់លាស់	19.5	10.4	.058	19.5	23.2	.600
	ភាពរួមបញ្ចូលខ្លះៗ	29.3	12.6	.002**	29.3	28.6	.929
	លាយឡំដោយអន្តរការី	24.4	28.1	.544	24.4	30.4	.437
	តំរៀបជូរខ្លះៗ	15.9	29.6	.022*	15.9	5.4	.059
	តំរៀបជាផ្លូវ	11.0	19.3	.108	11.0	10.7	.961
ទំហំគំនូរ	ផ្ទៃទាំងមូលតិចជាង១/៤	4.9	5.2	.920	4.9	0.0	.093
	HTP តិចជាង១/៤	19.5	17.0	.645	19.5	7.1	.043*
វត្ថុបន្ថែម	មាន	87.8	86.7	.808	87.8	89.3	.790
នេត្រា ទស្សន៍	ធំ	12.2	7.4	.237	12.2	1.8	.027*
	មធ្យម	36.6	12.6	.001***	36.6	19.6	.032*
	មានខ្លះៗ	23.2	24.4	.831	23.2	19.6	.622
	បន្ទាត់ត្រង់(មានត្រួតគ្នា)	11.0	21.5	.048*	11.0	17.9	.249
	បន្ទាត់ត្រង់ (អត់ត្រួតគ្នា) ដាច់ពីគ្នា	8.5	25.2	.002**	8.5	32.1	.557
ពិពណ៌នាប្រាកដនិយម និងមិនប្រាកដនិយម	ប្រាកដនិយម	96.3	96.3	.986	96.3	58.9	.001***
	លាយឡំគ្នា	3.7	3.0	.779	3.7	33.9	.001***
	មិនប្រាកដនិយម	0.0	0.7	.435	0.0	5.4	.034*
ផ្ទះ	ចំពីមុខ / តែស៊ុម	1.2	0.0	.434	1.2	0.0	.407
	ចំពីមុខ	11.0	8.9	.360	11.0	3.6	.115
	/បង្ហាញពុំច្បាស់	62.2	67.4	.542	62.2	62.5	.971
	ចំពីមុខ /រាប	17.1	12.6	.360	17.1	19.6	.700
	3Dខ្លះៗ 3D	8.5	11.1	.720	8.5	12.5	.449
មនុស្ស	ក្បាល ជើង	1.2	0.7	.724	1.2	0.0	.407
	មុនក្រាហ្វិច	32.9	28.1	.560	32.9	14.3	.013*
	ក្រាហ្វិច	51.2	37.0	.040*	51.2	53.6	.786
	pre-realistic	3.7	8.1	.192	3.7	30.4	.001***
	realistic	0.0	0.7	.435	0.0	0.0	—
	គំនូរស្លឹក(stick figure)	11.0	20.7	.064	11.0	0.0	.010**
		0.0	3.7	.078	0.0	0.0	—

សាលាគាំទ្រមានលក្ខណៈរួមបញ្ចូលគ្នា និងនេត្រាទស្សន៍ច្រើនជាងសាលាមិនគាំទ្រ ហើយយើងបានឃើញពីទំនោររបស់កុមារភាគច្រើនបានស្ថិតនៅក្នុងដំណាក់កាលក្នុងការបង្ហាញលក្ខណៈសាមញ្ញនៅក្នុងការបង្ហាញនៃមនុស្ស។

ផ្ទុយទៅវិញសាលាមិនគាំទ្រវិញគំនូររបស់ពួកគេគឺមានទំនោរបែបជាការតំរៀប រូបផ្ទះ ដើមឈើ និងរូបមនុស្សលើបន្ទាត់ត្រង់។

ទាំងនេះហាក់ដូចជាស្រដៀងនឹងការស្ទង់មតិលើកដំបូង ប៉ុន្តែភាពខុសគ្នាត្រូវបានរួមចូលហើយចំនួនដងនៃទស្សន៍ដែលខុសគ្នាគួរឱ្យកត់សម្គាល់ត្រូវបានសង្កេតឃើញថាមានការថយចុះពី ១១ នៅក្នុងការស្ទង់មតិលើកទី ១ មកត្រឹម ៦ នៅពេលនេះ។

និយាយរួមយើងអាចនិយាយបានថាក្នុង រយៈពេល ១០ ខែចាប់ពីលើកទី ១ ដល់លើកទី ២ គំនូរនៃសាលាមិនគាំទ្រមានភាពប្រសើរឡើង និងផ្លាស់ប្តូរជាច្រើនដូចជាភាពវិជ្ជមាន សមត្ថភាពស្រមើលស្រមៃ ព្រមទាំងការបង្ហាញពីគំនូររូបផ្ទះ និងមនុស្ស។ ចំណុចនេះនឹងត្រូវរៀបចំឡើងវិញ

ហើយនិងពិពណ៌នានៅពេលក្រោយដោយប្រៀបធៀបលទ្ធផលនៃការស្ទង់មតិលើកទី ១ និងលើកទី ២ សម្រាប់តាមប្រភេទសាលានីមួយៗ ។

2-1-2. ការប្រៀបធៀបសាលាគាំទ្រ និងសាលារដ្ឋជប៉ុន (តារាងទី ២ ខាងស្តាំ)

សាលាគាំទ្រ និង សាលាJPNក៏បានបង្ហាញពីនិទ្ទាការស្រដៀងគ្នាទៅនឹងការស្ទង់មតិមុនដែរ។ ជាពិសេសទាក់ទងទៅនឹង "ការពិពណ៌នាប្រាកដនិយម/មិនប្រាកដនិយម"

សាលាJPNមានភាពស្រមើលស្រមៃ និងការសម្តែងមិនចេះរឹងស្ងួតខណៈសាលាគាំទ្រជាញឹកញយៗបង្ហាញពីនាវាជីវិតជាក់ស្តែង ហើយចំណុចនេះវានៅតែមិនមានការផ្លាស់ប្តូរជាមួយនឹងកាលពីលើកមុន។ មីសាវ៉ា(Misawa) (ឆ្នាំ២០១៤) ក៏បានចង្អុលបង្ហាញផងដែរថា "ការពិពណ៌នាមិនប្រាកដនិយម" របស់កុមារជប៉ុនមានច្រើនបើប្រៀបធៀបនឹងគំនូររបស់កុមារថៃ។

ម្យ៉ាងទៀតអត្រាបង្ហាញរបស់សាលាJPNគឺ ១០០% នៅក្នុងការថែម "វត្ថុបន្ថែមក្រៅពីប្រធានបទ" ប៉ុន្តែពេលនេះវិញមិនមានភាពខុសគ្នាច្រើនជាមួយសាលាគាំទ្រនោះទេ។

នេះត្រូវបានគេប៉ាន់ស្មានថាដោយសារតែការស្ទង់មតិរបស់សាលាJPNបានប្រើពេលសម្រាកសម្រាប់ ថ្ងៃត្រង់ ហើយវាហាក់ដូចជាមានឥទ្ធិពលពីការមាញឹករបស់ពួកគេ ។

កុមារមួយចំនួនបានចេញពីថ្នាក់រៀនបន្ទាប់ពីបានគូររូបផ្ទះគំនូររូបផ្ទះ ដើមឈើ និងរូបមនុស្សដែលជាប្រធានបទនៃគំនូរ ហើយកុមារជាច្រើនទៀតបានបញ្ចប់កិច្ចការរបស់គេ និងបានយកមកប្រគល់អោយគ្រូទទួលបន្ទុក ។ ប្រសិនបើវិភាគសាវ័រអំណោយផល ហើយកាលវិភាគសម្រាប់សម្រាកថ្ងៃត្រង់ច្រើនជាងនេះ យើងប៉ាន់ស្មានថាកុមារនឹងអាចគូរ "វត្ថុបន្ថែម" បានប្រហែលគ្នានឹងការស្ទង់មតិលើកទី១ដែរ។

ផ្សេងពីនេះសាលាគាំទ្រមានលក្ខណៈប្រហាក់ប្រហែលនឹងគំនូរលើកមុន ដែលយើងមើលឃើញថាគំនូរដូចជាប្លង់ ដើមឈើ និងរូបមនុស្សមានលក្ខណៈតូចៗ និងនៅមានភាពក្មេងខ្ចីក្នុងការបង្ហាញនៃមនុស្ស ហើយគំនូរមនុស្សស្អិត(stick figure)គឺមានច្រើន។ រីឯនៅក្រោមស្បែកវិញខាងសាលារដ្ឋជប៉ុនមានសភាពអន់ជាងបន្តិច។

តារាងទី៣ ការប្រៀបធៀបគំនូររបស់កុមារចាប់ពីថ្នាក់ទី៣ឡើងតាមS-HTP (សាលាមិនគាំទ្រដោយJHP សាលាSAS និងសាលារដ្ឋជប៉ុន)

ធាតុវិភាគ		អត្រាបង្ហាញ		តម្លៃx2	អត្រាបង្ហាញ		តម្លៃx2
		SAS	សាលា មិនគាំទ្រ		SAS	ជប៉ុន	
		57នាក់	91នាក់		57នាក់	37នាក់	
〈ទាំងមូល〉 ភាពរូបបញ្ចូល	រូបបញ្ចូលច្បាស់លាស់	24.6	15.4	.165	24.6	35.1	.268
	ភាពរូបបញ្ចូលខ្លះៗ	22.8	16.5	.339	22.8	29.7	.452
	លាយឡំដោយអន្តរ	38.6	29.7	.261	38.6	18.9	.044*
	តំរៀបជូរខ្លះៗ	7.0	25.3	.005**	7.0	5.4	.755
	តំរៀបជាជួរ	7.0	13.2	.003**	7.0	10.8	.520
ទំហំគំនូរ	ផ្ទៃទាំងមូលតិចជាង១/៤	0.0	3.3	.166	0.0	0.0	—
	HTP តិចជាង១/៤	0.0	14.3	.003**	0.0	2.7	.011*
វត្ថុបន្ថែម	មាន	100.0	93.4	.048*	100.0	91.9	.029*
នេត្រា ទស្សន៍	ធំ	5.3	11.0	.231	5.3	2.7	.548
	មធ្យម	38.6	18.7	.007**	38.6	91.9	.247
	មានខ្លះៗ	45.6	28.6	.035*	45.6	2.7	.008**
	បន្ទាត់ត្រង់ (មានត្រួតគ្នា)	7.0	17.6	.067	7.0	27.0	.079
	បន្ទាត់ត្រង់ (អត់ត្រួតគ្នា)	3.5	15.4	.024*	3.5	18.9	.005**
	ដាច់ពីគ្នា	0.0	8.8	.021*	0.0	18.9	.011**
ពិពណ៌នាប្រាកដ និងពុំប្រាកដ	ប្រាកដនិយម	100.0	95.6	.109	100.0	56.8	.001***
	លាយឡំគ្នា	0.0	3.3	.166	0.0	35.1	.001***
	មិនប្រាកដនិយម	0.0	1.1	.427	0.0	8.1	.001***
ផ្ទះ	ចំពីមុខ / តែស៊ីម	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—
	ចំពីមុខ/បង្ហាញពុំច្បាស់	7.0	7.7	.879	7.0	0.0	.100
	ចំពីមុខ / រាប	70.2	62.6	.348	70.2	59.5	.284
	3Dខ្លះៗ	19.3	15.4	.536	19.3	21.6	.784
	3D	3.5	14.3	.035*	3.5	18.9	.784
មនុស្ស	ក្បាល ជើង	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—
	មុនក្រាហ្វិច	12.3	19.8	.236	12.3	5.4	.268
	ក្រាហ្វិច	61.4	48.4	.121	61.4	48.6	.223
	pre-realistic	21.1	12.1	.143	21.1	45.9	.011*
	realistic	1.8	1.1	.737	1.8	0.0	.418
	គំនូរមនុស្សស្អិត(stick figure)	1.8	15.4	.008**	1.8	0.0	.418
	អត់មាន	1.8	3.3	.573	1.8	0.0	.418

(*:p<.05, **:p<.01, ***:p<.001)

2-1-3. ការប្រៀបធៀបសាលាSAS និងសាលាមិនគាំទ្រ (តារាងទី ៣ ខាងឆ្វេង)

ដូចគ្នានឹងការស្ទង់មតិមុនដៃការស្ទង់មតិគំនូរសាលាSASគឺសម្រាប់តែកុមារថ្នាក់ទី ៣ ឡើងទៅទេ ដូច្នេះទាំងសាលាមិនគាំទ្រ និងJPNត្រូវបានប្រៀបធៀប/រៀបចំដោយប្រើប្រាស់ទិន្នន័យពីថ្នាក់ទី ៣ ឡើងទៅដែរ។ បើប្រៀបធៀបសាលាSAS និងសាលាមិនគាំទ្រគឺវាដូចគ្នានៅក្នុងការស្ទង់មតិមុនដៃគឺភាពខុសគ្នាគ្រង់ " ការរួមបញ្ចូលគ្នា ទំហំគំនូរ រតុបន្ថែម និងនេត្រាទស្សន៍ " ។ គំនូររបស់សាលាSASរូបផ្ទះ ដើមឈើ និងរូបមនុស្សគឺធំៗ និងប្រកបសមត្ថភាពស្រមៃស្រមៃ ហើយអនុវត្តយ៉ាងសកម្មលើការគូរគំនូររបស់ខ្លួន លើសពីនេះទៀតគឺបានបង្ហាញពីភាពឆ្ងាយជិតនៅជុំវិញរូបផ្ទះ ដើមឈើ និងរូបមនុស្សទៀតផងដែរ ។ រីឯសាលាមិនគាំទ្រវិញគំនូររបស់កុមារ គឺមានលក្ខណៈតំរៀបជាជួរឬនិច ហើយពោរពេញដោយគំនូរមនុស្សស្អិត(stick figure)ដ៏ច្រើនដូចគ្នាជាមួយគំនូរលើកមុនដៃ ។

2-1-4. ការប្រៀបធៀបសាលាSAS និងសាលារដ្ឋប៉ុន (តារាងទី ៣ ខាងស្តាំ)

វាមានភាពខុសគ្នាគួរឱ្យកត់សម្គាល់នៅក្នុង " ភាពរួមបញ្ចូលគ្នាតាមរយៈការលាយឡំដោយអន្តរ " នៅក្នុង "ភាពរួមបញ្ចូលគ្នា" ប៉ុន្តែនៅពេលដែលយើងមើលផ្ទៃទាំងមូលពីទស្សនៈផ្សេងទៀតគឺយើងមើលឃើញថាមិនមានភាពខុស គ្នាច្រើនទេក្នុងភាពរួមបញ្ចូលគ្នារវាងសាលាSAS និងសាលាJPN ។ បើក្រឡេកមើល "ទំហំគំនូរ" និង "រតុបន្ថែម" វាអាចនិយាយបានថាសាលាSASមានភាពសកម្មជាងខ្លាំង ។ នៅក្នុង "នេត្រាទស្សន៍" សាលាSASគំនូរបង្ហាញពីភាពជិតឆ្ងាយ ហើយសាលាJPNគឺខ្វះខាតតិចតួច រីឯនៅក្នុង "ពិពណ៌នាប្រាកដនិយម/មិនប្រាកដនិយម" សាលាJPNសំបូរទៅដោយភាពស្រមៃស្រមៃ ហើយរីឯនៅក្នុងភាពពិតប្រាកដវិញសាលាSASមាននិន្នាដូចគ្នាទៅនឹងពេលមុន ។ ម្យ៉ាងទៀតនៅក្នុងការបង្ហាញនៃរូបមនុស្សការបង្ហាញពីpre-realisticគឺយើងឃើញមានច្រើន ប៉ុន្តែពេលនេះគឺមានទំនោរទៅរកភាពខុសប្លែកគ្នាជាងមុនបន្តិច ។ ក្នុងរយៈពេល ១០ ខែចាប់តាំងពីការស្ទង់មតិលើកមុន យើងប៉ាន់ស្មានថាថ្នាក់ទី ៣ឡើងទៅនៃសាលាJPNកំពុងស្ថិតនៅក្នុងដំណាក់កាលផ្លាស់ប្តូរពីការបង្ហាញរូបក្រាហ្វិចទៅជាការបង្ហាញpre-realisticវិញ ។

2-1-5

ការប្រៀបធៀបអត្រាបង្ហាញតាមទស្សនៈដោយលើកគ្នានៃគំនូររបស់កុមារនៅក្នុងការស្ទង់មតិលើកទី១ និងលើកទី ២តាមប្រភេទសាលានិមួយៗ (តារាងទី ៤) តារាងទី ៤

គឺយើងប្រៀបធៀបអត្រាបង្ហាញតាមទស្សនៈដោយលើកគ្នានៃគំនូររបស់កុមារនៅក្នុងការស្ទង់មតិលើក ទី១ និងលើកទី២តាមប្រភេទសាលានិមួយៗ ។

តារាងទី ៤ ការប្រៀបធៀបអត្រាបង្ហាញតាមទស្សនៈដោយលើកគ្នានៃគំនូររបស់កុមារនៅក្នុងការស្ទង់មតិលើកទី ១ និងលើកទី ២ តាមប្រភេទសាលានិមួយៗ

ភាពរួមបញ្ចូល	សាលាHPគាំទ្រ	សាលាHPគាំទ្រ			សាលាSAS			សាលារដ្ឋប៉ុន					
		លើកទី១%	លើកទី២%	តម្លៃx2	លើកទី១%	លើកទី២%	តម្លៃx2	លើកទី១%	លើកទី២%	តម្លៃx2			
		83នាក់	82នាក់		130នាក់	135នាក់		69នាក់	57នាក់		49នាក់	56នាក់	
ភាពរួមបញ្ចូល (ទាំងមូល)	រួមបញ្ចូលគ្នាសំរាប់ភាពរួមបញ្ចូលខ្លះៗ	20.5	30.5	.140	8.5	23.0	.001***	42.0	36.8	.554	33.3	57.1	.015*
	លាយឡំដោយអន្តរ	22.9	31.7	.204	13.1	7.4	.127	37.7	38.6	.916	14.6	16.1	.834
	គំរូបផ្ទះខ្លះៗ	25.3	12.2	.031*	18.5	26.7	.111	10.1	10.5	.944	20.8	12.5	.252
	គំរូបបាផូរ	20.5	14.6	.324	32.3	25.2	.200	8.7	7.0	.729	22.9	1.8	.001***
ទំហំគំនូរ	ផ្ទៃទាំងមូលតិចជាង១/៤	4.8	4.9	.986	20.0	5.2	.001***	0.0	0.0	-	6.3	0.0	.068
	HTP តិចជាង១/៤	10.8	19.5	.120	25.4	17.0	.096	8.7	0.0	.023*	10.4	7.1	.554
រតុបន្ថែម	មាន	89.2	87.8	.786	85.4	86.7	.763	100.0	100.0	-	100.0	89.3	.019*
នេត្រាទស្សន៍	ធំ	7.2	22.0	.007**	2.3	14.1	.001***	11.6	50.9	.001***	8.3	17.9	.156
	មធ្យម	21.7	35.4	.052	11.5	9.6	.613	46.4	19.3	.001***	22.9	26.8	.650
	តូចខ្លះៗ	25.3	20.7	.486	6.9	28.9	.001***	21.7	17.5	.557	8.3	17.9	.156
	បង្ហាញគ្រង់(មានត្រួតគ្នា) បង្ហាញគ្រង់(អត់ត្រួតគ្នា) ដាច់ពីគ្នា	14.5	6.1	.006**	16.9	17.8	.854	15.9	10.5	.376	18.8	8.9	.143
ពិពណ៌នាប្រាកដ និង ពុំប្រាកដ	ប្រាកដនិយម	85.5	96.3	.016*	86.9	96.3	.006**	92.8	100.0	.038*	62.5	58.9	.710
	លាយឡំគ្នា	13.3	3.7	.027*	10.8	3.0	.012*	5.8	0.0	.065	29.2	33.9	.603
	មិនប្រាកដនិយម	0.0	0.0	-	2.3	0.7	.296	1.4	0.0	.361	8.3	5.4	.546
ផ្ទះ	ចំពីមុខ / តែស៊ីម	0.0	1.2	.313	3.1	0.0	.040*	0.0	0.0	-	2.1	0.0	.278
	ចំពីមុខ/បង្ហាញពុំច្បាស់	7.2	11.0	.403	19.2	8.9	.015*	14.5	7.0	.184	16.7	3.6	.024*
	ចំពីមុខ / រាប	56.6	62.2	.466	48.9	67.4	.001***	66.7	70.2	.674	56.3	62.5	.517
	3Dខ្លះៗ	27.7	17.1	.101	20.8	12.6	.074	18.8	19.3	.948	14.6	19.6	.497
3D	7.2	8.5	.755	10.0	11.1	.789	0.0	3.5	.117	10.4	12.5	.740	
មនុស្ស	ក្បាល រើង	0.0	0.0	-	2.3	0.7	.296	0.0	0.0	-	0.0	0.0	-
	មុនក្រាហ្វិច	19.3	34.1	.031*	23.1	28.1	.345	26.1	12.3	.053	22.9	14.3	.256
	ក្រាហ្វិច	44.6	39.0	.470	46.2	37.8	.167	55.1	61.4	.474	64.6	53.6	.256
	pre-realistic	9.6	7.3	.583	2.3	8.1	.034*	8.7	21.1	.049*	12.5	30.4	.029*
	realistic	3.6	0.0	.082	1.5	0.7	.539	1.4	1.8	.892	0.0	0.0	-
គំនូរស្អិត(stick figure) អត់មាន	20.5	7.3	.015*	17.7	20.7	.529	1.4	1.8	.892	0.0	0.0	-	
	1.2	3.7	.306	6.9	3.7	.242	7.2	1.8	.150	0.0	0.0	-	

(*:p<.05, **:p<.01, ***:p<.001)

នៅក្នុងការស្ទង់មតិលើកដំបូងសាលាមិនគាំទ្រដែលមានកំរិតទាបជាងសាលាដែលបានស្ទង់មតិផ្សេងទៀតនៅក្នុងគ្រប់ធាតុទាំងអស់នោះ បានបង្ហាញពីការផ្លាស់ប្តូរនៅក្នុងចំណុចភាគច្រើន។ នេះមិនទាន់គ្រប់គ្រាន់នៅឡើយទេ ប៉ុន្តែវាត្រូវបានគេប្រកាសថាមុខវិជ្ជាសិល្បៈ (ដូរតន្ត្រី និងសិល្បៈ)

ដែលត្រូវបានដាក់ចូល១ម៉ោងក្នុង១សប្តាហ៍នៅក្នុងវគ្គសិក្សាថ្មី។
 ហើយទោះបីសៀវភៅស៊ីលាប៊ុស(syllabus)
 និងសៀវភៅសិក្សាមិនទាន់បានបញ្ចប់ក៏ដោយក៏សាលាមិនគាំទ្រវាហាក់ដូចជាទទួលបានទិព្វលទ្ធផលខ្លាំងពី
 ការរៀនគំនូរប្រហែល១ដងក្នុង១ខែដែរ ។
 ដោយសារមកដល់ពេលនេះសាលាមិនគាំទ្រមានបទពិសោធតិចតួចក្នុងការគូរកំពិតមែន
 ប៉ុន្តែទិព្វលទ្ធផលនៃការរៀនគំនូរដែលទើបបង្កើតថ្មីប្រហែល១ដងក្នុង១ខែគឺមានទំហំធំ ហើយភាពវិជ្ជមាន
 និងការបង្ហាញជាទូទៅត្រូវបានកែលម្អ
 និងផ្លាស់ប្តូរជាច្រើនបើប្រៀបធៀបទៅនឹងសាលាផ្សេងទៀតដែលបានធ្វើការស្ទង់មតិ ។

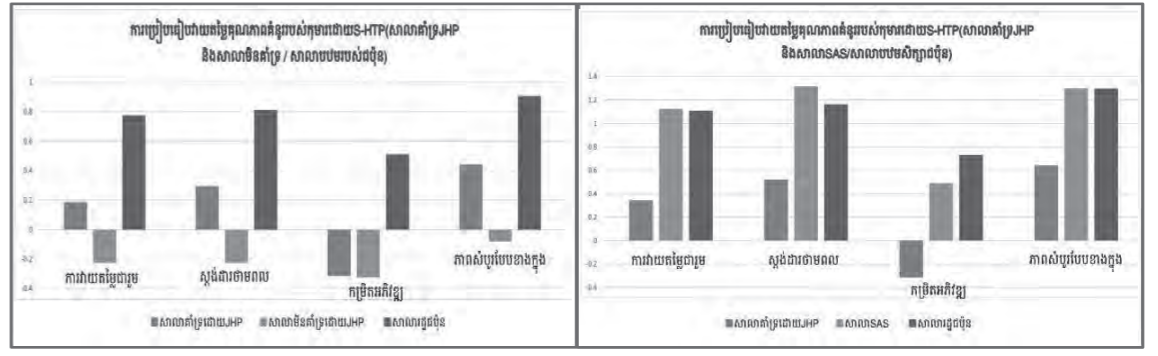
ការប្រៀបធៀបការស្ទង់មតិលើកទី ១ និងទី ២ នៃប្រភេទសាលានីមួយៗសម្រាប់ការផ្លាស់ប្តូរសំខាន់ៗមានដូចខាងក្រោម៖
 [សាលាគាំទ្រ] ការផ្លាស់ប្តូរត្រូវបានគេមើលឃើញដូចជានៅក្នុងនេត្រាទស្សន៍
 ការពិពណ៌នាប្រាកដនិយម/មិនប្រាកដនិយម និងការបង្ហាញពីរូបមន្តស្នូល។
 [សាលាមិនគាំទ្រ] វាត្រូវបានផ្លាស់ប្តូរនៅក្នុងចំណុចជាច្រើនរួមមានទំហំគំនូរ នេត្រាទស្សន៍
 ការពិពណ៌នាប្រាកដនិយម/មិនប្រាកដនិយម និងការបង្ហាញពីរូបផ្ទះ។
 [សាលា S A S] មានការផ្លាស់ប្តូរតិចតួច ប៉ុន្តែមានការប្រែប្រួលទាក់ទងនឹងទំហំគំនូរ
 នេត្រាទស្សន៍ និងការសម្តែងប្រាកដនិយមនៃរូបមន្តស្នូល។
 [សាលា J P N] ដូចគ្នានឹងសាលា SAS ដែរចំណុចនៃការផ្លាស់ប្តូរគឺមានតិចតួច។ ការផ្លាស់ប្តូរ
 ដែលត្រូវបានគេមើលឃើញគឺភាពរួមបញ្ចូលគ្នា និងការពិពណ៌នាបង្ហាញពីរូបផ្ទះ
 និងរូបមន្តស្នូលតែប៉ុណ្ណោះ។ ភាគរយនៃ " វត្ថុបន្ថែម " គឺ ១០០%
 នៅក្នុងការស្ទង់មតិលើកទី ១ បានចម្លុះមកនៅ ៨៩,៣%
 នៅក្នុងការស្ទង់មតិលើកទី ២
 ដែលត្រូវបានគេប៉ាន់ស្មានថាដោយសារតែកុមារភាគច្រើនបានចាកចេញនៅពាក់កណ្តាលម៉ោងដូចដែលបានរៀបរាប់ខាងលើ។

2-2. ការប្រៀបធៀបវាយតម្លៃគុណភាពដោយប្រើសន្លឹកវាយតម្លៃ S-HTP
 រូបទី ១ និងទី ២ យើងធ្វើការវាយតម្លៃម្តងមួយៗដោយប្រើសន្លឹកវាយតម្លៃ S-HTP
 ហើយសន្លឹកវាយតម្លៃគុណភាពនោះត្រូវបានគិតជាមធ្យមសម្រាប់ប្រភេទសាលានីមួយៗ
 និងបង្ហាញក្នុងក្រាហ្វិក។ នៅក្នុងការស្ទង់មតិលើកទី ១
 ពុំមានការវាយតម្លៃអំពីគុណភាពបែបនេះត្រូវបានធ្វើឡើងឡើយ។
 នាយកសាលាដែលបានធ្វើការស្ទង់មតិនៅប្រទេសជប៉ុន
 ពេលបានឃើញរូបភាពទាំងអស់បន្ទាប់ពីការស្ទង់មតិលើកទី ១ បាននិយាយថា "

រូបគំនូរបស់កុមារនៅកម្ពុជាបង្ហាញពីខ្លួនឯង និងជីវិតរបស់ពួកគេប្រកបដោយសុខុមាលភាព
 ព្រមទាំងភាពស្មោះត្រង់។ រីឯរូបគំនូរបស់កុមារជប៉ុនគឺពោរពេញទៅដោយភាពស្រមើលស្រមៃ
 ប៉ុន្តែវាហាក់ជាទទួលបានអារម្មណ៍ថាមានការព្រួយបារម្ភនៅចំណុចណាមួយ " 3)
 ដូច្នេះហើយពេលនេះបានជាយើងសម្រេចចិត្តវិភាគដោយបន្ថែមការវាយតម្លៃគុណភាព
 គំនូរ។

រីឯរូបគំនូរបស់សិស្សថ្នាក់ទី ៦ នៃសាលារៀននីមួយៗក្នុងចំណោម ៨
 សាលាដែលជាសាលាគោលដៅសម្រាប់ស្តង់មតិយើងនឹងណែនាំនៅលើទំព័រចុងក្រោយជាឧទាហរណ៍
 នៃគំនូរ។ សូមយកធ្វើជាឯកសារយោងតាមតម្រូវការ។

2-2-1. ការប្រៀបធៀបវាយតម្លៃគុណភាពនៃគំនូរបស់កុមារថ្នាក់ទី ១ ដល់ថ្នាក់ទី ៦ (សាលាគាំទ្រ
 និងសាលាមិនគាំទ្រ / សាលាជប៉ុន) (រូបភាព១)
 សាលាគាំទ្រមានលក្ខណៈអវិជ្ជមានតែនៅក្នុង "កម្រិតអភិវឌ្ឍ"
 ប៉ុណ្ណោះរីឯសាលាមិនគាំទ្រគឺអវិជ្ជមានទាំងអស់ ហើយសម្រាប់សាលា JPN វិញគឺវិជ្ជមាន។



រូបភាព ១. ការប្រៀបធៀបវាយតម្លៃគុណភាពគំនូរកុមារថ្នាក់ទី១ដល់ទី៦ (ការប្រៀបធៀបវាយតម្លៃគុណភាពគំនូរកុមារពីថ្នាក់ទី៣ឡើង(

ទោះបីសាលាមិនគាំទ្រដែលបង្ហាញពីការផ្លាស់ប្តូរបំផុតបើប្រៀបធៀបទៅនឹងការស្ទង់មតិលើក១
 ក៏ដោយ ប៉ុន្តែវាបានបង្ហាញច្បាស់ថាការអភិវឌ្ឍសម្រាប់ការគូរគំនូរមិនទាន់គ្រប់គ្រាន់នៅឡើយទេ
 បើប្រៀបធៀបទៅនឹងសាលាគោលដៅផ្សេងទៀតនៅពេលវាយតម្លៃ និងប្រៀបធៀបគុណភាព។
 ទោះបីមិនត្រូវបានទទួលស្គាល់ពីគុណភាពខុសគ្នានៅក្នុង "កម្រិតអភិវឌ្ឍ"
 តាមការបង្ហាញរូបគំនូររវាងសាលាគាំទ្រ និងសាលាមិនគាំទ្រក៏ដោយ
 ប៉ុន្តែត្រូវបានទទួលស្គាល់ថាមានគុណភាពខុសគ្នានៅក្នុង "កម្រិតថាមពល" និង
 "ភាពសំបូរបែបខាងក្នុង" ។ ទាំងនេះគឺជាទាក់ទងនឹងភាពវិជ្ជមាន
 និងសមត្ថភាពស្រមើលស្រមៃឆ្ពោះទៅរកការគូរគំនូរអោយបានល្អ។
 វាប្រហែលជាដោយសារតែមានគុណភាពខុសគ្នានៃបរិមាណនៃបទពិសោធន៍គំនូរទាំងមូល។

សាលាគាំទ្រត្រូវបានផ្តល់ជូននូវសម្ភារៈគួរគំនូរដោយអង្គការ JHP និងបានកំពុងការសិក្សាគំនូរប្រហែល១ដងក្នុង១ខែត្រូវបានចាប់ផ្តើមធ្វើនៅតាមសាលាបឋមសិក្សា គោលដៅដោយ វាច្បាស់ណាស់ថាការសិក្សាគំនូរបស់សាលាគាំទ្រគឺវាបានបំពេញច្រើនជាងនៅតាមសាលាមិនគាំទ្រ ការសិក្សាគំនូរ។ ហើយវាមិនមែនជារឿងចម្លែកនោះទេសម្រាប់សាលាបឋមសិក្សាដែលមិនគាំទ្រដែលខ្វះខាតដូចជាក្រ ដាសគំនូរ ឬគូលីរជាដើមនោះ។

2-2-2. ការប្រៀបធៀបវាយតម្លៃគុណភាពនៃរូបគំនូរបស់កុមារចាប់ពីថ្នាក់ទី៣ឡើង (សាលាគាំទ្រ និងសាលាSAS/ សាលារដ្ឋជប៉ុន) (រូបទី ២)

មានតែសាលាគាំទ្រទេដែលមានលក្ខណៈអវិជ្ជមាននៅក្នុង "កម្រិតអភិវឌ្ឍ" រីឯសាលាSAS និងសាលាJPNវិញសុទ្ធតែមានភាពវិជ្ជមានទាំងអស់។

វាស្ទើរតែមិនមានគំលាតភាពខុសគ្នារវាងសាលាSASនិងJPNនៅក្នុង "ភាពសំបូរបែបខាងក្នុង" និង "ការវាយតម្លៃសរុបរួម" ។ "កម្រិតអភិវឌ្ឍ" នៃការបង្ហាញដូចជារូបផ្ទះ និងរូបមនុស្សគឺកុមារ ជប៉ុនខ្ពស់ជាង ប៉ុន្តែ "កម្រិតថាមពល" វិញគឺខាងសាលាSASខ្ពស់ជាងសាលាជប៉ុនបន្តិច។ សាលាSASមិនមានជំនាញគួរប៉ុន្មានទេ ប៉ុន្តែវាហាក់ដូចជាកុមារកំពុងសប្បាយរីករាយក្នុងការគូរគំនូរបស់ពួកគេ។ ចំណាប់អារម្មណ៍ និងពាក្យសម្តីរបស់នាយកសាលាជប៉ុនថា សាលាគោលដៅដែលត្រូវបានស្ទង់មតិនៅប្រទេសជប៉ុនដែលបានលើកឡើងខាងលើ វាគឺជាទំរង់ដែលត្រូវបានគាំទ្រដោយការវាយតម្លៃគុណភាពនាពេលនេះ។

គីមូរ៉ា(Kimura)និងសាតូ(Sato) (ឆ្នាំ២០១៩) បានប្រៀបធៀបគំនូរដើមឈើរបស់សិស្សអនុវិទ្យាល័យនៅកម្ពុជា និងជប៉ុនហើយពួកគេបាននិយាយថា "ភាពសំបូរបែបនៃការបង្ហាញដែលត្រូវបានទទួលស្គាល់នៅក្នុង CAM (កម្ពុជា) គឺជាភាពរស់រវើកនៃជីវិត ឬអាចនិយាយបានថាវាទាក់ទងនឹងឆន្ទៈក្នុងការរៀនសូត្រដែលមានសារៈសំខាន់សម្រាប់ជីវិតរបស់ពួកគេ" ។ វាហាក់បីដូចជានៅក្មេងខ្ចី ប៉ុន្តែគំនូរបស់កុមារវាបានបង្ហាញអំពី "សុខុមាលភាព" និង "ភាពស្មោះត្រង់" ដូចដែលនាយកសាលាជប៉ុនលើកឡើងមុននេះរួចមកហើយ។ ទោះបីជាវាមិនទាក់ទងដោយផ្ទាល់ទៅនឹងគោលបំណងសំខាន់នៃការស្ទង់មតិនេះក៏ដោយ តែវាហាក់ដូចជាចំណុចគួរតែត្រូវបានពិនិត្យមើលម្តងទៀតទាក់ទងនឹងការអប់រំ ការរស់នៅ និងបរិស្ថានជុំវិញរបស់កុមារជប៉ុន។ ដូចដែលខ្ញុំបានលើកឡើងបន្ទាប់ពីការស្ទង់មតិមុនរួចហើយ គឺមានការព្រួយបារម្ភអំពីការជាប់គាំងរបស់កុមារជប៉ុននៅក្នុងការបង្ហាញតាមរូបគំនូរដូចដែលបានច ង្អុលបង្ហាញដោយមីសាវ៉ា(Misawa) (ឆ្នាំ២០១៤) ។

វាជាការសំខាន់ដើម្បីបង្កើនភាពសំបូរបែបនៃបទពិសោធន៍ និងបរិស្ថានមុខក្រោយដែលលេចចេញតាមការបញ្ចេញមតិរបស់ពួកគេ និងដើម្បីលើកកម្ពស់សកម្មភាព និងបទពិសោធន៍បន្ថែមទៀតដែលអមជាមួយដោយអារម្មណ៍ រាងកាយ និងភាពប្រាកដនិយម^{៦)} ។

ទោះយ៉ាងណាប្រទេសជប៉ុនកំពុងស្ថិតក្នុងដំណាក់កាលផ្លាស់ប្តូរពីសង្គមឧស្សាហកម្មទៅសង្គមព័ត៌ មាន ហើយនឹងទៅជាសង្គមព័ត៌មាន និងឈានទៅដល់សម័យកាលមួយដែលហៅថាSociety5.0 ។ សមិទ្ធផលនៃការអប់រំសិល្បៈជប៉ុនអាចត្រូវបានគេមើលឃើញនៅក្នុងផ្ទាំងគំនូរបស់កុមារជប៉ុនដែល ពោរពេញដោយភាពស្រមៃ និងការអភិវឌ្ឍ ព្រមទាំងបង្កើតរឿងរ៉ាវផ្ទាល់ខ្លួនដោយសេរីខណៈពេលដែលកំពុងរីករាយនឹងការស្រមៃស្រមៃរបស់ខ្លួន ដែលវាមិនមានលក្ខណៈប្រាកដនិយម ។ ការអភិវឌ្ឍការសិក្សាប្រកបដោយការបង្កើតច្នៃប្រឌិតដែលវាសង្កត់ធ្ងន់លើកាយ សម្បទា និងក្តីស្រមៃស្រមៃតាមរយៈការអប់រំសិល្បៈដោយគ្មានការរឹតត្បិត ហើយវានឹងត្រូវបានទាមទារនាពេលអនាគត។

4. សង្ខេបលទ្ធផលនៃការស្ទង់មតិ តាមរយៈ " ការប្រៀបធៀបដោយផ្អែកលើធាតុរីករាយ និងទស្សនៈS-HTP. ២-១ (តារាង ២, ៣, ៤) និង "ការប្រៀបធៀបវាយតម្លៃគុណភាពដោយប្រើសន្លឹកវាយតម្លៃS-HTP . ២-២" នៅខាងលើយើងបានសង្ខេបតាមប្រភេទសាលារៀននីមួយៗដែលសាលាគោលដៅដែលត្រូវបានស្ទង់ មតិដូចខាងក្រោម៖

- ① តាមរយៈការស្ទង់មតិលើកទី ១ និងលើកទី ២ សាលាដែលមិនគាំទ្របានផ្លាស់ប្តូរតាម របៀបផ្សេងៗជាច្រើន។ យើងសន្មតថាការដាក់បញ្ចូលការសិក្សាអប់រំគំនូរដោយផ្អែកលើវគ្គសិក្សាថ្មីដែលកំពុងបានចាប់ផ្តើម នោះទោះបីជាសាលាទាំងនោះមិនមែនជាសាលាគោលដៅដោយឥឡូវកុមារអាចសិក្សាគំនូរ បានប្រហែល១ម៉ោងក្នុង១ខែដែរ ។
- ② សម្ភារៈសម្រាប់សិក្សាគំនូរត្រូវបានផ្តល់ដល់សាលាគាំទ្រនានា ហើយការសិក្សាគំនូរ របស់សាលាទាំងនោះមានលក្ខណៈពេញលេញជាងសាលាមិនគាំទ្រ ។
- ③ មិនមានគំលាតខុសប្លែកគ្នានៅក្នុង "កម្រិតអភិវឌ្ឍ" នៃការបង្ហាញរូបគំនូររវាងសាលាគាំទ្រ និងសាលាមិនគាំទ្រឡើយ។ ប៉ុន្តែទោះយ៉ាងណាក៏ដោយគឺមានគំលាតខុសគ្នាគួរឱ្យកត់សម្គាល់នៅក្នុង "កម្រិតថាមពល" និង "ភាពសំបូរបែបខាងក្នុង" ។ ហើយជាលទ្ធផលវាក៏មានគំលាតខុសគ្នានៅក្នុង "ការវាយតម្លៃសរុបរួម"

ផងដែរ។

④ នៅក្នុងគ្រប់ផ្នែកទាំងអស់សាលាSASគឺមានគុណភាពខ្ពស់ជាងសាលាគាំទ្រ។ ក្រៅពីការផ្គត់ផ្គង់សម្ភារៈសិល្បៈសាលាSASបានរៀបចំកម្មវិធីសិក្សានិងផ្តល់មេរៀនគំនូរប្រហែល១ដងក្នុង១សប្តាហ៍ថែមទៀត។ យើងបានប៉ាន់ស្មានថាការរីកចម្រើននេះដោយសារមានការគាំទ្រនិងការណែនាំពីអ្នកជំនាញអប់រំសិល្បៈនិងបុគ្គលិកវ័យក្មេងរបស់កម្ពុជាដែលពួកគេថែទាំអនាគតចង់ក្លាយជាវិចិត្រករ ។

⑤ រវាងសាលាSASនិងសាលាJPN វាស្ទើរតែមិនមានគំលាតខុសគ្នានៅក្នុង "ភាពសំបូរបែបខាងក្នុង" និង "ការវាយតម្លៃសរុបរួម" ។ ហើយចំពោះការបង្ហាញ "កំរិតអភិវឌ្ឍ" សាលាJPNមានកំរិតខ្ពស់ជាងសាលាSAS ប៉ុន្តែ "កម្រិតថាមពល" វិញគឺសាលាSASល្អជាង ។ កុមារនៅសាលាSASមិនមានជំនាញទេ ប៉ុន្តែវាហាក់ដូចជាពួកគេកំពុងសប្បាយរីករាយក្នុងសកម្មភាពគំនូរយ៉ាងសកម្ម។ ទាក់ទងនឹងសមត្ថភាពស្រមៃស្រមៃវិញ

យើងមិនអាចអះអាងបានក្នុងការកំណត់ថាតើសាលាមួយណាប្រសើរជាងនោះទេ ប៉ុន្តែកុមារជំនួសមានការអភិវឌ្ឍការស្រមៃស្រមៃនិងបង្កើតរឿងរ៉ាវមិនប្រាកដនិយមក្នុងរូបគំនូររបស់ពួកគេ។

⑥ លំដាប់លំដោយនៃសាលាគាំទ្រ សាលាមិនគាំទ្រ សាលាJPN/សាលាSAS "ភាពរូបបញ្ចូលគ្នា" នៃរូបគំនូរ (ការសង្ខេបនៃសមាសធាតុគំនូរទាំងមូល)គឺត្រូវបានទទួលស្គាល់។ ការមានបទពិសោធកាន់តែច្រើនក្នុងការសិក្សាគំនូរ "ភាពរូបបញ្ចូលគ្នា" មានកាន់តែខ្ពស់ដែរ។

⑦ សាលាJPNមិនត្រឹមតែទាញយកខ្លឹមសារដែលមានលក្ខណៈប្រាកដនិយមតែប៉ុណ្ណោះទេ ប៉ុន្តែថែទាំគំនូរខ្លឹមសារមិនប្រាកដនិយម និងបង្កើតរឿងរ៉ាវស្រមៃស្រមៃទៀតផង។ ហើយវាក៏មានគុណភាពខ្ពស់ផងដែរនៅក្នុងការគោរពតាមរបៀបនៃការគូរគំនូរ។

⑧ ផ្ទាំងគំនូររបស់សាលាJPNគឺវាមានភាពរូបបញ្ចូលគ្នា ប៉ុន្តែចំពោះនេត្រាទស្សន៍វិញគឺកុមារកម្ពុជាពូកែជាងកុមារសាលាJPN ។

សេចក្តីសន្និដ្ឋាន

ឯកសារស្រាវជ្រាវនេះត្រូវនឹងឆ្នាំទី ២ នៃផែនការស្នង់មតិដែលត្រូវបានធ្វើឡើងដដែលទៀត៣ដងក្នុងរយៈពេល៣ឆ្នាំពីឆ្នាំ ២០១៨ ដល់ឆ្នាំ ២០២០ ។ ជាដំបូង ការស្នង់មតិលើកទី ៣ គ្រោងនឹងធ្វើឡើងនៅខែមិថុនាឆ្នាំ ២០២០ ហើយសន្និសិទ្ធអន្តរជាតិនឹងត្រូវធ្វើឡើងនៅខែតុលាឆ្នាំដដែលដើម្បីចែករំលែកលទ្ធផលនៃការស្នង់មតិ និងផ្លាស់ប្តូរយោបល់ជាមួយក្រសួងអប់រំយុវជន និងកីឡាកម្ពុជា អ្នកពាក់ព័ន្ធ អង្គការJHP

និងសាលាSAS ។ ប៉ុន្តែដោយសារតែមានការរីករាលដាលនៃការឆ្លងវីរុសកូវីដ-១៩នោះរាល់គម្រោងទាំងអស់ត្រូវបានពន្យារពេល។

ដោយសារហេតុផលទាំងនេះការស្រាវជ្រាវនេះគឺបានចងក្រង និងធ្វើបទបង្ហាញដោយផ្ទាល់មាត់នៅឯសន្និបាតUtsunomiyaនៃសន្និសិទ្ធសិក្សាអប់រំសិល្បៈសាកលវិទ្យាល័យសិល្បៈលើកទី ៥៩ ដែលបានធ្វើឡើងតាមប្រព័ន្ធអនឡាញកាលពីខែកញ្ញាឆ្នាំ ២០២០ ។

នៅក្នុងការស្នង់មតិនេះទោះបីជាវាមិនគ្រប់គ្រាន់ក៏ដោយ ប៉ុន្តែការសិក្សាគំនូរប្រហែល១ដងក្នុង១ខែត្រូវបានចាប់ផ្តើមជាដំណាក់កាលដែលត្រៀមសម្រាប់វគ្គសិក្សាថ្មី ហើយយើងបានរកឃើញថាសាលាមិនគាំទ្រដែលមានបទពិសោធផ្សេងៗសូត្រតិចតួចដែលបានបង្ហាញតាមរូបគំនូរនោះកំពុងមានការរីកចម្រើន និងផ្លាស់ប្តូរច្រើនជាងសាលានានាដែលជាសាលាគោលដៅក្នុងការស្នង់មតិទៅទៀត។ ចំណុចនេះហួសពីការរំពឹងទុករបស់ខ្ញុំដែលជាអ្នកចងក្រង ហើយវាជាលទ្ធផលដែលបានបង្កើនការរំពឹងទុកសម្រាប់ការលើកកម្ពស់ការអប់រំសិល្បៈនៅកម្ពុជានាពេលអនាគត។

ចាប់តាំងពីពាក់កណ្តាលខែមីនាមកសាលានៅកម្ពុជាត្រូវបានបិទទ្វារ ហើយមកដល់ខែកញ្ញានេះទៀតក៏សាលានៅមិនទាន់ត្រូវបានបើកដំណើរការម្តងណាឡើយ ។ ក្រសួងអប់រំ យុវជន និងកីឡានៃប្រទេសកម្ពុជាបានប្រកាសថាខ្លួនមានគោលបំណងនឹងបើកសាលាអោយដំណើរការឡើងវិញនៅខែវិច្ឆិកាសម្រាប់បឋមសិក្សា។ ប៉ុន្តែដោយសារមានវិបត្តិកូវីដ-១៩ក្រសួងមិនទាន់អាចដាក់ចេញនូវផែនការសម្រាប់បើកសាលានៅពេលណាមួយអោយជាក់លាក់បានឡើយ ។

ក្នុងអំឡុងពេលដែលសាលាត្រូវបានបិទទ្វារក្រសួងបានខិតខំក្នុងការគាំទ្រដល់ការរៀនសូត្ររបស់កុមារសិស្សានុសិស្សឱ្យបានច្រើនតាមដែលអាចធ្វើទៅបានតាមរយៈការចែកចាយវីដេអូ តាមទូរទស្សន៍ និងតាមប្រព័ន្ធសង្គមហ្វេសប៊ុក។ ប៉ុន្តែ នៅតំបន់ជនបទមានកន្លែងជាច្រើនដែលការផ្គត់ផ្គង់អគ្គិសនីមិនទាន់បានគ្រប់គ្រាន់ ហើយបរិយាកាសអ៊ីនធឺណែតសម្រាប់ទំនាក់ទំនងមិនល្អផង ដូច្នេះសមិទ្ធផលនៃការសិក្សាមិនត្រូវបានធានាអោយបានសមស្របនោះទេ។ អង្គការJHP សាលាSAS AAR Japan(សហគមន៍ជួយជនភៀសខ្លួន) និងអង្គការក្រៅរដ្ឋាភិបាលជំនួញជាដើមនៅបន្តផ្តល់ការគាំទ្រដល់ការសិក្សានៅកម្ពុជា។

យើងមានតែជួយបន្តស្រវឹងឱ្យមានការពង្រីក និងអភិវឌ្ឍនៅប្រទេស
កម្ពុជាបន្ថែមទៀត ក្រោយពីបើកដំណើរការសាលាឡើងវិញដើម្បីជាការជួយស្តារ និងលើកស្ទួយ
វិស័យអប់រំនៅកម្ពុជាឡើងវិញ។

ភាពវិជ្ជមាន សមត្ថភាពស្រមើលស្រមៃ
និងសមត្ថភាពបង្កើតច្នៃប្រឌិតនៃសកម្មភាពគួរគំនូរនឹងបន្តធ្វើឱ្យជីវិតកុមារកាន់តែប្រសើរឡើងទាំង
នៅក្នុងប្រទេសជប៉ុន និងប្រទេសកម្ពុជា ហើយវានៅតែមានសារៈសំខាន់នៅក្នុងសង្គម
និងពិភពលោកសម្រាប់ពេលអនាគតក្រោយពីវិវត្តន៍-១៩បានធូរស្បើយ ។
ជាមួយនឹងការរំពឹងទុកបែបនេះ
យើងនឹងធ្វើការស្ទង់មតិលើកទី៣នៅពេលដែលសាលាបឋមសិក្សានៅកម្ពុជាត្រូវបានបើកដំណើរការ
ឡើងវិញ ហើយយើងនឹងធ្វើការសង្ខេបការស្ទង់មតិ និងការស្រាវជ្រាវនេះសម្រាប់រយៈពេល ៣
ឆ្នាំកន្លងមក។

ជាចុងបញ្ចប់ខ្ញុំសូមថ្លែងអំណរគុណចំពោះថវិការសិក្សាស្រាវជ្រាវវិទ្យាសាស្ត្រJSPS
JP18K02554 ដែលគាំទ្រសម្រាប់ការស្រាវជ្រាវនេះ ។

ឯកសារយោងដែលបានដកស្រង់

- 1) Naoko Misawa "ភាពជាប់គាំងនៃការលូតលាស់ដែលបង្ហាញនៅS-HTP"
ដោយក្រុមហ៊ុនបោះពុម្ពផ្សាយSeishin Shoboឆ្នាំ2014, ទំព័រ.67
- 2) ដូចខាងលើ ទំព័រ.135
- 3) សាស្ត្រាចារ្យMitsuo Suzuki
"ការសិក្សាផ្ទៀងផ្ទាត់អំពីសកម្មភាពគំនូរបស់កុមារនៅកម្ពុជាដោយប្រើវិធីសាស្ត្រS-HTP (I)"
"ការសិក្សាស្រាវជ្រាវវប្បធម៌ប្រៀបធៀប លេខ139", សន្និសីទសិក្សាវប្បធម៌ប្រៀបធៀបជប៉ុនឆ្នាំ
2020 ទំព័រ. 90
- 4) Saeko Kimura និង Tadahiro Sado "ការប្រៀបធៀបបុគ្គលិកលក្ខណៈរបស់ប្រទេសកម្ពុជា
និងសិស្សអនុវិទ្យាល័យជប៉ុនពីទស្សនៈនៃការធ្វើតេស្ត Baum"
"ការស្រាវជ្រាវសកម្មភាពអង្គការក្រៅរដ្ឋាភិបាល" ភាគទី18 លេខ1 ,
មជ្ឈមណ្ឌលអប់រំនិងស្រាវជ្រាវសកម្មភាពអង្គការមិនមែនរដ្ឋាភិបាលឆ្នាំ 2019 ទំព័រ. 19
- 5) Suzuki, ព្រឹត្តិប័ត្រលើកមុន, ទំព័រ. 91

ឯកសារយោង

- Etsuko Fujigo, Hisako Tsuboi, Manami Tanaka, Mitsuo Suzuki, Yukiko Iso
"ភាពរស់របស់កុមារចំពោះធម្មជាតិតាមរយៈគំនូរបស់កុមារនេះ" ជាមួយ
"ព្រឹត្តិប័ត្រស្រាវជ្រាវសាកលវិទ្យាល័យTokyo Mirai" vol.6, សាកលវិទ្យាល័យTokyo Mirai ឆ្នាំ
2013
- "ការអភិវឌ្ឍ និងមត៌នៃគំនូរបស់កុមារ - ស្នាដៃ និងការពន្យល់អំពីគំនូរកុមារ" ដោយNihon
Bunkyo Shuppanឆ្នាំ 2016
- Miyoshi Isobe, Junko Katanasaka, Nozomi Inoue
"ការសិក្សាស្រាវជ្រាវរយៈខ្លីស្តីពីការលូតលាស់ការគួរគំនូរបស់កុមារដោយប្រើវិធីសាស្ត្រS-HTP -
វិធីសាស្ត្រសម្រាប់វាស់ស្ទង់ប្រសិទ្ធភាពនៃការអប់រំវិស្វាល" ,
"ការសិក្សាស្រាវជ្រាវអំពីការលូតលាស់របស់មនុស្ស" vol.2, សាកលវិទ្យាល័យ Minamikyushu,
ឆ្នាំ2012
- Ken Robinson, Lou Aronica,
"ការច្នៃប្រឌិតគឺជាការអប់រំខ្ពស់បំផុតរបស់ពិភពលោកសម្រាប់ការលូតលាស់" ដែលបកប្រែដោយ
Takako Iwaki, បោះពុម្ពដោយToyokan Publishing Co. , Ltd, ឆ្នាំ 2019
- Naoko Misawa "វិបត្តិផ្លូវចិត្តរបស់កុមារដែលបង្ហាញលើតេស្តគំនូរ - ការប្រៀបធៀបឆ្នាំ១៩៨១
និង១៩៩៧-៩៩ នៅS-HTP" ដោយក្រុមហ៊ុនបោះពុម្ពផ្សាយSeishin Shobo, ឆ្នាំ2002
- Mitsuo Suzuki "ស្ថានភាពអប់រំសិល្បៈបច្ចុប្បន្ននៅក្នុងព្រះរាជាណាចក្រកម្ពុជា -
ការខិតខំប្រឹងប្រែងក្នុងការសាងសង់សាលារៀនអោយកុមារអង្គការJHP" ,
"ការសិក្សាស្រាវជ្រាវវប្បធម៌ប្រៀបធៀប" លេខ131, សន្និសីទសិក្សាវប្បធម៌ប្រៀបធៀបជប៉ុន,
ឆ្នាំ2018
- Suzuki Mitsuo "ការស្ទង់មតិទាក់ទងនឹងលទ្ធផល និងសមិទ្ធផលនៃគាំទ្រការអប់រំសិល្បៈ
ជប៉ុននៅដំណាក់កាលនៃការអប់រំបឋមនៅកម្ពុជា -
ការផ្តោតលើគំនិតខុសគ្នានៃសកម្មភាពគំនូរបស់កុមារតាមវិធីសាស្ត្រS-HTP"
"ការសិក្សាស្រាវជ្រាវវប្បធម៌ប្រៀបធៀប" លេខ135 , សន្និសីទសិក្សាវប្បធម៌ប្រៀបធៀបជប៉ុន
ឆ្នាំ2019
- Masaharu Takahashi, "សេចក្តីផ្តើមនៃការធ្វើតេស្តរូបគំនូរ - ធ្វើតេស្ត HTP ", បោះពុម្ព
ផ្សាយដោយBunkyo Shoin, ឆ្នាំ1974



ឧទាហរណ៍គំនូរ១. សាលាគាំទ្រខេត្តកំពត



ឧទាហរណ៍គំនូរ២.សាលាមិនគាំទ្រខេត្តកំពត



ឧទាហរណ៍គំនូរ៣. សាលាគាំទ្រស្វាយរៀង



ឧទាហរណ៍គំនូរ៤. សាលាមិនគាំទ្រស្វាយរៀង



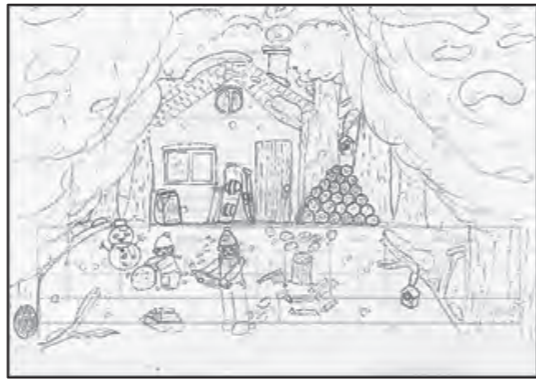
ឧទាហរណ៍គំនូរ៥. សាលាមិនគាំទ្រភ្នំពេញ



ឧទាហរណ៍គំនូរ៦.សាលាអង្គការSAS១



ឧទាហរណ៍គំនូរ៦.សាលាអង្គការSAS២



ឧទាហរណ៍គំនូរ៧.សាលា. JPN

S - HTP 法による幼児・児童の描画活動に関する実証的研究
～カンボジア・日本両国国際シンポジウム報告～

2022年3月23日 発行

編集：鈴木光男

聖隷クリストファー大学社会福祉学部こども教育福祉学科

印刷：株式会社ケイ・アート